

あかぎ
赤木遺跡第8地点(第一次調査)

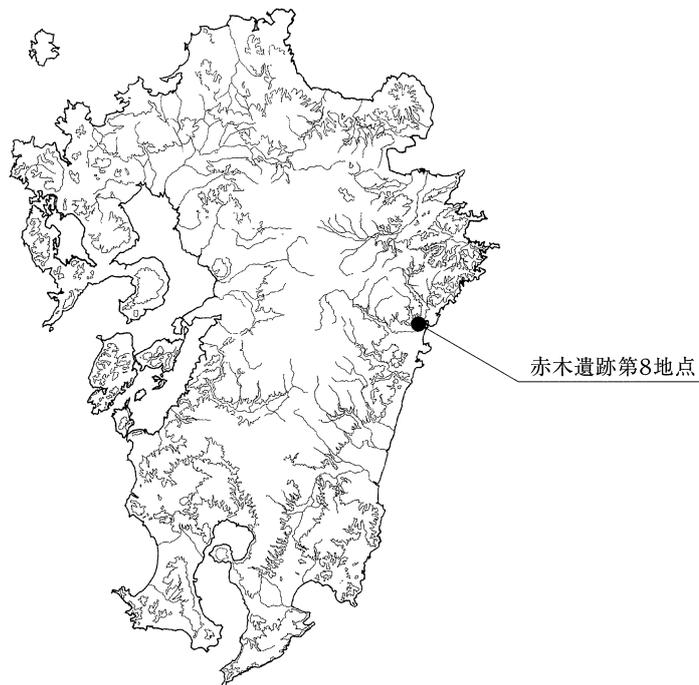
一般国道218号北方延岡道路建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書(6)

2009

宮崎県埋蔵文化財センター

あかぎ 赤木遺跡第8地点(第一次調査)

一般国道218号北方延岡道路建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書(6)



2009

宮崎県埋蔵文化財センター



赤木遺跡遠景（遺跡東後方より）

巻頭図版2



縄文早期文化層の調査状況（礫と集石遺構の分布状況）（→北）



旧石器時代文化層の調査状況（→北）



旧石器接合資料 (V-VI層)



旧石器各種 (剥片尖頭器・角錐状石器・ナイフ形石器) (VI-VII層)

序

宮崎県教育委員会では、一般国道 218 号北方延岡道路建設に伴い、宮崎県延岡市舞野町に所在する赤木遺跡第 8 地点（第一次）発掘調査を行いました。

赤木遺跡は、昭和 60 年に延岡市教育委員会が行った発掘調査を嚆矢とし、以後複数回の発掘調査が行われました。調査成果の柱の一つに旧石器時代の遺構・遺物の発見があり宮崎県下の旧石器時代を語る上で外すことが出来ない主要遺跡となっています。

今回の調査では、旧石器時代から弥生時代にかけての遺構・遺物が多く検出されました。特に旧石器時代は、始良 T n 火山灰層（約 24,000 ～ 28,000 年前）の上下複数層で生活痕跡が確認され、旧石器時代複数次にわたって人々がこの地を好んで選択し、生活していたことがわかる貴重な資料を得ることができました。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

なお、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・御助言をいただいた先生方、ならびに地元の方々に心からの謝意を表します。

平成 21 年 3 月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 福永展幸

例言・凡例

- 1 本報告書は一般国道218号北方延岡道路建設工事に伴い、宮崎県教育委員会が行った赤木遺跡第8地点(第一次調査)の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所の委託を受けて、宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査は、平成15年10月28日から平成16年3月26日まで行った。
- 4 現地での実測・写真撮影等の記録は主に橋本英俊・丹俊詞が行い、一部を近藤 協、柳田宏一、玉利勇二、赤崎広志、柳田晴子、柳田裕三が行った。
- 5 出土した主な旧石器の石材同定については、赤崎広志(宮崎県総合博物館)に依頼した。なお、すべての石材について同定依頼した訳では無いため最終責任は掲載した近藤にある。
- 6 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで実施し、図面の作成・実測・トレースなどは橋本英俊・丹俊詞・近藤 協・橋本憲二が整理作業員の協力を得て行った。
- 7 次の業務はそれぞれ業者に委託した。
 - 空中写真撮影・・・スカイサーベイ九州(有)
 - 基準杭設置・・・(株)東九州コンサルタント
 - 石器遺物の実測図及びトレース図作成・・・大成エンジニアリング(株)、九州文化財研究所
 - 自然科学分析・・・(株)古環境研究所
- 8 本書で使用した第1図「赤木遺跡周辺図①」・第5図「赤木遺跡周辺地形図」は延岡市作成「延岡都市計画基本図29」を、第2図「赤木遺跡周辺図②」は国土地理院作成「川水流(1/25,000)」を、第3図「延岡市周辺遺跡分布図」は国土地理院作成「延岡(1/50,000)」を基に作成した。
- 9 土層断面等の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に拠っているが、数字等記載のない色名はその限りではない。
- 10 本書で使用した方位は、「G.N」と記載しているものが座標北(座標第II系)であり、その他の記載の無いものが磁北(磁針方位は西偏約6.2°)である。レベルは海拔絶対高である。

また、全体図等で使用した経緯度数値は世界測地系(WGS84)を使用している。
- 11 本書で使用した遺構略号は以下のとおりである。
 - SA…竪穴住居址 SP…炉穴 SI…集石遺構、礫群
- 12 本書の執筆は、第1章第3節を甲斐 貴充(現 西都原考古博物館)が担当し、その他は近藤 協が行った。
- 13 出土遺物・その他諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している

本文目次

第Ⅰ章	はじめに	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の組織	1
第3節	遺跡の位置と歴史的環境	2
第Ⅱ章	調査の概要	6
第1節	調査の経過	6
第2節	基本層序	8
第3節	石材の分類基準	11
第Ⅲ章	調査の記録	12
第1節	旧石器時代	12
1	遺構	
(1)	礫群	
2	遺物	
(1)	旧石器時代B面の調査	
(2)	旧石器時代C面の調査	
(3)	旧石器時代D面の調査	
(4)	旧石器時代E面の調査	
(5)	旧石器時代F面の調査	
第2節	縄文時代	106
1	遺構	
(1)	集石遺構	
(2)	炉 穴	
2	遺物	
(1)	縄文土器	
(2)	石器	
第3節	弥生時代	125
1	遺構	
(1)	1号竪穴住居跡	
2	遺物	
(1)	1号竪穴住居跡出土遺物	
第Ⅳ章	自然科学分析	130
第Ⅴ章	まとめ	145

挿 図 目 次

第1図	赤木遺跡周辺図①	2	第38図	V-VI層出土石器⑭	53
第2図	赤木遺跡周辺図②	3	第39図	V-VI層出土石器⑮	54
第3図	延岡市周辺遺跡分布図	5	第40図	V-VI層出土石器⑯	55
第4図	赤木遺跡グリッド配置図	6	第41図	V-VI層出土石器⑰	56
第5図	赤木遺跡周辺地形図	7	第42図	V-VI層出土石器⑱	57
第6図	C4区南壁土層断面図	9	第43図	V-VI層出土石器⑲	58
第7図	土層断面図	10	第44図	V-VI層出土石器⑳-1,2	59・60
第8図	59号礫群実測図	13	第45図	V-VI層出土石器21	61
第9図	60.61.62号礫群実測図	14	第46図	V-VI層出土石器22	62
第10図	63.64.65.66.67.68.69号礫群実測図	15	第47図	V-VI層出土石器23	63
第11図	70.71号礫群実測図	16	第48図	V-VI層出土石器24	64
第12図	IV-V層検出状況図(B面)	18	第49図	V-VI層出土石器25	65
第13図	IV-V層出土石器①	19	第50図	VI-VII層検出状況図(E面)	70
第14図	IV-V層出土石器②	20	第51図	VI-VII層出土石器①	71
第15図	IV-V層出土石器③	21	第52図	VI-VII層出土石器②	72
第16図	V層検出状況図(C面)	25	第53図	VI-VII層出土石器③	73
第17図	V層出土石器①	26	第54図	VI-VII層出土石器④	74
第18図	V層出土石器②	27	第55図	VI-VII層出土石器⑤	75
第19図	V層出土石器③	28	第56図	VI-VII層出土石器⑥	76
第20図	V層出土石器④	29	第57図	VI-VII層出土石器⑦	77
第21図	V層出土石器⑤	30	第58図	VI-VII層出土石器⑧	78
第22図	V層出土石器⑥	31	第59図	VI-VII層出土石器⑨	79
第23図	V層出土石器⑦	32	第60図	VI-VII層出土石器⑩	80
第24図	V-VI層検出状況図(D面)	39	第61図	VI-VII層出土石器⑪	81
第25図	V-VI層出土石器①	40	第62図	VI-VII層出土石器⑫	82
第26図	V-VI層出土石器②	41	第63図	VIII-IX層検出状況図(F面)	86
第27図	V-VI層出土石器③	42	第64図	VIII-IX層出土石器①	87
第28図	V-VI層出土石器④	43	第65図	VIII-IX層出土石器②	88
第29図	V-VI層出土石器⑤	44	第66図	VIII-IX層出土石器③	89
第30図	V-VI層出土石器⑥	45	第67図	VIII-IX層出土石器④	90
第31図	V-VI層出土石器⑦	46	第68図	VIII-IX層出土石器⑤	91
第32図	V-VI層出土石器⑧	47	第69図	VIII-IX層出土石器⑥	92
第33図	V-VI層出土石器⑨	49	第70図	VIII-IX層出土石器⑦	93
第34図	V-VI層出土石器⑩	49	第71図	VIII-IX層出土石器⑧	94
第35図	V-VI層出土石器⑪	50	第72図	VIII-IX層出土石器⑨	95
第36図	V-VI層出土石器⑫	51	第73図	V.VI.VII層出土石器(敲石・磨石・台石)	96
第37図	V-VI層出土石器⑬	52	第74図	V.VI.VII層出土石器(磨石・台石)	97

第75図	集石遺構・炉穴・礫群検出状況	107・108	第88図	打製石鏃実測図	123
第76図	集石遺構実測図①	109	第89図	1号竪穴住居跡位置図	125
第77図	集石遺構実測図②	110	第90図	1号竪穴住居跡(SA1)実測図	126
第78図	集石遺構実測図③	111	第91図	1号竪穴住居跡出土弥生土器実測図	127
第79図	集石遺構実測図④	112	第92図	1号竪穴住居跡出土弥生土器・石器実測図	128
第80図	集石遺構実測図⑤	113	第93図	ナイフ形石器測値の推移	145
第81図	集石遺構実測図⑥	114	第94図	剥片尖頭器測値の推移	145
第82図	集石遺構実測図⑦	115	第95図	角錐状石器測値の推移	145
第83図	集石遺構実測図⑧	116	第96図	赤木遺跡第8地点(一次調査)石器様相	147
第84図	炉穴分布図	118	第97図	赤木遺跡1次の構成石材	148
第85図	炉穴(SP1.2.3.4)実測図	119	第98図	IV-V層の構成石材	149
第86図	炉穴(SP5.6.7.8.9)実測図	120	第99図	VI-VII層の構成石材	149
第87図	縄文早期土器・石器実測図	122	第100図	花粉分析による遺跡周辺環境推定図	150

表 目 次

第1表	赤木遺跡基本層序	8	第6表	集石遺構計測表	124
第2表	石材分類表	11	第7表	竪穴住居跡(SA1)出土土器観察表	129
第3表	旧石器礫群計測表	12	第8表	各層における石材重量	147
第4表	旧石器計測表	98	第9表	接合資料構成剥片の出土層一覧	148
第5表	打製石鏃観察表	116			

図 版 目 次

図版1	卷頭1	図版5	154
	赤木遺跡遠景(遺跡東後方より)		・IV V VI層面の遺物出土状況(C4区)北東から
図版2	卷頭2		・VI層面の遺物出土状況(D4区)北西から
	・縄文早期文化層の調査状況		・V層面の遺物出土状況(C4区)北から
	(礫と集石遺構の分布状況)(→北)		・V VI層面の遺物出土状況(A3区)
	・旧石器時代文化層の調査状況(→北)		・V層からAT層面の遺物出土状況(A1区・B1区)
図版3	卷頭3		・V層からVII層面の遺物出土状況(B4区)
	・旧石器接合資料(V-VI層)	図版6	155
	・旧石器各種(角錐状石器・剥片尖頭器・ナイフ形石器)		・V層からVII層面(AT直上)の遺物出土状況(B4区)
図版4	153		・V層からVII層面(AT直上)の遺物出土状況(B3区)
	・一次調査区から二次調査区を望む		・V層からVII層面(AT直上)の遺物出土状況
	・縄文早期面の発掘状況		(C3区・D3区)
	・IV V VI層面の遺物出土状況		・石皿、磨石の出土状況
	・IV V VI層面の発掘作業状況		・AT直下の遺物出土状況
	・B2区V層面の遺物出土状況 南西から		・VIII層(AT直下)の遺物出土状況(D3区)
	・IV V VI層面の遺物出土状況		

図版7	156	・ 33号集石遺構検出状況
・ 1号、2号集石遺構検出状況		・ 33号集石遺構の配石状況
・ 3号集石遺構検出状況		・ 34号集石遺構検出状況
・ 4号集石遺構検出状況		・ 35号集石遺構検出状況
・ 5号集石遺構検出状況		図版12
・ 6号集石遺構検出状況		・ 36号集石遺構検出状況
・ 7号集石遺構検出状況		・ 36号集石遺構の配石状況
・ 8号集石遺構検出状況		・ 37号集石遺構検出状況
・ 9号集石遺構検出状況		・ 37号集石遺構の配石状況
図版8	157	・ 38号集石遺構検出状況
・ 10号集石遺構検出状況		・ 39号集石遺構検出状況
・ 11号集石遺構検出状況		・ 40号集石遺構検出状況
・ 11号集石遺構の配石状況		・ 40号集石遺構検出状況
・ 12号集石遺構の検出状況		図版13
・ 13号集石遺構の検出状況		・ 41号集石遺構検出状況
・ 14号集石遺構の検出状況		・ 41号集石遺構の配石状況
・ 14号集石遺構の配石状況		・ 42号集石遺構検出状況
図版9	158	・ 42号集石遺構の配石状況
・ 15号集石遺構検出状況		・ 43号集石遺構検出状況
・ 16号集石遺構検出状況		・ 44号集石遺構検出状況
・ 17号集石遺構検出状況		・ 45号集石遺構検出状況
・ 17号集石遺構の配石状況		・ 45号集石遺構の配石状況
・ 18・19号集石遺構検出状況		図版14
・ 20号集石遺構検出状況		・ 46号集石遺構検出状況
・ 21号集石遺構検出状況		・ 47号集石遺構検出状況
・ 21号集石遺構の配石状況		・ 47号集石遺構の配石状況
図版10	159	・ 48号集石遺構検出状況
・ 22号集石遺構検出状況		・ 48号集石遺構の配石状況
・ 23号集石遺構検出状況		・ 49号集石遺構検出状況
・ 23号集石遺構の配石状況		・ 50号集石遺構検出状況
・ 24号集石遺構検出状況		図版15
・ 24・25号集石遺構検出状況		・ 52号集石遺構検出状況
・ 25号集石遺構検出状況		・ 53号集石遺構検出状況
・ 26号集石遺構検出状況		・ 54号集石遺構検出状況
・ 27号集石遺構検出状況		・ 55号集石遺構検出状況
図版11	160	・ 56号集石遺構検出状況
・ 28号集石遺構検出状況		・ 56号集石遺構の配石状況
・ 29号集石遺構検出状況		・ 57号集石遺構検出状況
・ 30号、31号集石遺構検出状況		・ 57号集石遺構の配石状況
・ 30号、31号集石遺構の配石状況		

図版16	165	図版26	175
・ 58号集石遺構検出状況		・ VIII-IX層出土石器(石核)	
・ 61号集石遺構検出状況		・ 水晶製石器(二次加工剥片) 235・241	
図版17	166	〔VI-VII層〕、310・311〔VIII-IX層〕	
・ 1号炉穴検出状況(SP1)		図版27	176
・ 2,3,4号炉穴検出状況(SP2.3.4)		・ V-VI層出土石器(敲石・磨石)	
・ 5号炉穴検出状況(SP5)		・ VI-VII層出土石器(台石・敲石・磨石)	
・ 5,6,7号炉穴検出状況(SP5.6.7)		図版28	177
・ 6号炉穴縦断面状況(SP6)		・ 接合資料54・55・56	
・ 7号炉穴検出状況(SP7)		図版29	178
・ 8号炉穴断面検出状況(SP8)		・ 接合資料57・58・59	
・ 8号炉穴底の焼礫検出状況(SP8)		図版30	179
図版18	167	・ 接合資料183・184	
・ 一号竪穴住居跡(SA1)検出状況		図版31	180
・ 一号竪穴住居跡(SA1)の遺物散布検出状況		・ 接合資料185・188・189	
図版19	168	図版32	181
・ IV-V層出土石器(細石刃・細石核)		・ 接合資料186	
・ IV-V層出土石器(細石刃・黒曜石製細石核)		図版33	182
・ IV-V層出土石器(細石核・剥片)		・ 接合資料187	
・ IV-V層出土石器(尖頭器)		図版34	183
・ V層出土石器(ナイフ形石器・角錐状石器・搔器・削器)		・ 接合資料190・191・192	
図版20	169	図版35	184
・ V層出土石器(削器・剥片)		・ 接合資料193・194・195	
・ V-VI層出土石器(ナイフ形石器)		図版36	185
図版21	170	・ 接合資料256・257・258	
・ V-VI層出土石器(ナイフ形石器・角錐状石器)		図版37	186
・ V-VI層出土石器(角錐状石器・剥片尖頭器)		・ 接合資料259・260・261	
図版22	171	図版38	187
・ V-VI層出土石器(搔器・削器・二次加工剥片)		・ 接合資料262	
・ V-VI層出土石器(二次加工剥片・使用痕のある剥片)		図版39	188
図版23	172	・ 接合資料321・322・323	
・ V-VI層出土石器(石核・剥片)		図版40	189
・ VI-VII層出土石器(ナイフ形石器・角錐状石器・剥片尖頭器)		・ 接合資料324・325・326	
図版24	173	図版41	190
・ V-VI層出土石器(搔器・削器・二次加工剥片)		・ 縄文早期面出土の土器	
・ V-VI層出土石器(石核・剥片)		・ 縄文早期面出土の石器	
図版25	174	図版42	191
・ VIII-IX層出土石器(ナイフ形石器・搔器)		・ 1号竪穴住居(弥生時代)出土の土器・石器	
・ VIII-IX層出土石器(搔器・削器・敲石・二次加工剥片)			

第 I 章 はじめに

第 1 節 調査に至る経緯

一般国道 218 号北方延岡道路整備事業は、宮崎県北地域への高速交通サービスを提供し、地域活性化に寄与することを目的として、建設省（現国土交通省）九州地方整備局延岡河川国道事務所が平成 8 年度に高規格道路（延岡道路・北方延岡道路）を事業化した。

宮崎県教育委員会は、平成 6 年度に国の補助を受けて延岡市～西都市周辺を対象とした遺跡詳細分布調査を実施し、この成果を踏まえ、同事業による埋蔵文化財への影響や保護の方法について協議を開始した。以来、現在も同事業に伴う協議・調査を継続している。この協議を基に工事によって影響を受ける埋蔵文化財包蔵地の試掘調査を実施した結果、今回報告する赤木遺跡において、旧石器時代から弥生時代にかけての遺物が数多く確認され、記録保存の措置をとることとなった。

用地買収等の関係上、調査は複数年・複次にかけて実施することとなり、第一次調査は調査対象区西側の 3,800㎡を平成 15 年 10 月 28 日～平成 16 年 3 月 26 日の約 5 ヶ月間（調査実施日 87 日）、第二次調査は調査対象区中央部 1,500㎡を平成 16 年 6 月 14 日～平成 16 年 12 月 14 日の約 6 ヶ月間（調査実施日 97 日）、第三次調査は調査区東部 1,000㎡を平成 17 年 12 月 12 日～平成 18 年 3 月 17 日の約 4 ヶ月間（調査実施日 60 日）調査を実施した。また、今回報告する第一次調査における遺物整理作業と報告書作成作業を平成 16 年度から平成 20 年度にかけて宮崎県埋蔵文化財センターで実施した。

第 2 節 調査の組織

赤木遺跡第 8 地点（第一次調査）における調整・試掘及び発掘調査、整理・報告書作成作業は下記の組織で実施した。

調査主体：宮崎県教育委員会

試掘・事業調整：宮崎県教育委員会文化財課 調査機関：宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県教育委員会文化財課

課長	主幹兼埋蔵文化財担当リーダー
福島 順二（平成 15～16 年度）	石川 悦雄（平成 15～18 年度）
米良 弘康（平成 16～18 年度）	谷口 武範（平成 19～20 年度）
井上 貴（平成 19 年度）	埋蔵文化財係 主任主事
清野 勉（平成 20 年度）	松林 豊樹（平成 15～16 年度）
課長補佐	埋蔵文化財担当 主査
稲元 雅彦（平成 15～16 年度）	飯田 博之（平成 17～20 年度）
菓子野 信男（平成 16～18 年度）	
野中 一則（平成 19～20 年度）	

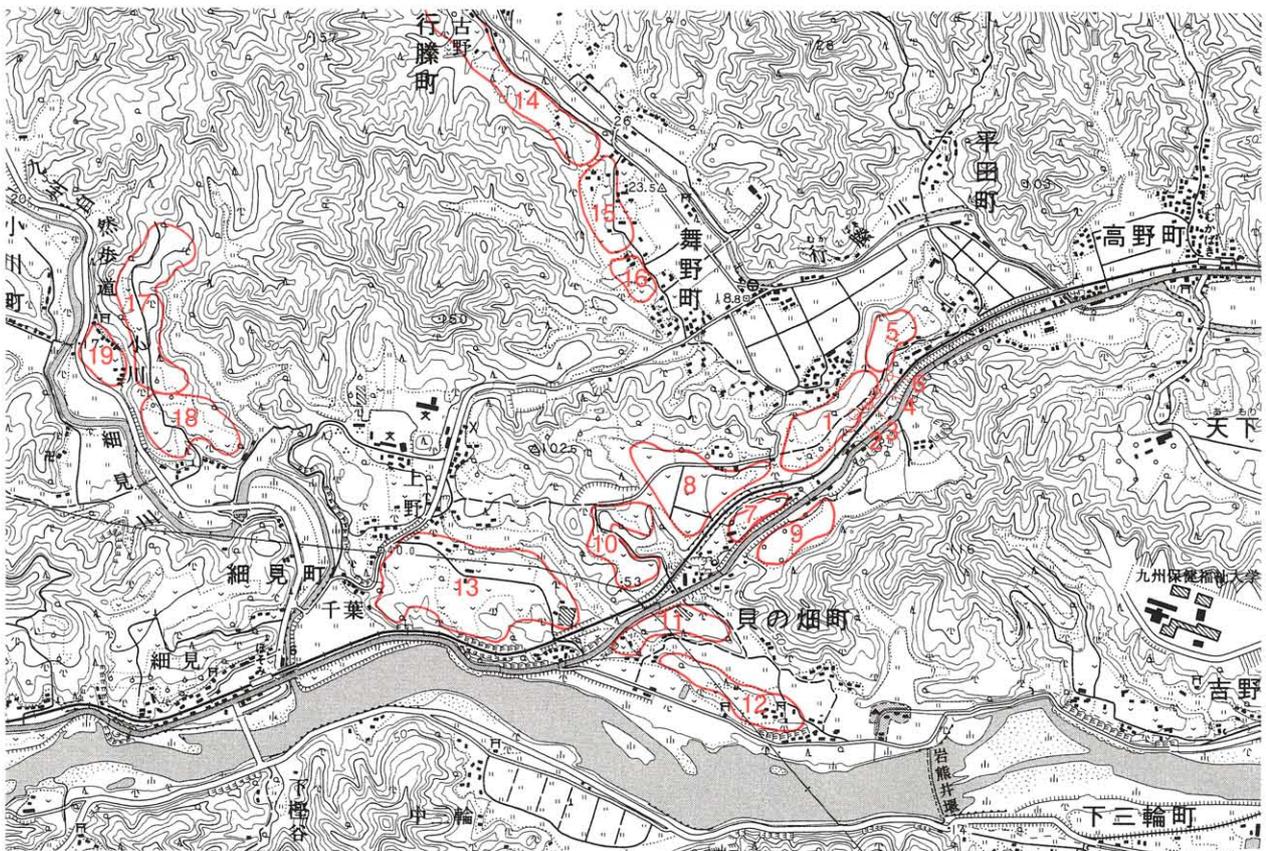
宮崎県埋蔵文化財センター

所長	総務課長	
米良 弘康（平成 15 年度）	宮越 尊（平成 17～19 年度）	調査第二課調査第四担当 調査員
宮園 淳一（平成 16～17 年度）	長友 英詞（平成 20 年度）	丹 俊詞（平成 15 年度）
清野 勉（平成 18～19 年度）	総務課主幹兼総務担当リーダー	調査第三担当 主事（任期付職員）
福永 展幸（平成 20 年度）	石川 恵史（平成 15～17 年度）	丹 俊詞（平成 19 年度）
副所長兼総務課長	高山 正信（平成 18～19 年度）	
大藪 和博（平成 15～16 年度）	調査第二課長	
副所長	石川 悦雄（平成 19～20 年度）	
加藤 悟郎（平成 18～20 年度）	調査第二課主幹兼調査第四担当リーダー	
長友 英詞（平成 20 年度）	近藤 協（平成 15～20 年度）	
副所長兼調査第二課長	調査第二課調査第四担当 主査	
岩永 哲夫（平成 15～18 年度）	橋本 英俊（平成 15～18 年度）	

第3節 遺跡の位置と環境

(1) 赤木遺跡の立地と周辺の遺跡 (第1図)

赤木遺跡は宮崎県北部の延岡市舞野町字赤木に所在する。延岡市西部の北方町との隣接側に位置し、行膝山(標高829m)から五ヶ瀬川に向かって一度南へ延び、更に東へ派生する丘陵上尾根筋(標高46～48m)に立地している。北側斜面下には五ヶ瀬川の支流である行膝川が東流し、同じ丘陵上先端部には旧石器～近世までの複合遺跡である眞藤遺跡が存在し、遺跡南側には国指定史跡南方古墳群舞野支群の第21号～第23号が分布している。また、丘陵周辺を見てみると、五ヶ瀬川・五ヶ瀬川支流の行膝川・細見川流域付近の谷平野や河岸段丘上には、豊かな自然を背景に旧石器時代から現代まで連続と生活が営まれていたと考えられ、それを証明するように旧石器時代から現代に至るまでの複合遺跡が数多く存在している。遺跡の西側の丘陵下の平野部には、弥生～古墳時代の石棺墓が出土した多々羅第2遺跡をはじめ、多々羅第1遺跡(旧石器～古墳時代)・多々羅第3遺跡(縄文～古墳時代)が存在する。遺跡南西側の現在の高千穂鉄道や国道218号線を挟んだ独立丘陵の北西斜面上には、竹下第1遺跡(旧石器～古墳時代)・竹下第2遺跡(弥生時代)が存在する。遺跡南西側の河川に開析された平野部には、貝ノ畑遺跡(縄文時代)・黒土田遺跡(旧石器～古墳時代)が存在する。



第1図 赤木遺跡周辺図① (1:25,000)

- | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1 赤木遺跡 | 2 南方古墳群舞野支群第21号 | 3 南方古墳群舞野支群第22号 | 4 南方古墳群舞野支群第23号 |
| 5 南方古墳群舞野支群第24号 | 6 南方古墳群舞野支群第19号 | 7 多々羅第2遺跡 | 8 多々羅第1遺跡 |
| 9 多々羅第3遺跡 | 10 竹之下第1遺跡 | 11 竹之下第2遺跡 | 12 貝ノ畑遺跡 |
| 13 黒土田遺跡 | 14 行膝小切畑遺跡群 | 15 舞野遺跡 | 16 美土ノ内遺跡 |
| 17 山田遺跡 | 18 畑山遺跡 | 19 山口遺跡 | |

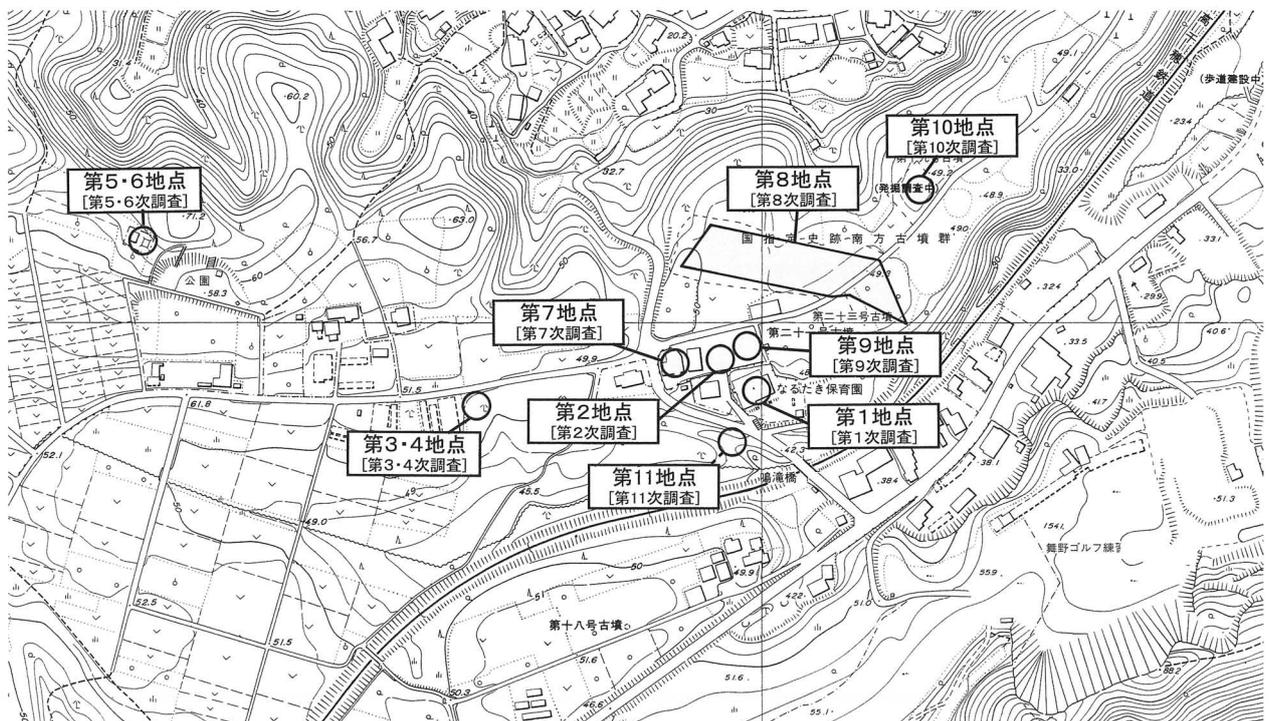
現在の九州保健福祉大学がある遺跡南東側の独立丘陵付近にも多数の遺跡が存在する。遺跡北西側の五ヶ瀬川支流行膝川の河岸段丘上には行膝小切畑遺跡群（旧石器～弥生時代）・舞野遺跡（弥生～古墳時代・近世）・美土ノ内遺跡（旧石器～古墳時代）が存在する。遺跡西側には五ヶ瀬川支流の細見川があり、近年発掘調査が行われた山田遺跡（旧石器～古墳時代）・畑山遺跡（旧石器～中世）・山口遺跡（弥生～中世）が存在する。

また、国土交通省は平成6年度から北川町大字長井字上迫から延岡市伊形町までの全長20.6kmの国道10号線延岡道路の事業に着手し、それに伴い当センターは、林遺跡・吉野第2遺跡・今井野第2遺跡・天下城山遺跡の発掘調査を行った。林遺跡は平成9～12年度の4か年調査を行い、旧石器時代から近世にかけての幅広い時代の遺構・遺物が検出された。吉野第2遺跡は、平成12・13・15年度に調査を行い、旧石器時代から近世にかけての幅広い時代の遺構・遺物が検出された。天下城山遺跡は近世の遺構・遺物が検出された。平成8年度からは、北方町大字蔵田から延岡市天下町の全長11.0kmの国道218号北方延岡道路事業にも着手した。それに伴い、山田遺跡・山口遺跡第2地点・野門遺跡・赤木遺跡第8地点の発掘調査を行った。山田遺跡は主に旧石器時代や縄文時代早期の遺構や遺物が、山口遺跡第2地点は弥生時代後期から古墳時代中期にかけての集落跡が、野門遺跡は縄文時代から古代にかけての幅広い時代の遺構・遺物が検出された。

延岡道路・北方延岡道路の両事業は現在も進行中であり、今後更に発掘調査増加の可能性はある。

(2) 赤木遺跡調査の歴史（第2図）

赤木遺跡は古くから旧石器時代から古墳時代にかけての表採資料が確認されている「周知の埋蔵文化財包蔵地」であり、平成15年に第8地点として発掘調査を実施する以前に7回の発掘調査を行っている。昭和60年（1985年）に保育園建設に伴い延岡市教育委員会が赤木遺跡第1地点として発掘調査を実施した。この発掘調査により始良Tn火山灰層上位からナイフ形石器を中心とする包含層（赤木遺跡第I文化層）と細石器を中心とする包含層（赤木遺跡第II文化層）の2枚の良好な旧石器時代の包含層が



第2図 赤木遺跡周辺図② (S=1/5,000)

確認され、宮崎県下の旧石器時代を語る上で外すことが出来ない主要遺跡となった。その後、平成6年(1994年)に延岡市教育委員会が第2地点として、保育園駐車場建設に伴い国指定史跡南方古墳群第21号・第22号の墳丘範囲確認調査を実施し、平成9年(1997年)には第3・4地点として携帯電話無線基地局建設に伴い丘陵中央平坦部の発掘調査を実施し、旧石器時代遺物約320点が出土した。さらに平成11年(1999年)には第5・6地点として、延岡市教育委員会が同じく携帯電話無線基地局建設に伴い丘陵西部北斜面の発掘調査を実施し、旧石器時代遺物約220点が出土し、平成13年(2001年)には第7地点として延岡市教育委員会が、宅地造成に伴い丘陵中央平坦部の発掘調査を実施し、主に始良Tn火山灰層上位の旧石器時代の遺物が多く出土し、部分的ながら始良Tn火山灰層下位の調査も実施し、ナイフ形石器をはじめとする石器類が出土した。

今回、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した第8地点の第一次～第三次調査は赤木遺跡全体の第8次調査にあたる。第8地点の調査が終了した後も延岡市教育委員会が調査を行っており、平成15年(2003年)の第9地点の調査では国指定史跡南方古墳群第22号墳の周溝と須恵器が、平成16年(2004年)の第10地点と平成17年(2005年)の第11地点では縄文～旧石器時代の遺物が確認されている。

【引用・参考文献】

*調査面積や出土遺物の量などから整理作業に時間を要したため、第二・三次調査の報告書が先に刊行された。同じ遺跡内であるため第一章については2007年『赤木遺跡第8地点(第二次調査)』を基本的に引用し、一部については改編・補足をしている。

1987「延岡市の歴史的環境・赤木遺跡・多々羅遺跡」『延岡市文化財調査報告書第3集』延岡市教育委員会

1990「片田遺跡(概報)」『延岡市文化財調査報告書第5集』延岡市教育委員会

1992「上南方地区遺跡」『延岡市文化財調査報告書第8集』延岡市教育委員会

1995「黒土田遺跡・赤木遺跡第2地点・上無田遺跡・平野遺跡・上麦野遺跡・浄土寺山古墳」『延岡市文化財調査報告書第13集』延岡市教育委員会

2002「上無田遺跡・赤木遺跡(第7次)」『延岡市文化財調査報告書第25集』延岡市教育委員会

2004「上多々良箱式石棺群(第2次)・中川原町右衛門山地点・野田八田遺跡群(第3次)・木ノ下遺跡・赤木遺跡(第9次)・野地古墳」『延岡市文化財調査報告書第29集』延岡市教育委員会

2005「延岡城内遺跡(第10次)・仲畑遺跡・赤木遺跡(第10次)・延岡城内遺跡(第11次)・木ノ下遺跡・上無田遺跡(第4次)・大武遺跡・上多々良遺跡(第2次)・延岡城内遺跡(第12次)・西階横穴」『延岡市文化財調査報告書第30集』延岡市教育委員会

2006「神田給遺跡・港山古墳・上無田遺跡(第5次)・赤木遺跡(第n次)・恒富中学校地点・粟野名町島田地点」『延岡市文化財調査報告書第32集』延岡市教育委員会

1990「笠下遺跡」『北方町文化財報告書第1集』北方町教育委員会

1992「笠下原遺跡」『北方町文化財報告書第4集』北方町教育委員会

1995『打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡』一般国道218号椎畑バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 宮崎県教育委員会

1990『林遺跡』一般国道10号土々呂バイパス建設関係発掘調査報告書 宮崎県教育委員会

2005『山口遺跡第2地点』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第99集 宮崎県埋蔵文化財センター

2006『今井野第2遺跡・天下城山遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第135集 宮崎県埋蔵文化財センター

2006『野門遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第136集 宮崎県埋蔵文化財センター

2006『山田遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第146集 宮崎県埋蔵文化財センター

1991『宮崎県史 資料編考古1』宮崎県

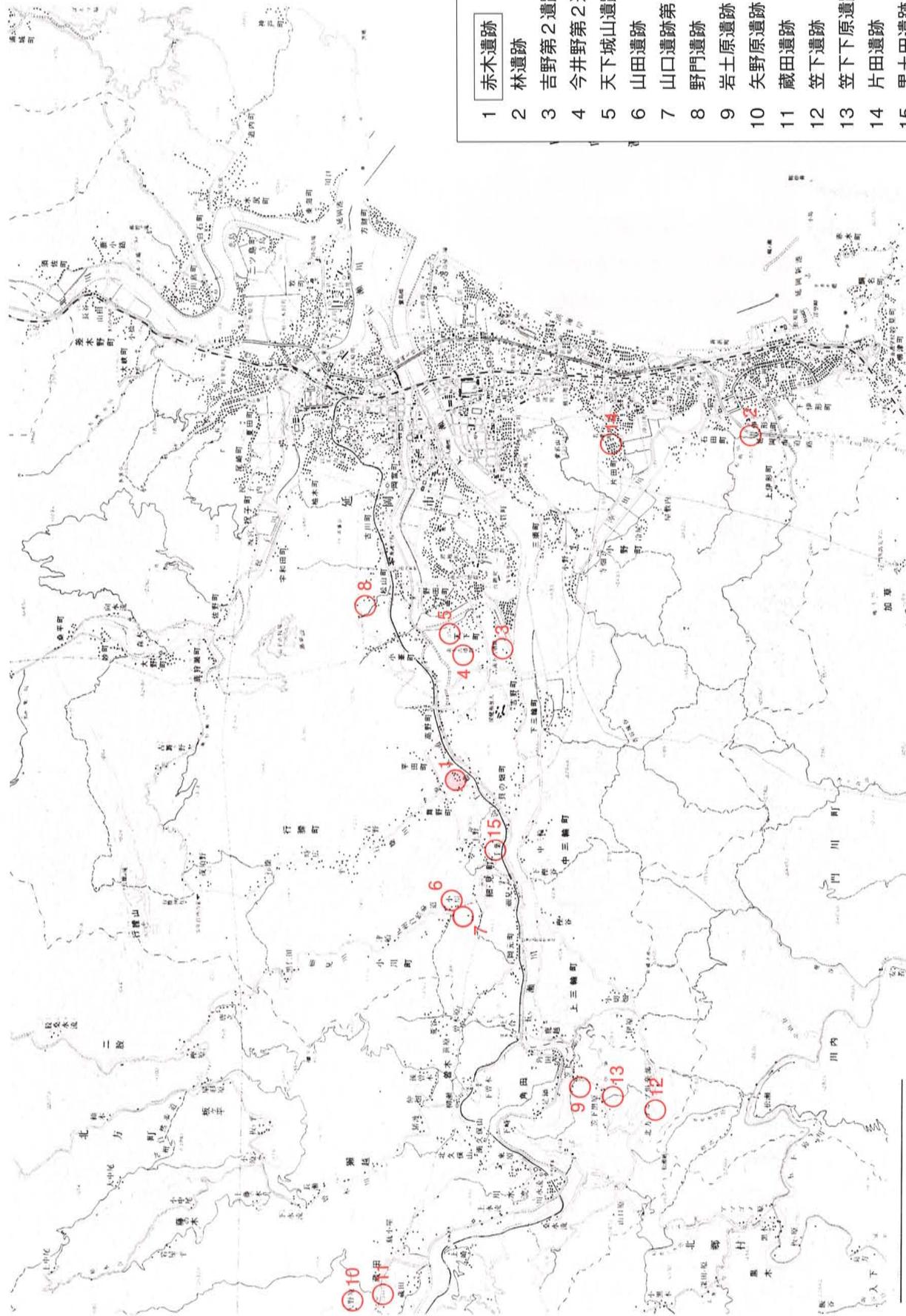
2002岩永哲夫「宮崎県の旧石器研究の歴史」『後牟田遺跡』後牟田遺跡調査団・川南町教育委員会

2002藤木聡「宮崎県域における旧石器時代研究の現状と課題」『宮崎考古』第18号

1967鈴木重治「宮崎県見立羽洞穴」『日本の洞穴遺跡』平凡社

1985鈴木重治『日本の古代遺跡25 宮崎』保育社

1973鈴木重治「宮崎県岩土原追跡の調査－土器伴出石器文化の一例－」『石器時代』第10号 石器時代文化研究会



- | | |
|----|----------|
| 1 | 赤木遺跡 |
| 2 | 林遺跡 |
| 3 | 吉野第2遺跡 |
| 4 | 今井野第2遺跡 |
| 5 | 天下城山遺跡 |
| 6 | 山田遺跡 |
| 7 | 山口遺跡第2地点 |
| 8 | 野門遺跡 |
| 9 | 岩土原遺跡 |
| 10 | 矢野原遺跡 |
| 11 | 蔵田遺跡 |
| 12 | 笠下遺跡 |
| 13 | 笠下原遺跡 |
| 14 | 片田遺跡 |
| 15 | 黒土田遺跡 |

第3図 延岡市周辺遺跡分布図 (1 : 100,000)

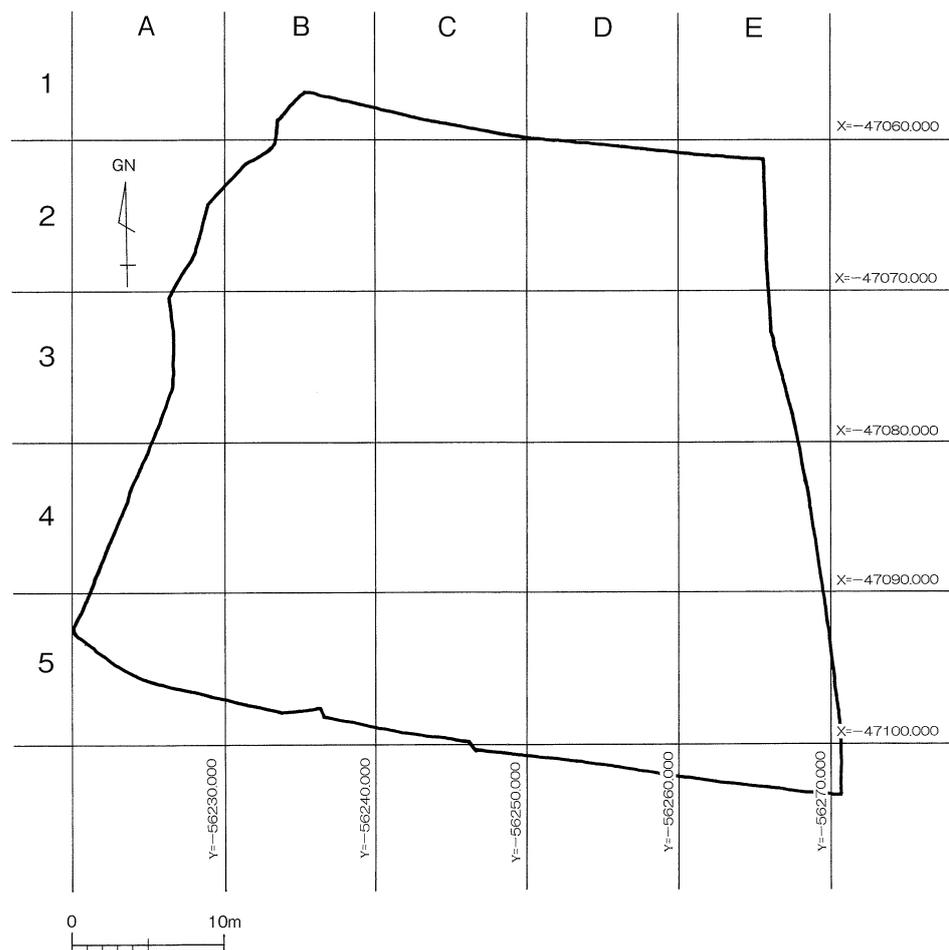
第Ⅱ章 調査の概要

第1節 調査の経過

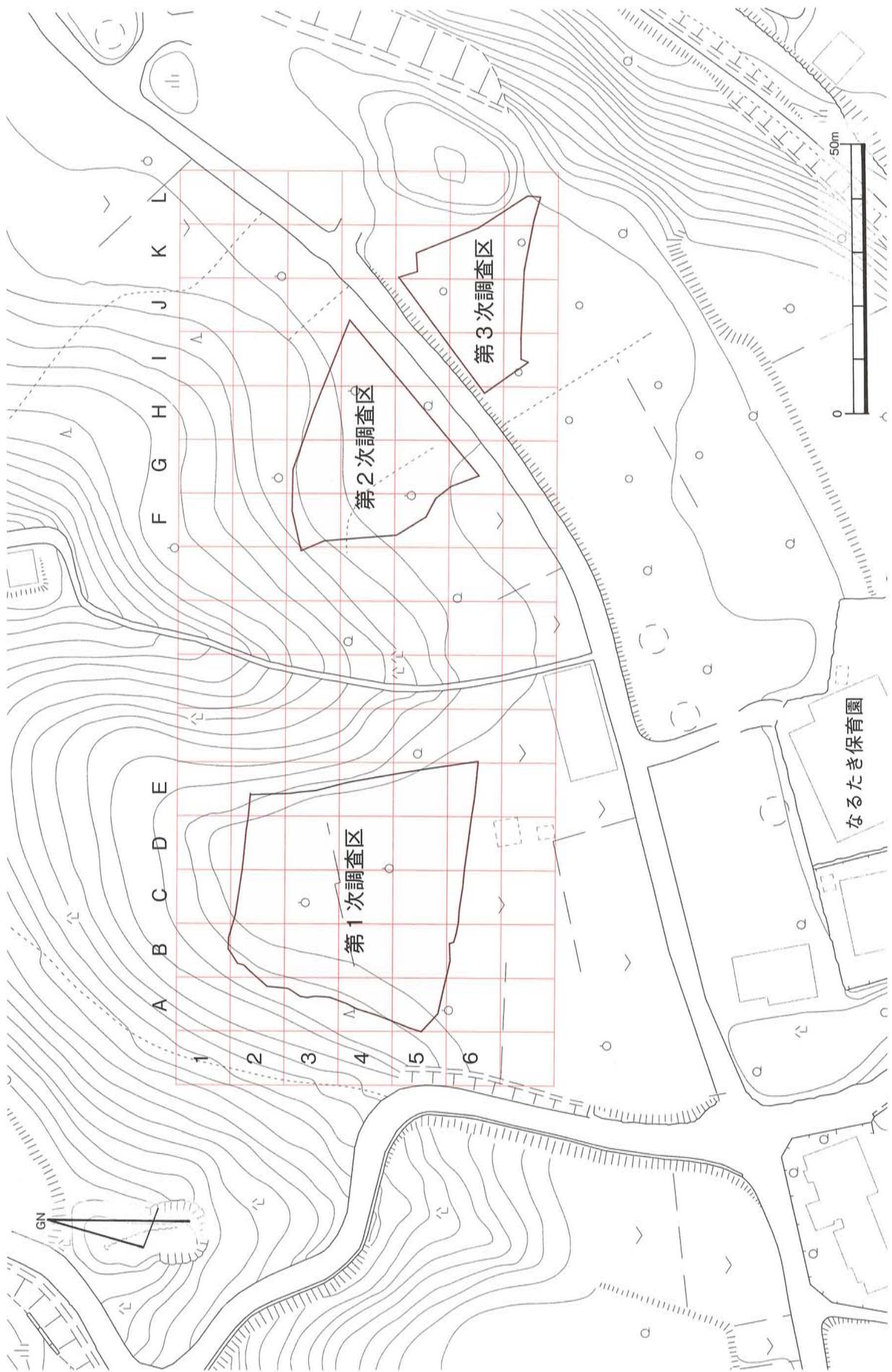
調査対象である約 3,800㎡について、平成 15 年 10 月 28 日から調査を開始した。土層堆積を観察すると、現耕作土直下がアカホヤ火山灰層（Ⅲ層）上面となっており、既に土層上位はかなりの削平を受けているものと判断した。そのため、重機によって当該層上面まで掘り下げ、遺構の検出を試みることにした。調査区西側の三分の一は急斜面となるため、調査の主体は尾根部の平坦面から西斜面が中心となり、アカホヤ火山灰層上面において、弥生時代の竪穴住居跡 1 軒を検出している。アカホヤ火山灰層直下の黒褐色土層からは、無文土器や貝殻条痕文土器片、剥片、石鏃などが出土し、縄文時代早期の包含層であることが明らかとなった。検出した遺構は焼けた散礫の散布と集石遺構で暗褐色土層（Ⅴ層）上面で確認した。散礫は斜面となる西側を除いてほぼ一面に広がっており、分布範囲を記録した後、12 月 5 日に空中撮影（1 回目）を行い、記録の後、散礫の除去を行った。散礫を除去する過程で、集石遺構 58 基、炉穴 9 基を検出している。集石遺構の図面を取り終えたグリッドから旧石器時代の相当する層の掘削を開始した。調査は層順にグリッド法（10 m 単位）を用い、遺物の取り上げはトータルステーションを使用している。集石遺構下層の褐色土層は 2 枚に分層でき、各層の上面で礫群を確認した。上層からは細石刃や細石刃核が出土し、下層からはナイフ形石器などが出土した。さらに、始良 T n 火山灰層の直上と直下からも遺物が確認できた。3 月 10 日に始良 T n 火山灰層直下面で空中写真撮影（2 回目）を行っている。

始良 T n 火山灰層の直下からも遺物が出土したことから、以下の層についてもトレンチを設定し遺物の有無を確認した。結果、全部で 20ヶ所設定したトレンチからは遺物の出土は無かった。3 月 22 日から重機による埋め戻し及び事務所の撤去等を行い、3 月 26 日に調査の全工程を終了している。

総調査日数は 87 日間である。



第4図 赤木遺跡グリッド配置図 (1/500)



第5図 赤木遺跡周辺地形図 (1:1,000)

第2節 基本層序

赤木遺跡第8地点（第一次調査）は、層上部が後世の削平を受けているものの、調査区の中央は尾根上の平坦地で、アカホヤ火山灰層から下層は比較的良好な堆積状況であった。しかし、西側は尾根の端となる傾斜地であり、表土の除去を行うと直下で縄文時代早期の暗褐色土層となった。基本層序は以下の第Ⅰ層～第Ⅺ層となる。また、遺跡の年代比定の基準となる鍵層である広域テフラは、約6,300～7,300年前の鬼界アカホヤ火山灰堆積物であるⅢ層と、約24,000～28,000年前の始良T_n火山灰堆積物であるⅧ層が存在する。その他の層にも広域テフラが含まれていることがテフラ分析により確認されている。（詳細は第Ⅳ章自然科学分析に記している。）なお、とくに旧石器遺物観察表における層序の標記にあたっては、同一層における深度に応じて1（浅い）から5（深い）までの数字を付加している。（例えば、V1、V2、V3、V4、V5と標記している。）

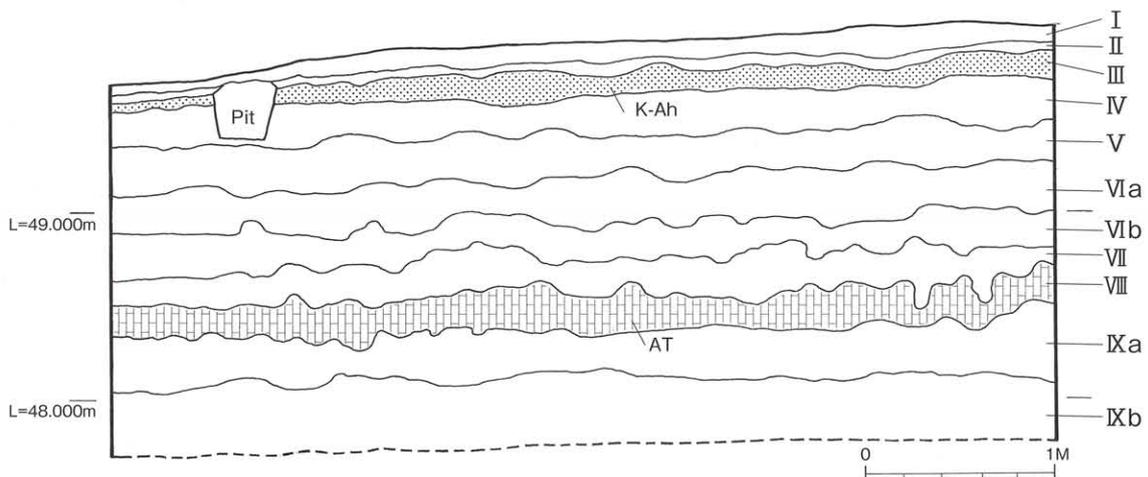
また、昭和60年（1985年）の第1地点と、先に刊行されている第8地点の二次・三次調査の基本層序と対比させるために、それぞれの層序も合わせて記載する。

表1 赤木遺跡基本層序

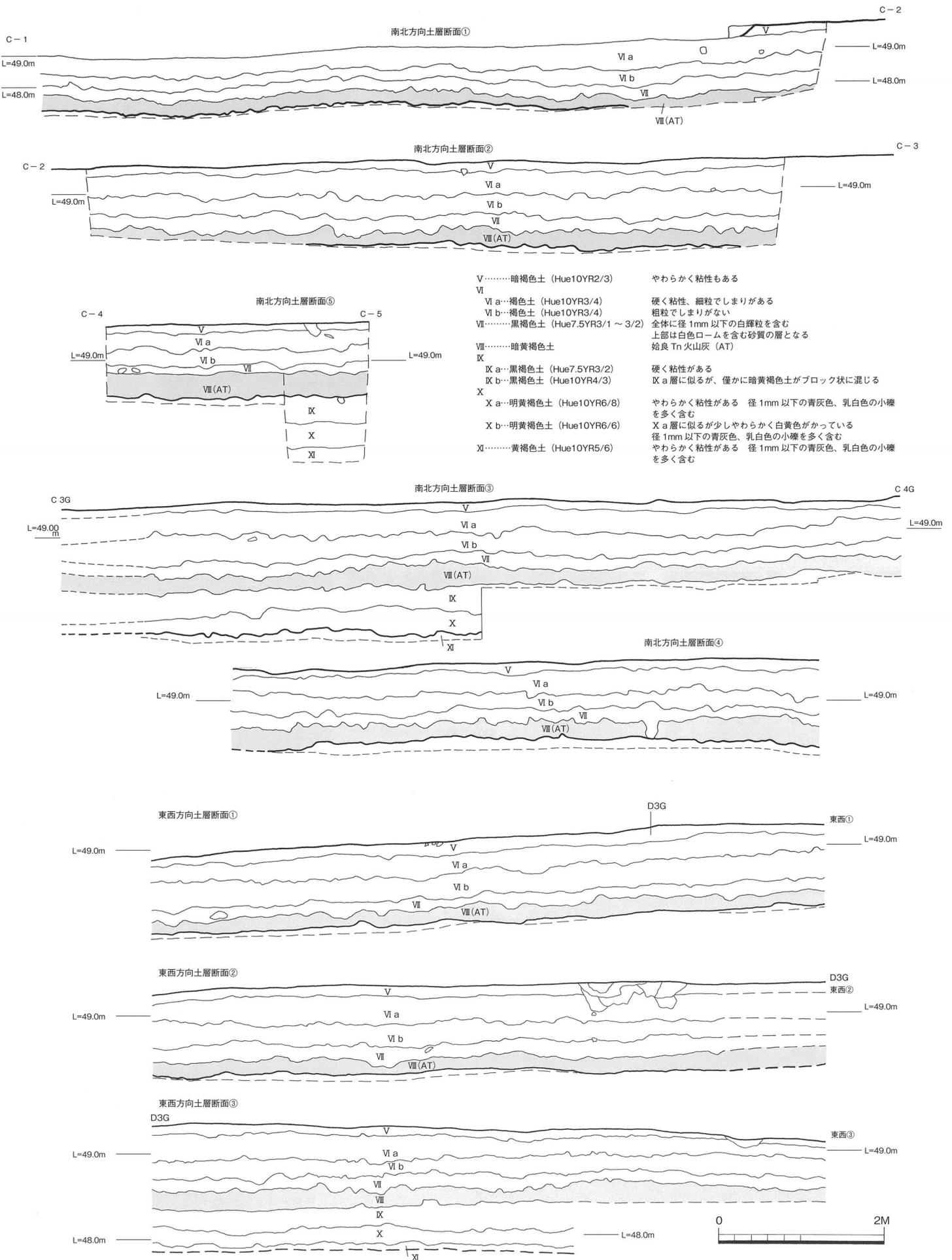
層	土質	説明	二次	三次
第Ⅰ層	黒色土① (Hue 2.5Y2/1)	土質は粗粒でしまりがいい。現地表面の表土。層厚約10cm。	I	I
第Ⅱ層	黒褐色土 (Hue7.5YR3/1～2/1)	土質は柔らかくしまりがいい。黒ボクと呼ばれている層で、弥生～古墳時代の包含層と考えられる。層厚約10cm、西側は削平されている。	Ⅲ	Ⅱ
第Ⅲ層 ＜第1地点の第Ⅲ層＞	明黄褐色土 (Hue10YR 6/8)	鬼界アカホヤ火山灰層 (K-Ah) 全体的に細粒であり、風成堆積層と考えられる。層厚約0～20cmで、西側は削平され、調査区中央部にのみ堆積する。層上面より弥生時代の遺構を検出。	Ⅳ	Ⅲ
第Ⅳ層 ＜第1地点の第Ⅳ層＞	黒褐色土 (Hue10YR3/1～2/1)	土質はやや硬く少し粘性がある。層厚約0～25cmで、調査区全体的に堆積する。層下部より縄文時代の遺物を検出する。縄文時代早期の包含層。	V	V
第Ⅴ層 ＜第1地点の第Ⅴa層＞	暗褐色土 (Hue10YR2/3)	土質は柔らかく粘性もある。層上面より縄文時代早期の集石遺構や遺物を検出。層下部より細石刃核等の旧石器時代の遺物を検出する。旧石器時代の含層。層厚約20cmで、調査区全面に堆積する。	Ⅵ	Ⅵ
第Ⅵ層 ＜第1地点の第Ⅵb層＞	褐色土	土質は硬く、粘性がある。層厚約20～40cmで、調査区全体に厚く堆積する。層全体より旧石器時代遺物が出土する旧石器時代包含層である。a・b層に細分できる。	Ⅶ	Ⅶ
第Ⅵa層	褐色土 (Hue10YR3/4)	層厚約20～30cmで細粒でしまりがいい。層上面より旧石器時代の礫群を検出。	Ⅶa	
第Ⅵb層	褐色土 (Hue10YR3/4)	層厚約20cmで粗粒でしまりがいい。層下部より旧石器時代遺物が出土する旧石器時代包含層。	Ⅶb	
第Ⅶ層 ＜第1地点のⅥ層＞	黒褐色土 (Hue7.5YR3/1～3/2)	径1mm以下の白輝色粒を全体に、上部に白色ロームを含む砂質の層。層上面より旧石器時代の遺物や礫群などの遺構が検出される。層下部は旧石器時代の包含層。層厚約20cmで調査区全体に堆積する。	Ⅷ	Ⅷ
第Ⅷ層 ＜第1地点の第Ⅶ層＞	暗黄褐色 (Hue10YR6/8)	火山灰土。始良T _n 火山灰層 (AT)。層厚約20cmで、調査区全体に堆積する。	Ⅸa・b	Ⅸ
第Ⅸ層 ＜第1地点のⅧ層＞	黒褐色土	層厚60cmで、調査区全体に堆積する。層全体から旧石器時代の遺物が出土する旧石器時代包含層。含有物によってa・b類に細分できる。	X	X
第Ⅸa層	黒褐色土① (Hue7.5YR3/2)	土質は硬く粘性がある。層厚は30cmである。	Xa	
第Ⅸb層	黒褐色土② (Hue10YR4/3)	第Ⅸa層と似ているが、わずかに暗黄褐色土とブロック状のユニットを形成する。層厚は30cmである。全体に1～5cm程度の自然礫を多く含む。	Xb	
第Ⅹ層	明黄褐色土	調査区全面から検出。ただし、掘り下げ箇所はトレンチの部分的のみである。層厚は約60cm。土質・色調・含有物によってA・bに細分できる。	Ⅺ	Ⅺ
第Ⅹa層	明黄褐色土① (Hue10YR6/8)	土質はやや柔らかく粘性がある。全体に径1mm以下の青灰色・乳白色の小礫を多く含む。旧石器時代遺物が出土する。	Ⅺa	
第Ⅹb層	明黄褐色土② (Hue10YR6/6)	土質は第Ⅹa層と似ているが、比して少し柔らかく色調も白黄色がかっている。第Ⅹa層と同じく全体に径1mm以下の青灰色・乳白色の小礫を多く含む。旧石器時代遺物が出土するが、傾斜地からの出土であり上層の可能性が高い。	Ⅺb	
第Ⅺ層	黄褐色土 (Hue10YR5/6)	層厚は約35cm。土質はやや柔らかく粘性がある。全体に径1mm以下の青灰色・乳白色の小礫を多く含む。		



- 第Ⅰ層 黒色土 (Hue2.5Y2/1) 植生のみられる表土である。
- 第Ⅱ層 黒褐色土 (Hue7.5YR3/1 ~ 2/1) 柔らかくしまりのないクロボク土である。
- 第Ⅲ層 明黄褐色土 (Hue10YR6/8) 鬼界アカホヤ火山灰層 (K-A h) である。
- 第Ⅳ層 黒褐色土 (Hue10YR3/1 ~ 2/1) やや硬く少し粘性がある。
- 第Ⅴ層 暗褐色土 (Hue10YR2/3) 柔らかく、粘性がある。
- 第Ⅵ a 層 褐色土 (Hue10YR3/4) 細粒でしまりがある。
- 第Ⅵ b 層 褐色土 (Hue10YR3/4) 細粒でしまりが無い。
- 第Ⅶ層 黒褐色土 (Hue7.5YR3/1 ~ 2/1) 白色鉍物粒を全体に含み、砂質となる。
- 第Ⅷ層 暗黄褐色土 (Hue10YR6/8) 始良 Tn 火山灰層 (AT) である。
- 第Ⅸ a 層 黒褐色土 (Hue7.5YR3/2) 硬く粘性がある。
- 第Ⅸ b 層 黒褐色土 (Hue10YR4/3) 暗黄褐色土とブロックを形成する。1 ~ 5 c m の円礫を含む。
- 第Ⅹ層 明黄褐色土 (Hue10YR6/8) 柔らかく粘性がある。土質によって a、b に分けられる。



第6図 C4区 南壁土層断面図 (1/40)



第7図 土層断面図 (1/60)

第3節 石材の分類基準

石器製作に用いられる石材は、層位を問わず遺跡周辺、特に五ヶ瀬川河床や段丘礫層から採取可能な祖母・傾山系の流紋岩類が主体である。その他は、礫石器や礫群・散礫には砂岩・凝灰岩・頁岩などが用いられ、当然のことながら石材は使用目的に応じて使い分けられているようである。

以下、肉眼観察による石材毎の分類（流紋岩とホルンフェルスは細分類も）を行い、各石材の分類基準について解説を加える。なお、以降の表記にはこの分類の略号を用いることがある。

表2 石材分類表

【流紋岩類】	
1類	略号「R1」. 白色系 (Hue5Y8 / 1)、灰白色 (HueN8 / 1)、灰黄色系 (Hue2.5YR8 / 1 - 8 / 2) の色調がある。幾筋もの縞模様 (流離構造) がみられるのが普通であるが、無いものもある。この白色、灰白、灰黄色系は風化によるもので、通常、岩体内部は暗灰色をしている。表面は比較的緻密でツルツルするものから粗くザラつくものまでである。表面が粗いものは、時に砂岩様の様相をみせることがある。これらは本遺跡の主体を占める石材である。
2類	略号「R2」. 灰色系 (Hue 7.5Y5/1 ~ 6/1) で幾筋もの縞模様 (流離構造) がある。また、この縞模様の無いものがある。表面は比較的緻密でツルツルするものから粗粒でザラザラ感じるものまで幅がみられる。また、時に白色雲状の斑文がみられる。これらは本遺跡の主体を占める石材である。
3類	略号「R3」. 褐灰色系 (Hue 10YR4/1 ~ 5/1、Hue 7.5YR5/1) の流紋岩類で、色調以外の特徴は R2 石材と同様である。
4類	略号「R4」. 黒色系 (Hue N2/, Hue7.5Y2/1、Hue 10YR2/1 周辺) の流紋岩である。とくに漆黒で緻密なものについては、熱変成を受けた流紋岩 (すなはちホルンフェルス) の可能性がある。
【ホルンフェルス類】	
1類	略号「H 1」. 灰青色 (Hue10YR6/1) で、手触りがザラザラする。風化しているものが多い。
2類	略号「H2」. 暗灰色 (Hue10Y5/1) で、手触りがザラザラする。風化しているものが多い。
【チャート】	略号「Ch」. 半艶の光沢をもち、乳白色系、赤色系、暗青系、暗灰色系の各色がある。
【砂 岩】	略号「Ss」. 剥片石器として使用されることは希であり、礫群構成礫や磨石・敲石などに用いられる。灰白色や灰黄色系があり、ザラザラした手触りがする。
【凝 灰 岩】	略号「Tu」. 磨石・敲石・台石などの製品や礫群の構成礫などに用いられることが多い。
【頁 岩】	略号「Sh」. 黒色で硬く、手触りがツルツルとしているものから、風化してもろいものまで様々である。
【花崗斑岩】	略号「Gr」. 灰白～肌色～ピンク色で原材は板状を呈する。礫群の構成礫に多く見られるため、被熱による変色の可能性がある。
【黒 曜 石】	略号「Ob」. 細石刃核、打製石鏃の素材に用いられている。桑ノ木津留産である。
【石 英】	略号「Qz」. 透明 (水晶) および不透明 (石英) の剥片がある。製品は出土していない。
【安 山 岩】	略号「An」. 暗灰色で艶が無くザラザラした肌を呈する。
【レ キ 岩】	略号「Co」. 灰色を基色として、白色から暗灰色の小岩片を含んでいる。

第三章 調査の記録

第1節 旧石器時代

1 遺構

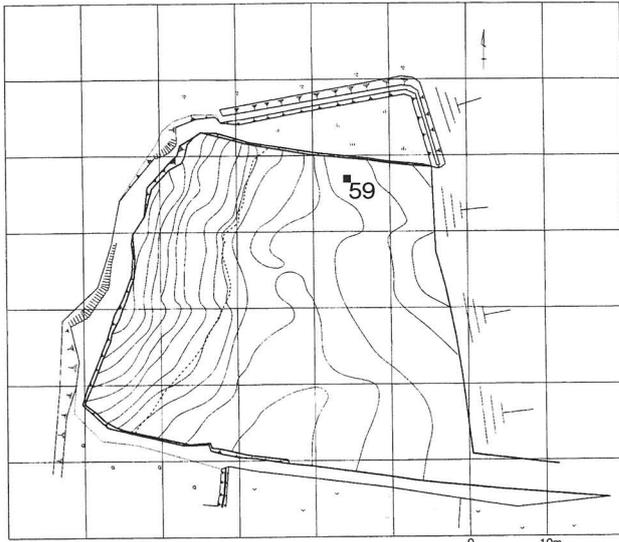
(1) 礫群 (SI59～SI71) [第8-11図]

火を受けて赤化した拳大内外の円礫、角礫が径1m内外に集積する旧石器時代の遺構である「礫群」を各層合わせて13基検出した。礫群は、旧石器時代の炉跡等と考えられている遺構である。各遺構の礫が分布する範囲の計測値、検出した層序、礫集積の特徴については表3に示した。また、礫群の全体分布図は第75図に示している。

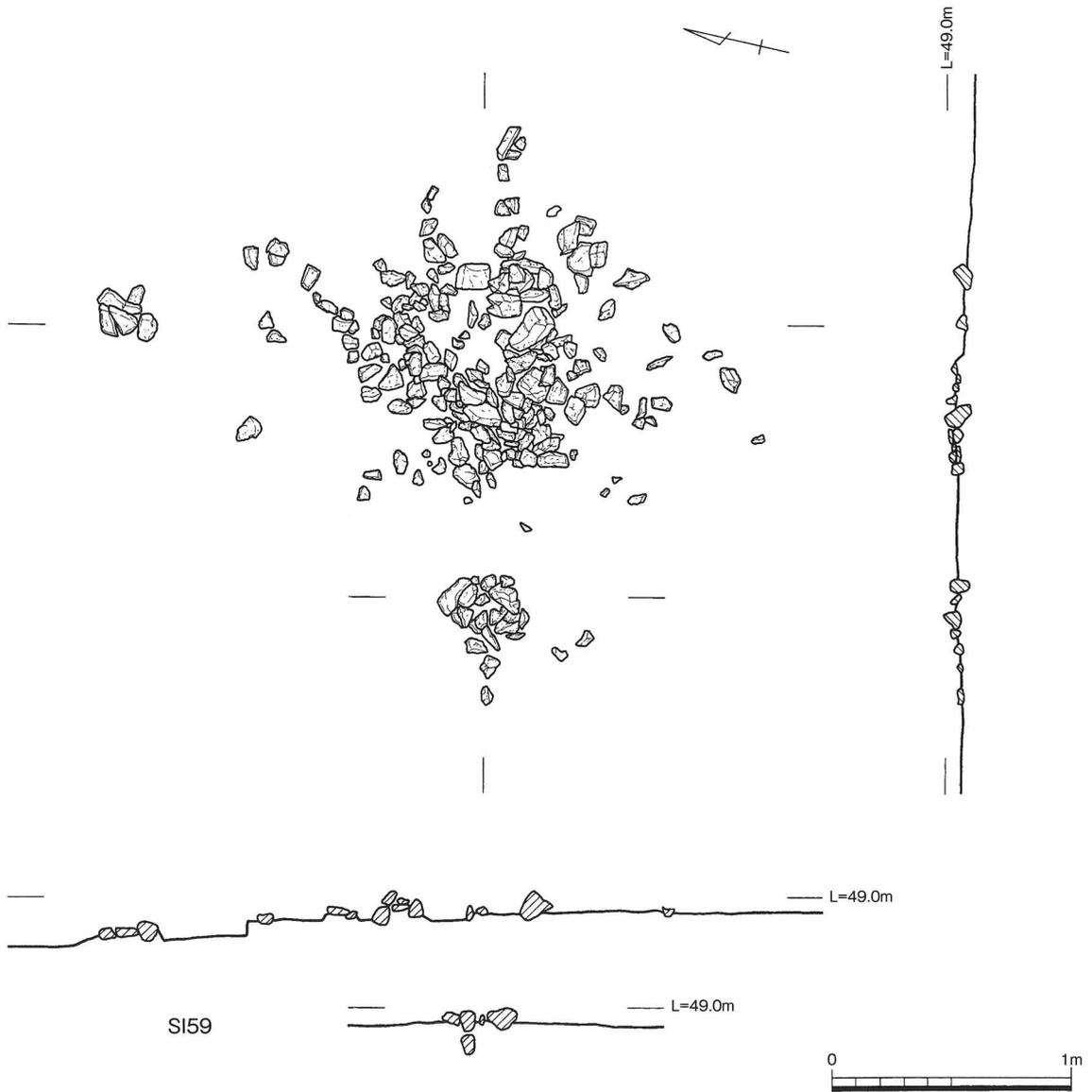
各礫群はV層(1基)、VI層(3基)、VII層(7基)、IX層(2基)の複数層から検出されている。V層の1基(SI59)は、縄文時代早期の遺構である「集石遺構」を検出したIV層に上下に極めて近接するため縄文早期の「集石遺構」である可能性も残しておきたい。VI層検出の二基(SI60・SI62)は互いに5mの距離を置いてD2区、E2区に位置し、SI61は二基から南に35mの位置にある。礫群のうち最も検出基数の多いVII層の7基は、うち4基がE5区に集中し、他の3基は西端から北東にかけて10mから25mの間隔をもって単独に営まれていた。とくに、SI67は緩斜面にかかるB5区に位置し西端に単独で離れている。IX層から検出された2基はC2区に営まれ互いに南北方向に9mの距離をおく。礫群の形態は、すべて掘り込みを持たずに礫が平面に集積するものであり、縄文時代の集石遺構に比べて礫の集積状態が規格的な円形をとらずに不定形であり集石の状態も極めて「疎」である。礫の平面集積の状況は、円形よりも不整な円形、楕円形が多い。構成石材は、砂岩、レキ岩、頁岩、石英斑岩、流紋岩等から成り、各礫群間において礫の大小や石材の種類において大きな差異を認めない。遺構周辺から出土する遺物である旧石器との関係を積極的に示唆しうる資料に欠けるのであるが、遺物出土量の多いVI、VII層に比例して礫群基数も増えているという相関関係を指摘することができる。

表3 旧石器礫群計測表

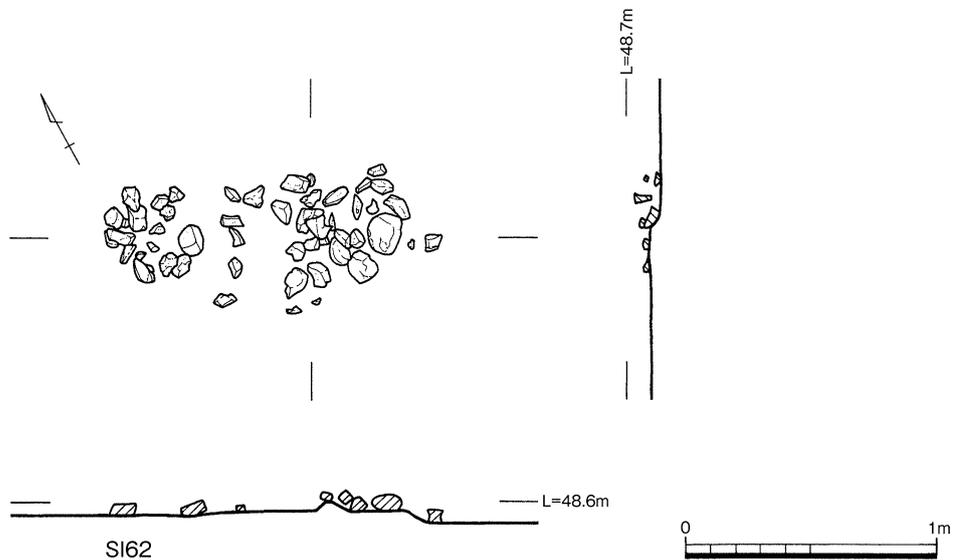
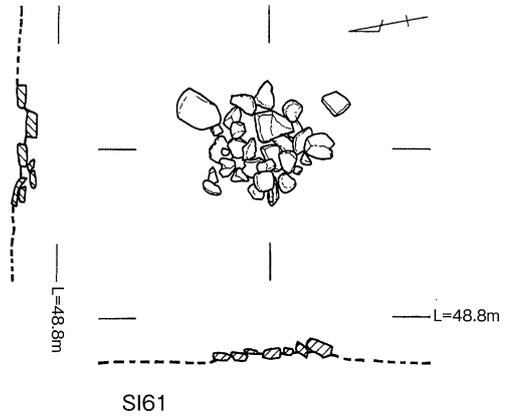
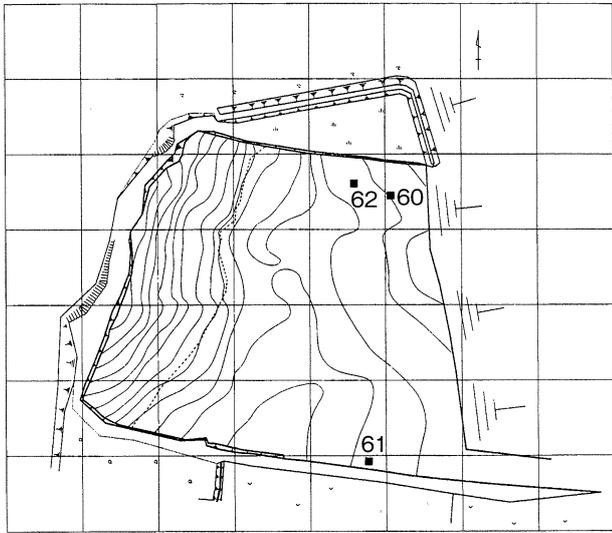
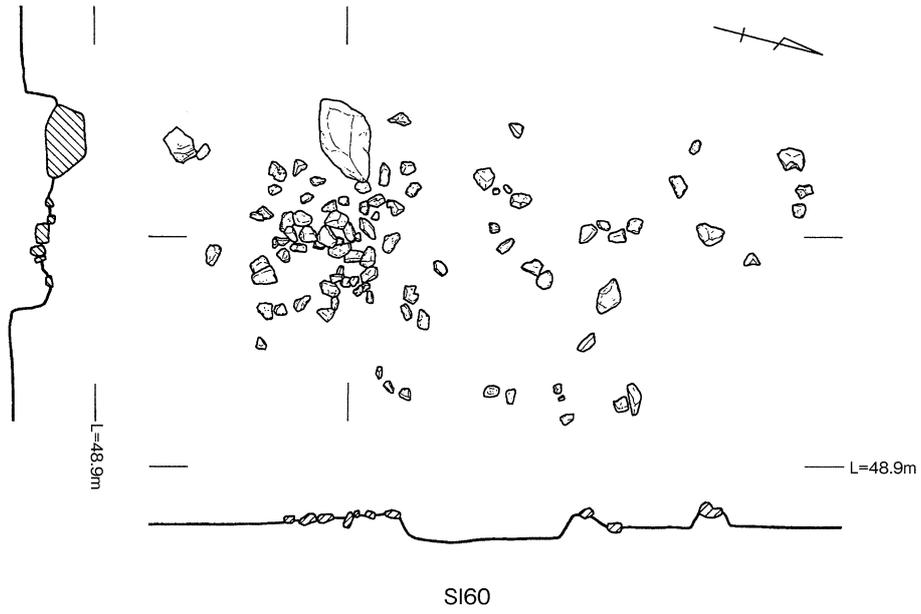
遺構 No. SI	時期	検出層	検出グリッド	規模(礫の範囲) 最大長×最大幅 (m)	平面集積形状	掘り込みの有無	配石	集石の密度	構成礫数(概数)	特徴
59	旧石器	V層上面	D2	2.50×2.50	円	×	×	密	160	比較的広範囲に集積し、西側にもう一つ小規模な集石をともなう
60	旧石器	VI層上面	E2	2.50×1.20	楕円	×	×	疎	85	大礫1点を伴う
61	旧石器	VI層下面	D6	0.55×0.50	円	×	×	密	35	
62	旧石器	VI層下面	D2	1.10×0.50	長楕円	×	×	疎	45	東西方向に細長い範囲に集積する
63	旧石器	VII層上面	E5	0.50×0.55	円	×	×	疎	32	小規模に集積
64	旧石器	VII層上面	E5	0.40×0.30	不定形	×	×	疎	14	小規模に集積 SI64に隣接
65	旧石器	VII層上面	E5	0.95×0.85	不正円	×	×	疎	45	
66	旧石器	VII層上面	E5	1.50×1.00	不定形	×	×	疎	50	
67	旧石器	VII層上面	B5	0.80×0.40	長楕円	×	×	疎	22	
68	旧石器	VII層上面	E3	0.40×0.40	円	×	×	密	20	
69	旧石器	VII層下面	C4. 5	0.40×0.40	不定形	×	×	疎	24	
70	旧石器	IX層	C2	0.55×0.50	長楕円	×	×	疎	11	
71	旧石器	IX層	C2	2.00×1.55	不定形	×	×	疎	62	北辺に付属した散礫を伴う



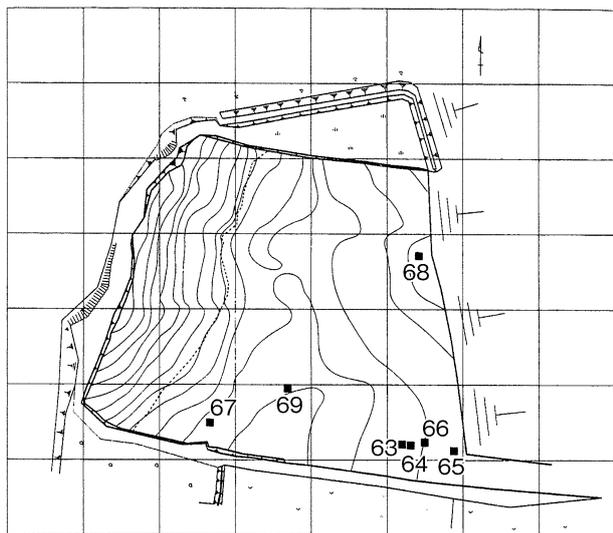
第V層検出礫群分布図



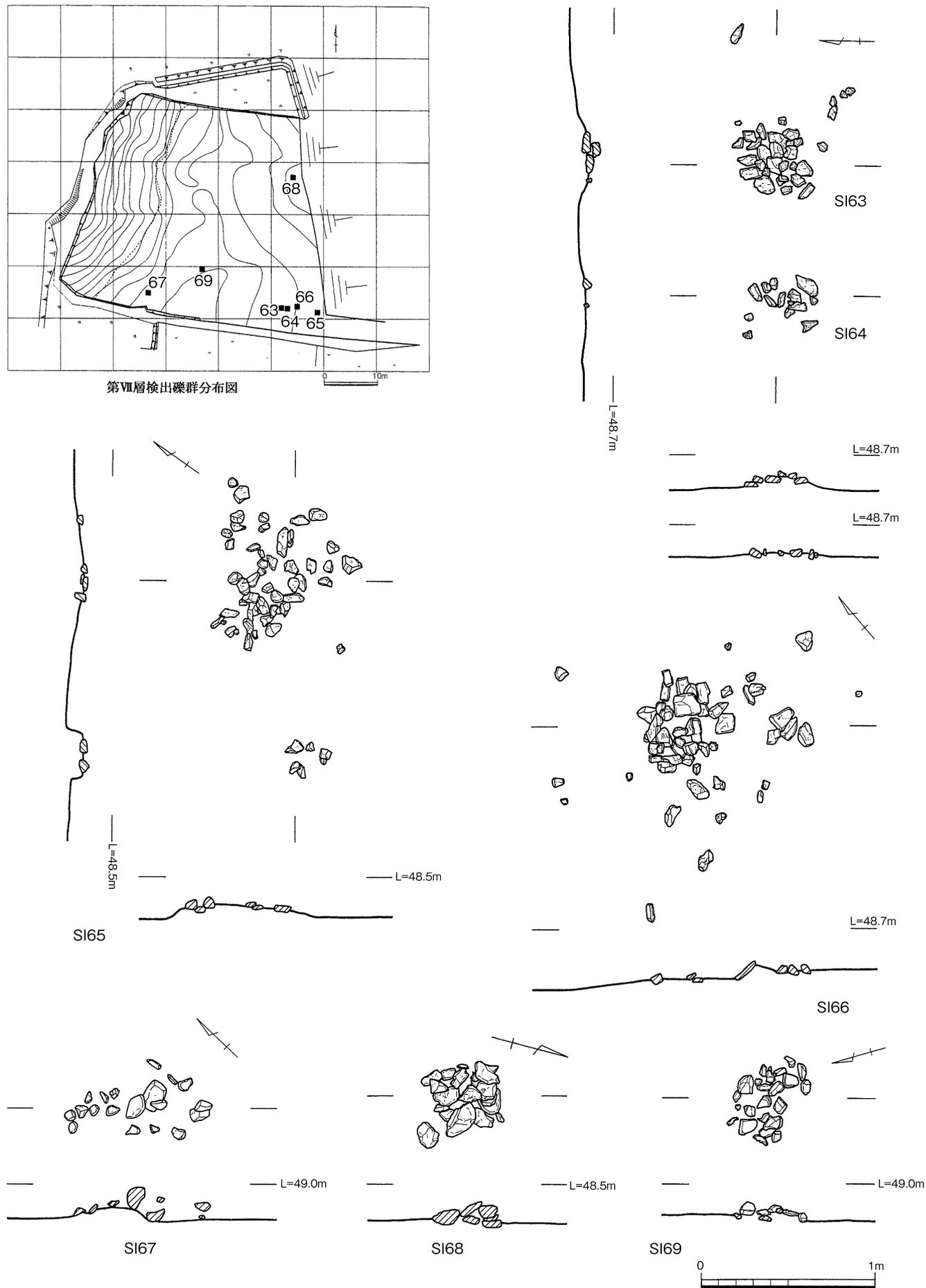
第8図 59号礫群実測図 (1/30)



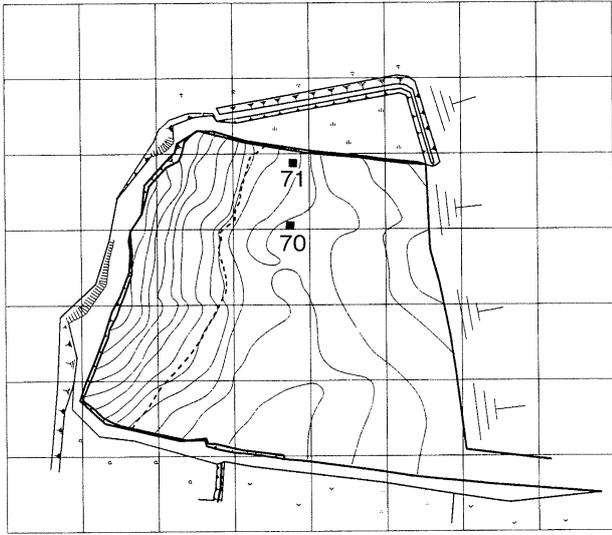
第9図 60.61.62号礫群実測図 (1/30)



第Ⅶ層検出礫群分布図

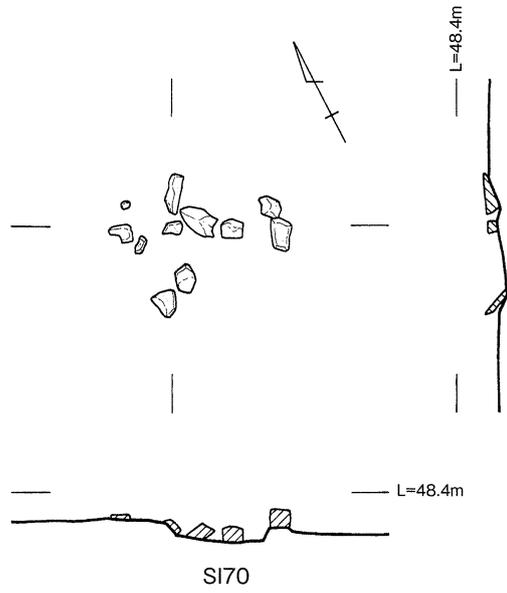


第 10 図 63.64.65.66.67.68.69 号礫群実測図 (1/30)

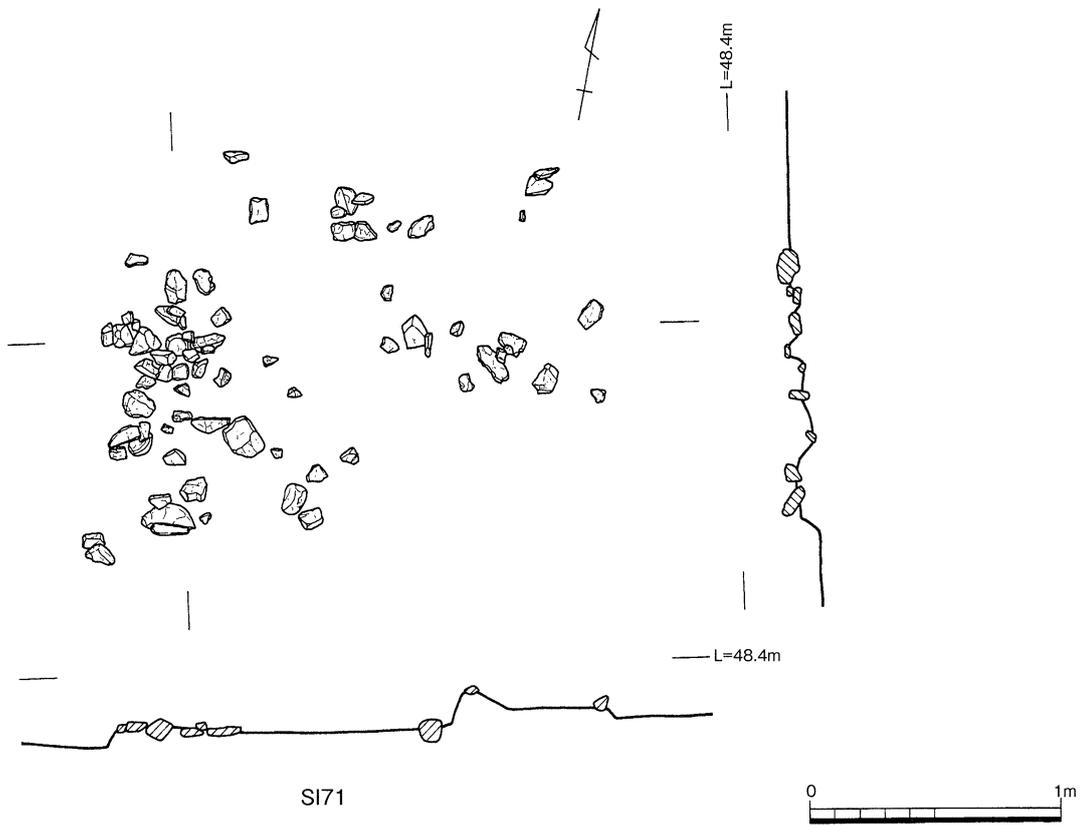


第IX層検出礫群分布図

0 10m



SI70



SI71

第11図 70.71号礫群実測図 (1/30)

2 遺 物

旧石器遺物の取り上げ経過順に沿って B 面から F 面に分けて出土遺物を報告する。(なお、A 面は縄文早期の集石遺構検出面に相当)。旧石器時代に対応する B から F 面は、それぞれ B 面が IV 層から V 層、C 面が V 層主体、D 面が V 層下部から VI 層、E 面が VI 層から VII 層、F 面が VIII から IX 層に相当する。

(1) 旧石器時代面 B の調査 (IV 層から V 層面) ・ ・ ・ 細石器文化相当

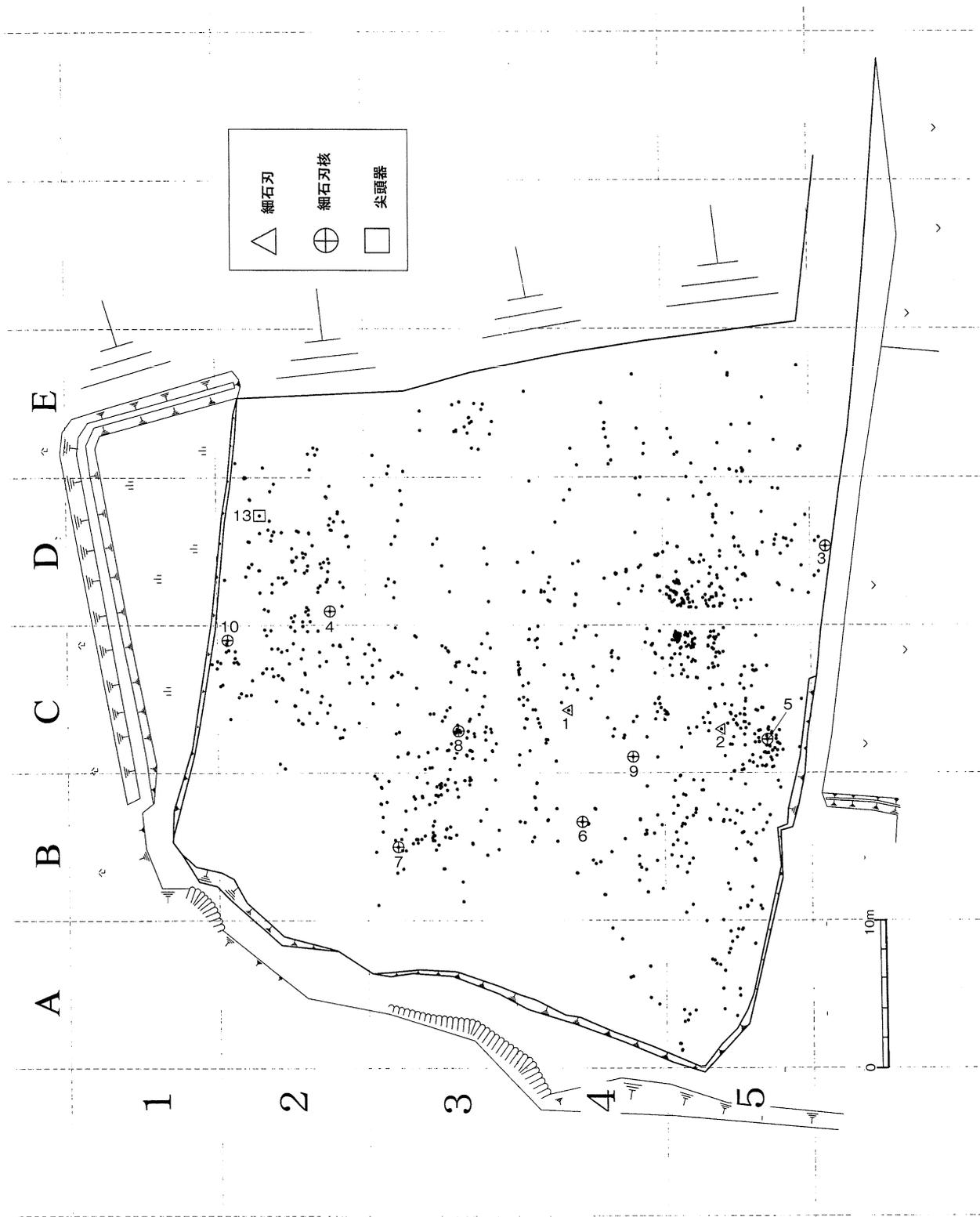
第 13 図掲載の細石刃、細石刃核、石核、尖頭器は IV 層を主体としながら一部 V 層にかけて出土したものである。石材は、流紋岩の R1、R2 類を主体とするが、細石刃核の 1 点 (掲載番号 3) に桑ノ木津留産の黒曜石を用いている。

細石刃 (第 13 図 1,2)

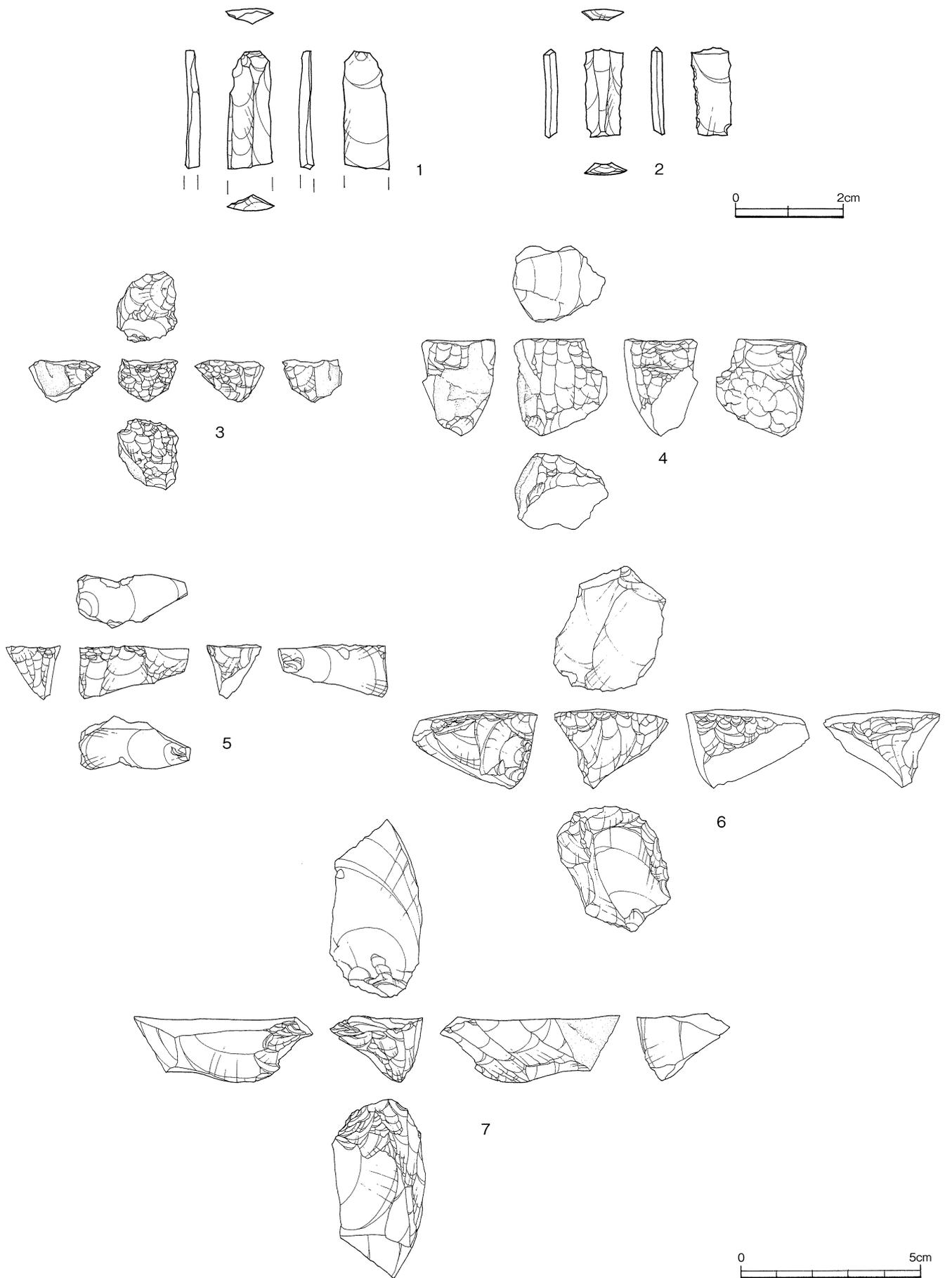
1、2 は細石刃である。1 は、復面の上端に打点をその儘のこすもので、下部は折損したか、あるいは意図的に折り取られた可能性がある。2 は、上端の打点部分と下端の湾曲部が折り取られており上辺と下辺、両側辺がそれぞれ並行している。右側縁に背面からの微細な剥離痕がみられる。いずれも、白色系の流紋岩である。

細石核 (第 13 図 3-7、第 14 図 8-10、第 20 図 406)

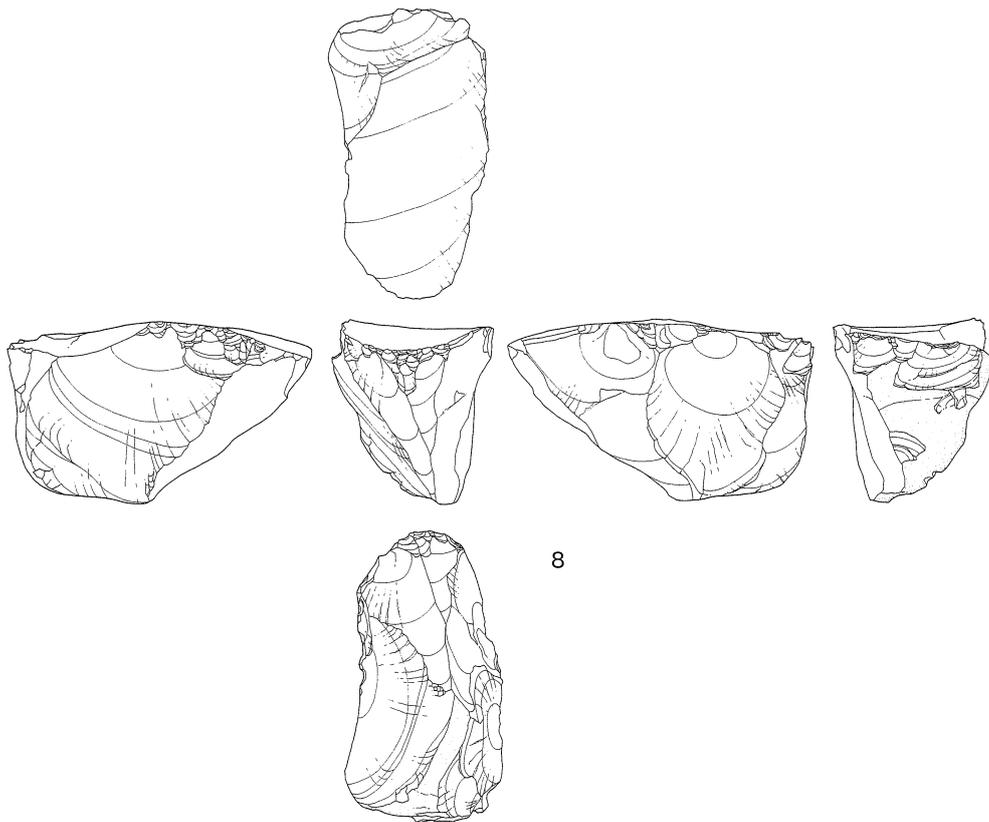
3 は、黒曜石製 (桑ノ木津留産) の細石核で半円錐状を呈する。打面は、2箇所から調整がなされ平坦面を形成している。側面は一部に自然礫面をのこし、その自然面を除く全周が細石刃剥離作業面となって細石刃が細かく連続的に剥ぎ取られた痕跡が残る。4 は、一回の打面調整で打面を作っている細石核で、下方の一端を大きく欠損しているが、円錐状あるいは円柱状を呈していたものであろう。細石刃剥離作業のあとが前面の一部に残っている。全体に風化が進んでおり剥離面すべてのエッジが鈍い。5 は、船野型細石刃核を側面上端から加撃して剥離した剥片であり、側面に主要剥離面が明瞭にのこる。原核の平坦打面と打面調整痕、小口の細石刃剥離作業痕がのこっている。6 は、比較的丁寧に側面調整された素材の一端から剥離された細石刃剥離痕が明瞭に観察されるもので半円錐状となる。しかし、作出剥離された細石刃は意図に反して屈曲した形状となってしまったことが残核にのこる痕跡から観察できる。なお、打面は複数の剥離によって形成されている。7 は、石核の打面を新設するために、下端部をはねた際に生じた打面再生剥片であろう。端部に原石核の剥片剥離痕がのこっている。8 は、細石刃核のブランクである。左側面に自然面をのこし、断面 V 字形を呈する。上面は複剥離打面となって、側面は打面上端から幅広の不整剥片を剥離した調整痕を多くのこしている。白く風化するタイプの良質な流紋岩製である。9 は、断面 V 字形を成す横長舟底状の大型細石刃石核のブランクである。側面表裏に打面上端から調整剥片を剥ぎ取った痕跡をのこす。上面にある打面は 1 回の調整で平坦面を形成している。石材はやや粗粒となる流紋岩製である。10 は、比較的厚形の剥片を素材とした極めて小型の横長舟底形を呈する細石刃石核である。打面は 1 回の打撃で剥ぎ取られておりバルブがのこる。両側面には打面上端からの素材調整のための丁寧な剥離作業が施されている。細石刃剥離作業面は図の左端のみに設けられ、連続的に短く小さな細石刃を剥ぎ取った痕跡がのこる。石材は良質の白く風化するタイプの流紋岩製である。第 20 図 406 は、平坦な自然礫面に調整を加えずにそのまま細石刃剥離作業面とする細石核で、側面の一部と底面も自然礫面となっている。細石刃剥離作業は、全周の約 1/2 におよび、側面観は逆台形を呈する。石材は、本遺跡では唯一となる無斑晶安山岩である。



第12図 IV - V層検出状況図 (B面) (1/400)

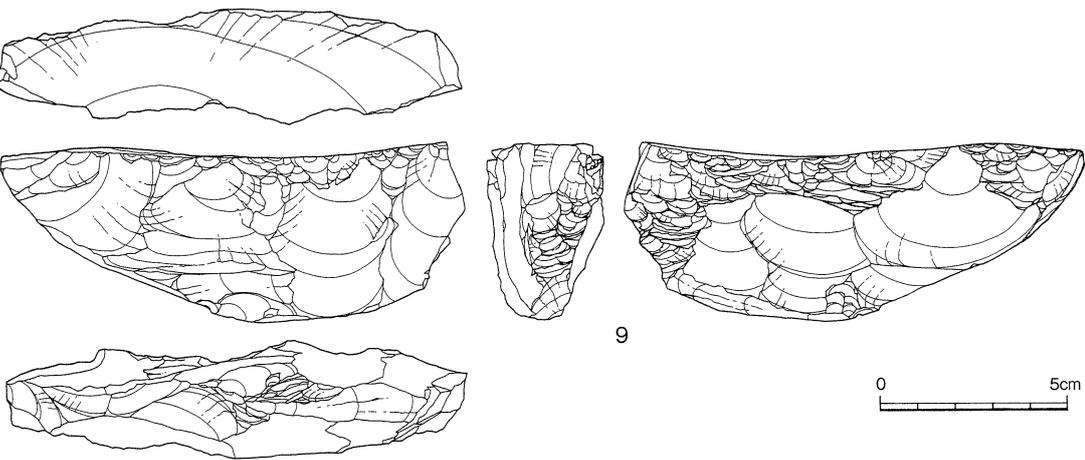


第13图 IV - V層出土石器①



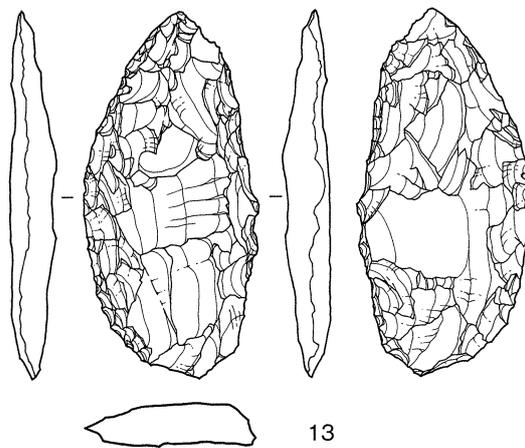
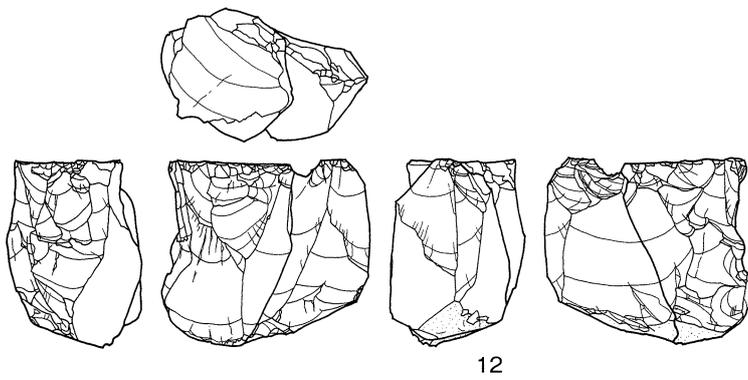
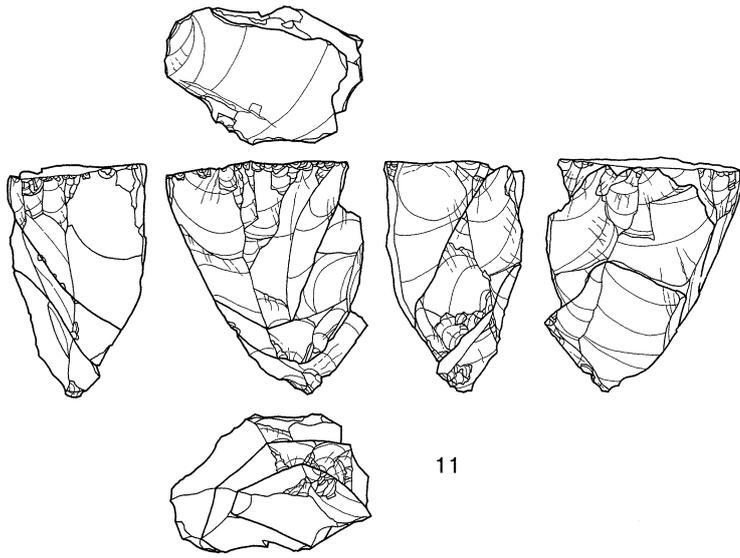
8

9



10

第 14 图 IV - V 层出土石器②



第 15 图 IV - V 層出土石器③

石核（第 15 図 11,12）

11、12 は、単打面を有する縦長剥片石核である。全周に頭部調整がみられ、幾点かの縦長剥片が作出された痕がのこっている。12 は全周にわたって剥離がみられる石核で、調整のため剥離された厚い剥片 1 点が接合したもので、いずれも石核の末端に自然面が残っている。いずれも白く風化するタイプの良質な流紋岩製である

尖頭器（第 15 図 13）

13 は流離構造の著しい青白色系流紋岩の縦長剥片を素材にした長さ 7.5cm の木葉形の両面加工尖頭器で、今時の遺跡で唯一の出土品である。弧状のきつい左側縁には細かな調整が多く加えられているのに対して、右側縁は直線的で調整も比較的粗く、大まかな調整となっている。先端部、下端部ともに先端部を形成するが下端の先端はやや鈍く作られている。石材は、流離構造のため良質とは言いがたい。

(2) 旧石器時代面 C の調査（V 層面）・・・ナイフ形石器文化 1

第 V 層のうち、その主体となる V1—V4 層から出土した石器群である。ナイフ形石器が主体となり、角錐状石器、搔器、削器その他で構成される。細石器、尖頭器は姿を消す。

ナイフ形石器（第 17-18 図 14-36）

第 17、18 図の 14 から 36 はナイフ形石器である。これらは、縦長剥片と横長剥片を利用したものに二分することができる。縦長剥片利用のものはさらに、一側縁加工のもの 15、18、一側縁の一部のみに加工を加えたもの 14（先端の一部）、17（基部の一部）、二側縁加工のもの 16、20、21、22、23、25、26、27、28、29、30 がある。この中には、切出形 20、25、狸谷型といわれる 29 がある。横長剥片利用のものもさらに一側縁加工の 32、33、34、35 と二側縁加工の 31、36 に二分できる。

14 は復面に打点をのこす石刃様の剥片を素材とし、基部と基部付近の側縁には全く調整を加えず先端の左側縁の一部のみにブランディングを加えるもので、右側縁のすべてを刃部に供する他にあまり類例のないナイフとなる。16 は打点部分を除去したあと、先端と下端共に尖頭に整形する二側縁加工タイプのナイフで、刃部に比べてより両側縁に施されたブランディングの占める割合が多い。20、25 は、右側縁の上部の一辺を刃部とし、他辺にすべて復面からブランディング加工する三角形状を呈する切り出し形のナイフである。26 は尖頭器状を呈して左縁全面にわたる腹面からのブランディングと右下右縁に同じくブランディングがみられる木葉形のナイフである。28、30 は、基部を中心に調整を加えるもので腹面に明瞭な打点をのこす典型例である。29 は極小型の製品でいわゆる狸谷型になろう。31～36 は横長剥片を利用したナイフで 32 は翼状剥片となる。32、33、34、35 は左側縁片側のみの加工がなされる。なお、33～36 は、三稜尖頭器、角錐状石器と分類する考え方もあろう。なお、34 は 53 の石核と接合している。これらナイフの完形品全 16 点の平均長、幅、重量は各々 4.3cm、1.74cm、5.9g であった。石材はすべて流紋岩類（R1、2、4）である。

角錐状石器（第 18 図 37,38）

37、38 は素材の縁部と尖頭部が厚形の連続細部剥離を用いて加工され尖った先端部が形成される角錐状石器である。37 は、横長剥片を素材として腹面以外の二面に加工を加えるもの。38 は縦長剥片の 1 面に急傾斜の剥離を加えたもので、腹面以外のもう一面は流離面となっているためか調整を加えていない。ともに、角錐状石器としては小型の範疇に入る。いずれも、白く風化するタイプの流紋岩である。

搔器 (第 18 図 39,42)

39、42 は搔器である。39 は、自然面をのこす分厚い剥片を使用する半円弧状に刃部をつくる搔器である。刃部は打面を含む端部に背面から急角度の剥離面を弧状に並列させながら打ち欠くことによってつくられている。42 は幅広の剥片を折りとり、その裁断部に刃部を弧状につけてラウンドスクレーパー状に成形するものである。刃部は背面を階段状に剥離してつくられている。腹面に明瞭な打面、バルブをのこしている。いずれも、白く風化するタイプの流紋岩である。

削器 (第 18-19 図 40-44)

40、41、43、44 は削器である。40 は横長剥片を素材とするもので尖った下端の左側縁に背面から細かい剥離を連続させて刃部を形成している。41 は幅広の分厚い剥片の一侧縁に腹面からの調整によって連続する刃部を形成するものである。もう一方の側縁は、自然面となる。腹面に明瞭な打面、バルブをのこしている。43 は、腹面に打面、バルブをのこす比較的大きな幅広の剥片を素材としている。下端部に浅く大まかな剥離が連続し、両サイドは比較急な角度で調整される細かな剥離が連続して施されている。44 は、打面とバルブをのこす。44 は、幅広の不定形剥片を利用するもので、右側縁の全縁と左側縁の上部に剥離を加えて刃部をつくるものである。左側縁の下半分は自然面をのこしている。

剥片 (第 19-20 図 45-52)

45、46、47、48、49、50、51、52 は剥片である。45、51 を除く 7 点は腹面に平坦な打面とバルブをのこす縦長剥片で、52 の大剥片は背面に自然面をのこす。46、47、48、49、50 には、背面に先過程において縦長剥片を剥ぎ取った痕がのこる。49 は、左右両側縁の下部に使用痕を観察できる。いずれも、白く風化するタイプの流紋岩である。

敲石・磨石 (第 73 図 330,331,333,336 第 74 図 407)

330、333、336 は敲石、331 は敲石と磨石の機能を合わせもった石器である。

330 は棒状の敲石で、両端部の頂部に潰痕と一端（頭部）には打撃を加えた際に生じたと思われる長軸方向の割れが観察される。333 はこれも棒状の敲石であり両端部とその周辺に著しい潰痕、石器中央の表裏一部分に潰痕が観察される。336 は平坦面を 3 面有する平球形状の敲石で頂部には打撃によるとみられる剥がれがある。石質は軟質であり細かな粒がポロポロ落ちる。331 は、平球状の原石を半割れたものの断面と表裏面に磨面がみられる。また、側面全面に潰痕がみられる。第 74 図 407 は、花崗斑岩製の扁平楕円形磨石で、熱を受けて半壊したものである。

接合資料 (第 21-23 図)

接合資料 54

剥片 7 点、石核 1 点からなる大人の拳大の接合資料である。出土地点は 4C 区で、それぞれ 7 m 以内に出土した。出土層位は IV、V、VI 層の 3 層に涉っている。現状は礫の表皮をはぎ取った状態であり、母岩はさらに大きな素材であったと推定する。立方体状に一定の形に整えた石核調整のあと、平坦に打面を調整し、上面と側面の二方面からの打撃で剥片を作出している。側面からの打撃は幅広の不定形調整剥片となり、上面から打撃された剥片の 1 点のみが、長さのある木葉形の剥片（長 90mm）となっている。残核には多数の剥片剥離の痕跡がのこっている。石材は表面が白く風化するタイプの良質の流紋岩である。

接合資料 55

剥片 6 点からなる接合資料である。出土地点は 5D 区を中心に 4C,5C に及んで出土中心から最高で約 10 m 離れて出土している。出土層位は、V、VI 層下位、VII 層下位であり複数層に及んでいる。径 10cm ～ 15cm（推定）の円礫を母材として、石核調整の過程で作出された（表皮が剥ぎ取られた）不定形の調整剥片で、順序よく連続して剥ぎ取られた状況が把握できる接合資料である。表面に自然面がのこっている。石材は良質の灰色を呈する流紋岩でやや珪質である。

接合資料 56

剥片 4 点、石核 1 点からなる接合資料である。出土地点は 5C 区を中心に、1 点のみ約 15 m 離れて 3B 区で出土している。出土層位は、V、VI 層、VII 層の複数層に及んでいる。上面に打面作成作業によって作られた平坦打面を有する石核である。平坦面の一方向から次々に打撃を加えて剥片を作出しようとした様子を窺うことができるが、石材の節理方向によって横方向の割れが生じている。残核には打撃によって長 20mm ほどの二点の小さな剥片が作出された痕がのこっている。石材は表面が白く風化するタイプの流紋岩である。

接合資料 57

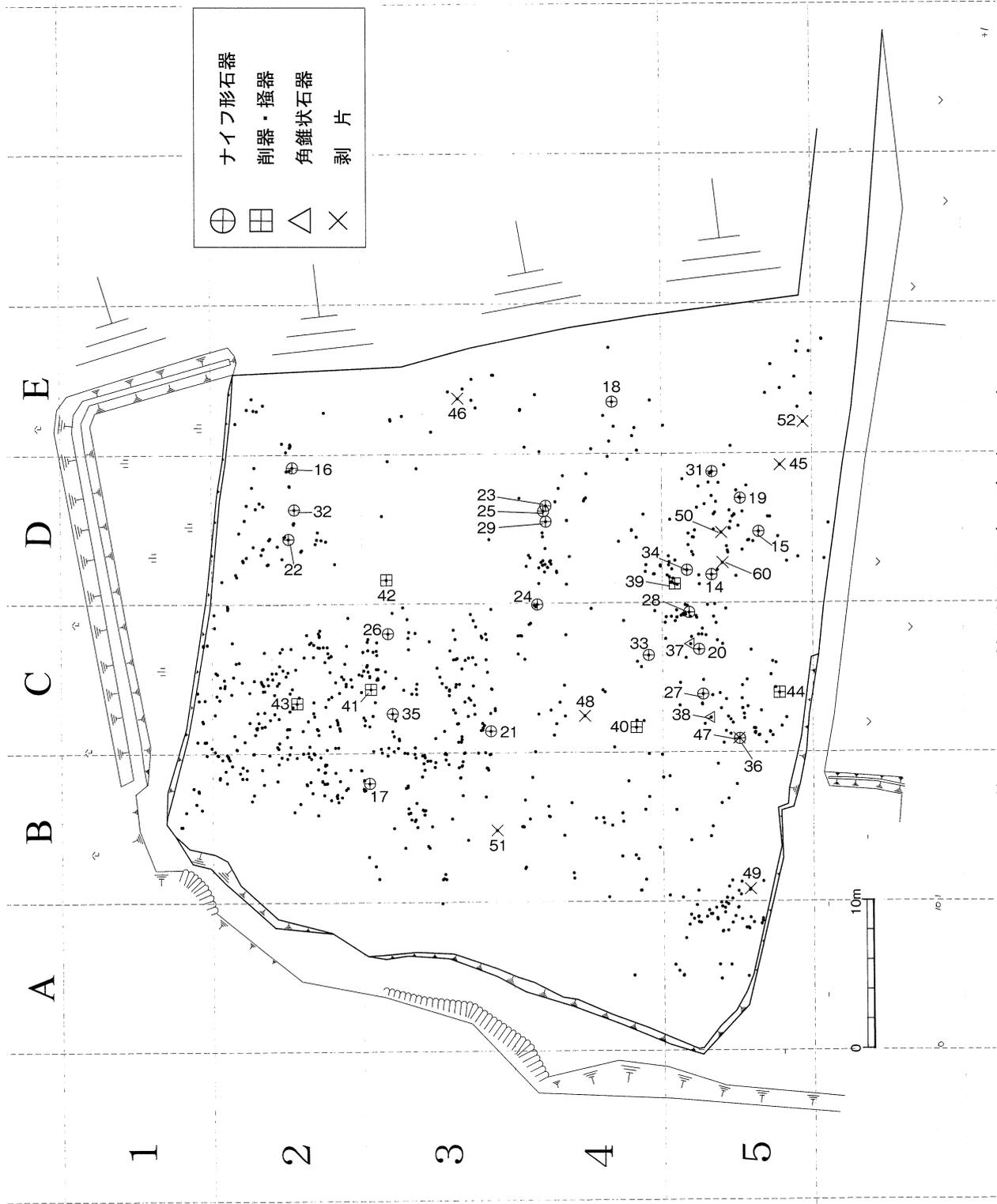
剥片 2 点、石核 1 点からなる接合資料である。出土地点は 4C 区と 5B 区で出土し、最大 10 m 離れている。出土層位は、V 層の上位から下位に及んでいる。子供の拳大の円礫（球形に近い）を母材としてほとんど調整を加えず、母材の平坦面をそのまま打面として打撃を加え数点の剥片を作出している。石材自体の流離面が複雑であるためか予期したほど良形の剥片が作出されたようすはみられない。石材は流離面の複雑な流紋岩である。

接合資料 58

剥片 13 点からなる接合資料である。出土地点は 5C 区と 5B 区の境にあり、ほとんどが 2 m 以内に検出された。もっとも遠いもので約 6 m 離れて出土している。出土層位は、IV、V、VI 層下位に及んでいる。母岩の原型は円礫、角礫いづれであるか不明であるが、礫の表皮を剥いで箱形に近く調整されている。あらゆる平坦面から連続して剥片の作出を試みているが、縦長の薄い剥片は皆無である。流離構造の複雑なチャート製の石材のせいかな不定形で短く厚い剥片しか獲得できなかった状況が看取できる。

接合資料 59

剥片 8 点からなる接合資料で、大人の手のひら大の大きさである。出土地点は 5C 区と 5D 区であり、5 m 以内に分布する。出土層位は、V 層下位から VI 層上位である。打面調整のために多方向から連続的に剥ぎ取られた不定形の調整剥片が接合した資料と思われる。石材は表面が白く風化するタイプの流紋岩であるが平均的なものより硬度が低く良質とは言えないものである。



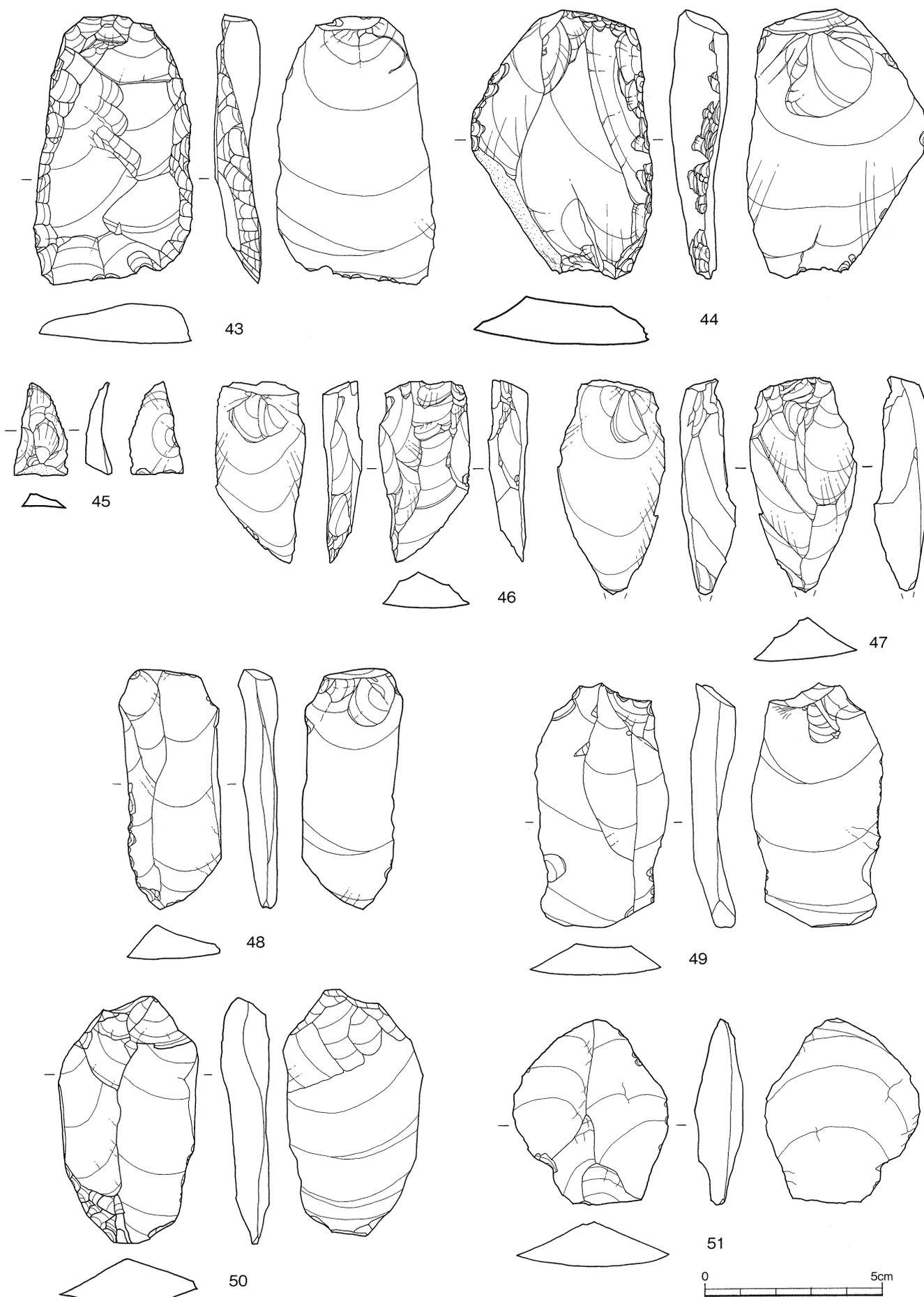
第16図 V層検出状況図〈C面〉(1/400)



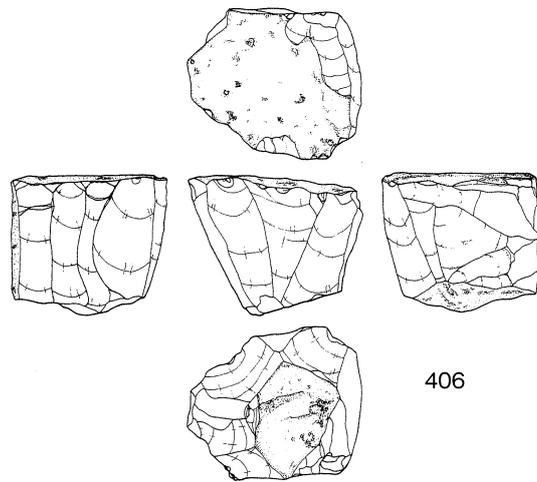
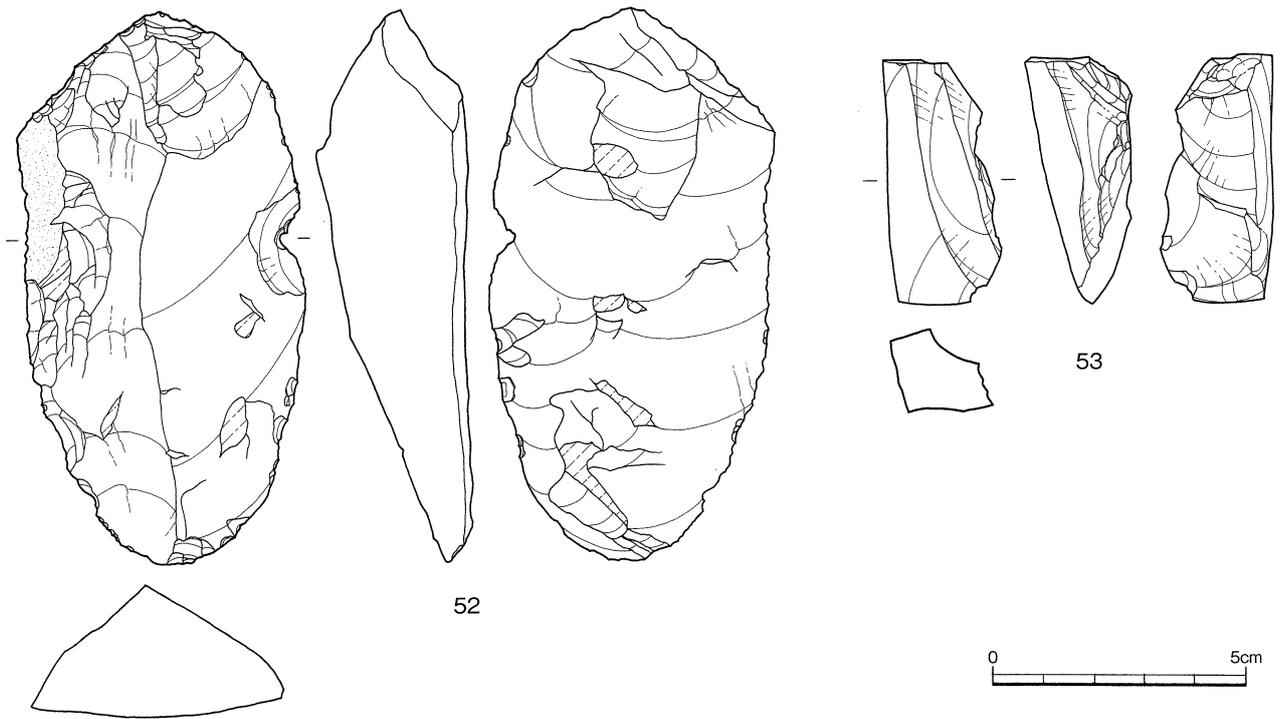
第 17 图 V 层出土石器①



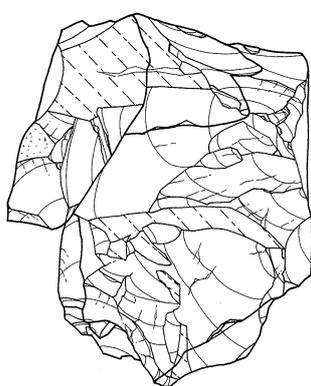
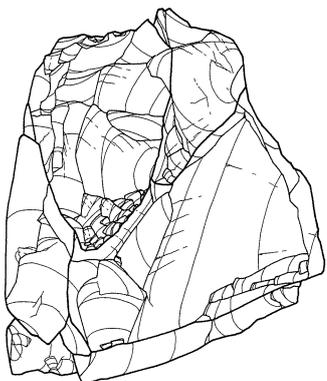
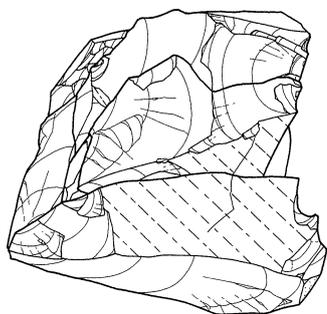
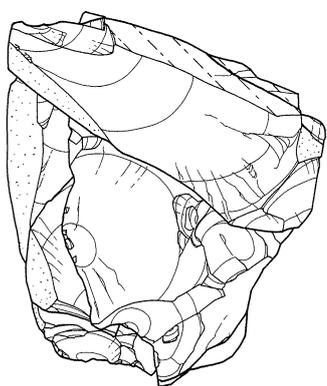
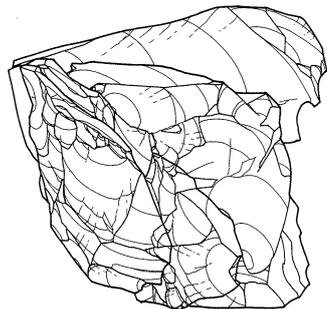
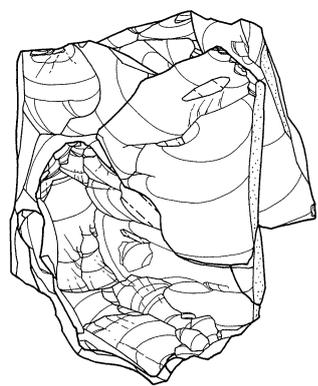
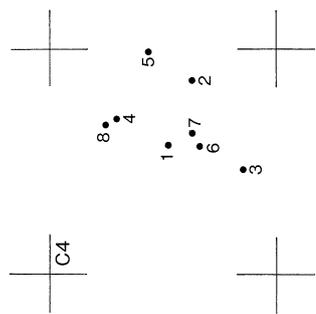
第 18 图 V 层出土石器②



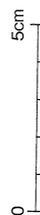
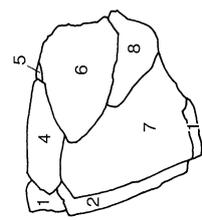
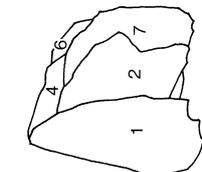
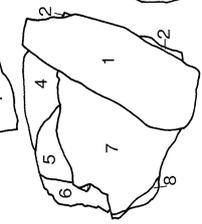
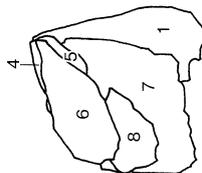
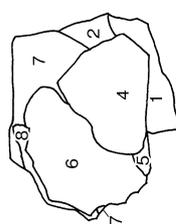
第 19 图 V 層出土石器③



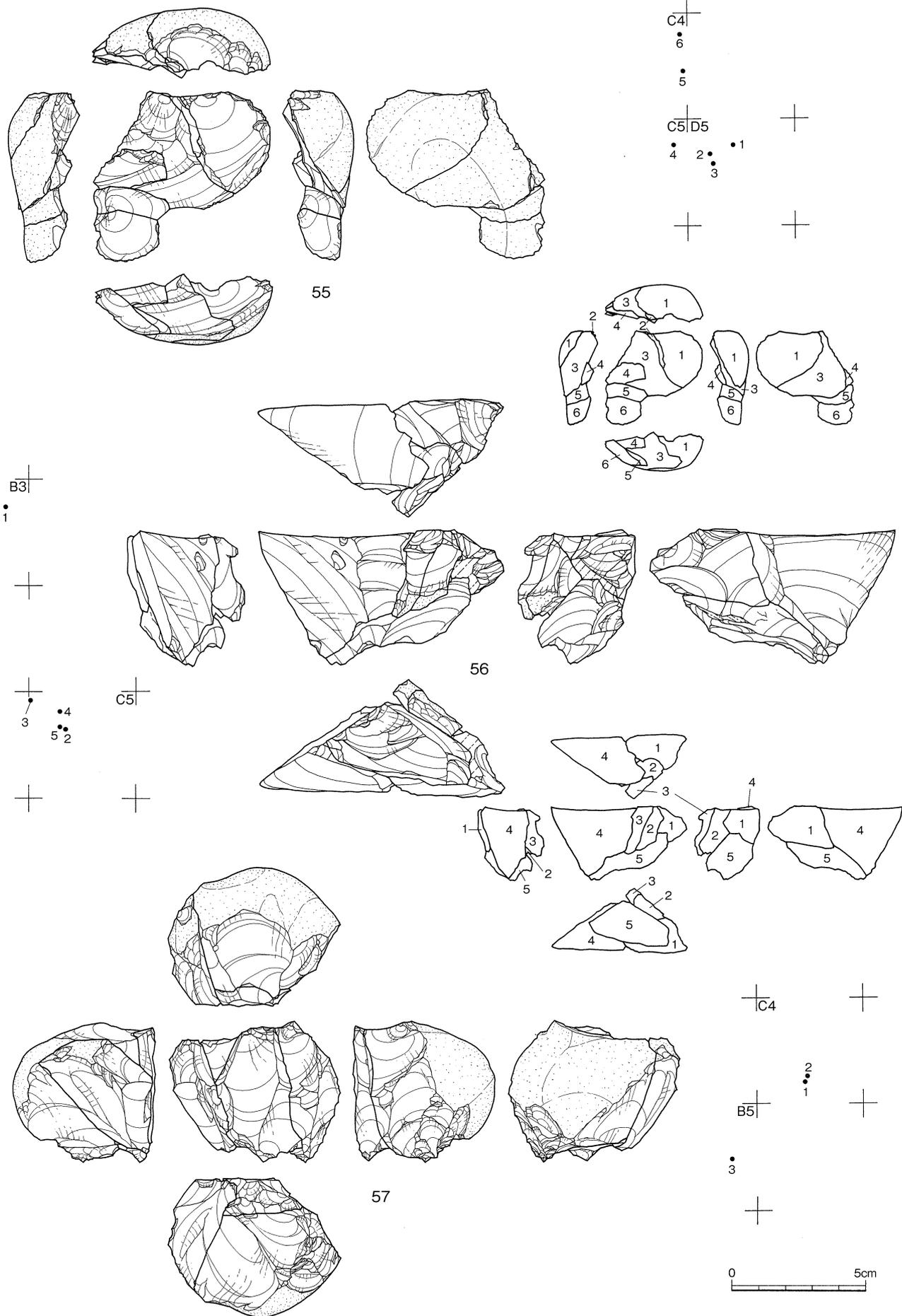
第 20 图 V 層出土石器④



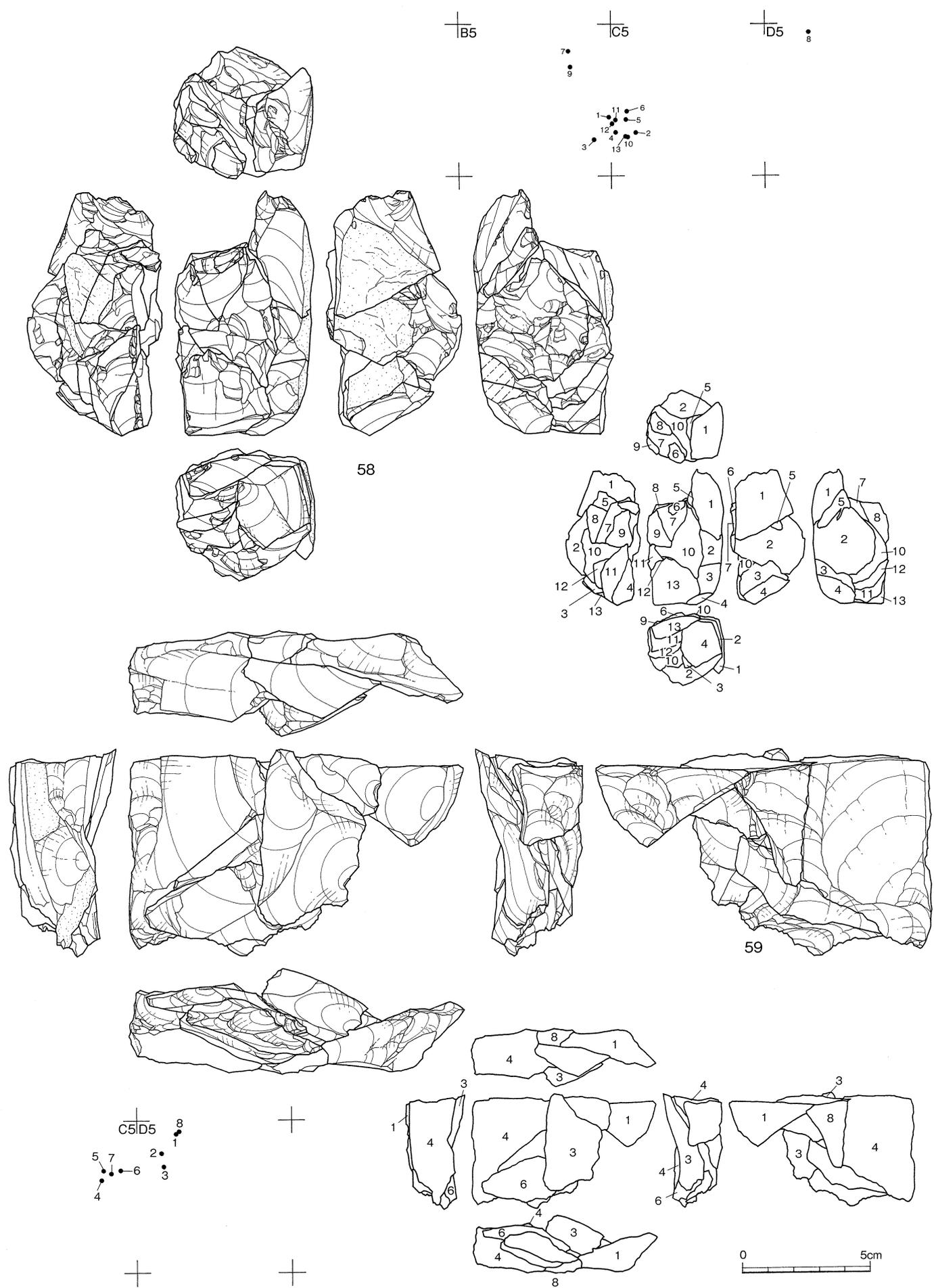
54



第21图 V層出土石器⑤



第 22 图 V 层出土石器⑥



第 23 图 V 层出土石器⑦

(3) 旧石器時代面 D の調査 (V 層—VI 層面) ・ ・ ・ ナイフ形石器文化 2

V 層下面 (V4. 5) から VI 層を主体に出土した石器である。ナイフ形石器を主体とした石器群であり、角錐状石器、敲石に加えて、新たに剥片尖頭器が登場する。この層位から出土する石器、剥片類の石材には引き続き、流紋岩類 (R1、R2、R3、R4) が主体として用いられるが、一部にチャート (剥片尖頭器 127)、頁岩 (敲石 151)、ホルンフェルス (ナイフ形石器 84、97) の使用も少数ながら認められる。

ナイフ形石器 (第 25-28 図 60-109)

第 25-28 図の 60 から 109 はナイフ形石器である。縦長剥片と横長剥片利用のものに二分し、さらに側縁の加工によって細分する。

縦長剥片を利用する一側縁加工のタイプには、65、69、72、83、87、103 がある。二側縁加工のタイプには 60、61、63、67、68、75、76、98、99、100、101、102、104、105、106、107、108 がある。そのうち 42、46 は切り出し形、45 は狸谷型である。また、基部の加工が顕著なものに 62、64、70、73、77、78、79、80、81、82、85、86、89 がある。横長剥片を利用するものは、ほぼ一側縁加工に限定される。71、74、90、91、92、93、94、95、96、97 がある。

さて、特徴としては 60 や 67、74 などのように基部を尖らせて、すなわち打面や打点部分をカットして整形するタイプがみられるが、これはむしろ少数派であり、基部にそのまま剥片剥離の際の打面や打点バルブなどの剥離面をのこすことのほうが圧倒的に多い。しかし、腹面にはそれらの調整面をのこすとはいえ背面基部は粗いけれども細かに調整することが多いのであって、これは、ナイフの利用法、切断かあるいは刺突かあるいはその両方か・ ・ ・ など最終的には装着法に帰結する加工の程度の問題であろう。また、これらのなかでも比較的大きなものについては長さに対して幅の値が大きいものが目立っており刺突よりもより切断機能の要求が強かったとも想定される。78 はこれらのなかでも比較的大型のナイフであり基部に打面をのこす木葉形の基部と基部に近い両側縁を細かく加工する流紋岩製のナイフ形石器である。同タイプとして 81、80、82、85、86、89 がある。79 は斜軸剥片を利用した例で今峠形ナイフに類似している。これに対する小型のタイプとして切り出し形あるいはそれに近い形状をもつ 68、69、72、75、76、98、99、100、101、102、103、104、105、106、107 がある。これら小型タイプについても自ずから違った用途を付与されたものであろう。横長剥片を利用するものはこの層位でもっぱら一側縁加工の典型的な形状をもっている。90、93 は典型的な翼状剥片を素材に作出されたナイフであり、腹面から細かなブランディングを施している。

この層位から出土したナイフ形石器の完形 42 点の平均長、幅、重量は、それぞれ 4.57cm、1.98cm、7.55g である。

角錐状石器 (第 28-30 図 110-126)

第 28-30 図の 110 から 126 は、素材の縁部と尖頭部が連続細部剥離を用いて加工され尖った先端部を形成する角錐状石器である。総体を観察すると大型と小型の一群に大別できる。大型のものは刺突具としての機能を充分看取することができるが、小型のそれは幅に対して全長が短く、つまり寸づまりでありむしろスクレーパー的機能を想起させるものである。整形の手法から分類すれば、一面のみに調整をくわえるもの (116、120、124、125)、腹面をのこし二面に調整を加えるもの (110、112、113、114、115、117、118、121、122、123、126)、三面すべてに調整を加えるもの (111、119) に分類できる。ま

た、素材を剥片剥離から見ると、縦長剥片を用いるもの 10 点に対して横長剥片を使用するもの 7 点 (120、114、115、117、118、121、123) である。また、機能や使用法かの理由からか完形品が少なく半折などの欠損品が多い。119 は、腹面にも調整剥離を行うとともにバルブ、打面をのこしている。120 の石材はめったに使われない軟質の凝灰岩が使用されている。126 は、基部に打面と腹面にバルブをのこしている。

剥片尖頭器 (第 30-32 図 127-138)

第 30-32 図の 127、128、129、130、131、132、133、134、135、136、137、138 の 12 点は比較的大型の縦形剥片を使用し、基部をつまみ状に整形する剥片尖頭器である。127 は左側縁の調整は腹面から、右側縁の調整を背面から、すなわち二側縁とも調整して尖頭部を成形するもので、基部は腹面の両側縁から調整して太めにくびれをつくる。打面とバルブは除去せずその儘のこす。本資料は本層位唯一のチャート製品である。128 は、左側縁上部に背面からの調整がみられる。基部は背面からのみの調整で 127 とほぼ同じような形状をもつ。腹面に打面とバルブをのこしている。129 は半折損したもので、基部は腹面からの調整で側縁と背面から細身に成形する。腹面に打面とバルブをその儘のこす。130 は、腹面のバルブを除去し (打面はのこしている)、基部を細身に加工するもの。右側縁を腹面からの急角度調整で全面加工し、左側縁は基部に近い下部側縁をこれも腹面から調整している。131 は、先端部が左傾する柳葉状の典型的な剥片尖頭器であり、打面、バルブを除去しないで基部を細めにつまみ状に成形している。132 は、腹面からの微調整がみられる甘い先端部をつくる剥片尖頭器で、バルブ付近は除去されて平坦となる。133 は、腹面の打面を除去、バルブ部分を剥離調整したあと背面、腹面の両側から調整して基部を細身につくもの、先尖部は欠損している。134 は先端部が折損した後、調整を加えたあとのこる。135 は、両側縁に調整を加えず剥離された状態とし、基部のみを腹面側から調整を加えてつまみ状につくるもので、最先端を欠損する。136 は、大型の縦長剥片を素材にしてつくられたもので右側縁には基部に向けて直線的に腹面からの急角度の調整が丁寧なほどこされている。基部は、腹面と背面からの調整で全長に比べて短かめにつくられている。137 は、石鏃様に二等辺三角形に成形するもので、両側縁は腹面から成形されている。138 は、先端を幅広に円弧状に成形し、腹面から急角度の調整を加えるもので、その先端形状はエンドスクレーパーに似る。剥片尖頭器の折損品を利用した再生品の可能性がある。基部は腹面と背面からの調整によって柄状に成形している。

搔器 (第 32 図 139-143)

139、140、141、142、143 は、搔器である。139 は、自然面を多くのこす断面三角形の分厚い剥片を利用している。打面に対応する一方の端部に、腹面から剥離を加えて弧状に刃部をつくる。140 は、平坦な自然面と打面調整痕をもつ石核の一部に腹面から急角度の剥離を加えて L 字状に刃部を形成するものである。141 も背面に大きな自然面を持った素材を利用するもので、腹面から粗く大きな剥離で円形に刃部を成形している。腹面は平坦でバルブは見られない。上端 (打面とバルブ周辺) は割りとられたものと推測する。143 は、不定形の分厚い剥片を利用し、周縁すべてを腹面からの粗い剥離が連続する資料である。背面は全面粗い剥離面で覆われている。刃部がすべて波を打つように曲がっており、所期の機能を疑問視したい形状である。142 は、下端刃に腹面からの急角度の連続剥離が弧状に観察できるエンド・スクレーパーである。背面には打面方向から縦長剥片を数本剥ぎ取った痕跡がのこっている。

削器（第 33 図 144-150）

144、145、146、147、148、149、150 の 7 点は削器である。

144 は、石核から剥ぎ取られた比較的厚みのある細長い縦長剥片の左側縁に背面からの細かい剥離で刃部をつくるもの。145 は、自然面を多くのこす厚手の剥片の右側縁の下部に腹面から連続する剥離を加えて尖らせている。打面、バルブがそのまま残っている。147 は、打面・バルブ部分を折りとった剥片の右側縁に剥離を加えて刃部とし、さらに下端にも急角度の剥離を連続させてエンド・スクレーパー状に刃部をつくっている。149 は、薄い剥片の左側縁に背面から剥離を加えて刃部をつくるものである。打面、バルブはそのまものこしている。150 は、剥片の上端を切断し、下端の一辺に自然面をのこす不定形剥片を使用したもので、左側縁の全辺に腹面からの連続した細かな剥離がみられる。右側縁には使用痕が認められる。

敲石（第 33 図 151）

151 は、敲石である。上端を欠損する柱状の敲石で、尖った下端に潰痕がある。表裏ともに砥石様に平坦面をつくるが、おそらく人工的なものではなく石材（ノジュールか）の性質から形成された自然面であろう。

石皿（第 73 図 337）

337 は、砂岩製の石皿である。上面の中心部分が穏やかに窪んでいる。火を受けたと思われ、表面に深いヒビ割れが縦横に走っている。

二次加工剥片（第 34-35 図 152-159）

152、153、154、155、156、157、158、159 は二次加工のみられる剥片である。横長剥片を使用する不定形の 152 の他、ほとんどは不定形（153）と縦長の剥片である。

160、161、162、163、165、177 は、側縁に微細な使用痕のみられる剥片である。168、169、170、171、172、173、174、177 は、背面に剥離痕をもつ縦長剥片で、剥片石器の素材となりえる剥片となる。177 は、とくに長大な石刃状となるもので、右側縁中央付近に使用痕がみられる。175 は、石核の調整剥片となろう。背面の稜となる部分に連続する調整剥離痕がのこる。

石核（第 37-39 図 176-182）

176、178、179、180、181、182 は石核である。

176 は、底面が自然礫面となる石核で、平坦面から全周にわたって剥離を加え短く不定形の剥片を剥ぎ取っている。178 は、主要な平坦面を打面として全周にわたって剥片を作出する石核である。作出された剥片は不定形状となっている。179 は、打点を何度も転位させながら多方向から不定形剥片を剥ぎ取っている石核である。180 は、自然礫面と流離面をもつ石核である。打割で出現した平坦面から打撃を加えて剥片を剥ぎ取ろうとしているが、おそらく流離のために剥離の末端がヒンジフラクチャーとなり作業を中止している。

182 は、比較的厚みのある平円礫を素材として、表裏両面の側縁から相互に打撃を加えて剥片を作出

しているもので、残核は円盤状の礫器様を呈する。

接合資料（第 40-49 図）

接合資料 183

剥片、石核、計 19 点からなる乳児の頭部大の接合資料で VI 層下位から出土した。出土地点は 4B・5B・5C 区であるが、主体は 5B 区で、ほとんど 2.5 m 以内からの分布である。もっとも離れた資料で 5C 区の約 8 m である。母岩は円礫で石材は良質（緻密）で黒色系の流紋岩である。礫の中心部、すなわち周縁の表皮を除去する過程を経て調整された石核からは数点の縦長様の剥片が連続的に剥ぎとられており、これらが接合している。が、これらの剥片を観察しても最終目的としての製品となった剥片を認めることができない。また、礫の表皮を剥ぐ過程で調整された平坦面を、即打面として打撃を加え連続した縦長剥片の獲得を意図していると看取される部位がみとめられる。なお、石材は熱変成を受けた流紋岩、すなわちホルンフェルスの可能性もある。

接合資料 184

剥片 9 点からなる人頭大の角礫を母材とする接合資料で V 層から VI 層下位で出土した。出土地点は 5D・5C 区で、ほとんどが 8 m 以内の出土である。角礫の表皮剥ぎ過程の調整剥片が接合したもの。調整剥片は一様に分厚く短い剥片となっている。素材となる石材自体に複雑な節理があり意図した剥離ができていないとおもわれる。石材は流離構造が複雑に入り組んだ褐灰色系の流紋岩である。

接合資料 185

調整剥片 5 点、縦長剥片 3 点、計 8 点からなる接合資料で VII 層下位を主体的に VIII 層にかけて出土した。出土地点は 5A と 5B 区の境で、ほとんどが 5 m 以内に散布している。母材を復元推定すると幼児の頭大の円礫となる。円礫を 2 乃至 3 つに打割した後、調整した平坦面を主な作業面として幾つかの不定形剥片を作出した痕跡が残っている。また、礫の中心部に石刃様に連続的に剥ぎとられた縦長剥片 3 点が接合している。うち、二点はナイフ等のツールに加工可能な剥片であるが、使用された形跡がない。礫の中心部を利用して効率的に剥片を作出しようという意図とは別に、表皮を剥ぐ段階で形成された平坦面をもその都度、随時利用しながら作業した様子が窺える資料である。石材は白く風化するタイプの良質の流紋岩を用いている。なお、各剥片の出土分布は資料 186 と重複し、同時期であることを示す。

接合資料 186

調整剥片 20 点、不定形剥片 3 点、縦長剥片 4 点、二次加工剥片 1 点、計 28 点からなる接合資料で VI 層下位から出土した。出土地点は 5A と 5B 区の境で、ほとんどが 5 m 以内に散布する。母材を復元すると人頭大の円礫となろう。剥離方法は円礫を大きく 2 つに打割し、さらに長軸方向に打撃を加え調整した厚い剥片の平坦面を主な作業面として縦長の剥片を連続的に作出している。特に、調整により主要な石核となった中心部からは、より長い縦長の剥片を取ることに成功している。それらのうち 16 には二次加工が見てとれる。以上のように復元作業において欠落している剥片の数を考慮すればツールとして加工可能な縦長の剥片が数多く作りだされており、本遺跡の中では比較的効率のよい剥片剥離作業が

行われた好例である。石材は、表面が白く風化するタイプの良質の流紋岩であり、この石材あつての作出効率ということができようか。

接合資料 187

調整剥片 14 点、不定形剥片 7 点、計 21 点からなる接合資料で V 層から VI 層下位にかけて出土した。出土地点は 5C 区で、3 m 以内に集中する。母岩形状の 2 / 3 が復元できるもので人頭大の円礫である。礫の表皮を打ち剥ぐ段階で数点の厚い剥片が得られており、その中から選択して調整を施して石核とし、数枚の不定形剥片を作出している。礫の中心部が欠落して空隙となっているが、あまりに小容積でありこの部位から良質の剥片が得られたとは考え難い。剥片が幅広の不定形であるのは、石材の不定な節理面が影響していると思われる。石材は、白く風化するタイプの石質やや不良の流紋岩である。

接合資料 188

剥片 11 点からなる接合資料で V 層から VI 層下位から出土している。出土地点は 5C 区内に約 5 m 以内に集中し、約 25 m 離れて 3B 区に 1 点分布する。母岩を推定復元すれば幼児の頭部大の円礫となろう。大きく打割して出現した平坦打面の表皮側から、横方法に連続的に剥ぎ取ることによって不定形剥片を作出したことが見てとれる接合資料である。礫本来の自然面をのこす剥片は、調整剥片となろう。石材は表面が白く風化するタイプの良質の流紋岩である。

接合資料 189

石核 1 点、剥片 3 点（1 点は折れ）、計 5 点からなる接合資料で VI 層下位からの出土である。出土地点は 5B 区で、4 m 以内に集中する。元の母材を復元すれば幼児の頭部大となろう。現状は、側面に自然面を残し、上面に打面となる平坦面をもつもので、少なくとも 5 点の剥片の作出を行っている。石材は表面が白く風化するタイプの良質の流紋岩である。

接合資料 190

剥片 5 点からなる大人の拳大の接合資料で、VI 層下位から VII 層にかけて出土した。出土地点は 3C 区の北西隅で 1.5 m 以内に集中する。石材は、いわゆる流紋岩のノジュール構造物を利用している。ノジュールは中心部に空隙があり節理も不安定であつて剥片の作出には不適切な石材と考えられる。資料では打撃を加えて 2 分割し、さらに一方を分割して、その平坦部からの打撃で剥片を取ろうと意図しているが、思ふような剥片をとることができなかつたことが窺える。

接合資料 191

石核 1 点、剥片 4 点、計 5 点からなる接合資料で VI 層下位の出土である。出土地点は 5B、4B 区で、南北に約 10 m 離れて分布する。母材を復元推定すると大人の拳大の円礫となる。資料は、ほぼ 1 / 2 の平坦面をもつ石核（他は自然面）と分割された分厚い剥片を石核として不定形剥片を剥ぎ取った痕がのこる残核からなる。大きな打面をもつ石核には打面調整痕、および二箇所連続した剥片剥離の痕が観察される。石材は緻密で良質の灰色系の流紋岩である。

接合資料 192

剥片 7 点からなる接合資料で V 層下位から VII 層下位の出土である。出土地点は 5E 区で約 5 m の範囲で集中するが、最も離れた資料は約 10 m 離れて分布する。扁平な大人の手の平大の円礫を、横方向に連続して次々に打割して 5 点に分割している。剥片は厚さのある扁平な板状を呈することになる。通常の側縁が鋭利な刃物状の剥片を得る意図とは明らかに違っている。さらにその一部はさらに縦に幾つかに打割されて、横長剥片を採取する石核となっているようである。石材は、灰色系の流紋岩である。

接合資料 193

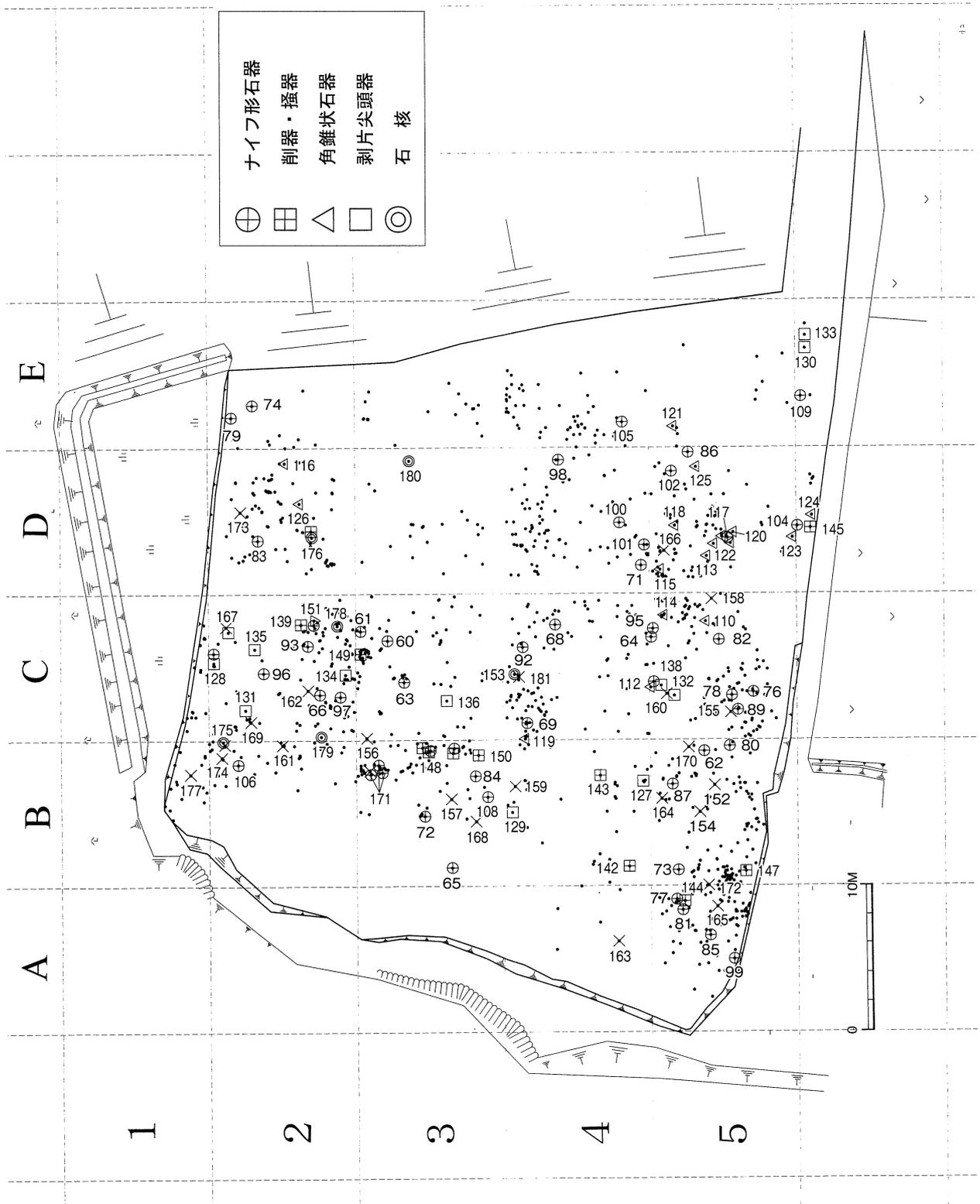
石核 1 点、剥片 3 点、計 4 点からなる大人の拳より一回り小さな円礫を母材としている。出土層位は VI 層下位から VII 層である。出土地点は 5B 区で約 4 m の範囲に集中する。上面と下面を打撃して平坦面を作ろうと意図しているが、不規則な節理面が通っているためか、とくに上面は細かな段ができてしまっている。それでも条件のよくないこの上面を打面として数点の剥片を剥ぎ取った痕が残核にのこっている。石材は白く風化するタイプで細かな縞模様の顕著な流紋岩である。

接合資料 194

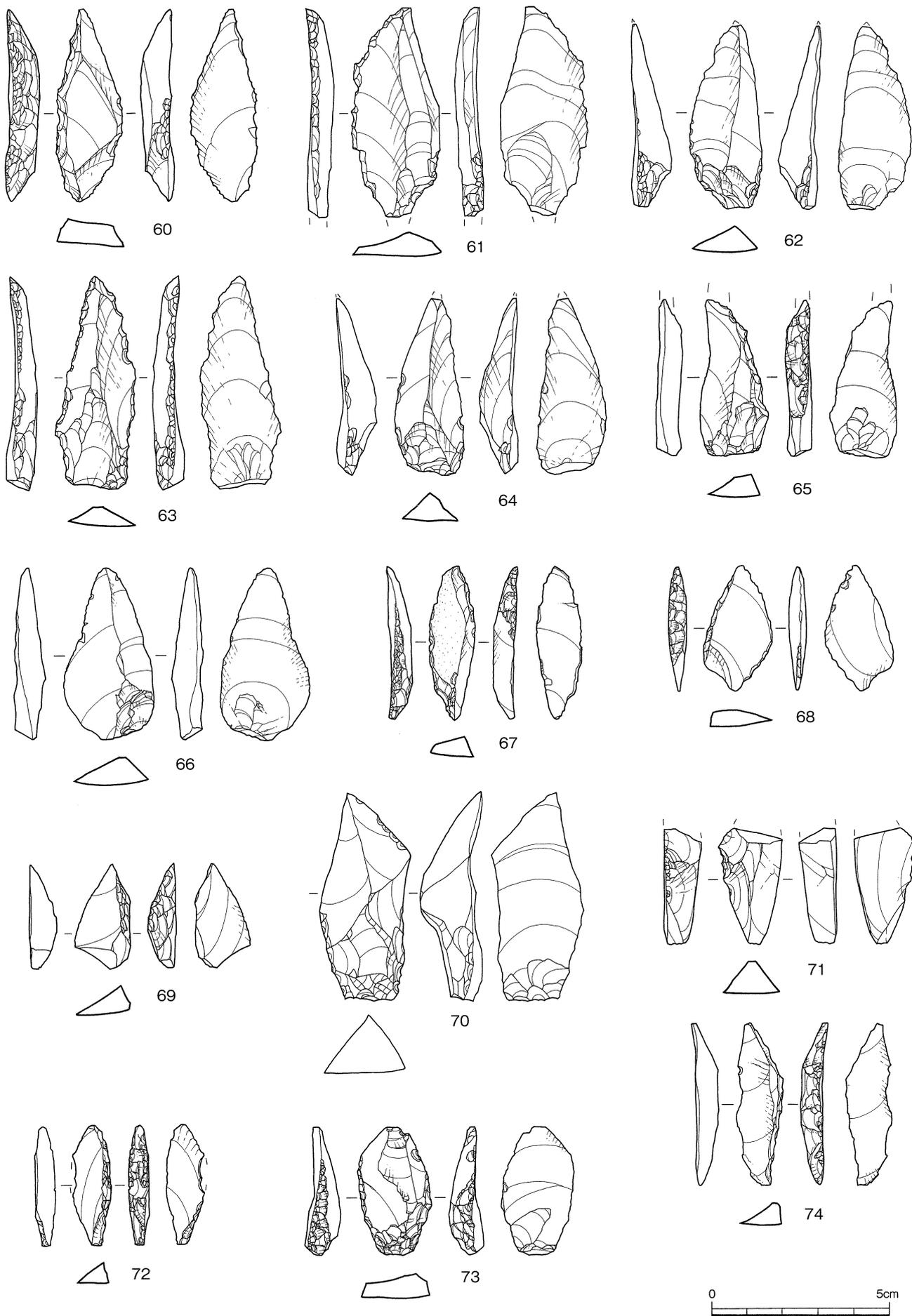
石核 2 点、二次加工剥片 1 点、調整剥片 2 点、計 5 点からなる接合資料である。出土地点は 2D、2C 区で約 5 m 以内に集中し、約 10 m 離れて 3E 区に 1 点分布する。出土層位は V 層から VI 層下位、VII 層に及ぶ。大人の拳 2 つほどの垂角礫を母材としている。二次加工のある剥片は、礫の表皮剥離の調整段階で生じた剥片を使用したもので、したがって表面に自然面を残している。資料は母材を 2 分割した後、打面となる平坦面を作っている。その打面から数点の不定剥片を作出した痕が残核にのこっている。もう一つの石核には二方向から剥片を剥いだ痕跡が残る。石材は、黒色系の流紋岩であるが粒子が粗く石器の石材としては良質とは言えない。

接合資料 195

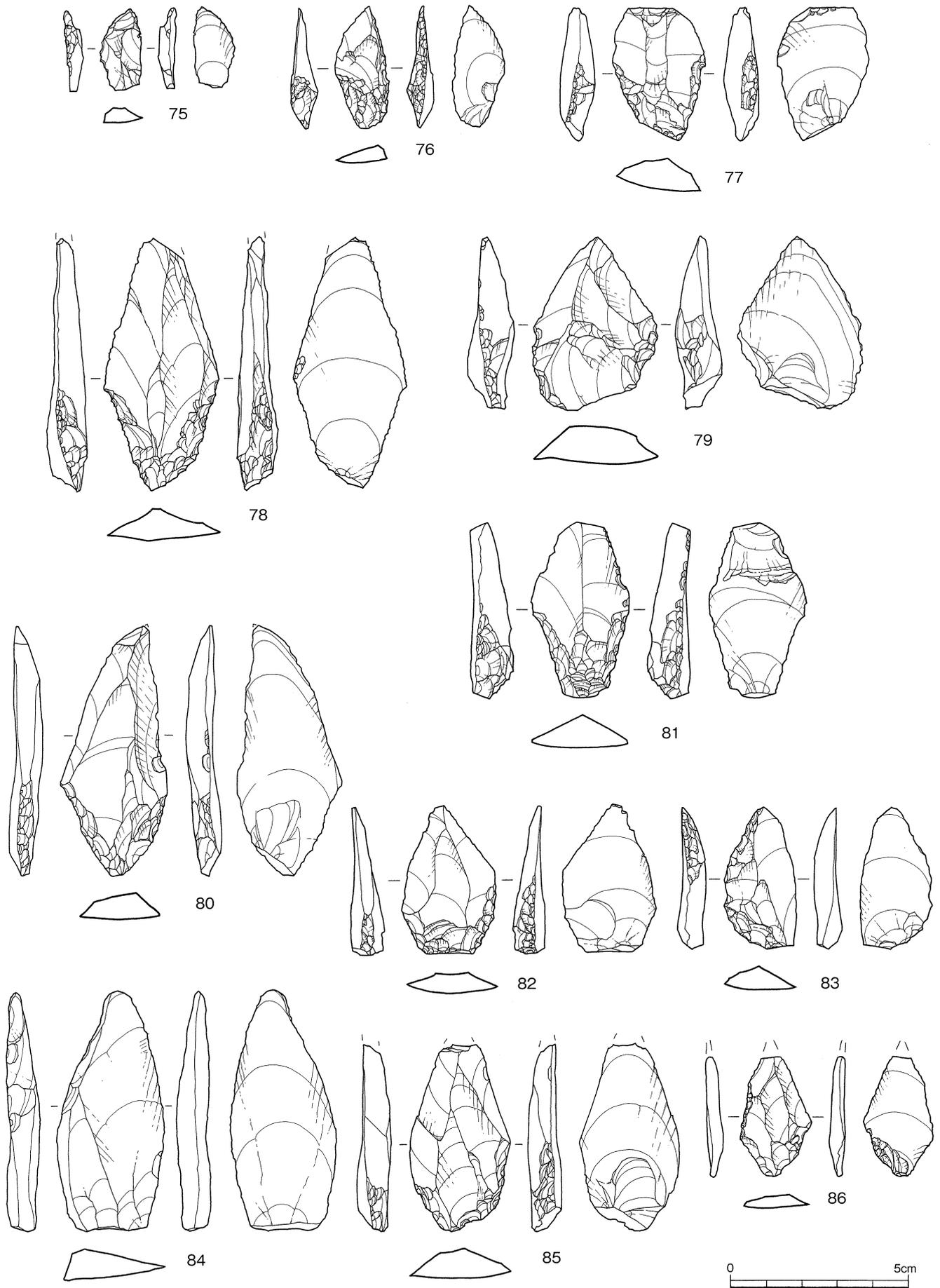
石核 1 点、調整剥片 5 点、二次加工のある剥片 1 点からなる接合資料である。出土地点は 3B、3C 区の境に位置し約 4 m 以内に集中する。約 10 m 離れて 3C 区の南東隅に 1 点が分布する。大人の拳大の卵形円礫の一端をはねて打面をつくる意図が窺えるが節理のために上手く打割できていない。石核に、端部の復面から急角度の調整を行う二次加工のある剥片 1 点が接合している。V 層下位から VI 層下位にかけての層から出土した資料である。石材は、褐灰色系の流紋岩である。



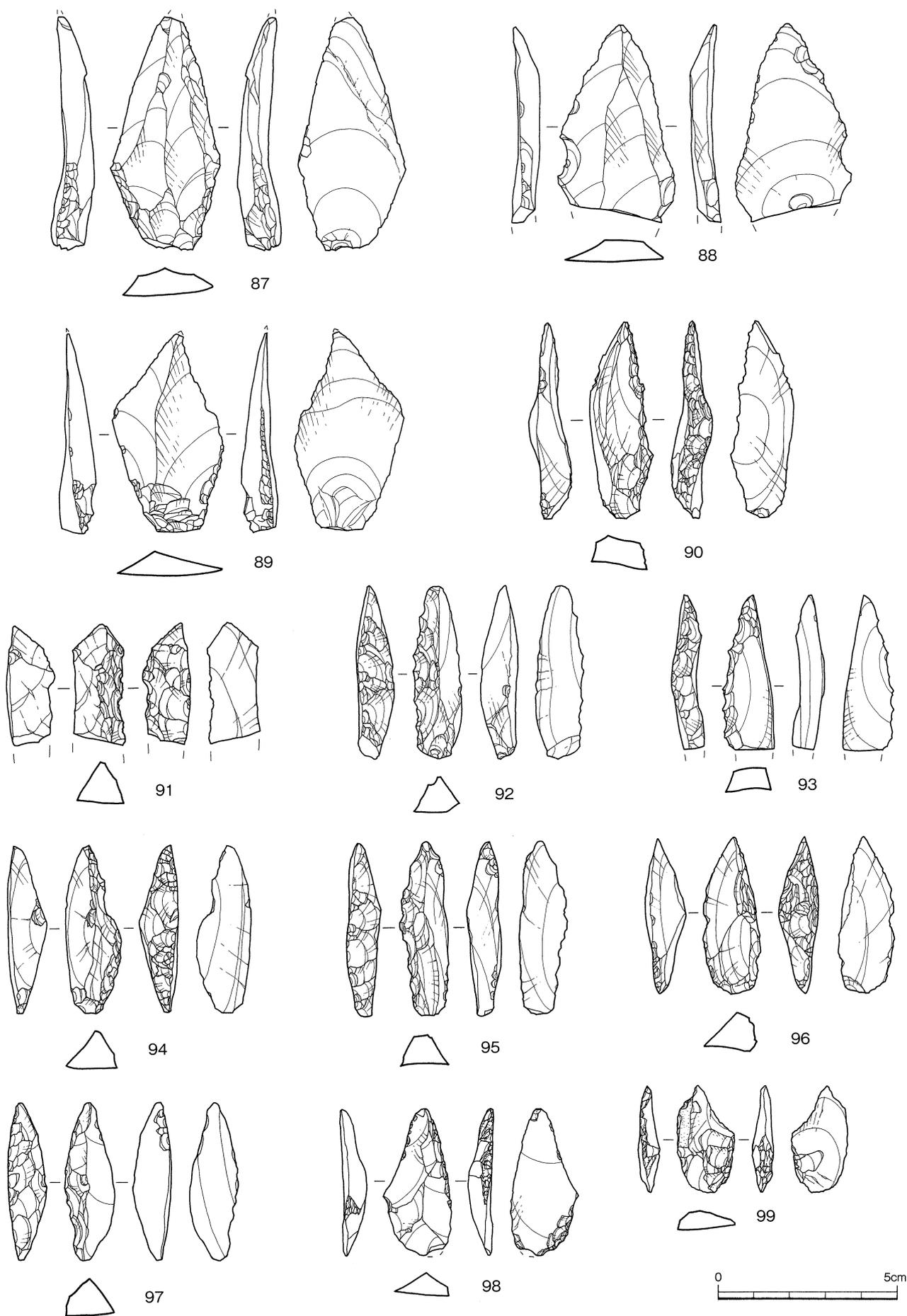
第24図 V - VI層検出状況図 (D面) (1/400)



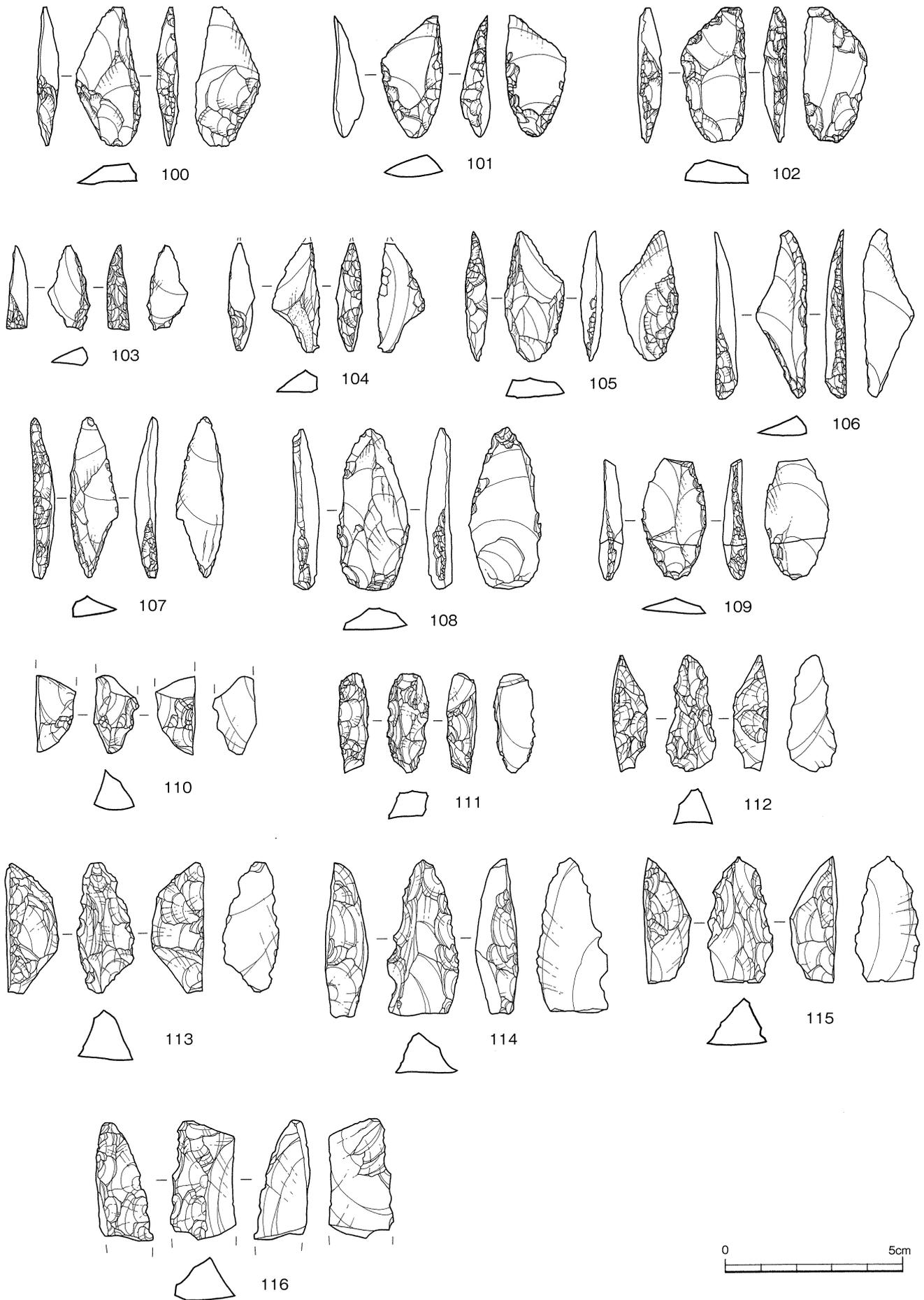
第 25 图 V - VI 层出土石器①



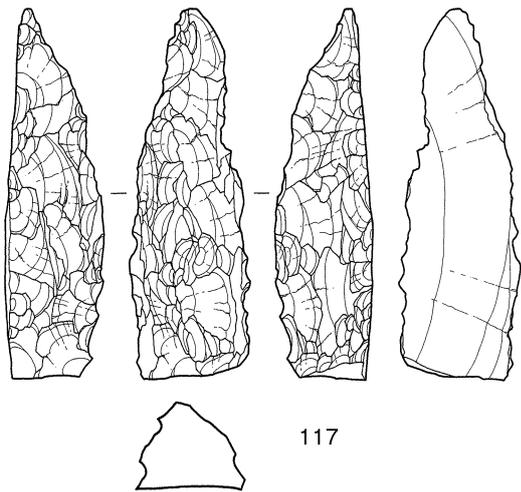
第 26 图 V - VI 层出土石器②



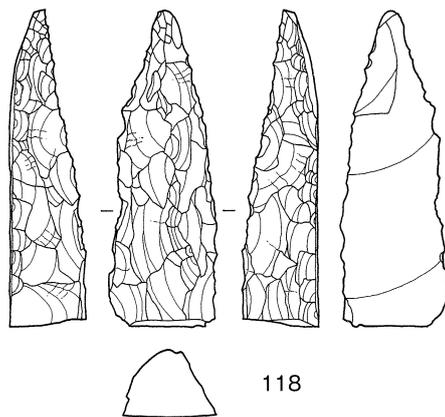
第 27 图 V - VI 层出土石器③



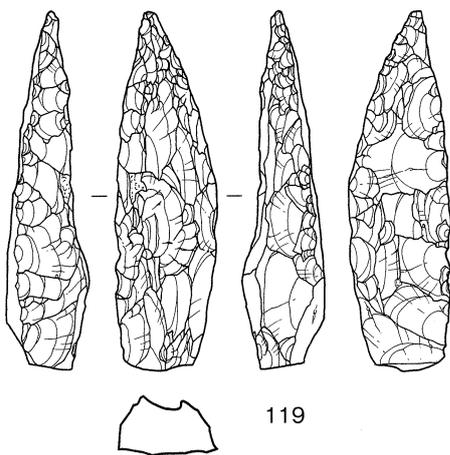
第 28 图 V - VI 层出土石器④



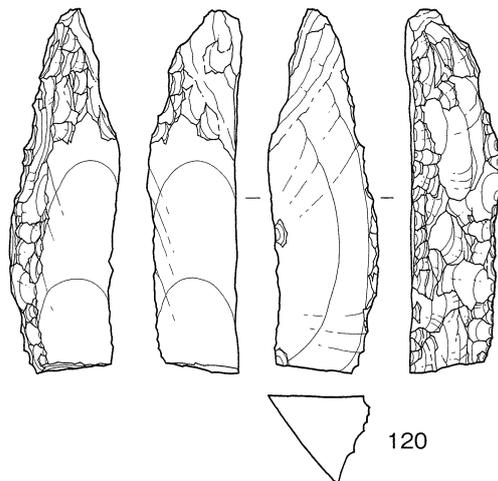
117



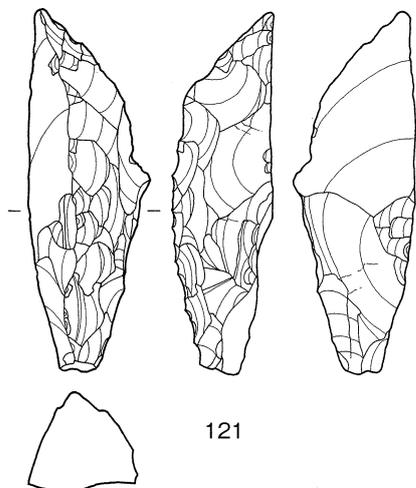
118



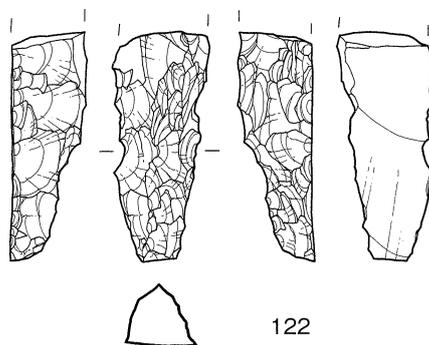
119



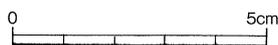
120



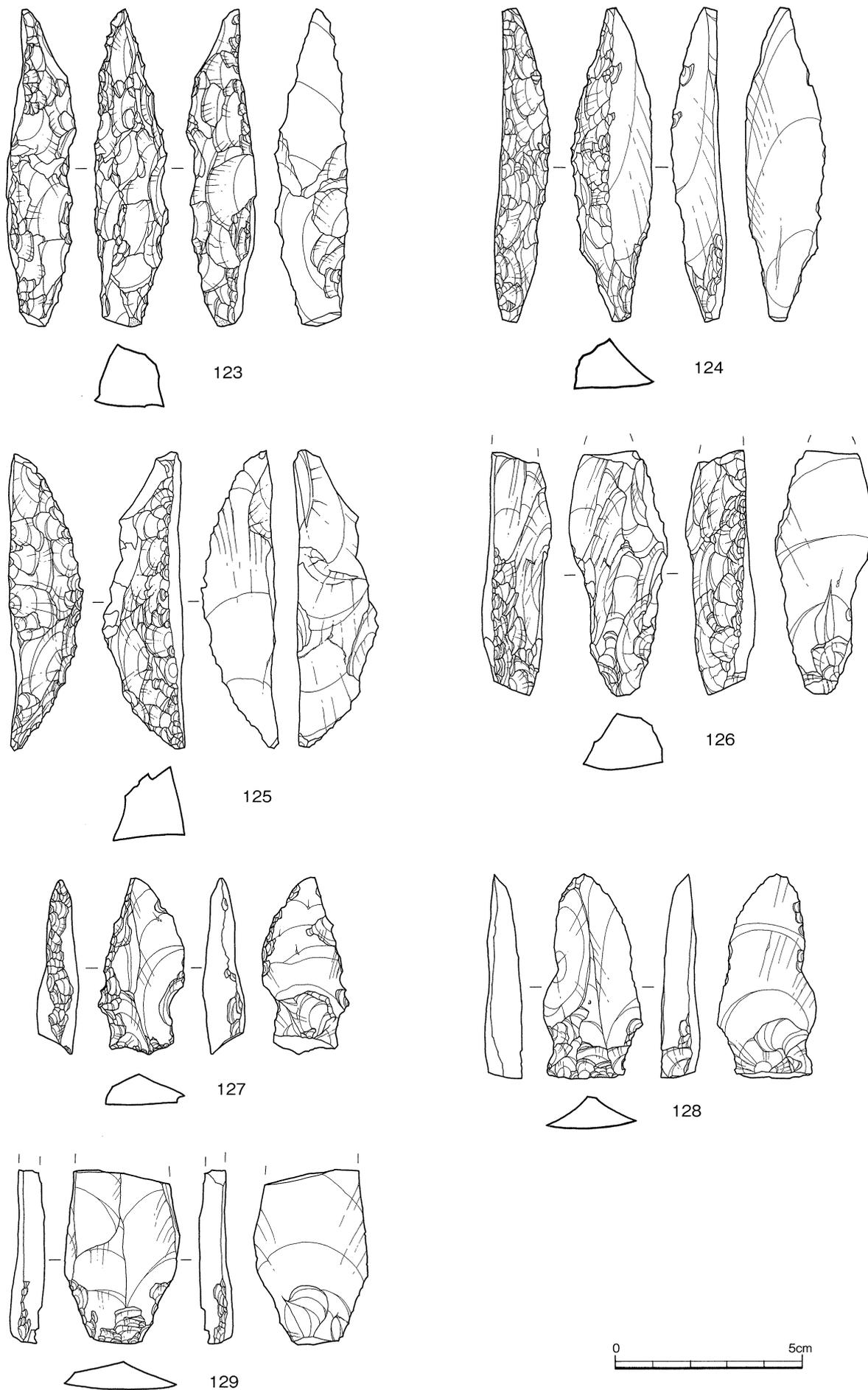
121



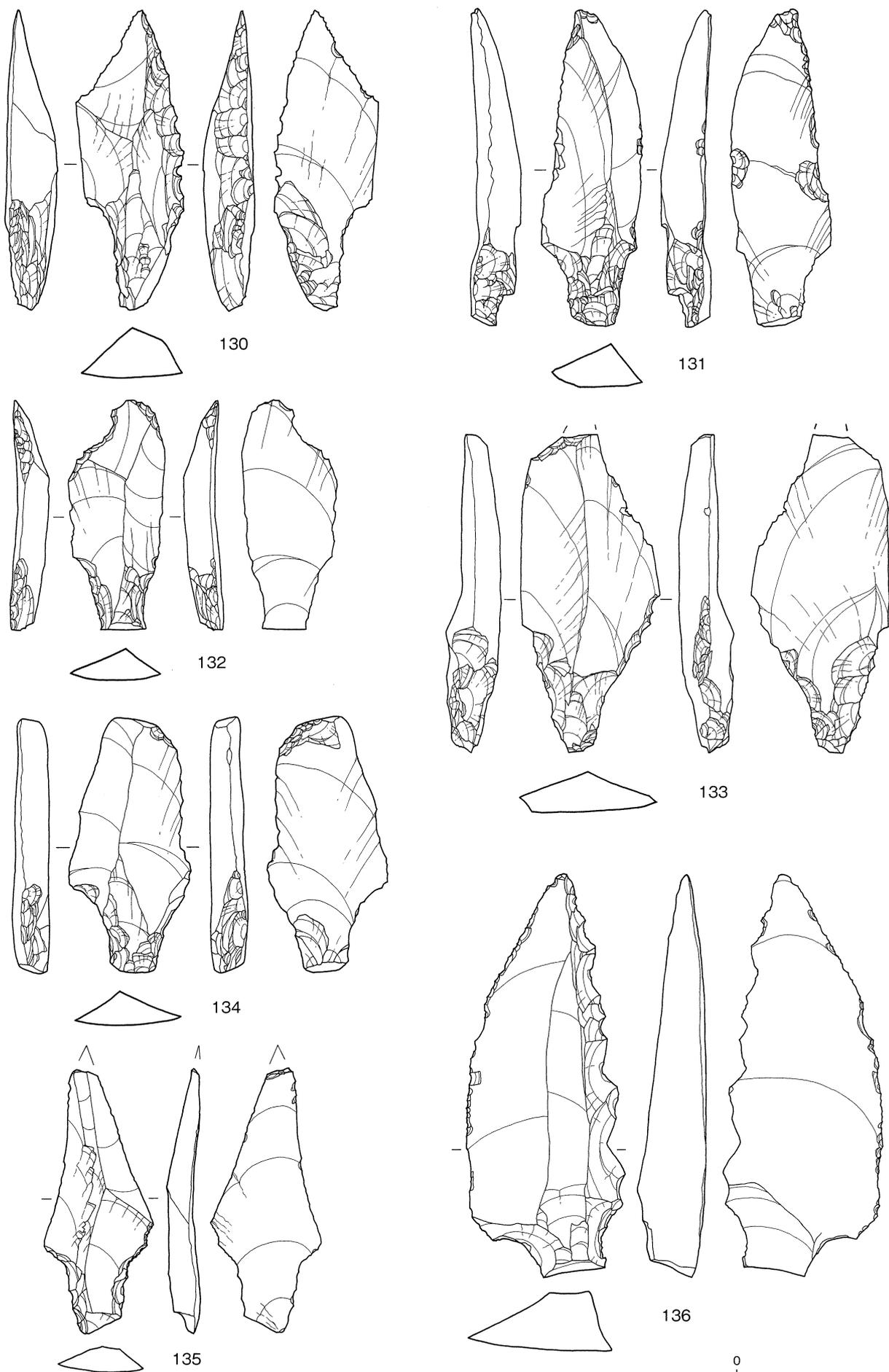
122



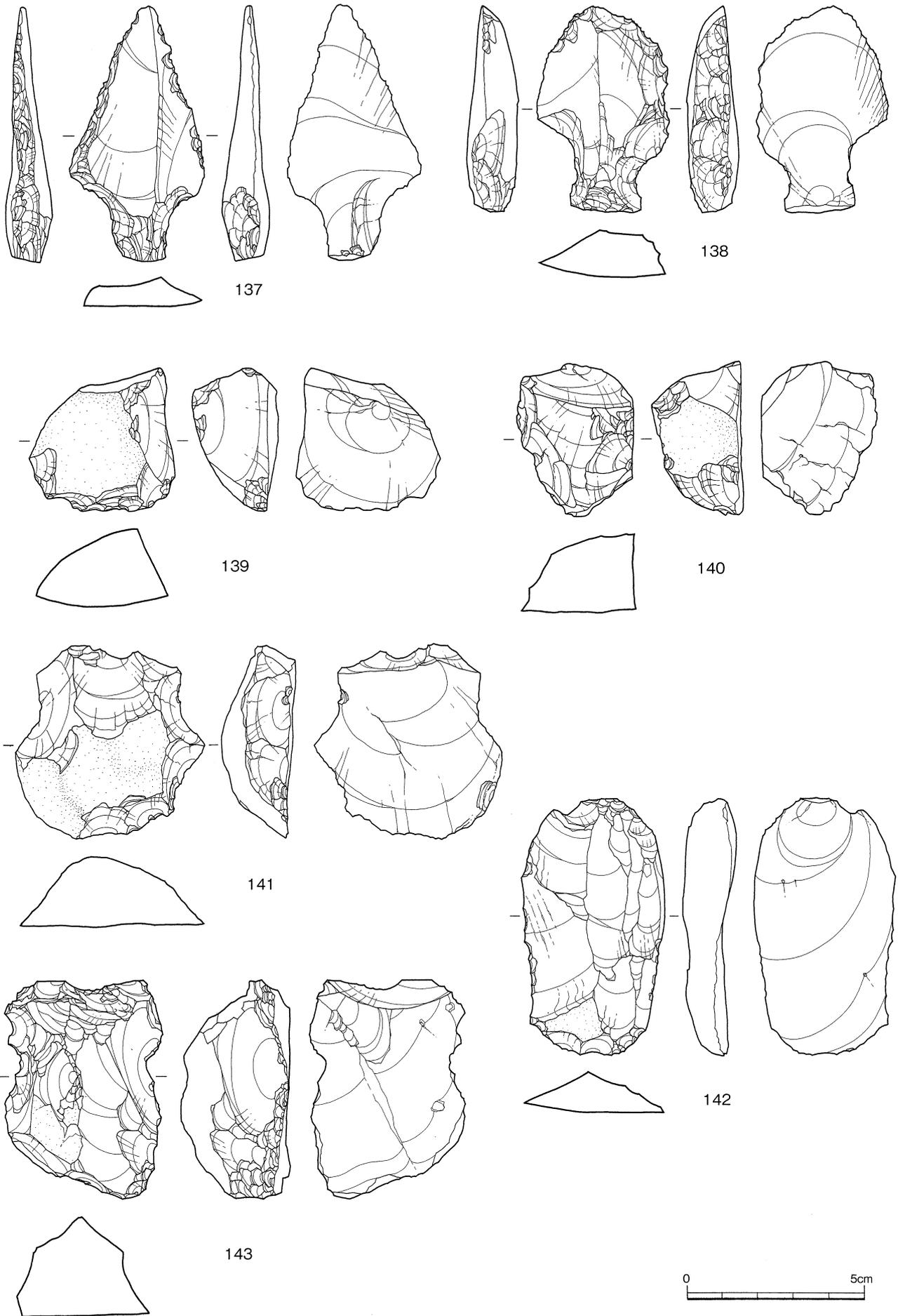
第 29 图 V - VI 层出土石器⑤



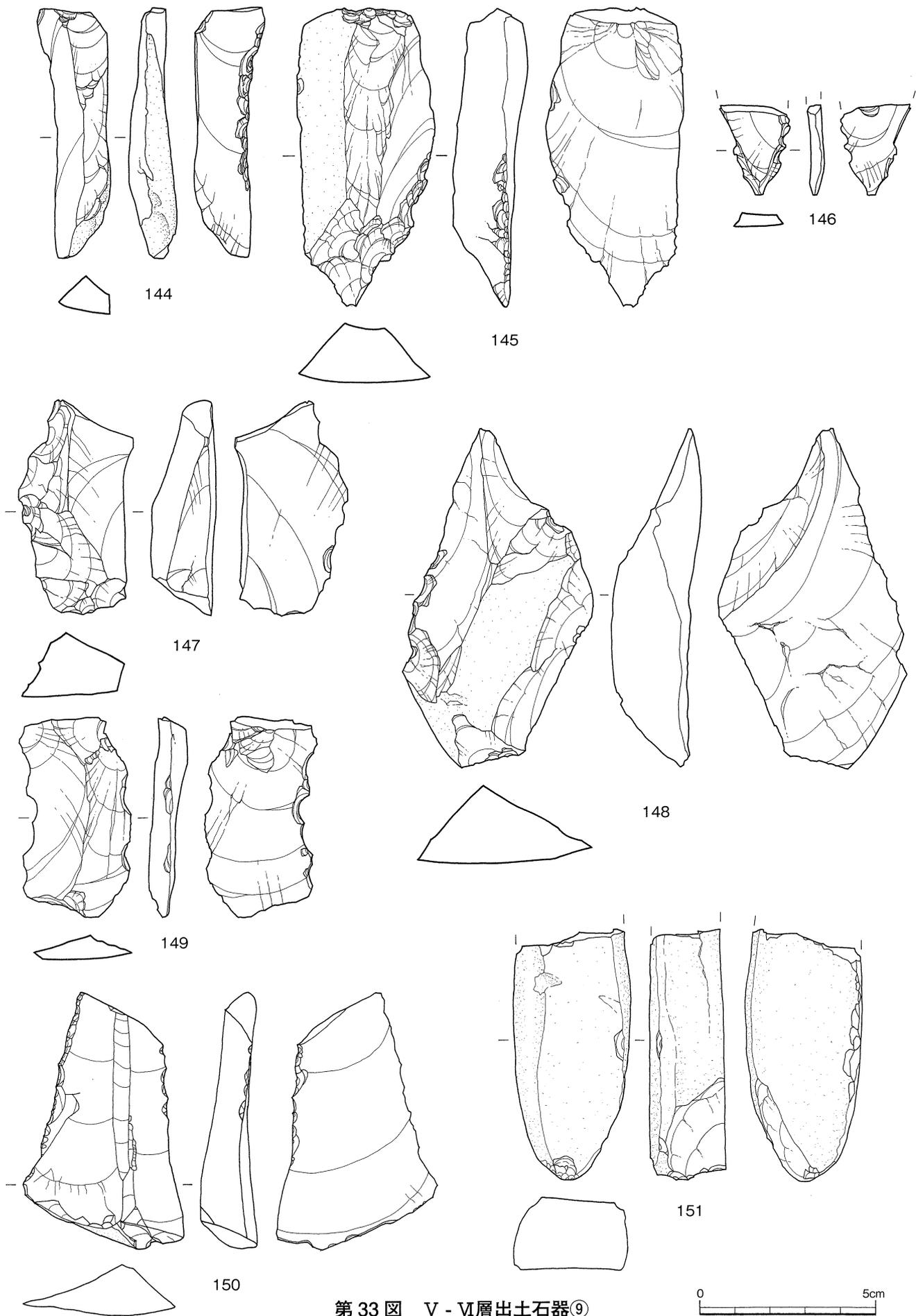
第 30 图 V - VI 層出土石器⑥



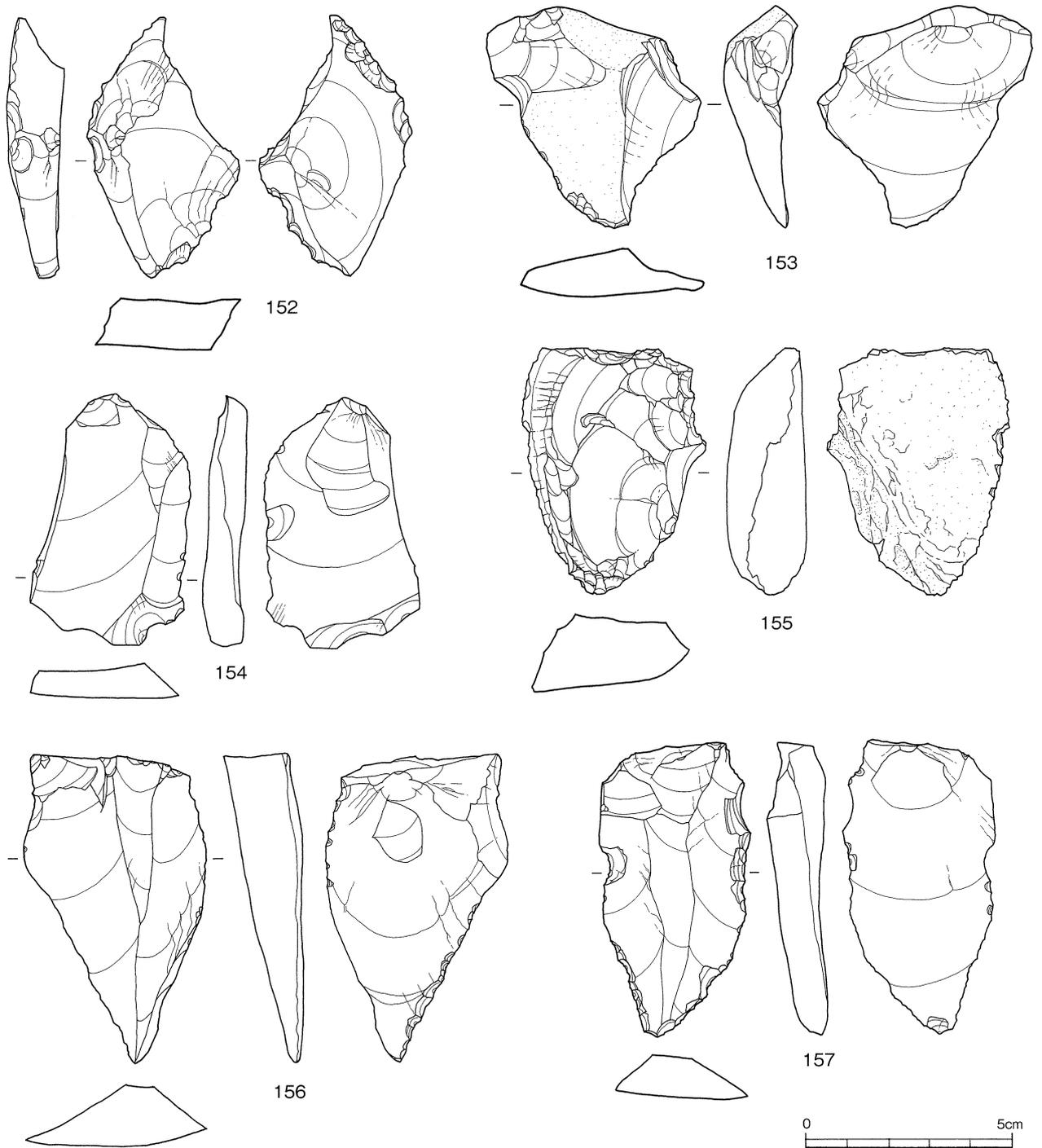
第 31 图 V - VI 层出土石器⑦



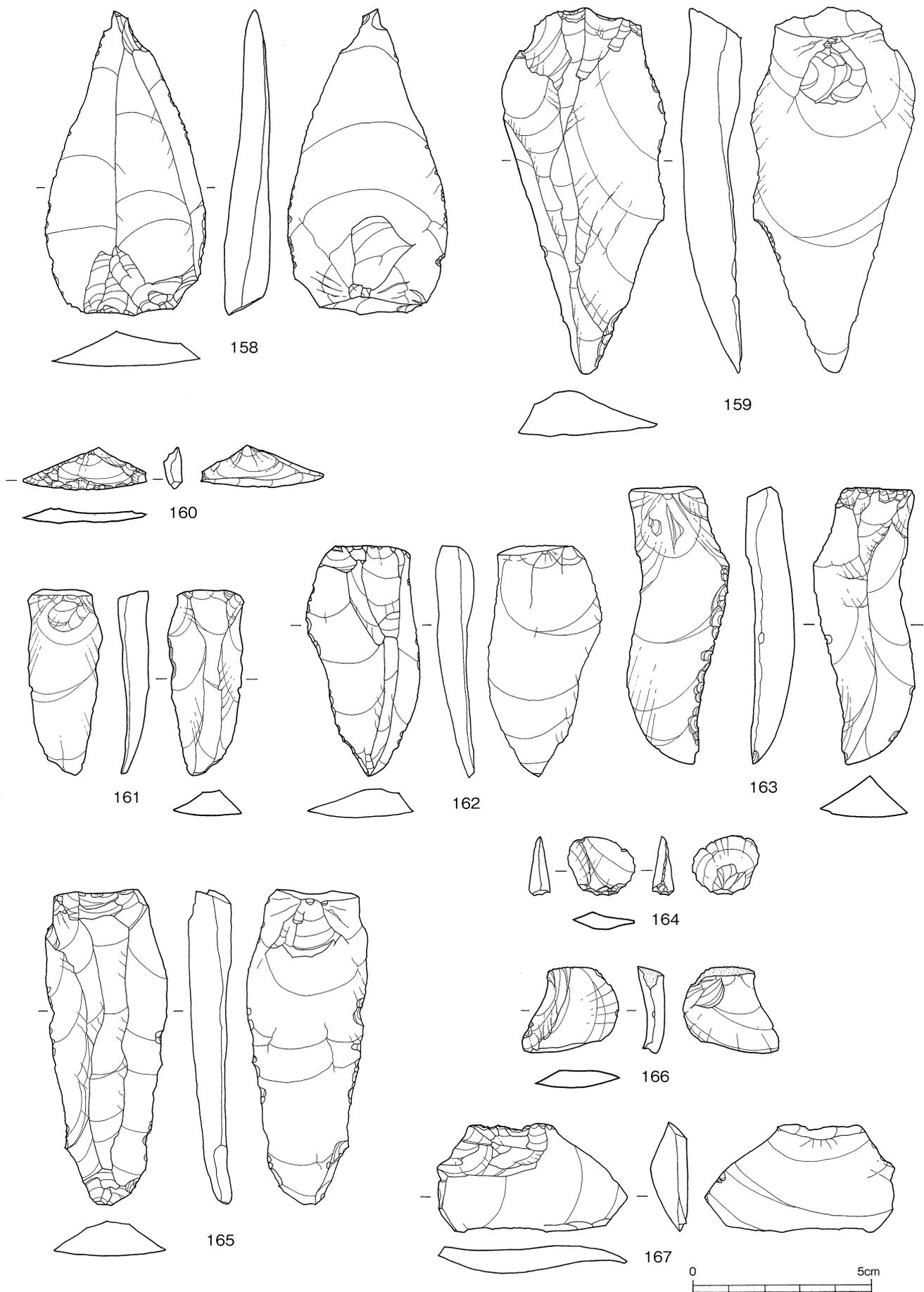
第 32 图 V - VI 层出土石器⑧



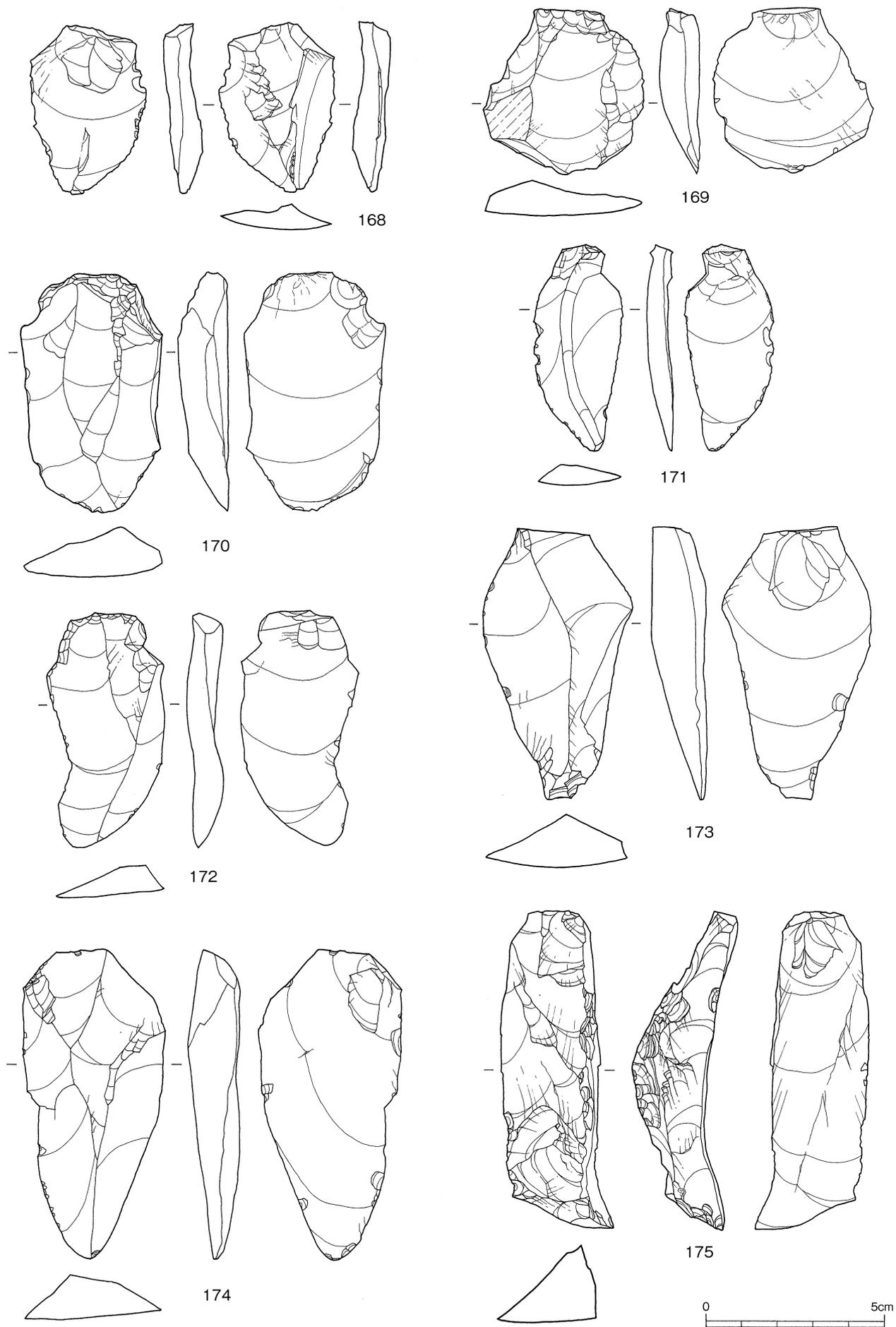
第 33 图 V - VI 层出土石器⑨



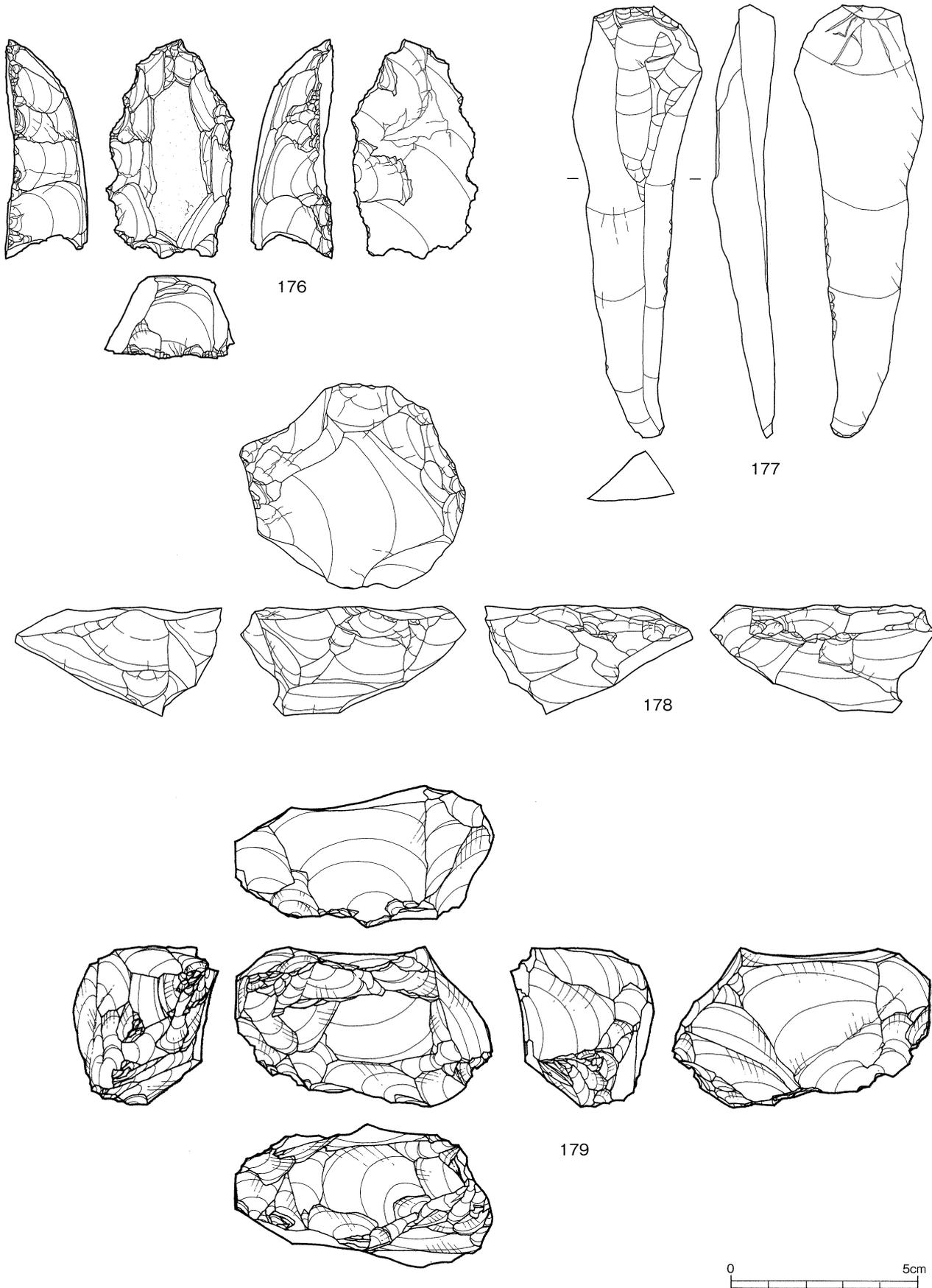
第 34 图 V - VI 层出土石器⑩



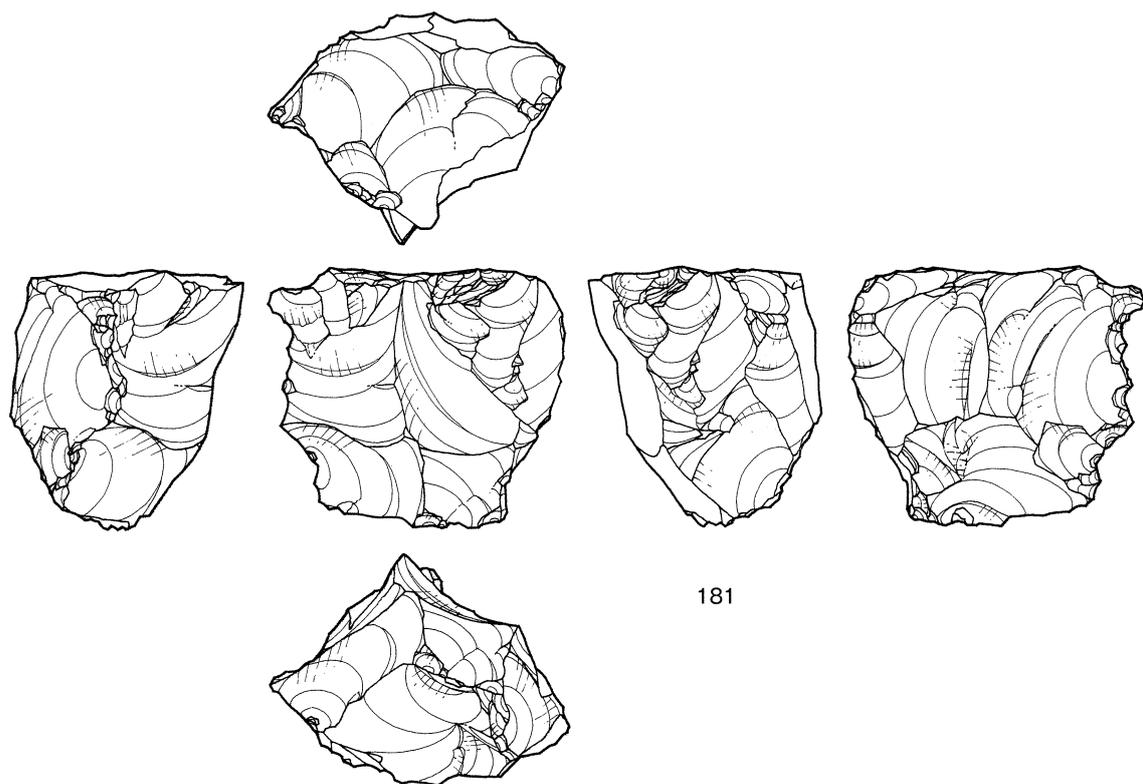
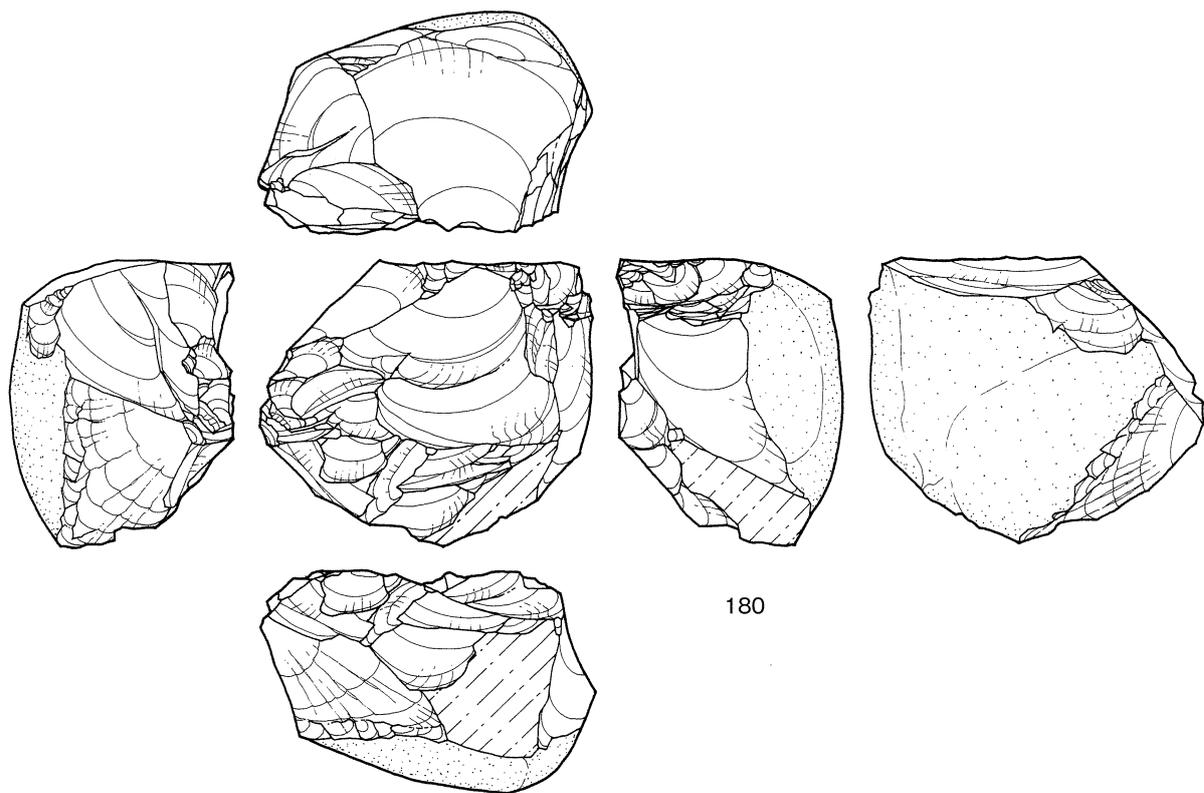
第 35 图 V - VI 层出土石器①



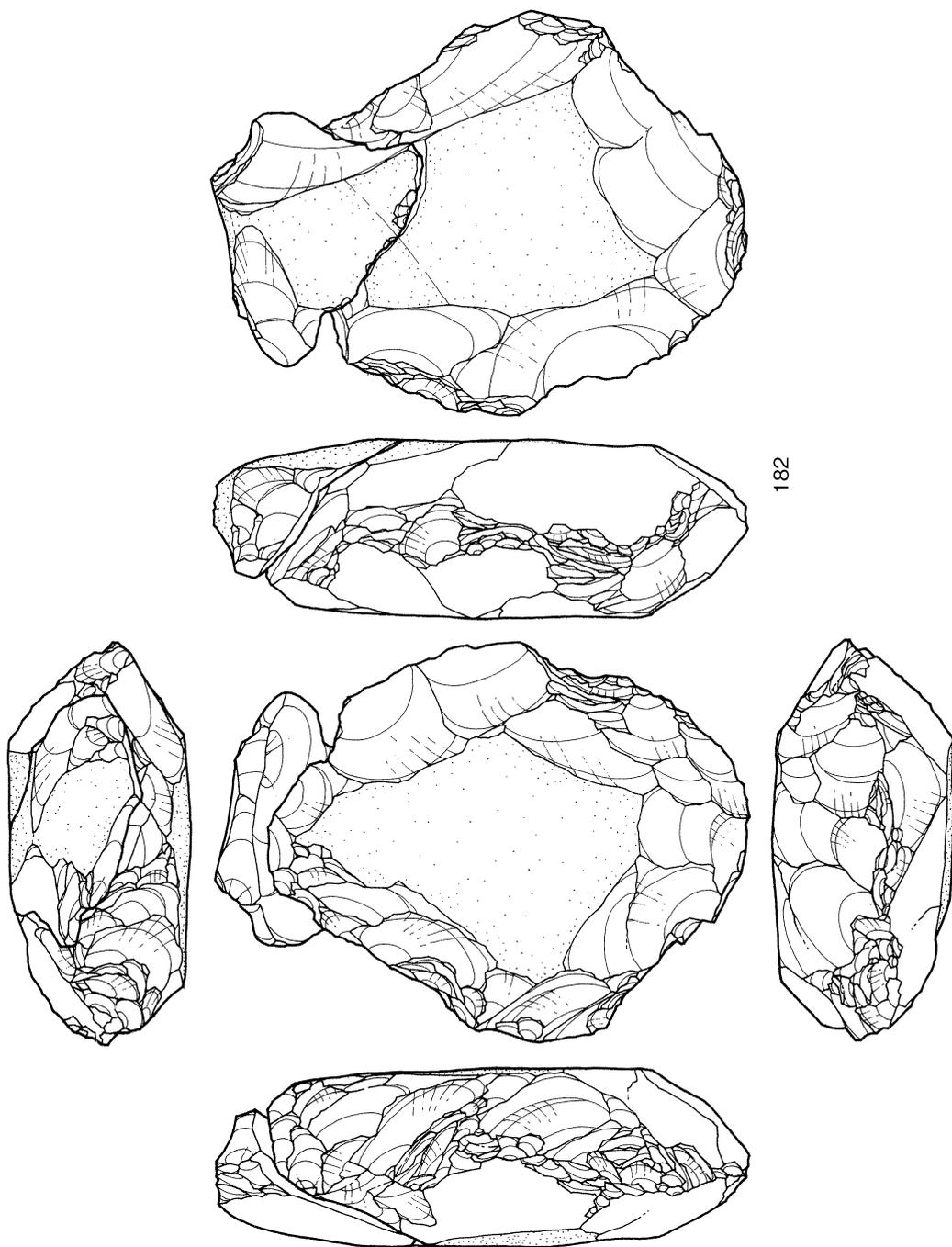
第36图 V - VI层出土石器⑫



第 37 图 V - VI 层出土石器⑬

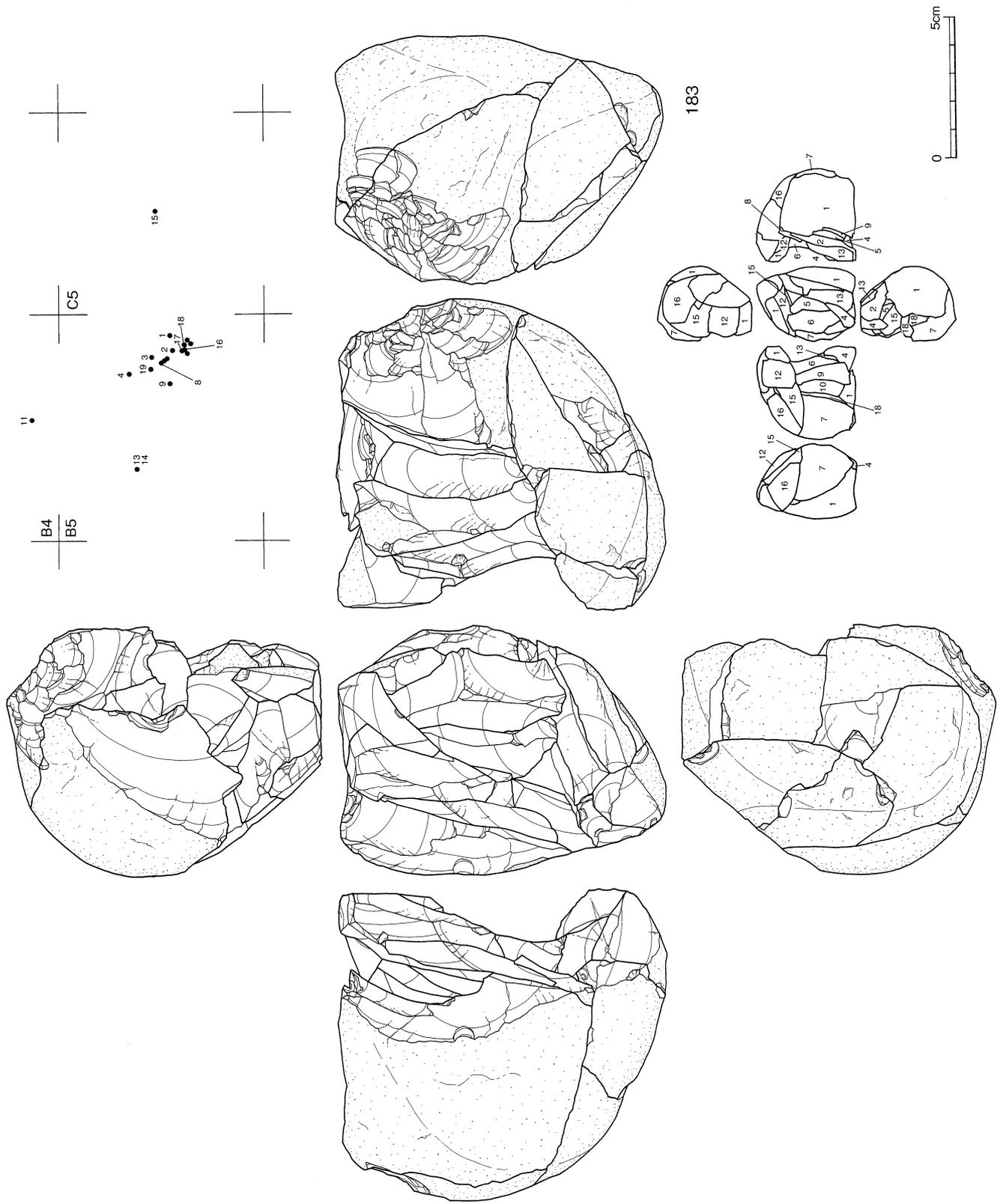


第 38 图 V - VI 层出土石器⑭

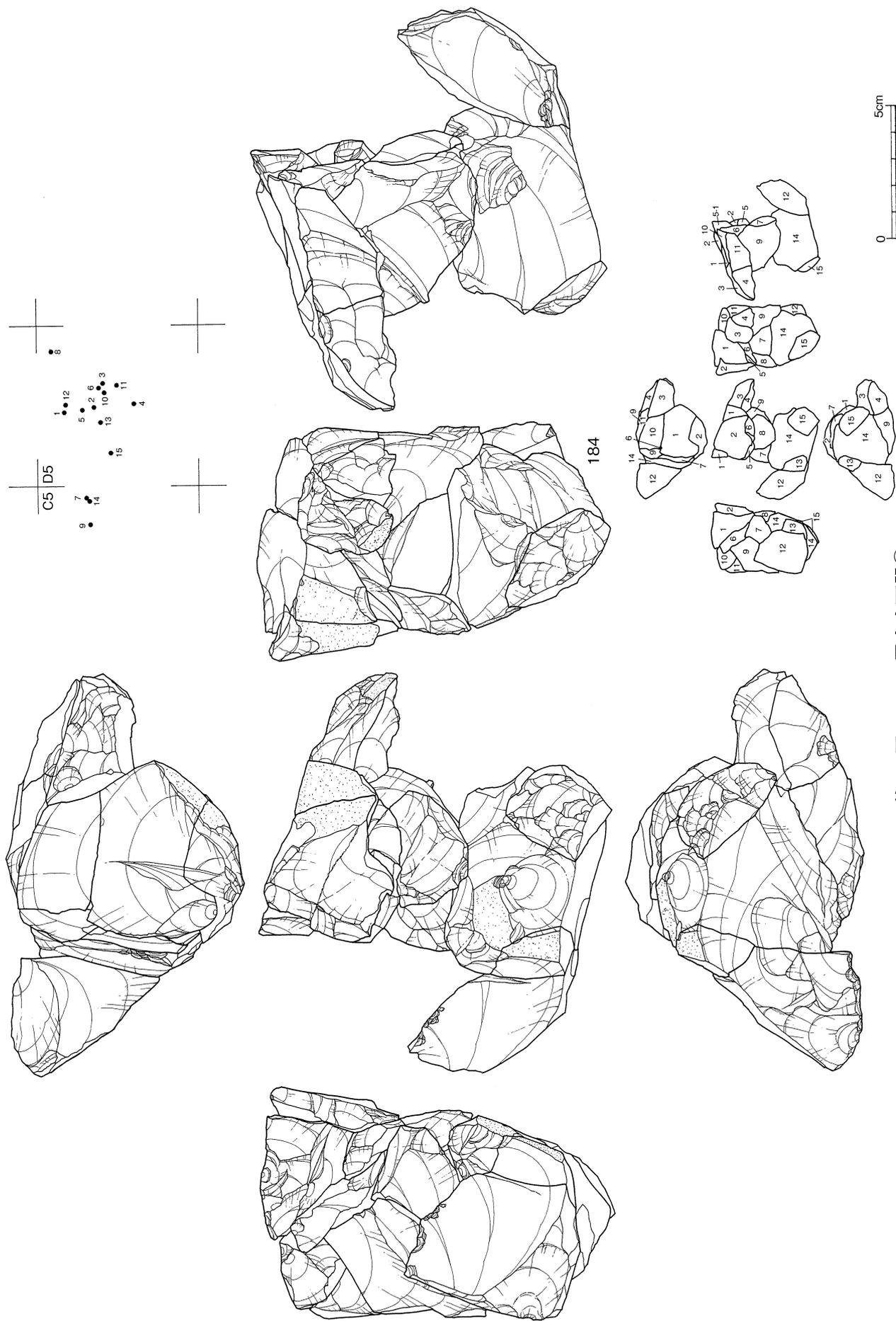


182

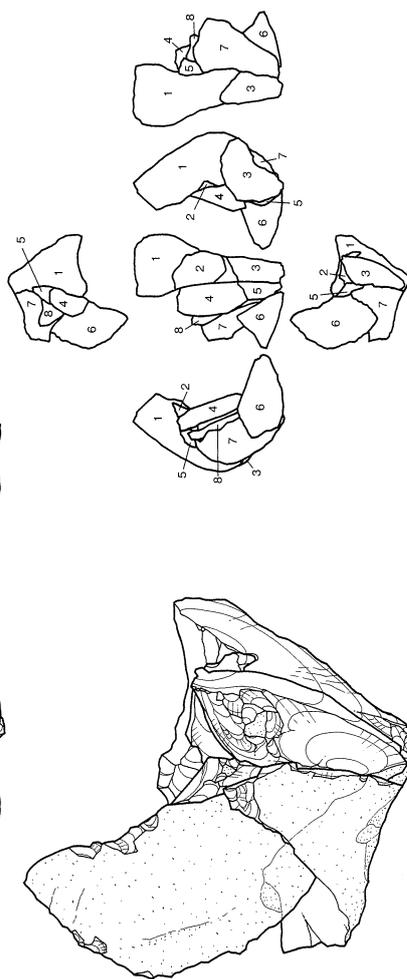
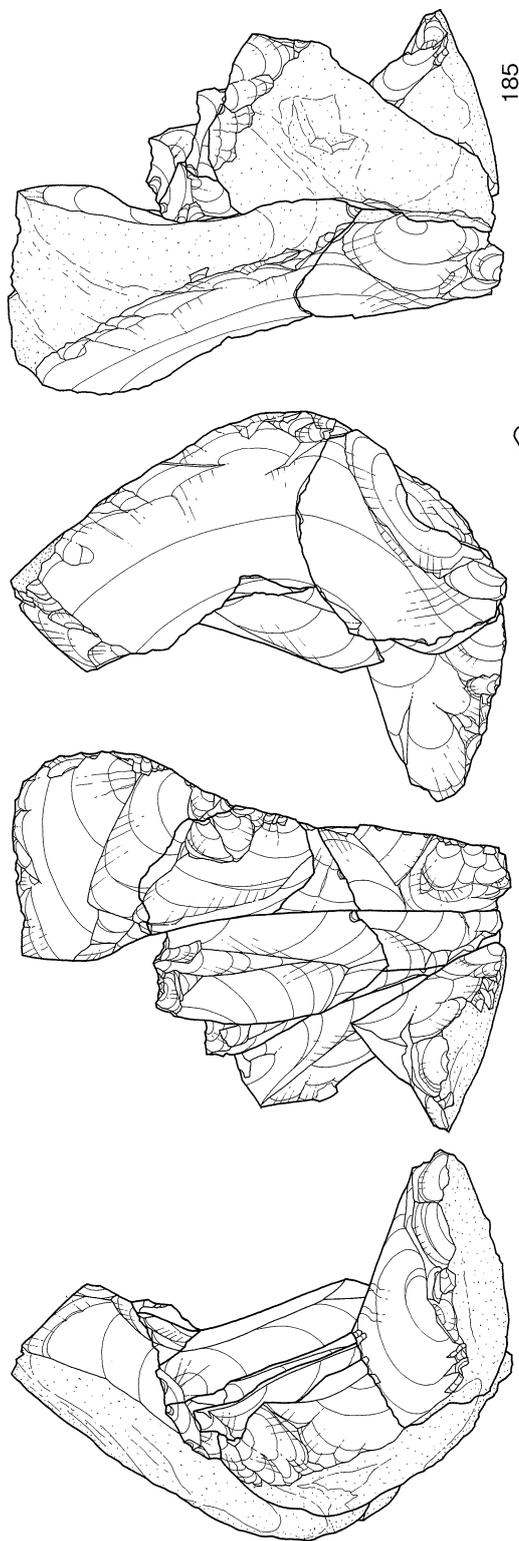
第 39 図 V - VI 層出土石器⑮



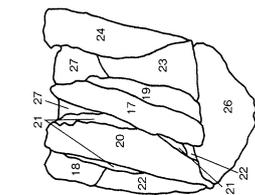
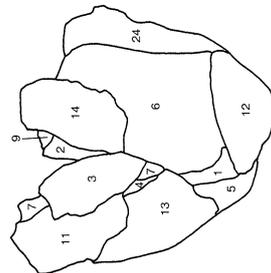
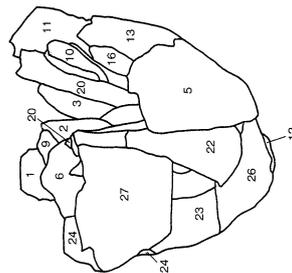
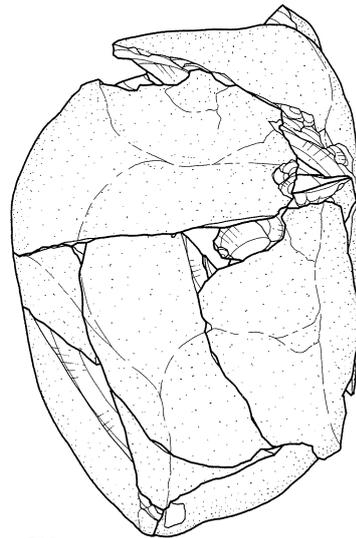
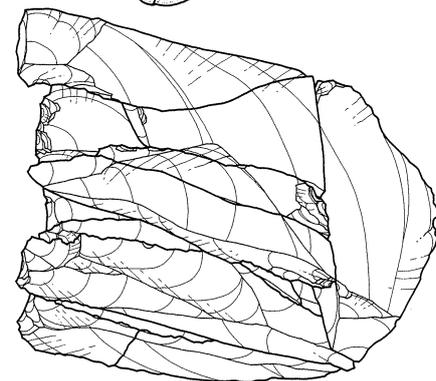
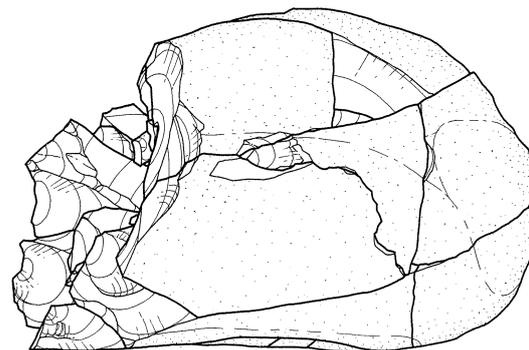
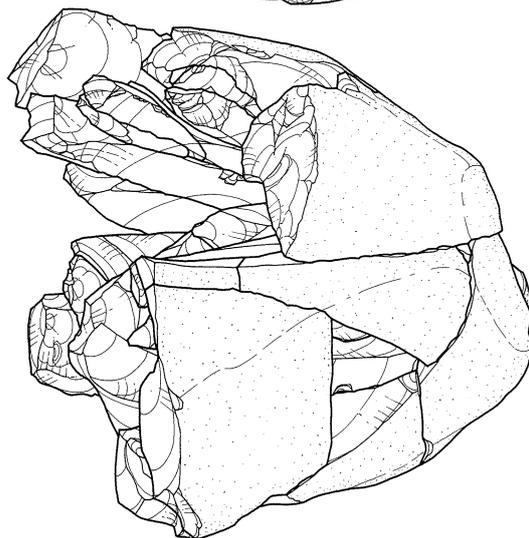
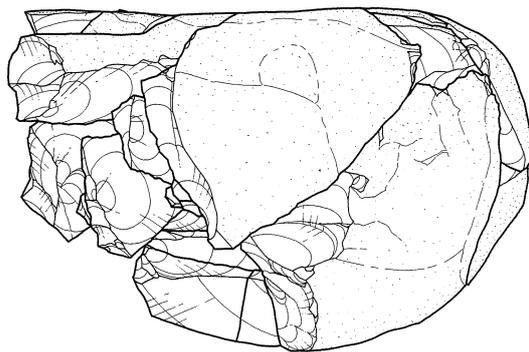
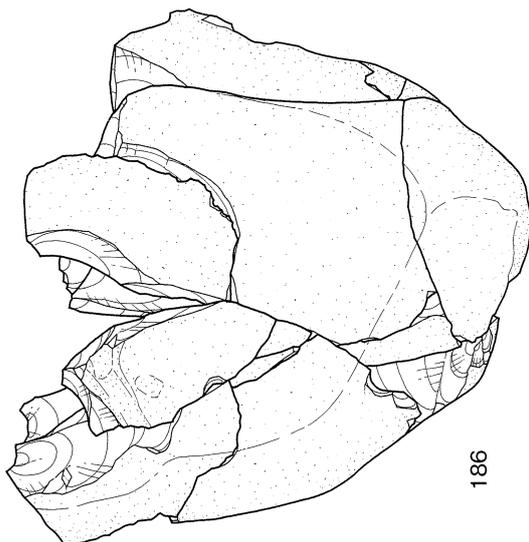
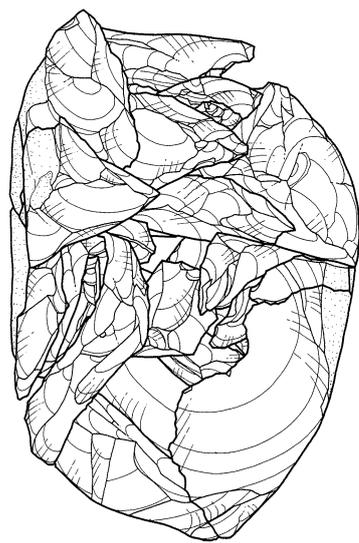
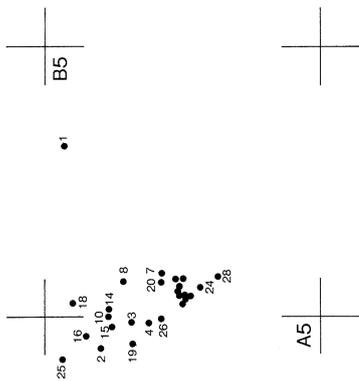
第40图 V - VI層出土石器①⑥



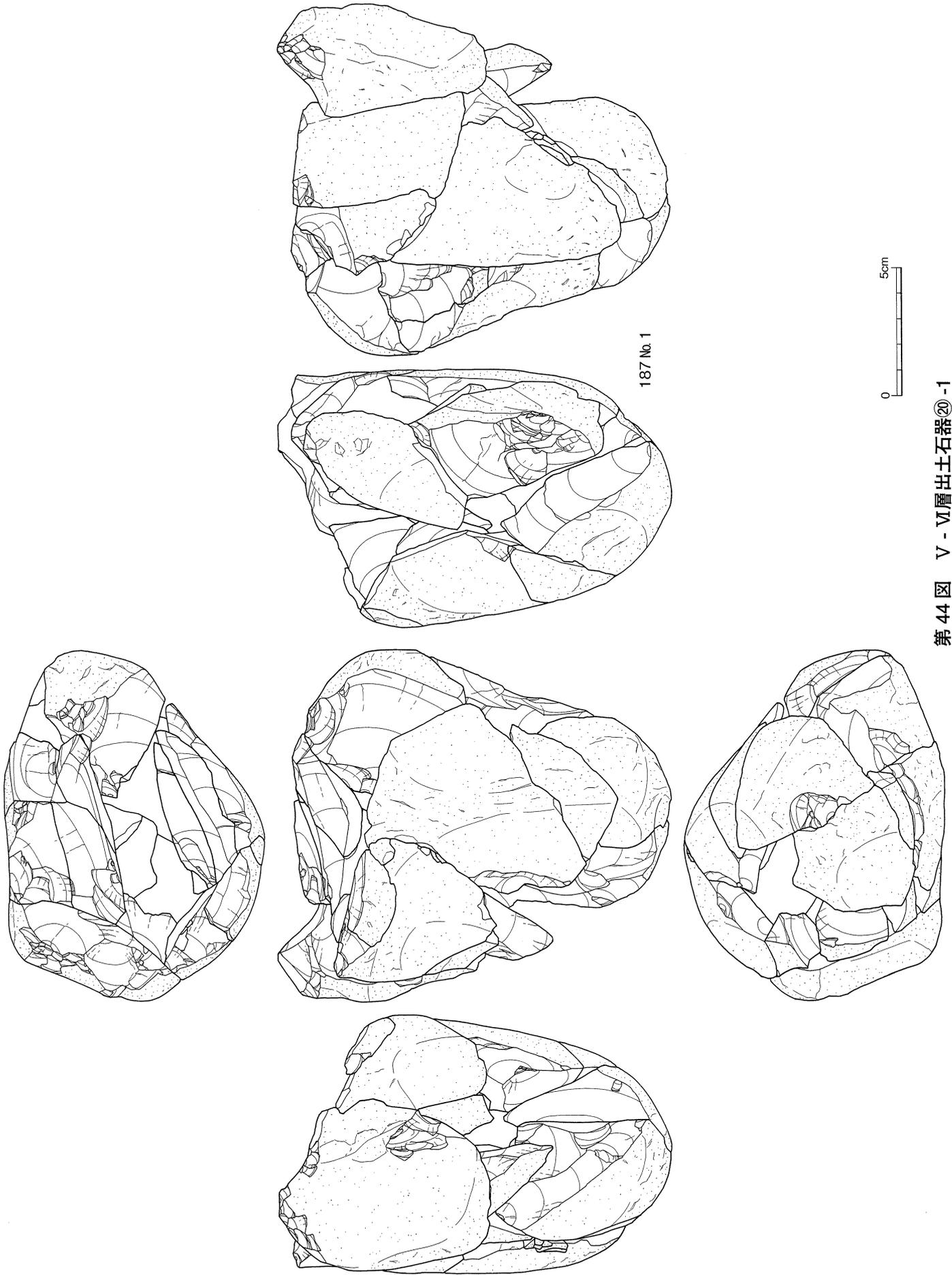
第41图 V - VI层出土石器⑰



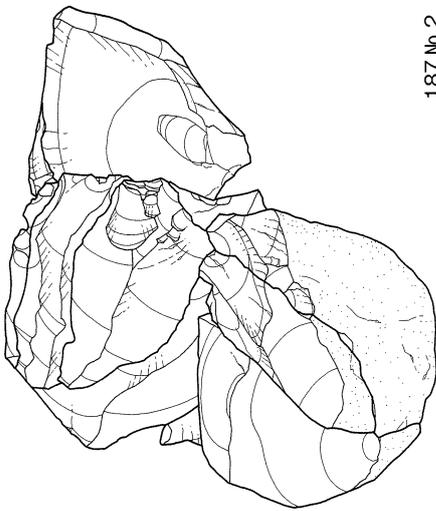
第42図 V - VI層出土石器⑧



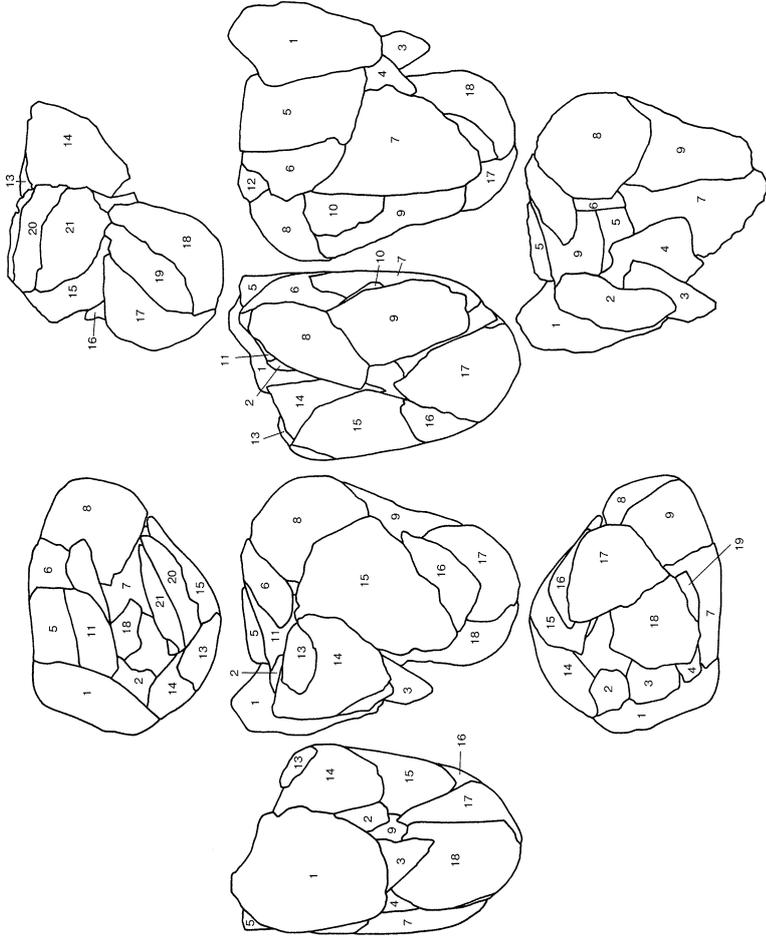
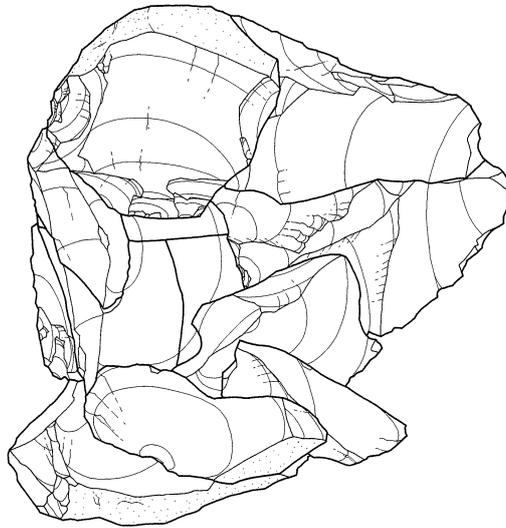
第 43 图 V - VI 層出土石器(19)



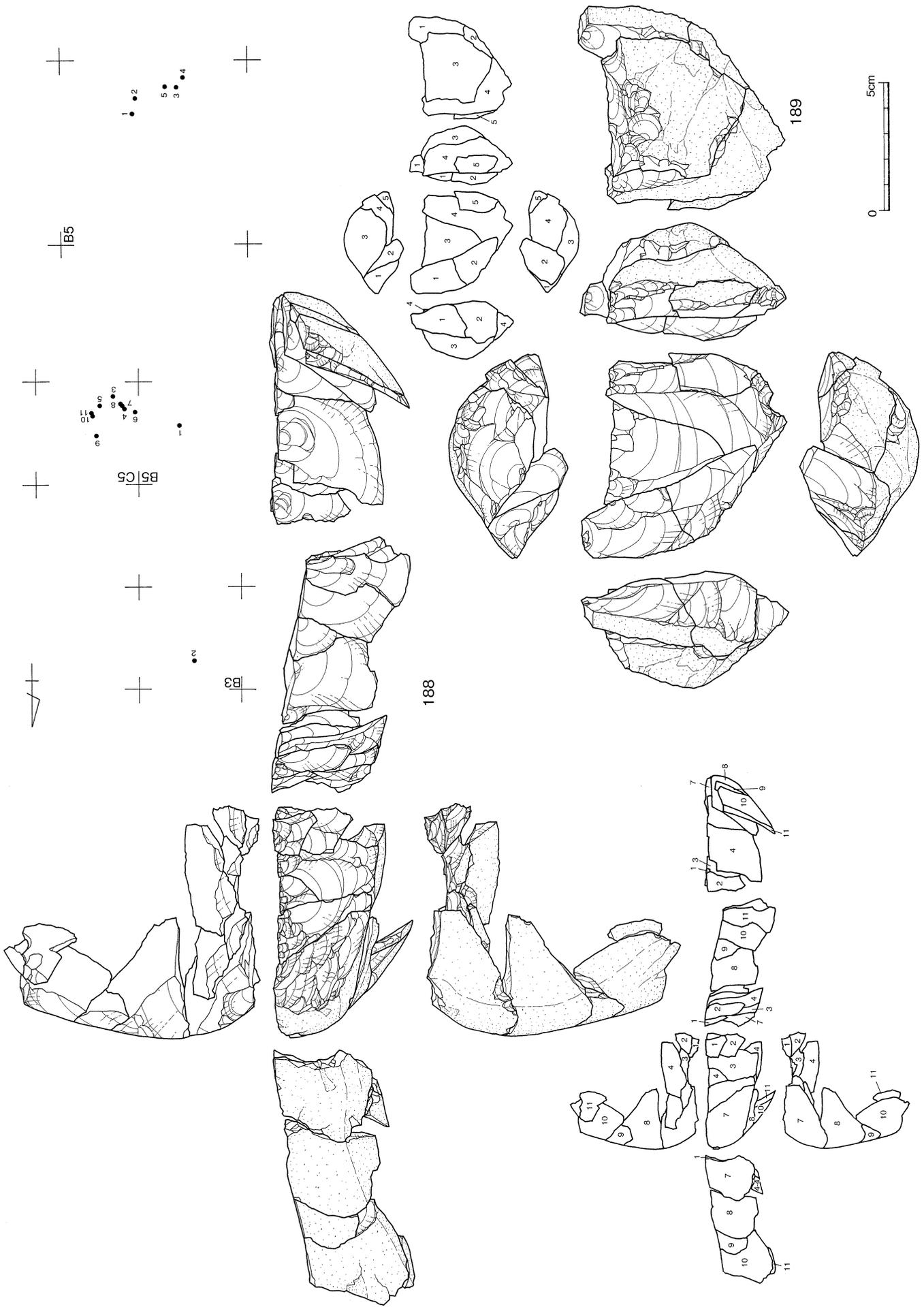
第 44 図 V - VI 層出土石器② - 1



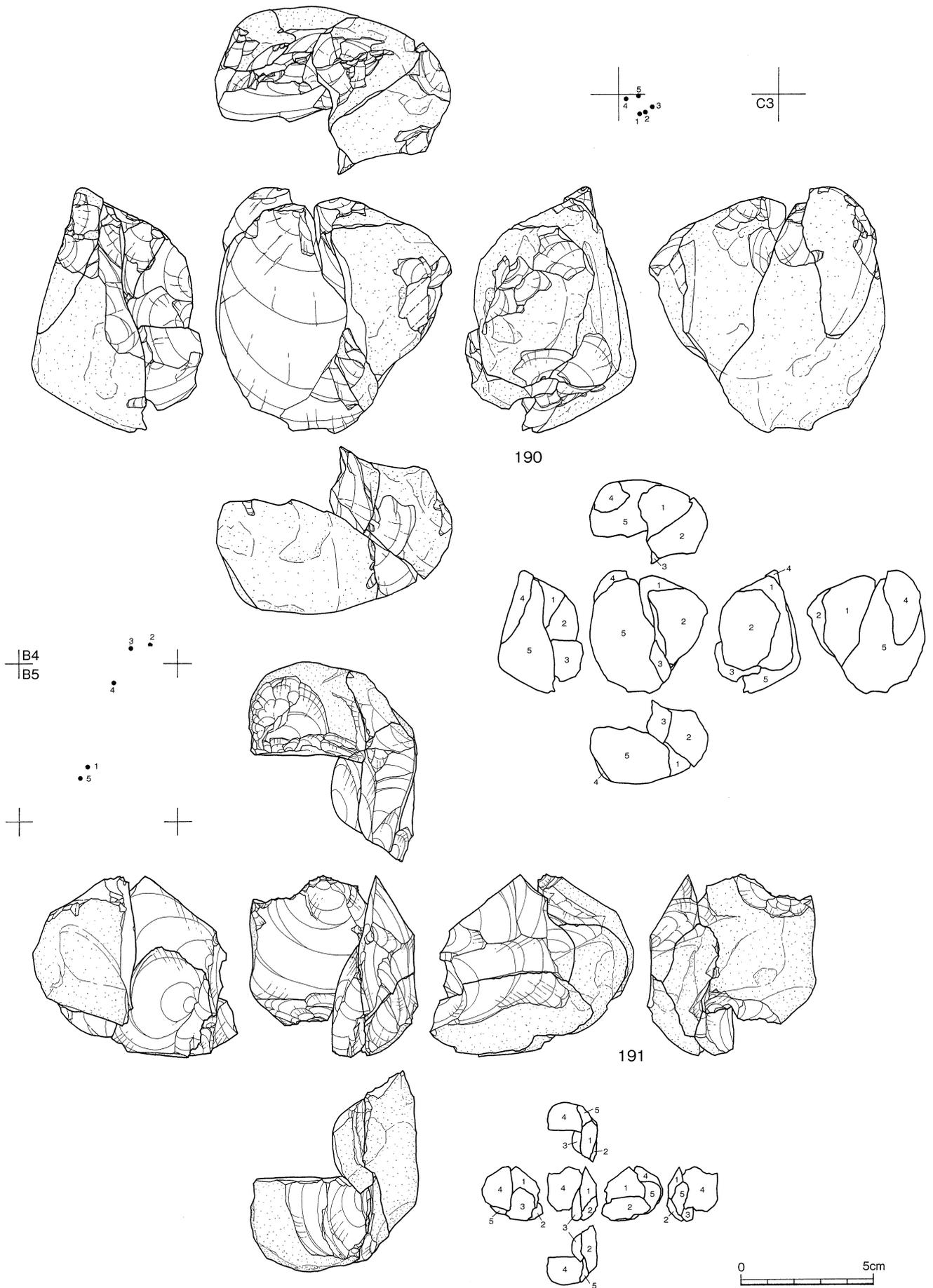
187 No. 2



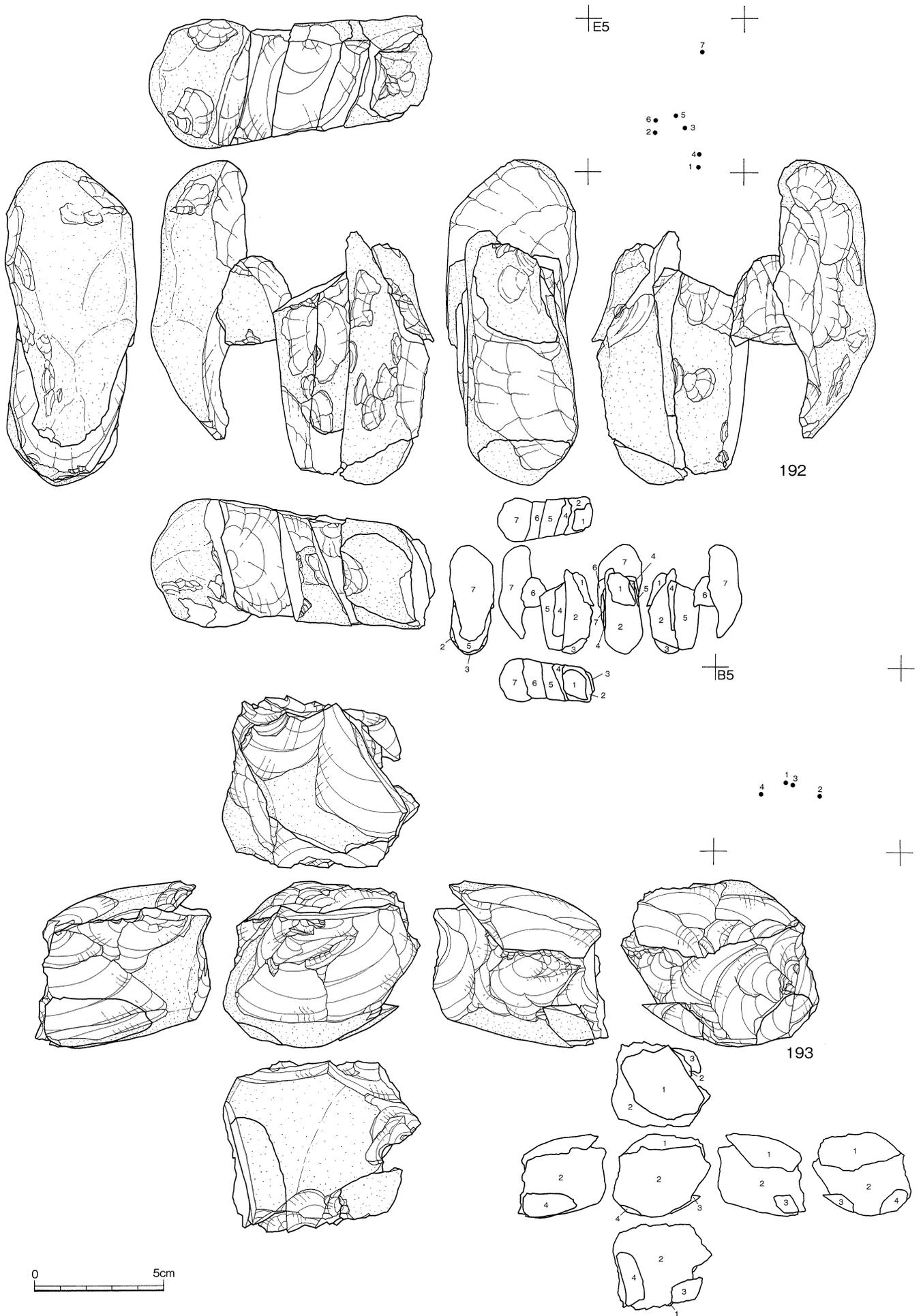
第44图 V - VI層出土石器②-2



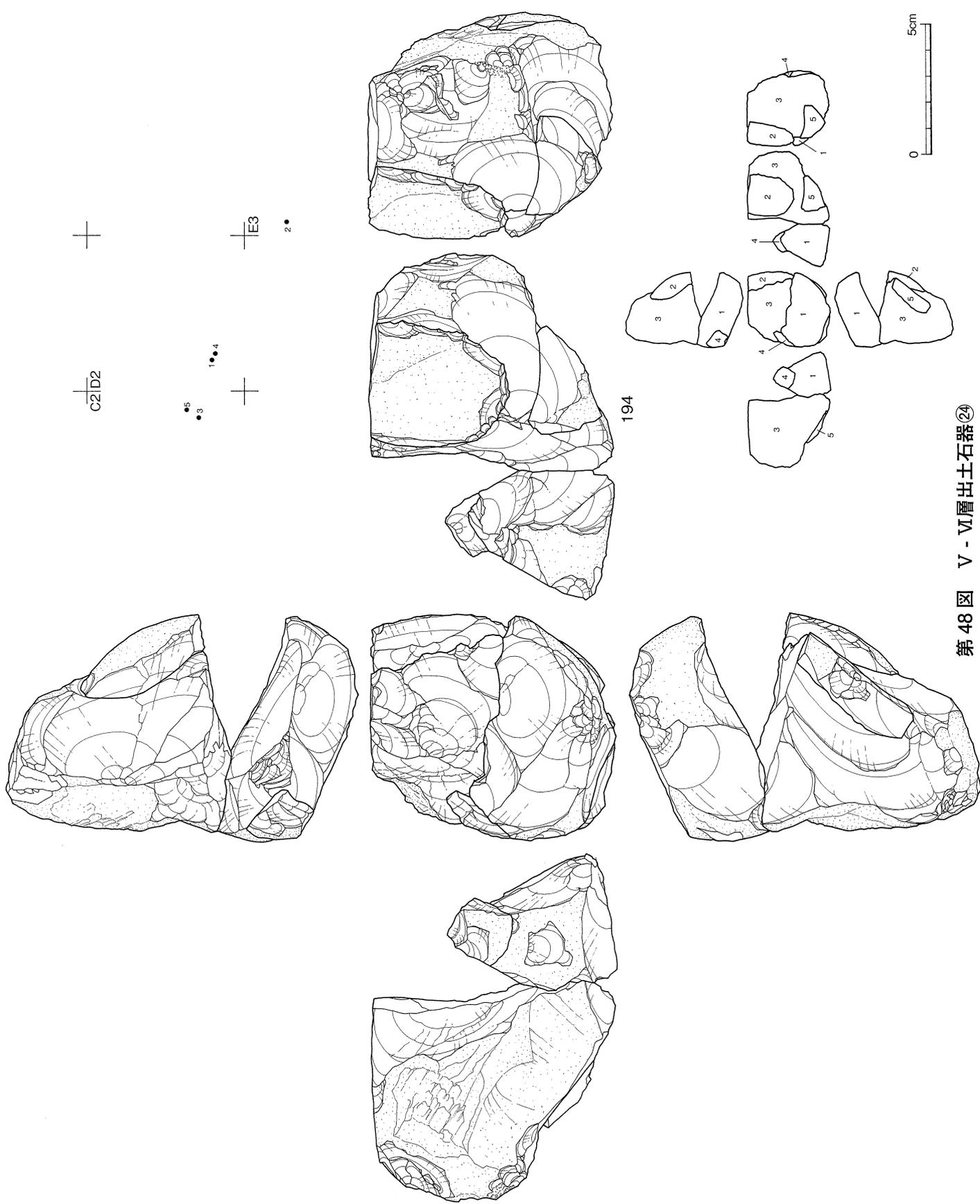
第45图 V - VI层出土石器②



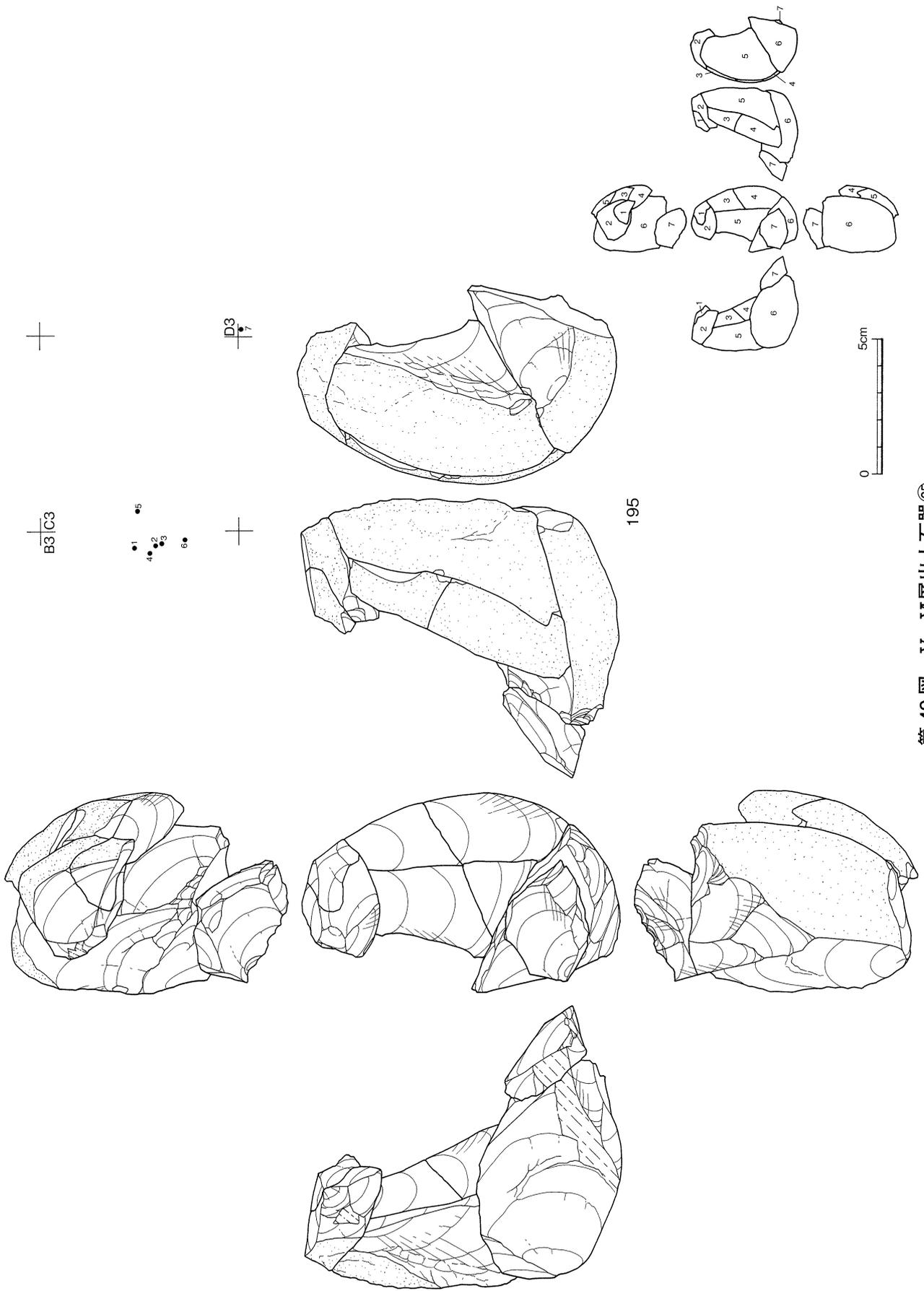
第 46 图 V - VI 層出土石器②



第 47 图 V - VI 层出土石器②



第 48 图 V - VI 层出土石器 ②④



第49图 V - VI层出土石器②

(4) 旧石器時代面 E の調査 (Ⅵ層—Ⅶ層) の調査・・・ナイフ形石器文化 3

ナイフ形石器を主体としながら、角錐状石器、剥片尖頭器、搔器、削器が見られる。また、本遺跡で唯一の台形石器が出土している。

この層位から出土する石器、剥片類の石材には引き続き、流紋岩類 (R1、R2、R3、R4) が主体として用いられ、一部にチャート、ホルンフェルスの使用も少数ながら認められる。また僅少ながら新たに凝灰岩と石英の使用が認められる。

ナイフ形石器 (第 51 図 196-214)

第 51 図の 196 から 214 はナイフ形石器である。これは縦長剥片利用と横長剥片利用のものに大別できる。縦長剥片利用のものをさらに、一側縁加工、二側縁加工、基部加工に分類する。一側縁加工の一群は、199、200、202、204 である。二側縁加工の一群は、201、203、205、206、209、211、212、213 となる。201、203 は、斜軸剥片を使用したナイフで右側縁がバルブ側となって腹面からブランディングを施している。これらは今峠型ナイフに類するものとなろう。213 は、基部付近の両側縁に刃潰しを加え、両側縁の中央から上部を刃部とするもので、腹面に打面、バルブを剥片剥離時のままのこすものである。打面やバルブ面をのこさず端部を鋭角に加工するもの 209、211 がみられるが数量的には少数である。基部加工の一群は、197、198、208、214 となる。197 は、両側縁下部に加工を加えて尖らせた基部をもつナイフであり中央付近で折損している。214 は、基部を中心に背面から調整を加え、先端の右側縁と左側縁の一部にも刃潰しを加えている。左側縁の大部分を刃部としたものであろう。また、これを剥片尖頭器に分類する見方もあろう。一方、横長剥片利用の二側縁加工のものに 196、207、210 がある。196 は、横長剥片を利用するもので刃潰しを施した左側縁の下端は自然礫面をのこしている。207、210 は、横長剥片を利用して頭頂の一辺の角度を浅くして作る独特の形状を有する切り出し形のナイフである。この層位から出土したナイフ形石器の完形 13 点の平均長、幅、重量は、それぞれ 3.95cm、1.88cm、3.26g である。

角錐状石器 (第 52 図 215-219)

第 52 図の 215 から 219 は角錐状石器である。大型品と小型品がともに見られる。横長剥片を利用するものが大半で (215、216、217、218)、縦長剥片を利用するものは 219 のみとなる。219 は三面すべてに丁寧な連続細部調整が施され正に刺突具的な機能を想起させる形状をもつ。215 は同器種としてはやや薄手の石材を利用する縦長剥片を素材とするもので背面の全面に細部調整が施されている。218 は厚手の角柱状の調整剥片を素材としたものと考えられ、一面に粗い調整剥離を施している他は、石核から剥がした剥離面をその儘のこしているなど頗る簡易で粗雑な整形となる。

剥片尖頭器 (第 52-53 図 221-225)

第 52-53 図 221、222、223、224、225 は剥片尖頭器である。221 は、断面三角形の厚い縦長剥片を使用するもので右側縁の全面を腹面からの急角度調整で成形する。基部は下端両側縁から調整して細身の柄部に成形している。なお、腹面には打面、バルブをのこしていない。222 は、長さに対して幅が大きいやや幅広の石鏃様を呈する剥片尖頭器で最先端を欠損している。打面、バルブはその儘のこしている。

223 は、直線的に延びる左側縁を全面に渡って腹面から急角度で丁寧に調整し、右側縁の 2 / 3 は無加工のまま刃部状にのこし、下端の基部付近のみに調整を加える典型的な剥片尖頭器である。基部は背面からも調整を加えてつまみ状の基部を整形している。なお、223 については「中原型」のナイフとする見方もある。224、225 は、それぞれ柳葉、木葉状を呈するもので 224 は最尖端の一部を欠いている。基部は両資料ともに打面、バルブなど剥離素材面をその儘のこしている。

台形石器（第 53 図 226）

第 53 図 226 は、剥片の鋭利な側辺を刃部として成形する台形石器である。ほぼ平行する両側縁に腹面からの細かな調整剥離が観察される。上端の刃部は、ごく浅く角度がついて切出ナイフ状を呈する。本遺跡唯一の台形石器であり、2 次・3 次出土の同石器と形状を異にしている。

搔器（第 53 図 227）

227 は、厚く割りとった円形剥片の端部を、腹面からの急角度の剥離で弧状に刃部をつくるものである。228 は、右側縁に腹面からの連続剥離が認められるほか、背面の末端は急角度に剥離されてエンドスクレーパー様となる。

削器（第 53-54 図 229-234）

229、230、231、232、233、234 の 6 点は削器である。

229 は、幅広の不定剥片の打面、バルブを除去して成形された削器であり、左側縁に腹面から連続した剥離が加えられている。230 は、石核から剥いだ断面三角の厚い剥片からつくられた削器で、右縁全辺に腹面からの連続した剥離痕が認められる。231 は、幅広で薄い不定剥片でつくられた削器で、両側縁に連続剥離で刃部が作出されている。全体に風化が認められる。232 は、木葉形の幅広剥片を用いたもので左側縁に浅い角度で連続的に剥離を施した刃部をつくるものである。233 は、末端の尖った縦長剥片の左側縁に、粗い連続剥離を加えて刃部をつくるものである。234 は、大型で厚い木葉形剥片の両側縁に腹面から丁寧に連続剥離を施している。末端に自然面をのこしている。

剥片（第 54-56 図 235-251）

235、236、237、338、239 は二次加工のある剥片である。235 の石材は水晶製、236 は背面の全面に剥離を加えて成形している。237 は、両側縁に腹面からの加工痕がみられる。238 は、打割した縦長剥片の端部辺を背面から剥離して刃部をつくっている。239 は、左側縁下部に腹面からの剥離痕をのこしている。

240 は、右側縁の一部に使用痕の認められる剥片である。242、243、244 は横剥ぎによって作出された剥片である。245、246、247 は横広の不定形剥片で 246、127 には剥片の末端に使用痕がみられる。248、249 は木葉状の剥片である。背面に剥片剥離の痕がのこっている。250 は、石刃である。剥片の末端部は自然礫面となっている。251 も縦長剥片であるが中央付近で折りとられている。

石核（第 56-57 図 252-255）

252 は、打面を自然礫面とする剥片石核となろう。背面からの剥離と腹面からの剥離で不定形の剥片を作出している。末端は、腹面からの剥離によってスクレーパー状を呈する。253、254、255 は、多方向から不定形剥片の作出がおこなわれ多面体状を呈する残核である。

敲石（第 73 図 329,332,334）

329 は緩く屈曲した棒状の敲石で、両端部に打撃によって生じた剥離痕が観察される。裏面のそれは下端部から全長の三分の一にも及んでいる。また、表面は摩耗面となる。332 は側面の数箇所打撃痕がみられ、側面と表面の二箇所に摩耗面がみられる。334 は球形の敲石で側面 2 箇所に潰痕が観察できる。

磨石・敲石（第 73 図 335）

335 は球形の磨石・敲石で表面、側面の四面に摩耗面、側面の一部に潰痕がある。

台石・石皿（第 73 図 337, 第 74 図 409）

337 は長楕円形の台石、あるいは石皿である。表は浅く窪んでいる。なお、337,332,334,335 は極めて接近して出土（図版 6）しており、セットと考えてよいであろう。409 は花崗斑岩製の石皿であり、上面の中央部分が穏やかに窪んでいる。下面は平坦となる。

用途不明石器（第 73 図 328、第 74 図 408）

328 は扁平な長楕円形を呈する石器で尖端の左側と下端の左側の一部、および石器左辺上部に小さな楕円形の磨面を有する。手持ちの砥石的な用途を彷彿させる石器である。408 は、砂岩製の小判形の扁平円礫で周縁に潰痕、長軸の上下端に擦痕が見られる。下端のそれは表裏両面から石斧の刃状に研がれている。

接合資料（第 58-62 図）

接合資料 256

調整剥片 2 点、剥片 1 点、エンドスクレーパー 1 点、計 4 点からなる接合資料で、大人の拳大より一回り小さな円礫を素材としている。出土層位は VI 4（VI 層下位）を中心に VII 層上面である。出土地点は 2C、3C 区にまたがって出土している。自然礫の上端と側面をはねて作出した平坦打面から 2 点の剥片を取っている。うち 1 点（4）は厚く幅広の石核で下端に腹面から急角度の調整を加えている。石材は、白く風化するタイプの細かな縞模様が特徴的な流紋岩である。

接合資料 257

自然面を有する石核 1 点、調整剥片 3 点、計 4 点からなる接合資料で、大人の拳大より一回り小さな円礫を素材としている。V、VI、VII 層の複数層からの出土である。出土地点は 2B、2C、4D 区にまたがり、各々最大で 8 m 離れている。自然面ののこる石核には、少なくとも 7 点の不定形剥片を剥ぎ取った痕跡が周縁にのこっている。石材は、白く風化するタイプの流紋岩でやや大きな縞模様がある。

接合資料 258

石核2点、調整剥片1点からなるもので、母材は大人の拳大と推定される自然面ののこる亜角礫である。出土は、VI層下位からVII層にかけての土層である。出土地点は2C,3C区で、5m以内に分布する。石材は流紋岩で構造的にノジュールとなっており、節理が不規則に入って石器の石材としては不適當なものと考えられるものである。打撃によって2分割されてできた平坦面を打面として、数点の剥片を剥ぎ取った痕がのこっているが、結果として撰理のために不定形の短い剥片の作出に止まっており、不本意な結果に終わっている。

接合資料 259

調整剥片5点からなる接合資料で、出土層位はVI層とVII層の層境界からの出土である。出土地点は2D区で、7m以内に分布する。大人の拳大と推定される表面が風化した角礫母材から厚みのある剥片を含む剥片を作出している。剥片中に打面調整剥片(415)と考えられる1点を含んでいる。石材は、暗灰色で肌理の粗いホルンフェルスである。

接合資料 260

調整剥片6点、剥片1点、計7点からなる接合資料である。出土層位は、VI層下位からVII層下位にかけての複数層から出土している。出土地点は2B、3C区にまたがり、3m以内に集中する。母材から打撃によって作出した自然面ののこる剥片石核の平坦打面から、長軸方向と下端は直行する横方向の二方向から表皮剥ぎを意図した打撃を行って調整剥片を剥ぎ取っている。その後、残った石核から1点の縦長状の剥片を剥ぎ取っている。母材は、人頭大と推定され、白く風化するタイプの良質の流紋岩である。

接合資料 261

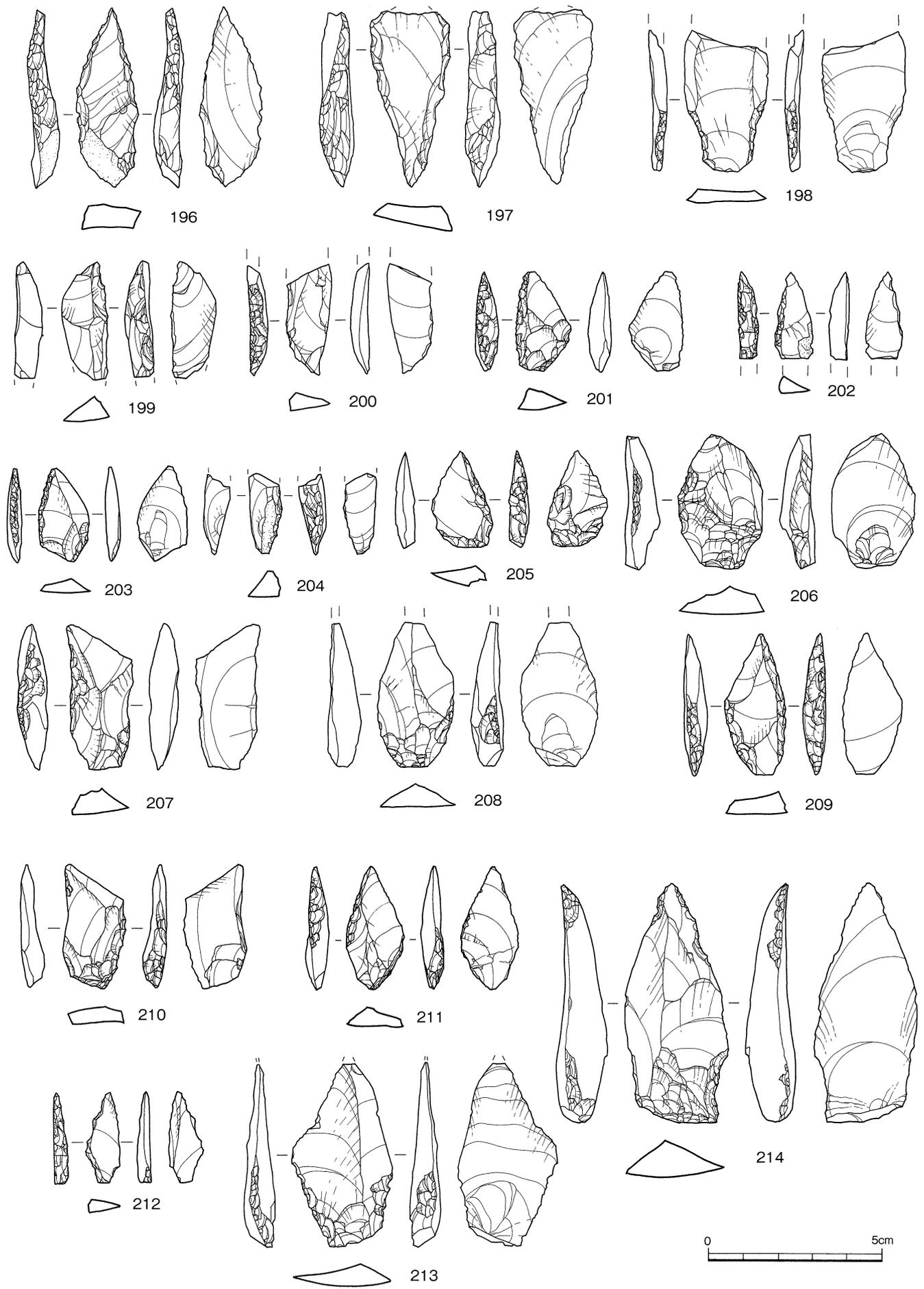
石核、剥片14点からなる幼児の頭大の円礫が接合したものである。各破片は、V層上位、V・VI層境界、VI層下位、VI・VII層境界と複数層から検出されている。出土地点は4D、4E、5C、5D区で、最大18m離れている。素材となる円礫を打割して剥片を作出しようと試みているが、縦横にはしる節理面によって邪魔され意図した剥片がとれていない。残核を見ても剥片を作出した痕跡がみられないことから、打割のみに終始した一例であると思われる。石材は、青灰色のホルンフェルスである。

接合資料 262

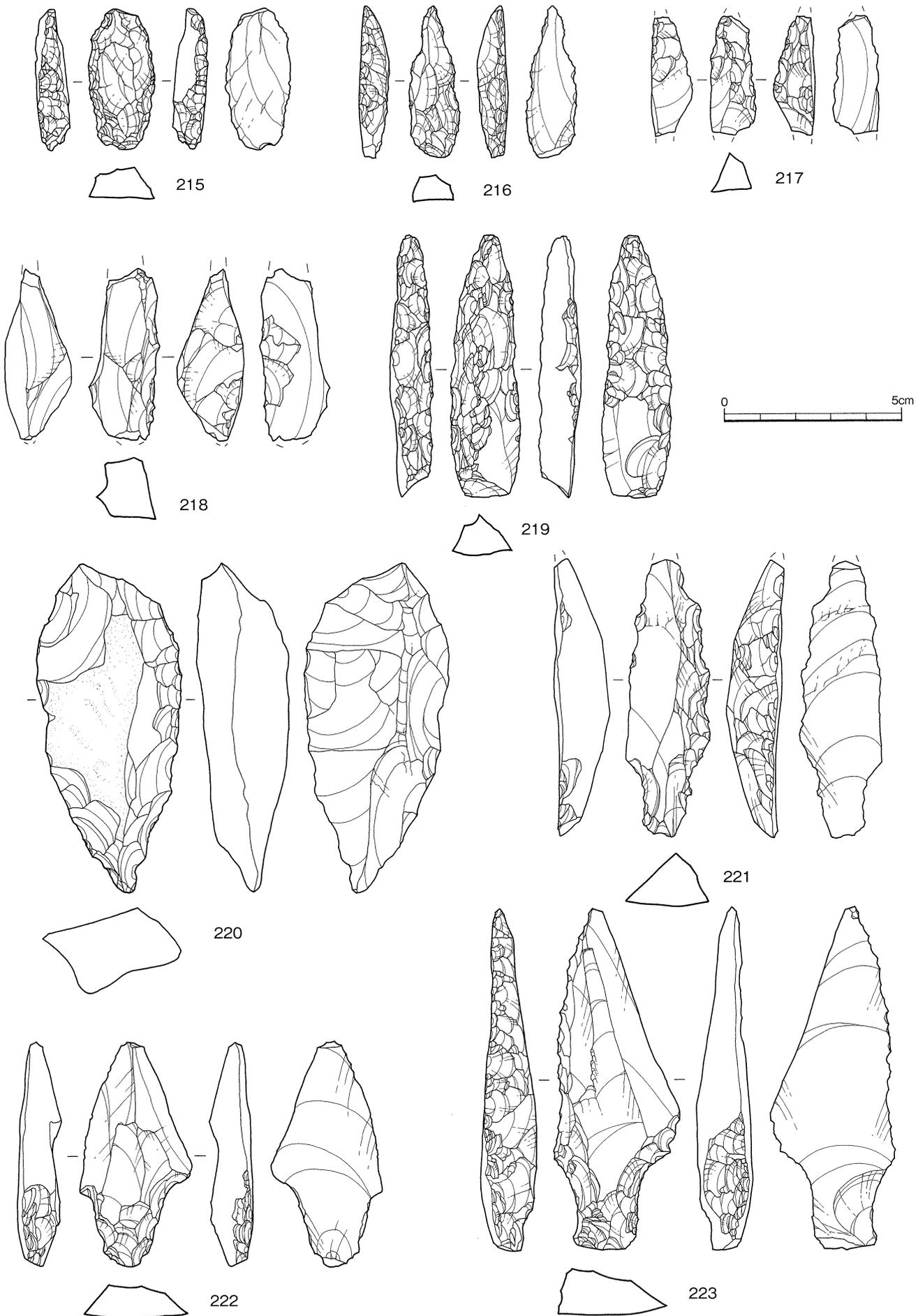
調整剥片8点からなる頁岩製の接合資料で、VI層下位からVI・VII層の境界層にかけて出土している。出土地点は2C区を主として、3C区の1点は10m以内に分布する。現形状は大人の手のひら大の扁平円礫の表皮が接合したものである。意図的に薄く剥ごうとしているが、石材が剥片作出に適さない石質であるため、復面の表面がゴツゴツしており、ツールには不適當な厚い剥片しか得られないという意図に反する結果に終わっている。



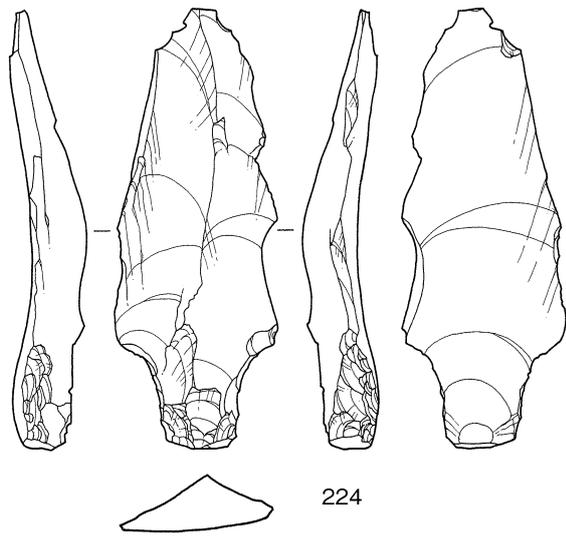
第50図 VI - VII層検出状況図 (E面) (1/400)



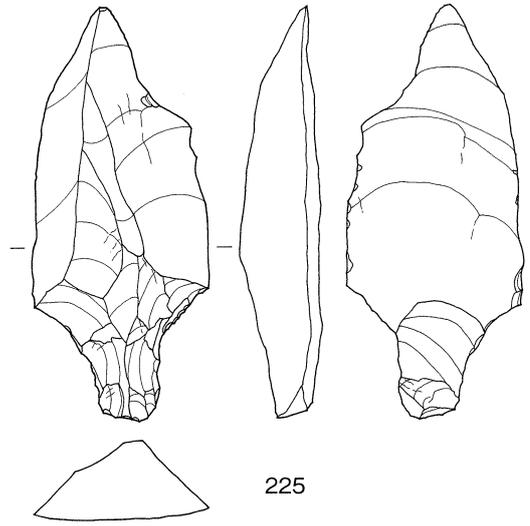
第51图 VI-VII层出土石器①



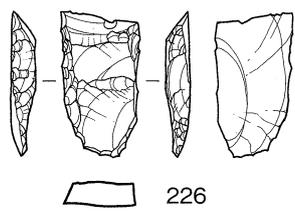
第 52 图 VI - VII 层出土石器②



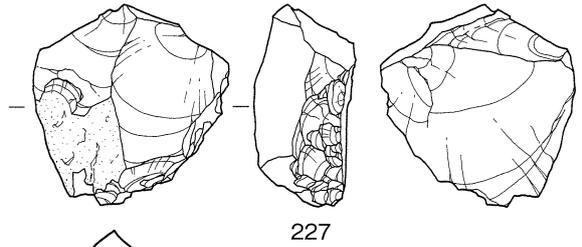
224



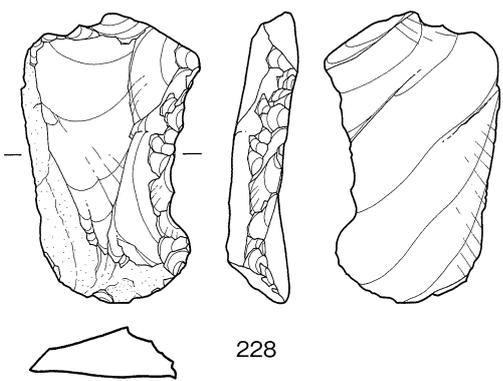
225



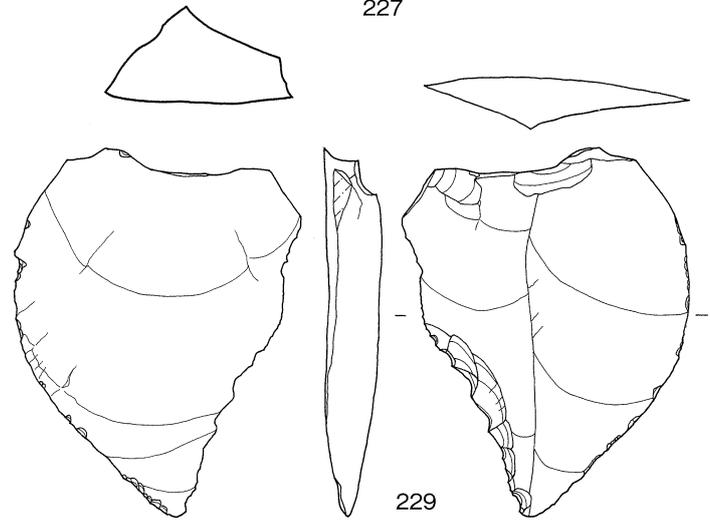
226



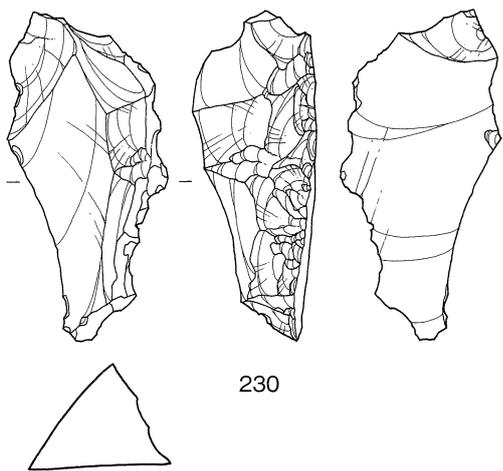
227



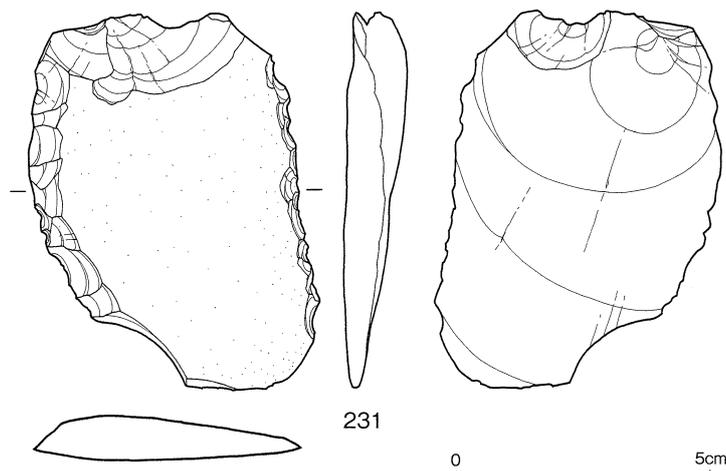
228



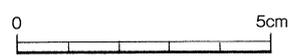
229



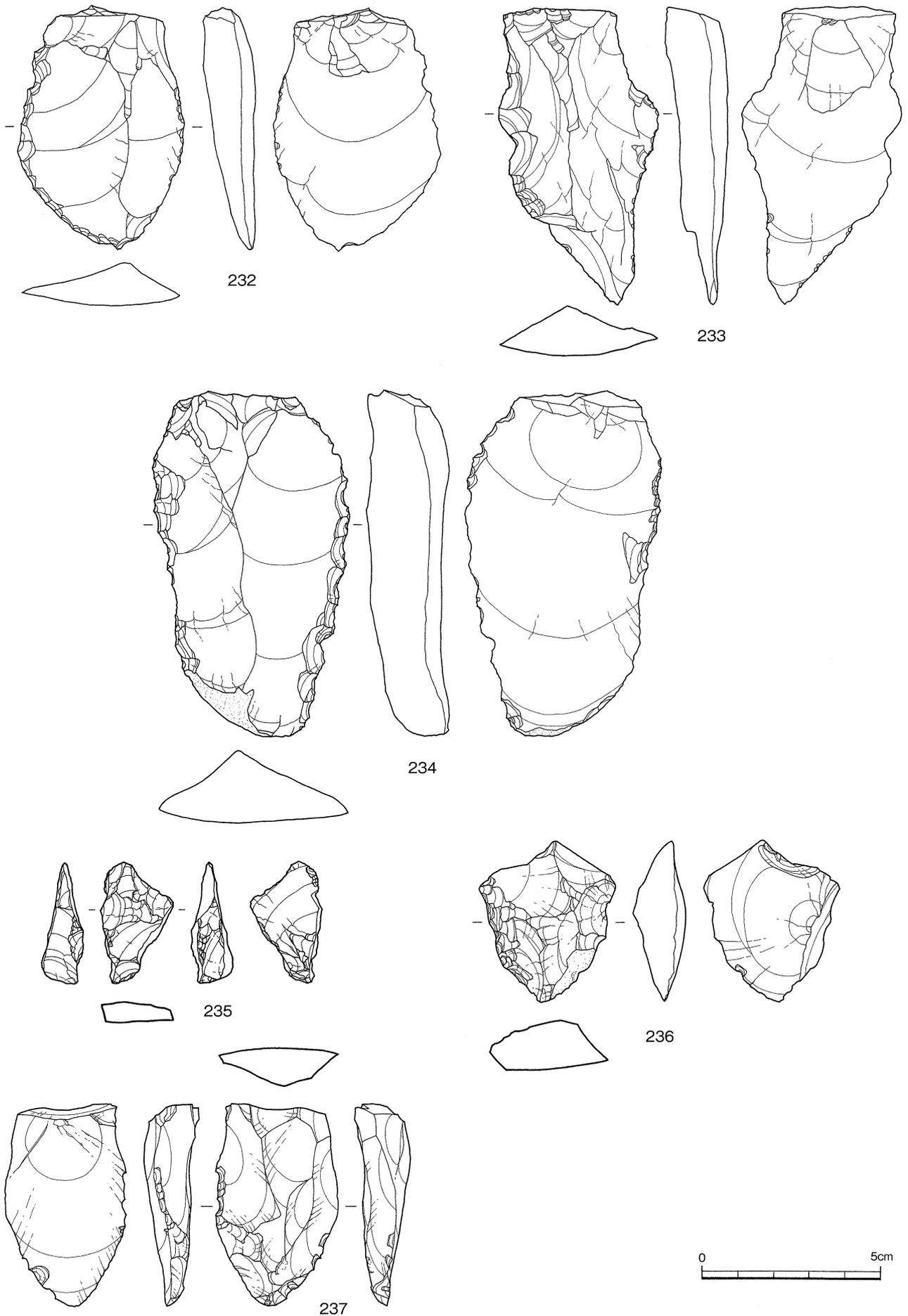
230



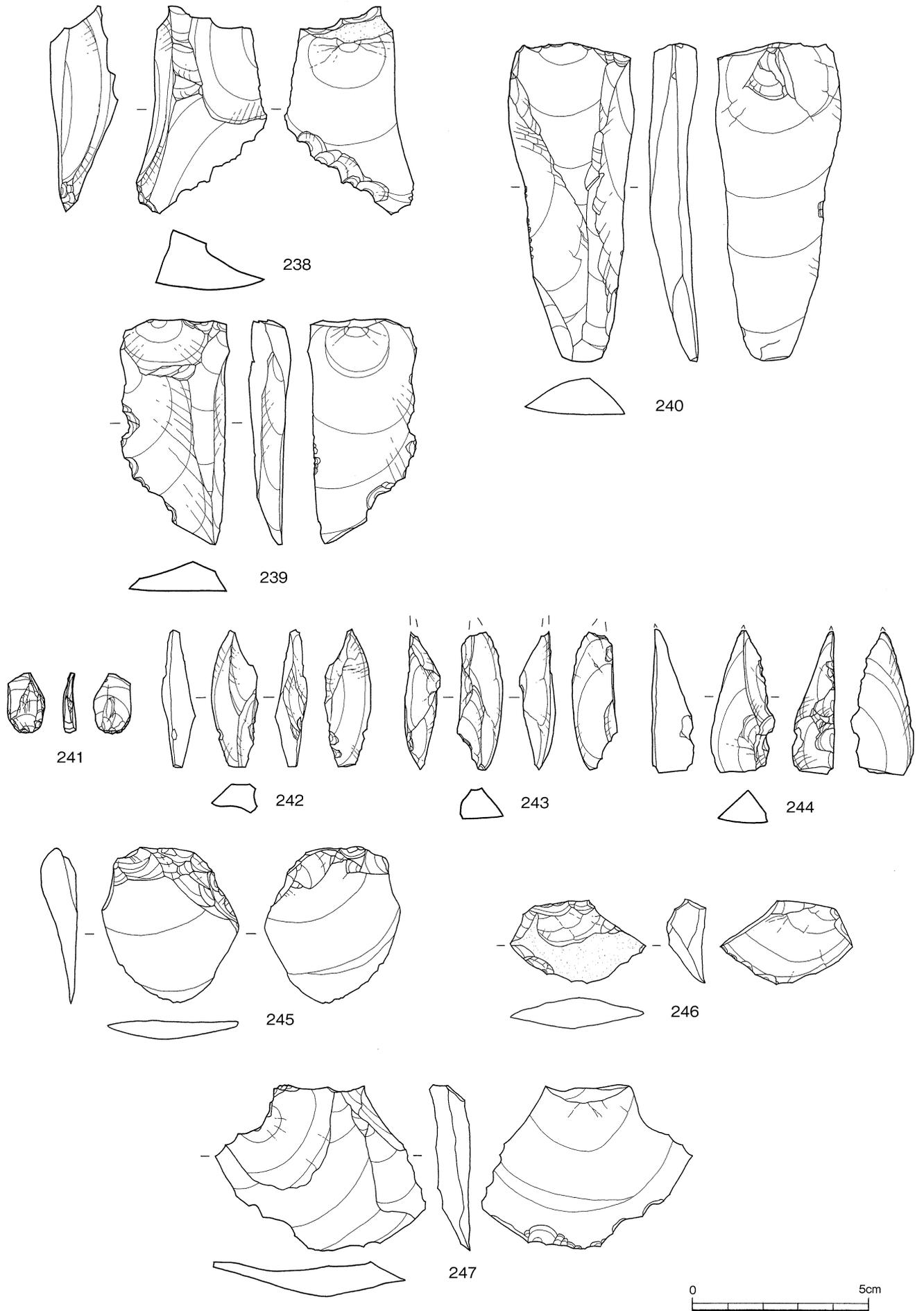
231



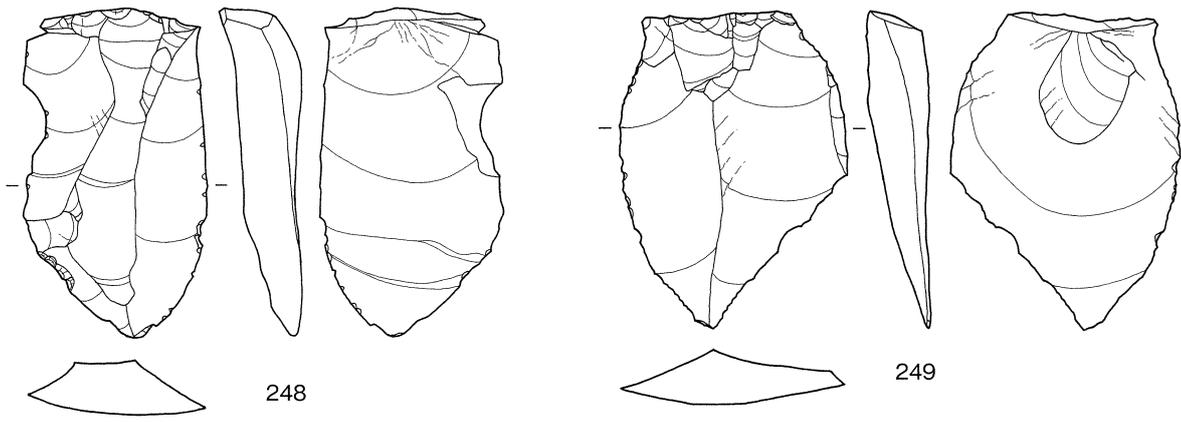
第 53 图 VI - VII 層出土石器③



第 54 图 VI - VII 层出土石器④



第55图 VI-VII层出土石器⑤

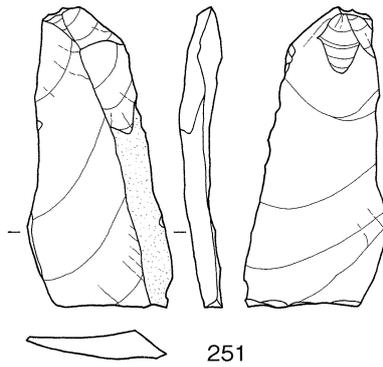


248

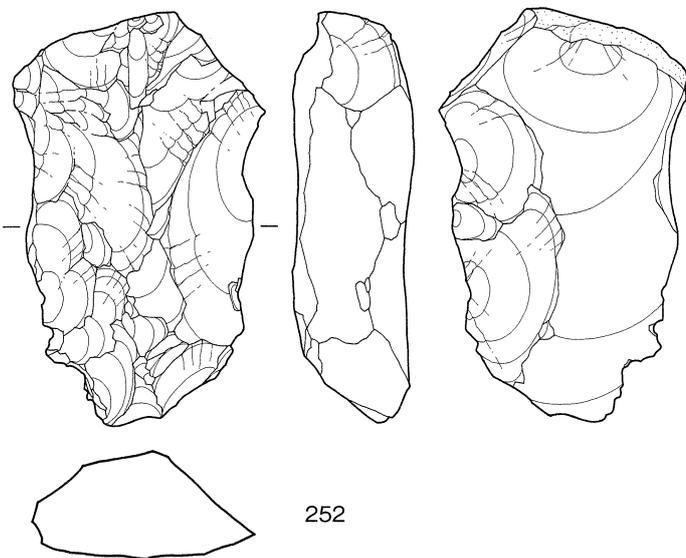
249



250



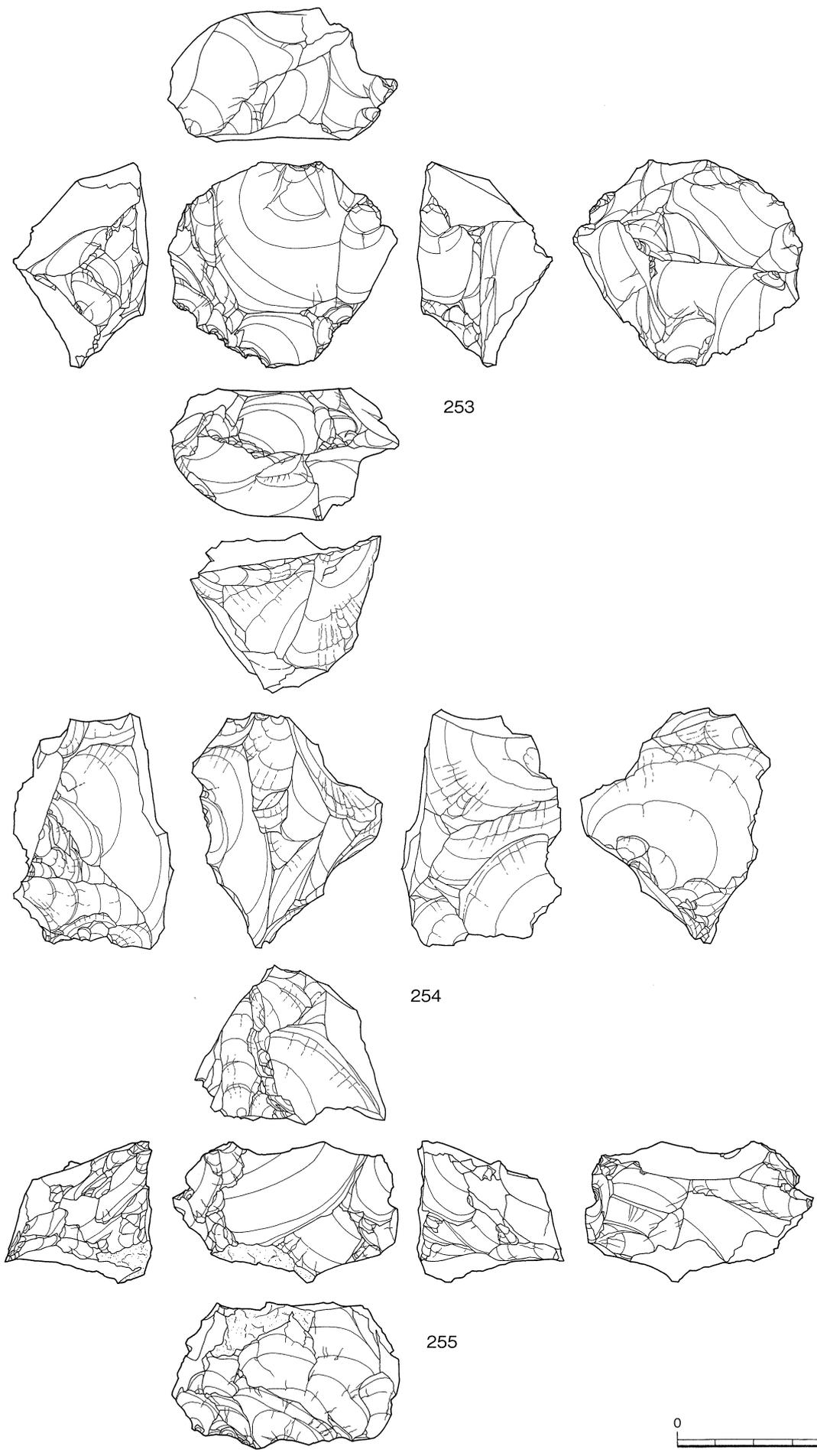
251



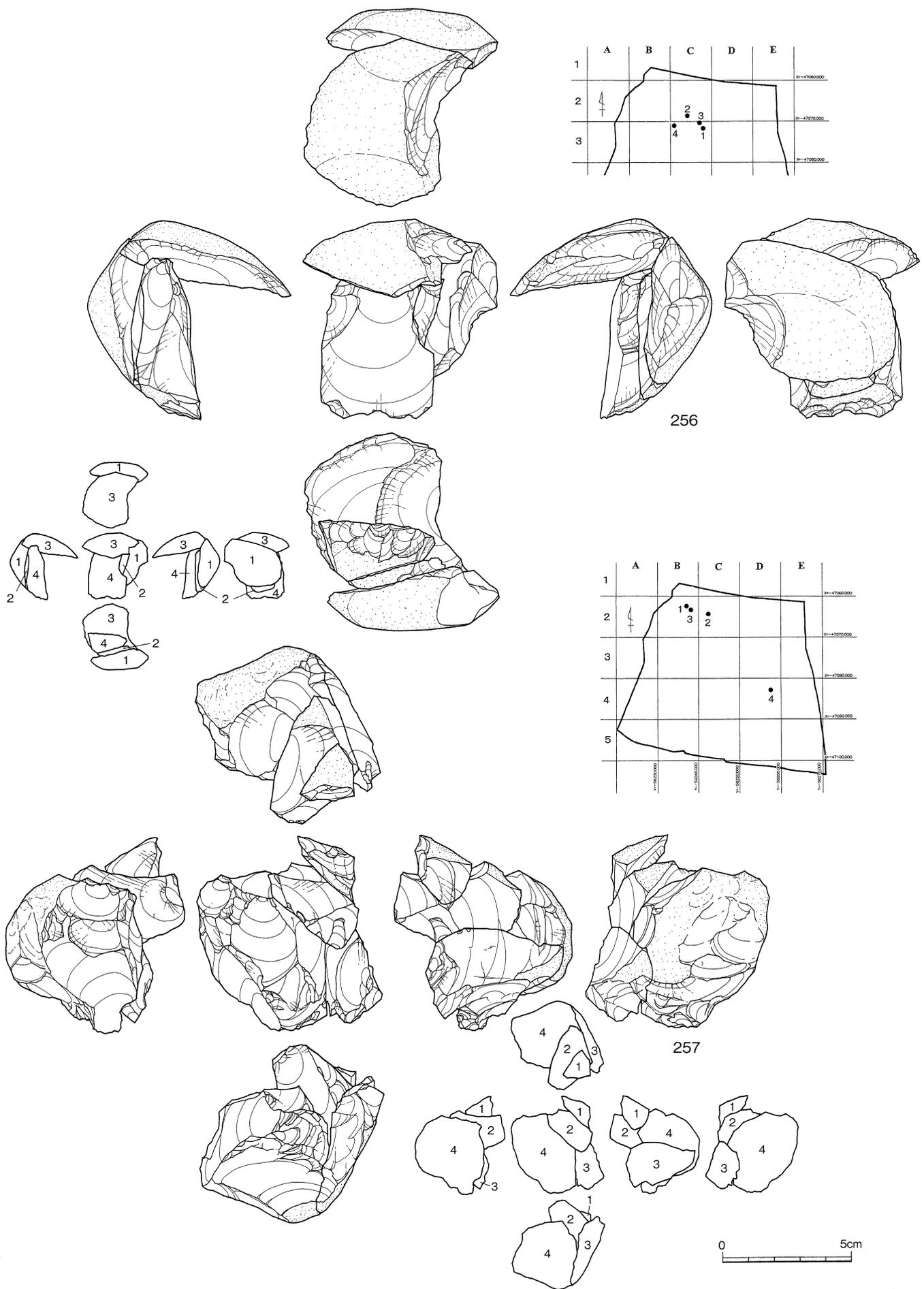
252



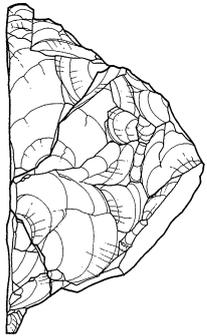
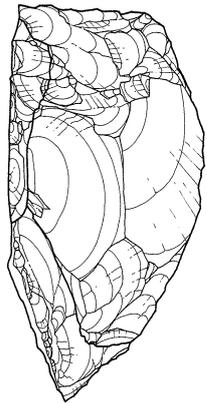
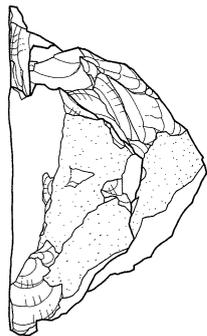
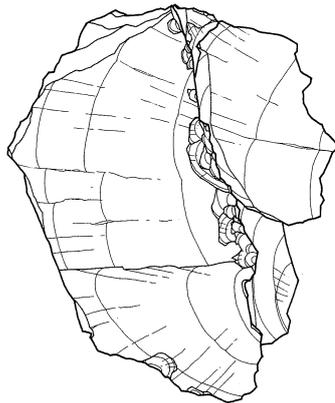
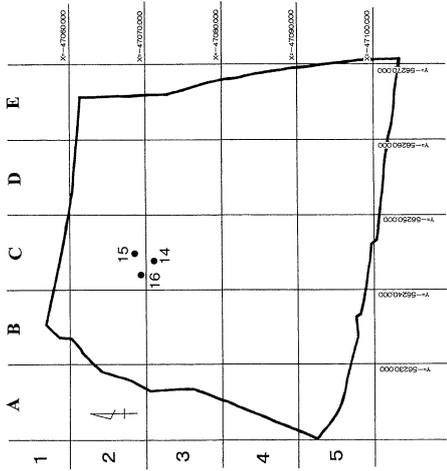
第 56 图 VI - VII 层出土石器⑥



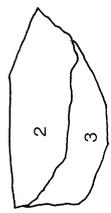
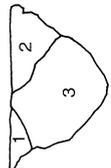
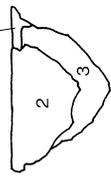
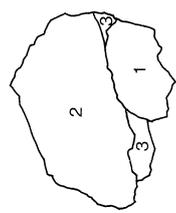
第 57 图 VI - VII 层出土石器⑦



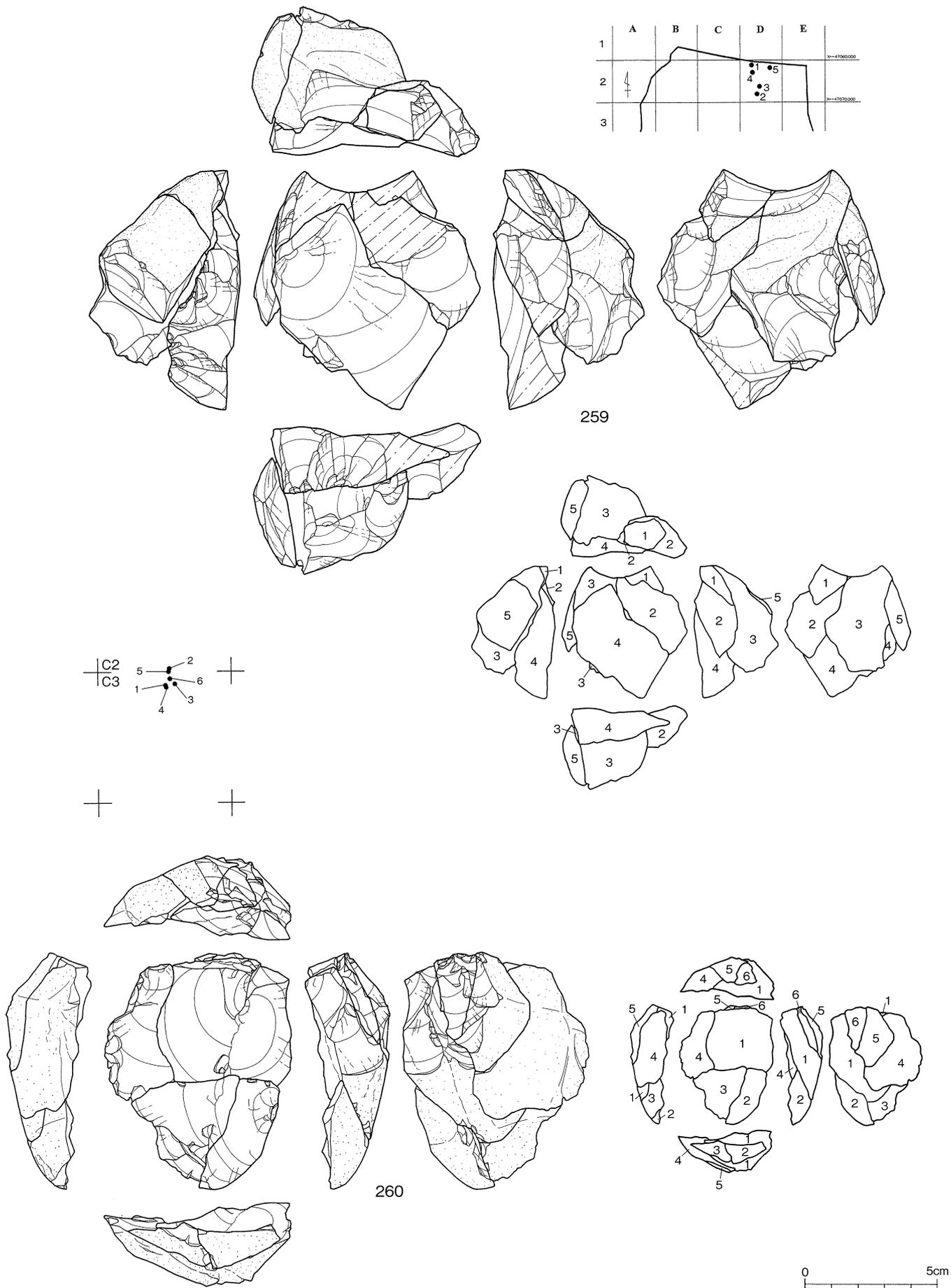
第 58 图 VI - VII 层出土石器⑧



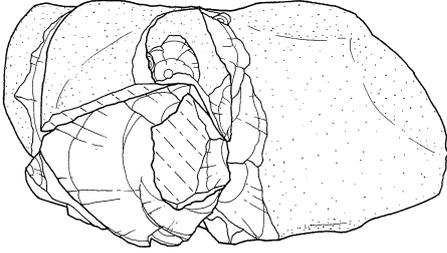
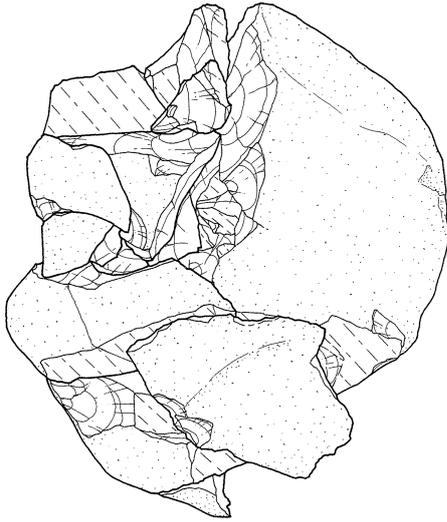
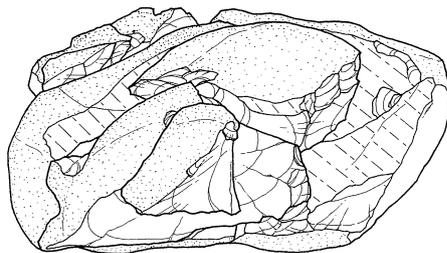
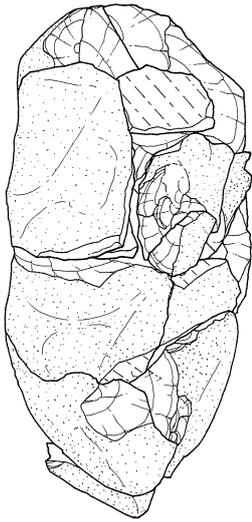
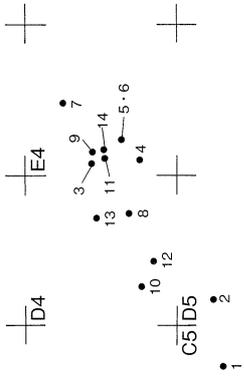
258



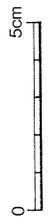
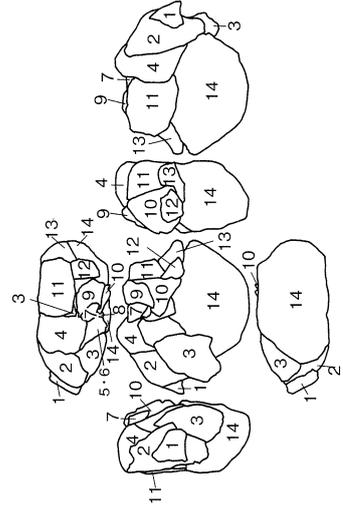
第 59 图 VI - VII 层出土石器⑨



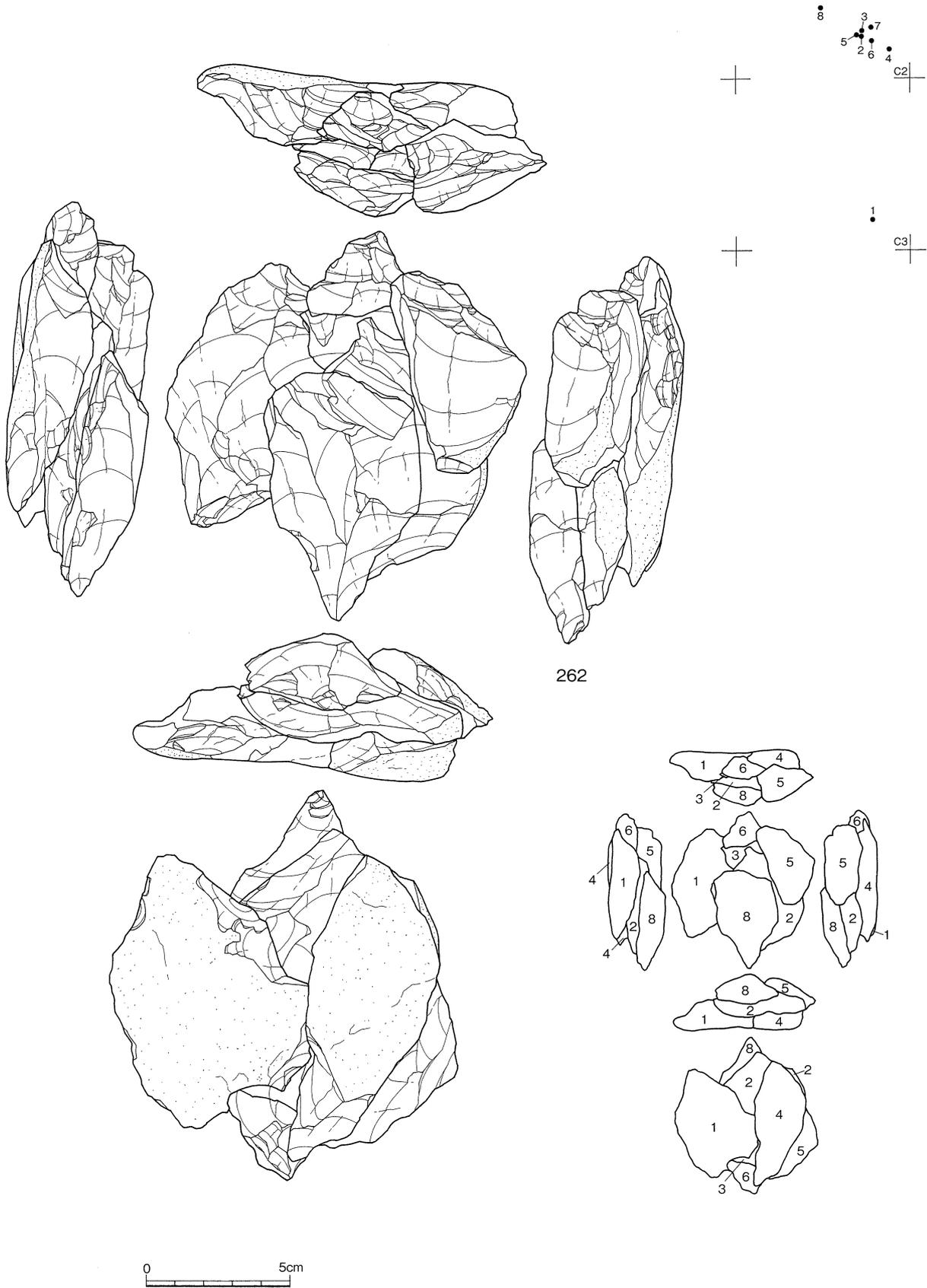
第 60 图 VI - VII 层出土石器⑩



261



第61图 VI - Ⅷ层出土石器①



第 62 图 VI - VII 层出土石器⑫

(5) 旧石器時代 F 面の調査 (Ⅷ—Ⅸ層) の調査・・・ナイフ形石器文化 4

第Ⅷ (AT) から AT 直下となるⅨ層からの出土した石器群で、ナイフ形石器を主体とする石器群である。この層位から出土する石器、剥片類の石材には流紋岩類 (R1、R2、R3、R4) が主体として用いられ、一部にチャート、ホルンフェルス、頁岩、石英の使用も少数ながら認められる。

ナイフ形石器 (第 64-65 図 263-290)

第 64-65 図 263 から 290 はナイフ形石器である。ナイフ形石器は縦長剥片を利用するものが主体となり、縦長剥片利用のものはさらに、一側縁加工のもの 271、276、277、280、281、283、285、二側縁加工のもの 263、264、265、266、267、268、269、270、272、273、275、279、282、284、287、288、290、一側縁と基部加工を組み合わせたもの 278、286 がある。

他層出土のナイフと比べて細身で、打面・バルブを除去して先端、基部ともに尖らせる意図が顕著である。代表例は、264、265、267、268、274、287 である。266、288 のように一側縁の二辺の長さを同じにして二等辺三角形に成形するものがある。289 は、折れた先端の一部を再加工したもので下端の一辺にブランディングが見られる。

この層位から出土したナイフ形石器の完形 20 点の平均長、幅、重量は、それぞれ 3.99cm、1.46cm、3.5g である。

搔器 (第 65-66 図 291-302)

291、292、293、294、295、296、297、298、299、300、301、302 の 12 点は搔器である。291 は、腹面に打面とバルブをのこす不定形剥片の下端部に比較的雑な剥離を施すものである。下端部の潰れは使用痕の可能性もある。292 は、これも打面とバルブをそのままのこす厚形の縦長剥片の下端部に急角度の剥離を施すエンドスクレーパーである。背面に自然面をのこしている。293 は、薄手の幅広な不定形剥片を素材とした搔器で右側縁から下端部にかけて弧状に腹面からの剥離が顕著である。腹面に打面とバルブをのこしている。294 も、右側縁から下端部にかけて弧状に剥離が加えられ、全体に楕円形に整形されている。295 は、不定形剥片の末端部に急角度の剥離がみられる。右側縁は節理面である。296 は、背面に連続的な剥離を加えて円形にちかく整形し、さらに腹面から急角度の剥離を施して成形する円形搔器である。とくに、末端部の調整は腹面からの急角度の剥離となる。この資料では、打面にも剥離痕が観察される。297 は、296 に似るが、打面に調整を行わない。下端部に弧状に剥離が並ぶエンドスクレーパーで分厚い剥片を素材としている。298 は、縦長剥片の末端部に細かな剥離がみられる典型的なエンドスクレーパーである。299 は、297 に似る蛤貝状のスクレーパーである。末端部の刃部調整が他と異なっており、299 は剥離を背面と腹面の両面から相互に加えて刃部を作出している。300、301 は、縦長剥片を折り取って出来た端部の一辺を、腹面から急角度の剥離を加えて刃部としたものである。よって、刃部は直線刃となる。302 は、蛤貝状のスクレーパーである。背面に自然面をほとんどのこしており端部に腹面からの最小限の剥離で止めている。

削器 (第 66-67 図 303-308)

303、304、305、306、307、308 の 6 点は削器である。304 は、不定剥片を素材とするもので上端の一

刃が刃部となる。背面に自然面をのこし、腹面のバルブ下にも背面からの粗い剥離がみられる。306、307は、縦長剥片を折りとってスクレーパーとしたものである。308は大型の縦長剥片を素材としたもので両側縁の中央付近に背面から施された剥離が見られる。また、末端の一部には腹面からの急角度の剥離痕がありエンドスクレーパーとしても使用された可能性がある。

敲石（第 67 図 309）

309は、折損した砂岩製の長円礫で、下端部に打撃によって縦割れした剥離痕がのこる。

二次加工剥片（第 67-68 図 310-316）

310、311、312、313、314、315、316は、二次加工のある剥片である。310、311は水晶製の小型剥片で310は左側縁、311には両側縁と基部付近に微細な加工がみられる。312、313は石核から調整剥離された分厚い剥片で背面に剥離痕をのこす。313は下端に自然礫面をもつ。314、315、316は腹面に打面とバルブのある縦長剥片を利用している。

石核（第 68-69 図 317-320）

317、318、319、320は石核である。

318は、単打面の石核で、周縁に短い剥片を作出した痕跡がのこる。また、周縁の部は自然礫面となっている。319は、自然礫面をのこす剥片石核で、自然礫面と対向する面に不定剥片を作出した痕がのこる。320は、数カ所の平坦打面を有して多方向から幅広の剥片を剥いだ痕ののこる石核で、母材の自然礫面を全くのこさず多面体形に成っている大人の拳大の石核である。

接合資料（第 70-72 図）

接合資料 321

剥片 9 点からなる大人の拳大の円礫を母材とする接合資料でⅧ層下位の出土である。表皮剥ぎの過程で生じた調整剥片が接合したものであるが、表皮からの打撃過程で生じた平坦打面から直接良形の剥片の獲得を意図したと思える剥離痕がのこる大破片が観察できる資料である。石材は良質の灰色系流紋岩で、5D 区において 2 m 範囲に集中して出土している。

接合資料 322

剥片 4 点、石核 1 点、計 5 点からなる接合資料でⅧ層下位の出土である。現状は幼児の拳大を呈し、自然面が無いほど調整された状態である。表皮を剥いだ後に、上面及び下面を打割して平坦面を作り出している。上面には打面再生を行った痕跡がみられ、更新された打面で再び剥離が続けられている。石核の側面には少なくとも 6 点の剥片を作出した痕跡を残している。出土地点は 4D 区で、4 m 範囲に集中している。

接合資料 323

調整剥片 2 点、石核 1 点、計 3 点からなる母材が大人の拳大より一回り小さな円礫となる接合資料で

Ⅷ層下位から出土している。剥片 2 点は表皮剥ぎ作業の過程で生じた調整剥片で自然面が残る。石核には打面を転位しながら幅広の不定形剥片を次々に剥離したあとが全面にのこっている。石材は、節理面の無い良質の灰色系流紋岩である。出土地点は 4D 区で、2 m 範囲に集中している。

接合資料 324

石核 1 点、剥片 2 点、計 3 点からなる乳児の拳大の接合資料でⅧ層上位から下位出土である。出土地点は 4D 区で、1 m 範囲に集中している。石核は、打面の再生、転位を繰り返しており全面にわたって剥ぎ取られた痕跡が残っている。残核の現状は角柱状を呈している。石材は良質の灰色系流紋岩である。

接合資料 325

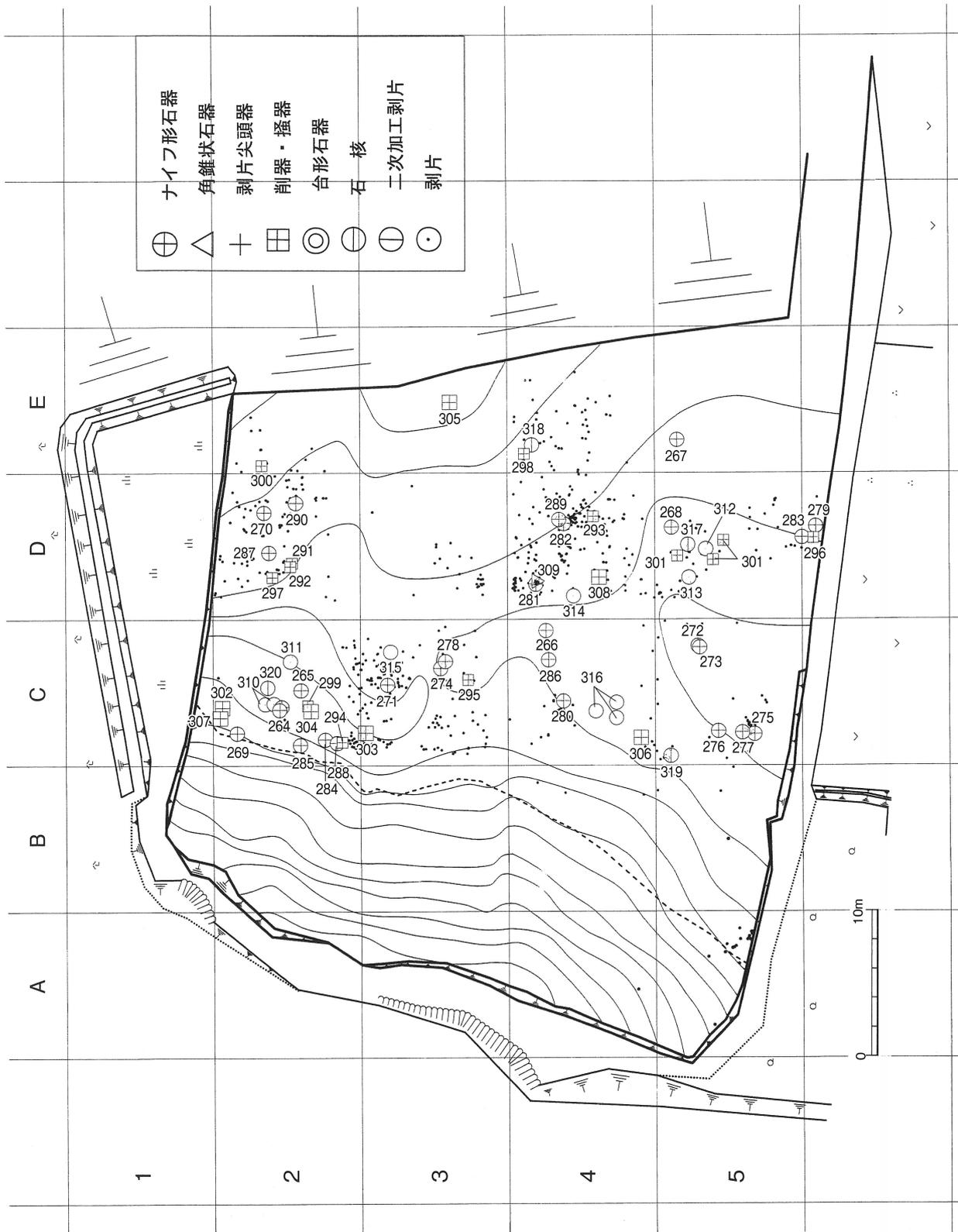
調整剥片 4 点、二次加工のある剥片 1 点が接合した推定原型が大人の拳大の円礫を母材とする資料である。検出自然面をのこす調整剥片のほか、二側縁に両面剥離の鋸歯状加工がみられる剥片 1 点が接合している。出土地点は 4D 区で、3 m 範囲に集中している。石材は良質の灰色系流紋岩である。

接合資料 326

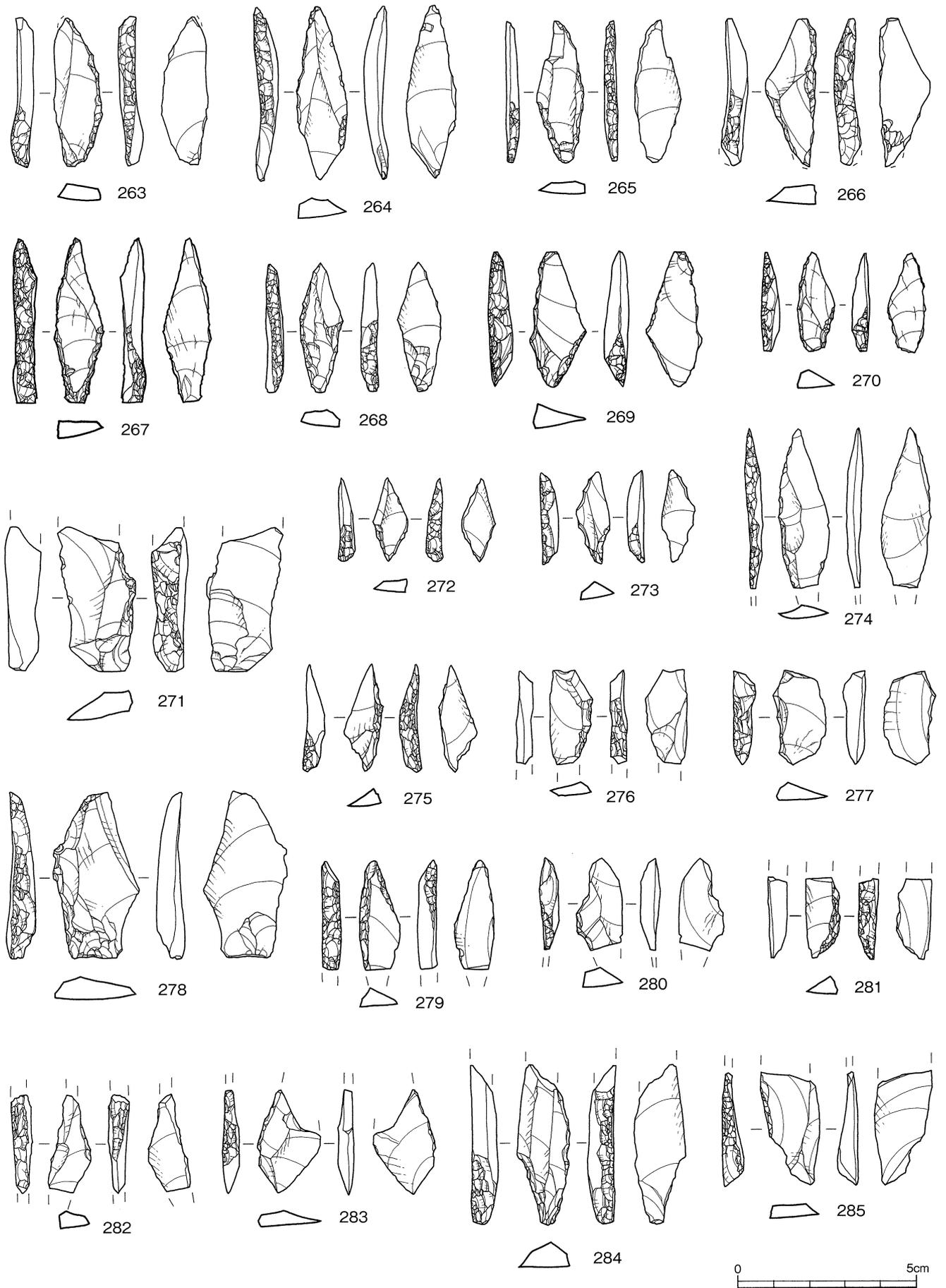
剥片 9 点からなる母岩が大人の拳大ほどになると推定される接合資料で、いずれもⅧ 5（Ⅷ層下位）から出土している。出土地点は C5 区で、6 m 範囲に集中している。母材を半裁した後に得られた平坦面を打面として剥ぎ取られた剥片が、その石核の輪郭に沿って弧状に接合するものである。石核本体は欠落している。剥ぎ取られた剥片は比較的幅の広い木葉状を呈している。石材は良質の流紋岩である。

接合資料 327

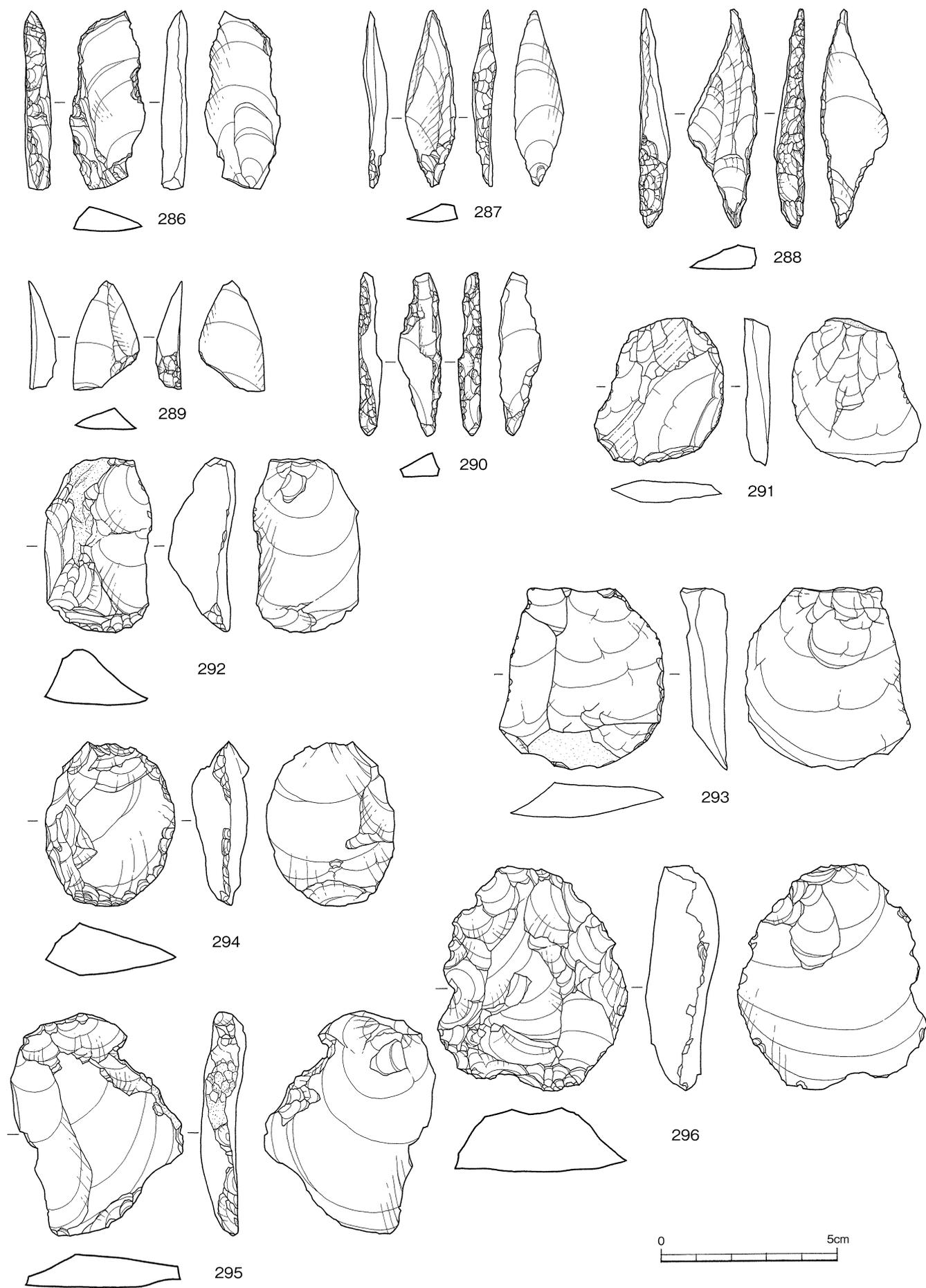
縦方向に連続して剥ぎ取られた縦長剥片 4 点が接合したもので、いずれもⅧ 5（Ⅷ層下位）から出土している。長さ 4.45cm を計る。連続して比較的薄く剥ぎ取られており、製作者の意図どおりの結果であったことが察せられる。石材は灰色系の良質な流紋岩である。出土地点は 5C 区で、ほとんどが 1 m 範囲に集中、最大でも 2 m 内に分布している。



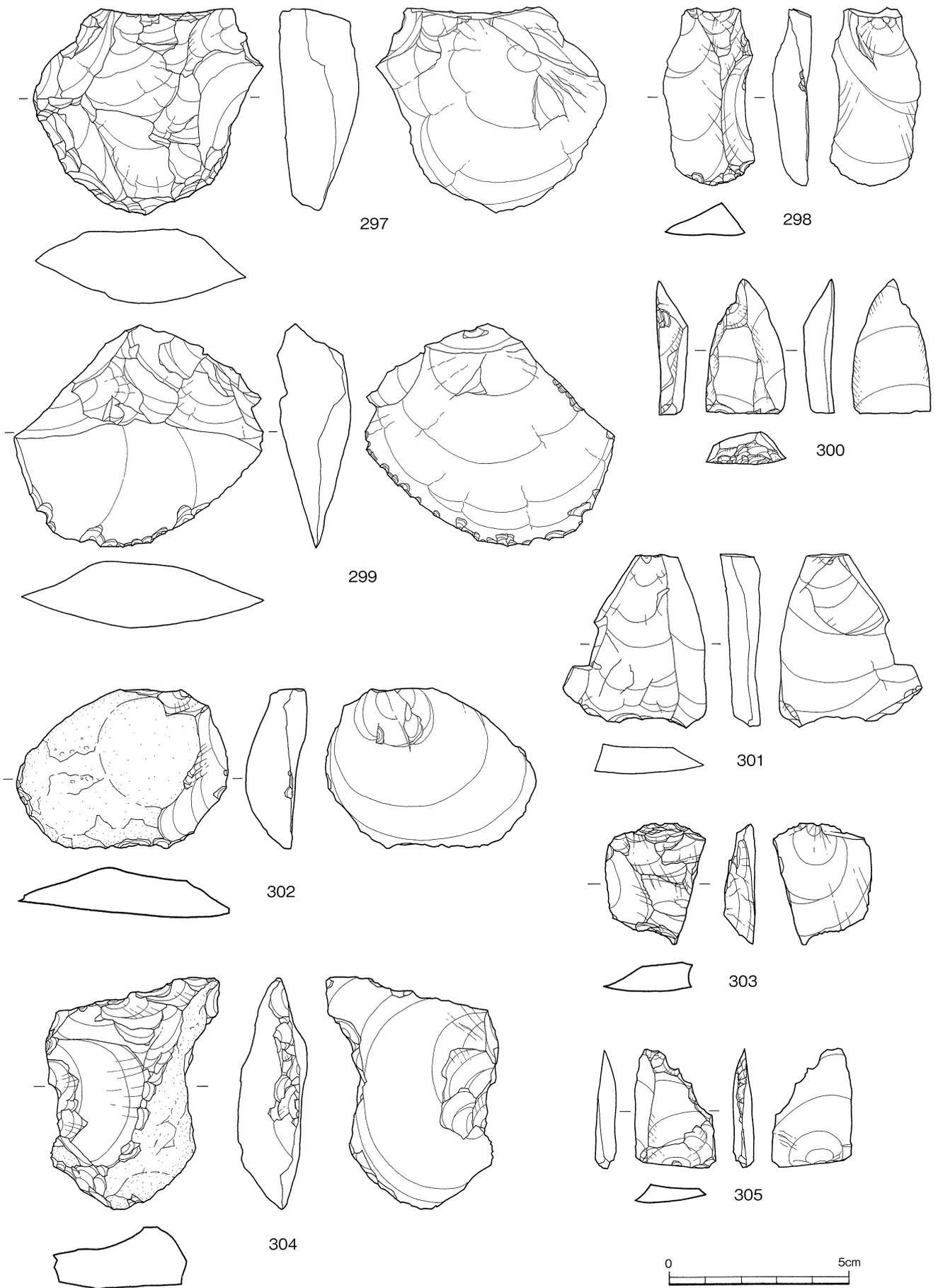
第63図 VIII - 区層検出状況図 (F面) (1/400)



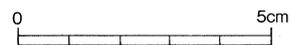
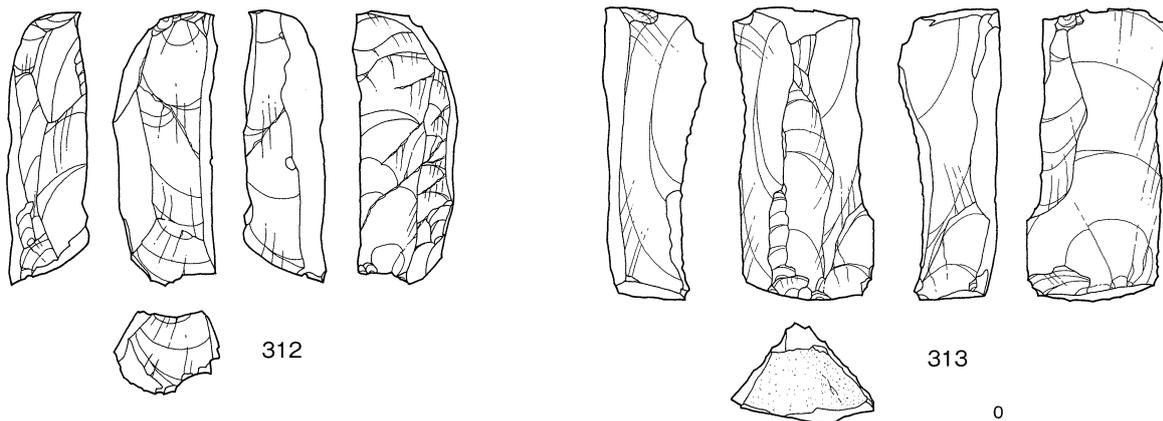
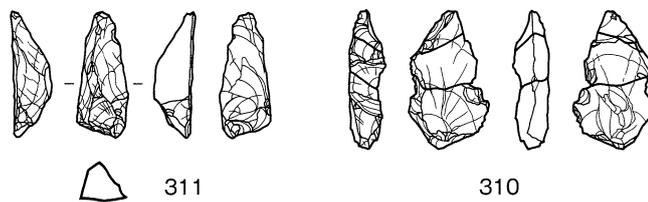
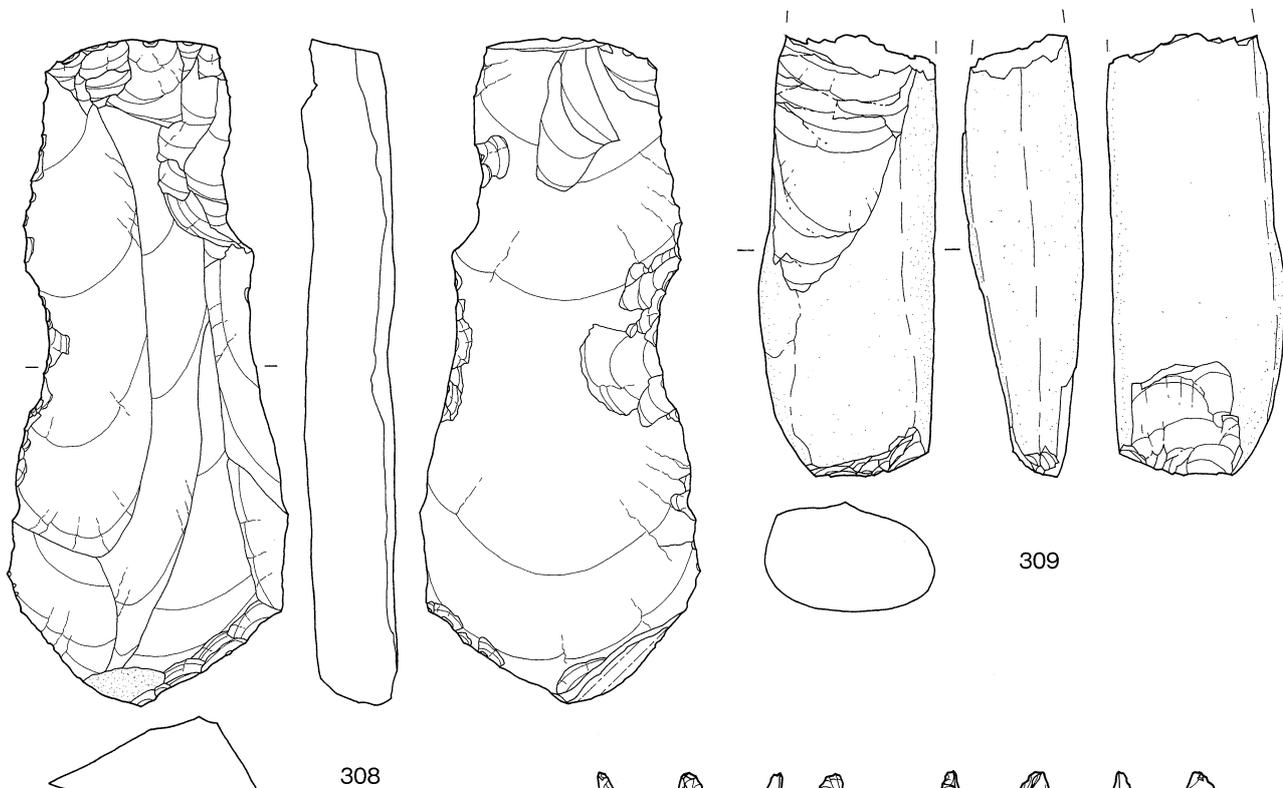
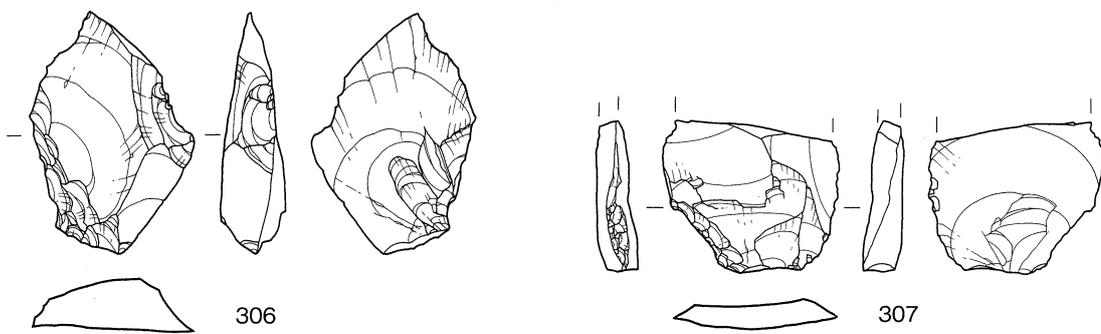
第 64 图 VII - 区层出土石器①



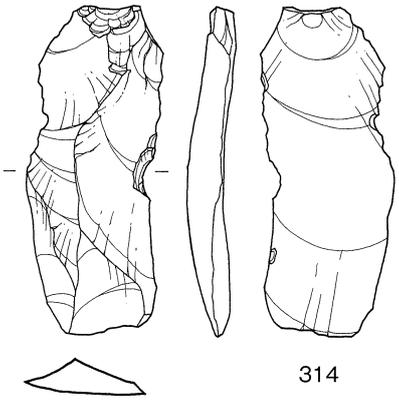
第 65 图 VIII - 区層出土石器②



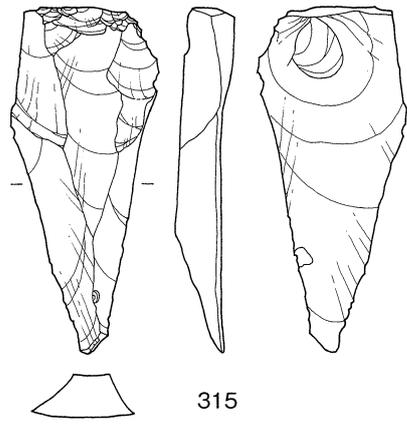
第 66 图 VIII - 区層出土石器③



第 67 图 Ⅷ - Ⅸ 层出土石器④



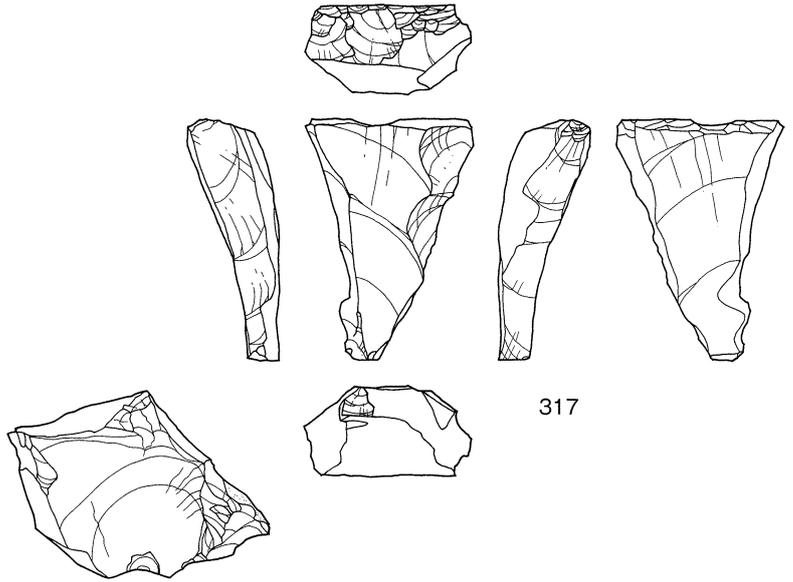
314



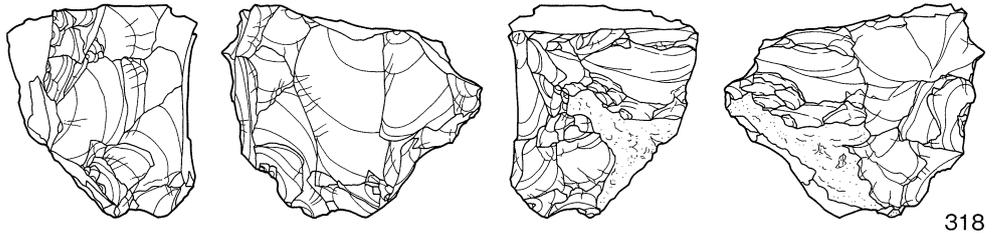
315



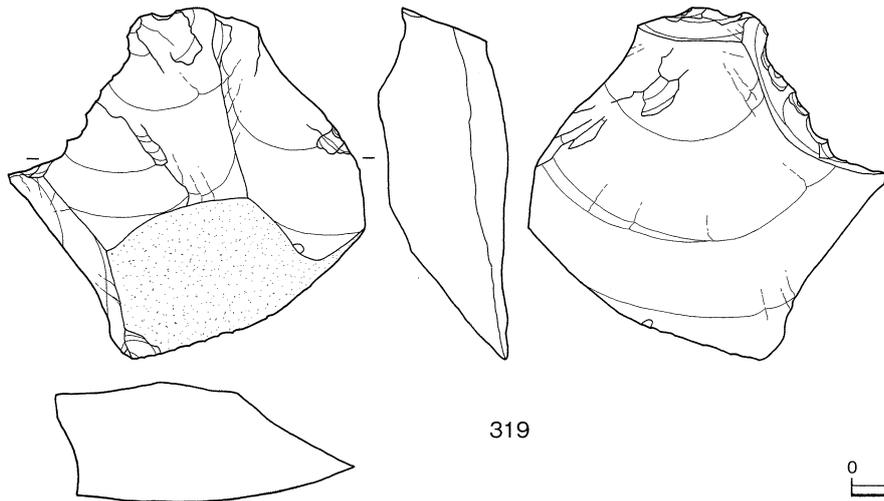
316



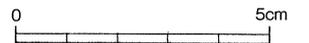
317



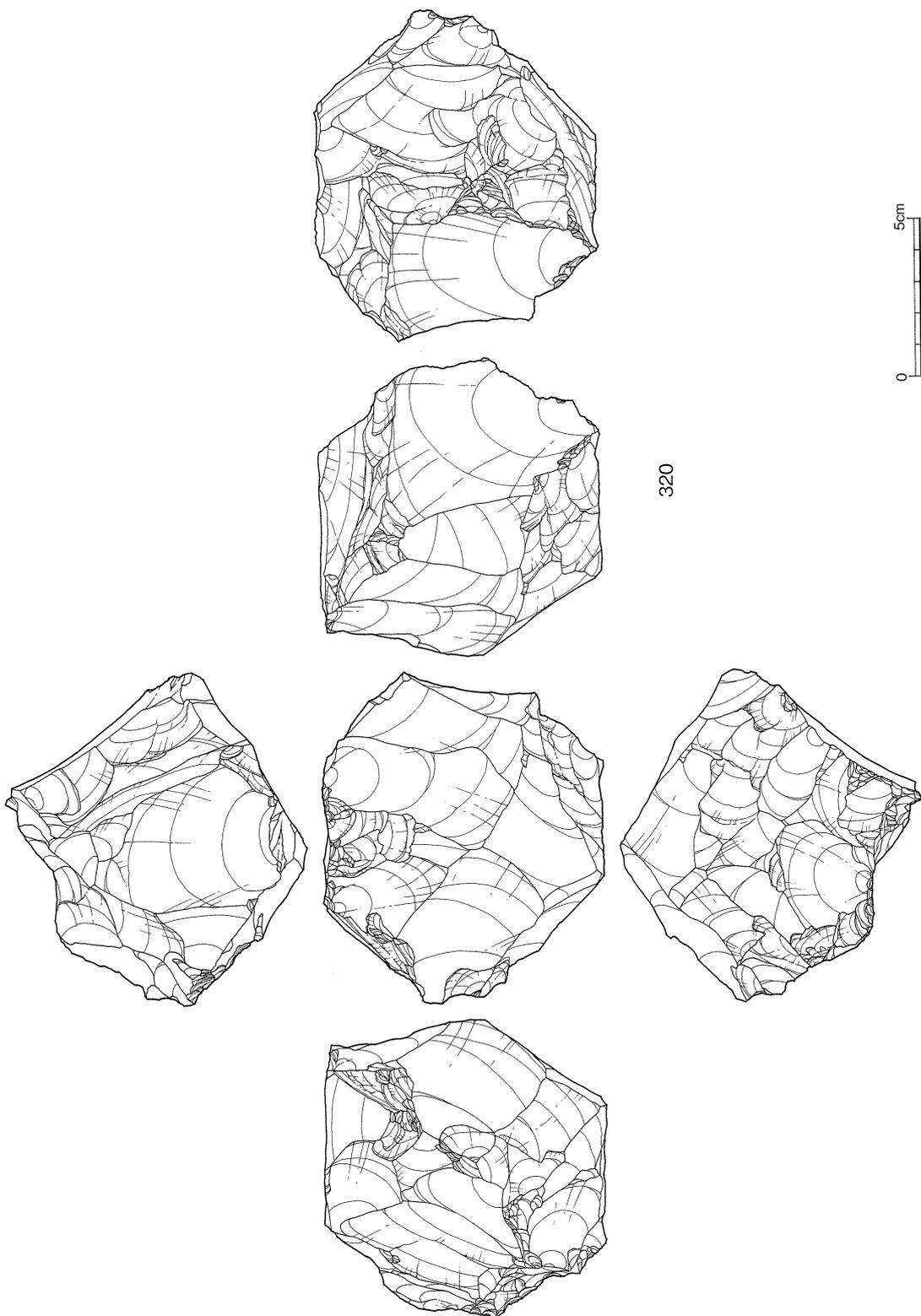
318



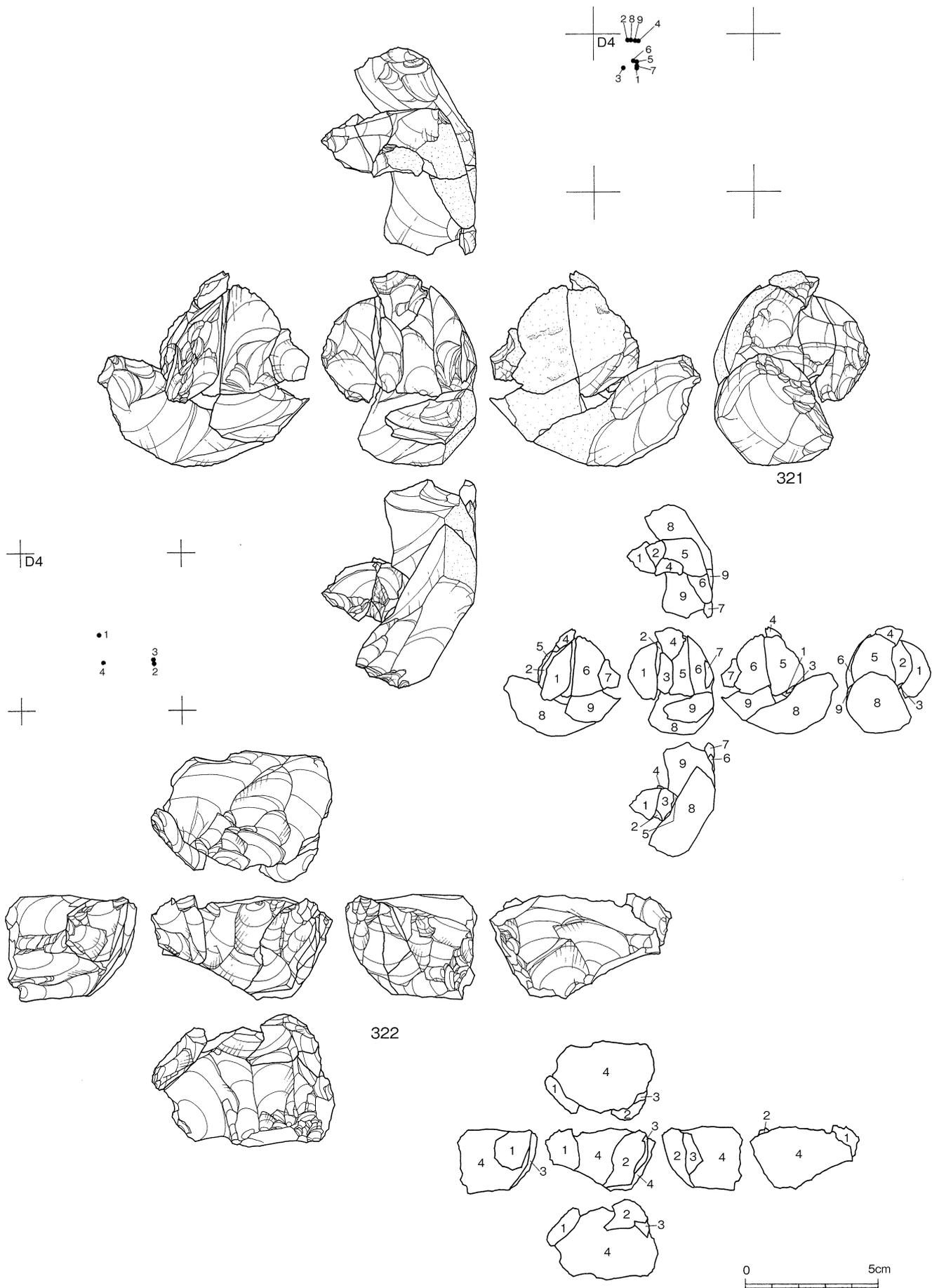
319



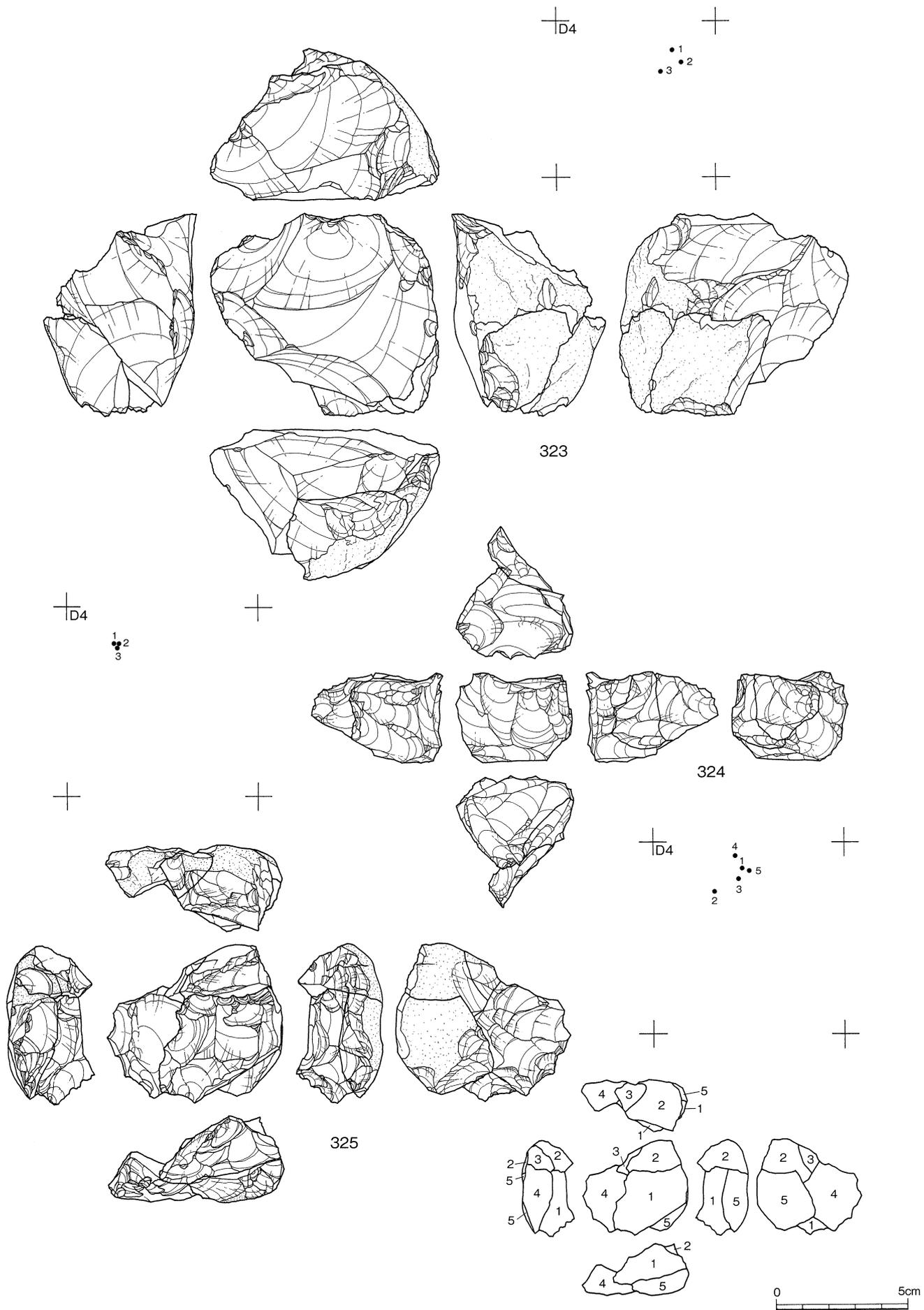
第 68 图 VIII - 区層出土石器⑤



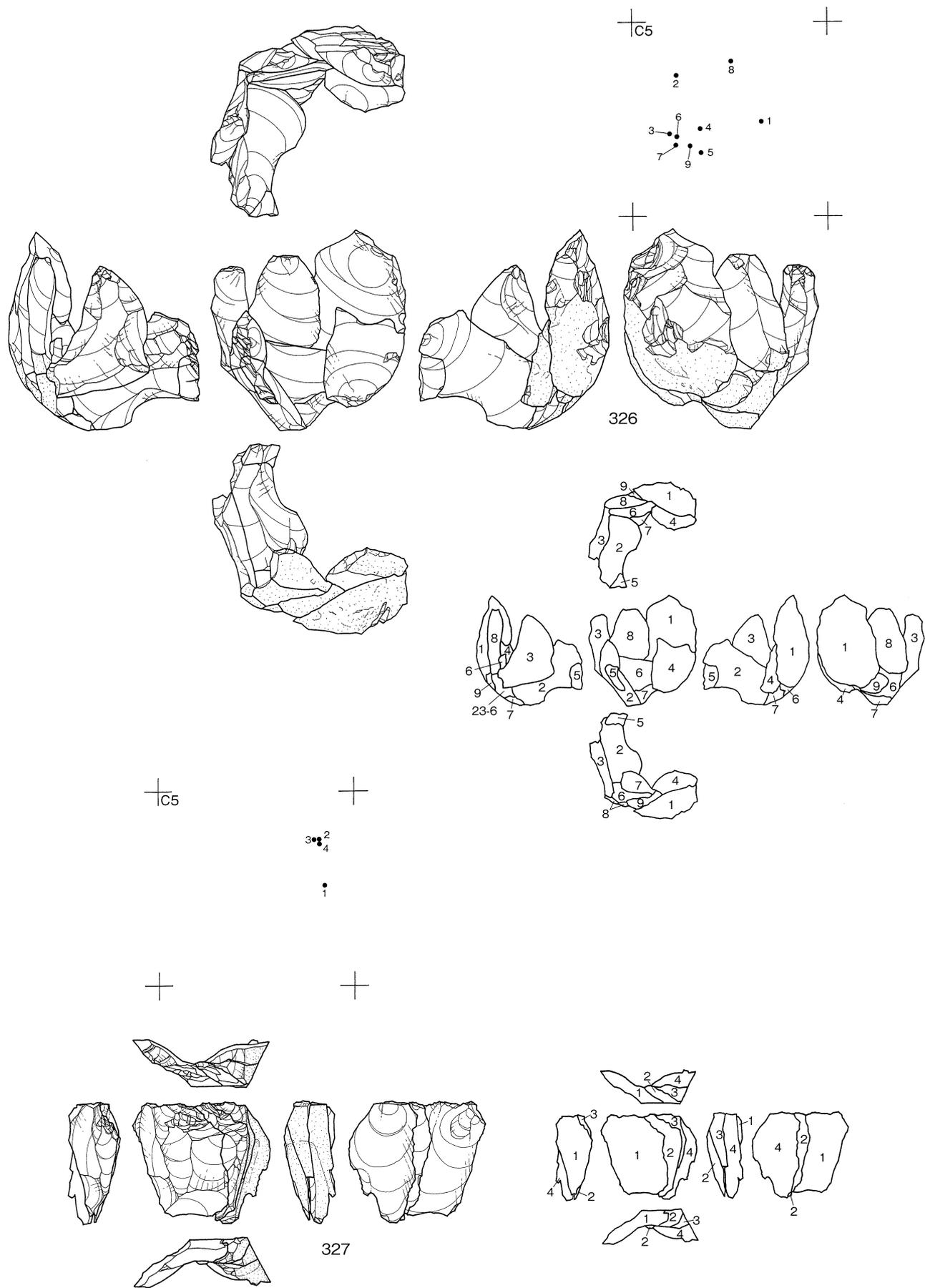
第 69 图 Ⅷ - Ⅹ 层出土石器⑥



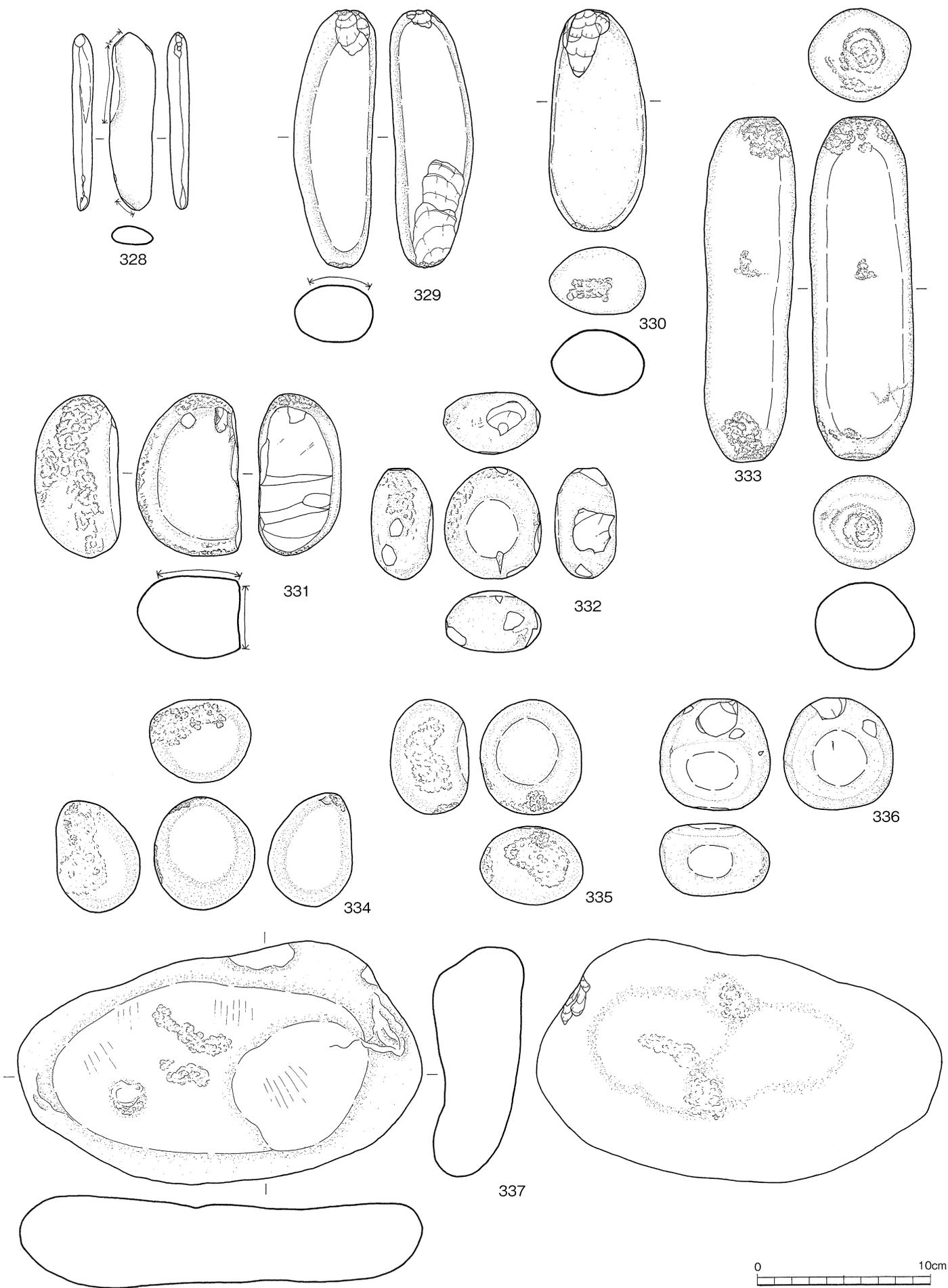
第70图 VIII-IX层出土石器⑦



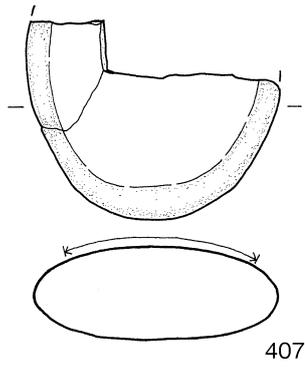
第 71 图 VIII - 区層出土石器⑧



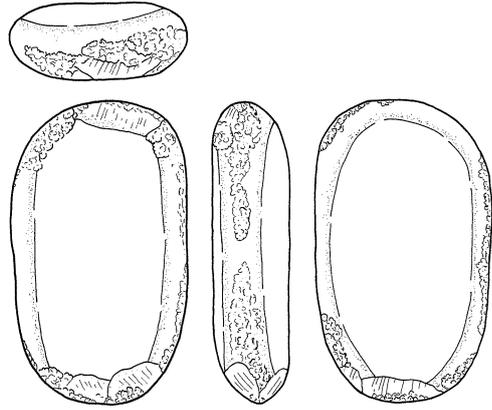
第 72 图 VIII - IX 层出土石器⑨



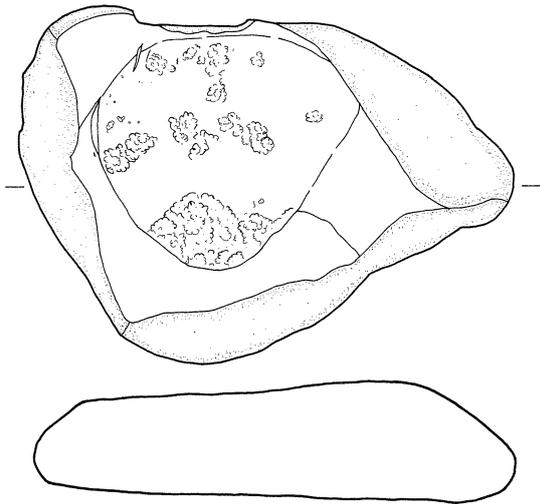
第73图 V.VI.VII层出土石器(敲石·磨石·台石)



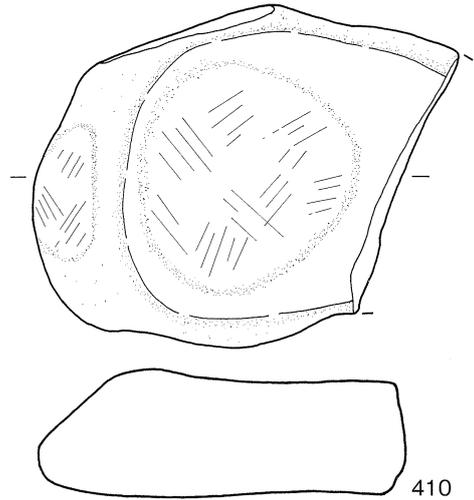
407



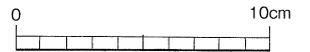
408



409



410



第74图 V.VI.VII层出土石器(磨石·台石)

第 4 表 赤木一次遺跡出土旧石器計測表

報告番号	実測番号	層位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
1	210	V1	C4	1147	細石刃	(2.25)	0.85	0.30	0.40	R1	
2	209	IV	C5	1037	細石刃	1.70	0.75	0.25	0.30	R1	
3	205	IV	D5	1669	細石刃核	1.20	1.65	1.95	3.30	Ob	
4	206	V1	C2	5424	細石刃核	2.75	2.60	2.10	13.40	R1	
5	208	V4	C5	649	細石刃核	1.50	3.05	1.55	5.50	R1	
6	207	V4	B4	397	細石刃核	2.25	3.20	3.45	21.40	R1	
7	203	IV	B3	1605	細石刃核	1.90	2.60	5.00	20.90	R1	
8	204	V4	C3	2134	細石刃核	4.85	4.20	8.00	155.20	R1	
9	202	V1	C4	1705	細石刃核	4.75	12.10	3.05	187.50	R1	
10	130	V4	C2	2673	細石刃核	4.90	2.30	1.85	19.80	R1	
11	545	V1・VI 5	C4・B4	1121・1140・412	接合資料剥片	6.20	5.20	3.60	104.00	R1	接合資料
12	544	V5・V4	B4	396・404	接合資料剥片	4.95	5.45	3.55	103.50	R1	接合資料
13	149	V2	D2	4130	尖頭器	7.30	3.45	0.95	24.30	R1	
14	4	V4	D5	1247	ナイフ形石器	6.00	1.75	0.90	7.90	R1	
15	5	V4	D5	1360	ナイフ形石器	5.05	2.00	0.80	7.30	R1	
16	69	V2	D2	4138	ナイフ形石器	4.80	1.90	0.95	9.00	R4	
17	66	IV	B3	1592	ナイフ形石器	3.90	1.25	0.60	2.40	R1	
18	28	V2	E4	3748	ナイフ形石器	(3.20)	1.25	0.65	2.10	R1	
19	33	VI 2	D5	1341	ナイフ形石器	(3.40)	2.10	0.65	3.80	R1	
20	65	IV	C5	1039	ナイフ形石器	3.40	1.80	0.85	4.20	R1	
21	31	V4	C3	2152	ナイフ形石器	(3.10)	1.45	0.70	2.30	R1	
22	32	V4	D2	4725	ナイフ形石器	(3.00)	1.80	0.65	3.70	R2	
23	34	VI 2	D4	3443	ナイフ形石器	(3.00)	1.75	0.75	2.80	R4	
24	29	V4	C4	1752	ナイフ形石器	2.20	1.40	0.65	1.80	R1	
25	78	VI 2	D4	3444	ナイフ形石器	4.70	1.85	0.65	4.30	R1	
26	68	V2	C3	2097	ナイフ形石器	(4.10)	1.80	0.80	6.20	R2	
27	67	V1	C5	739	ナイフ形石器	3.50	1.60	0.80	4.30	R2	
28	164	V1	C5	753	ナイフ形石器	4.95	3.00	1.10	12.60	R1	
29	79	VI 2	D4	3445	ナイフ形石器	2.35	1.00	0.50	0.90	R4	
30	146	V1	D2	5303	ナイフ形石器	4.85	1.80	0.75	6.00	R2	
31	27	V1	D5	1193	ナイフ形石器	3.25	1.60	0.80	4.10	R1	
32	145	V4	D2	4158	ナイフ形石器	4.65	1.95	1.15	8.80	R2	
33	123	V2	C4	2431	ナイフ形石器	5.15	1.55	1.15	7.00	R2	
34	26	V1	D5	1173	ナイフ形石器	3.95	1.80	1.10	7.30	R4	220 と接合
35	30	V4	C3	2139	ナイフ形石器	(4.20)	1.45	1.00	6.50	R1	
36	139	V1	C5	1529	ナイフ形石器	4.35	1.35	1.00	4.80	R1	
37	136	V1	C5	762	角錐状石器	4.50	2.40	1.35	10.60	R1	
38	135	V1	C5	719	角錐状石器	4.00	1.60	1.25	5.30	R1	
39	199	V4	D5	1666	搔器	3.90	3.00	1.35	16.80	R1	200・201 と接合
40	193	V1	C4	1130	削器	6.10	2.10	1.20	13.00	R1	
41	167	V2	C3	2140	削器	3.25	4.65	1.45	20.40	R1	
42	192	V2	D3	3786	削器	5.25	5.10	1.50	39.60	R1	
43	547	V4	C2	3027	削器	7.65	4.50	1.20	49.80	R1	
44	171	V1	C5	641	削器	7.70	5.10	1.65	61.20	R1	
45	201	V4	D5	1266	剥片	2.65	1.55	0.75	1.70	R1	199・200 と接合
46	3	V1	E3	1920	剥片	5.20	2.60	1.10	15.70	R1	
47	2	V1	C5	1528	剥片	(6.20)	3.00	1.55	24.60	R2	
48	546	V1	C4	1134	剥片	6.80	2.70	1.10	20.20	R1	
49	556	IV	B5	182	剥片	6.95	7.20	1.00	30.20	R1	
50	554	IV	D5	1639	剥片	7.00	3.95	1.35	34.10	R1	
51	575	V4	B3	1614	剥片	5.25	4.40	1.35	22.50	R1	
52	576	V4	E5	3095	剥片	11.05	5.60	3.00	143.90	R1	
53	220	V1	D5	1182	石核	4.95	2.30	2.10	21.40	R4	26 と接合
54	342	V2	C4	1765	接合資料剥片	9.25	4.99	2.18	73.20	R1	接合資料 54 - 1
	343	V2	C4	1724	接合資料剥片	6.82	4.55	1.68	43.20	R1	接合資料 54 - 2
	344	IV	C4	1695	接合資料剥片	2.18	2.27	0.63	3.00	R1	接合資料 54 - 3
	345	V4	C4	1769	接合資料剥片	5.60	4.47	1.30	28.60	R1	接合資料 54 - 4
	346	V5	C4	1781	接合資料剥片	6.76	5.90	1.91	70.90	R1	接合資料 54 - 5
	347	VI 5	C4	1837	接合資料剥片	4.60	3.49	0.86	12.70	R1	接合資料 54 - 6
	348	V2	C4	2050	接合資料剥片	9.33	8.52	5.11	349.40	R1	接合資料 54 - 7
349	VI 5	C4	2015	接合資料剥片	5.47	3.23	1.35	17.60	R1	接合資料 54 - 8	
55	417	V1	D5	1188	接合資料剥片	4.66	3.86	1.58	34.90	R2	接合資料 55 - 1
	418	V4	D5	1248	接合資料剥片	3.09	1.54	0.34	1.60	R2	接合資料 55 - 2
	419	V4	D5	1241	接合資料剥片	5.06	3.63	1.73	23.60	R2	接合資料 55 - 3
	420	VI 5	C5	977	接合資料剥片	2.70	1.46	0.58	2.20	R2	接合資料 55 - 4
	421	IV	C4	1783	接合資料剥片	3.01	1.51	0.83	3.40	R2	接合資料 55 - 5
422	V2	C4	1719	接合資料剥片	2.79	1.94	0.88	4.70	R2	接合資料 55 - 6	
56	436	IV	B3	1570	接合資料剥片	4.59	2.66	2.41	24.30	R1	接合資料 56 - 1
	437	V2	C5	795	接合資料剥片	3.70	2.01	0.98	7.40	R1	接合資料 56 - 2
	438	V4	C5	1514	接合資料剥片	3.81	1.83	0.67	3.70	R1	接合資料 56 - 3

報告書番号	実測番号	層位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
56	439	VI 4	C5	725	接合資料剥片	6.27	5.36	3.01	67.10	R1	接合資料 56 - 4
	440	VI 1	C5	715	接合資料剥片	5.92	2.77	1.80	29.30	R1	接合資料 56 - 5
57	397	V1	C4	1696	接合資料剥片	5.15	5.40	4.80	147.30	R2	接合資料 57 - 1
	398	V2	C4	1732	接合資料剥片	5.05	3.05	1.60	21.60	R2	接合資料 57 - 2
	399	V5	B5	38	接合資料剥片	5.00	3.10	1.30	15.80	R2	接合資料 57 - 3
58	377	VI 5	C5	1547	接合資料剥片	5.55	4.56	1.98	37.50	Ch	接合資料 58 - 1
	378	VI 5	C5	690	接合資料剥片	5.26	4.69	2.24	62.30	Ch	接合資料 58 - 2
	379	V5	B5	2	接合資料剥片	3.71	3.69	1.38	16.10	Ch	接合資料 58 - 3
	380	V・VI	C5	1543	接合資料剥片	2.96	2.81	0.84	8.50	Ch	接合資料 58 - 4
	381	V4	C5	935	接合資料剥片	3.32	1.79	0.93	3.90	Ch	接合資料 58 - 5
	382	V5	C5	936	接合資料剥片	1.45	1.32	0.29	0.50	Ch	接合資料 58 - 6
	383	V5	B5	15	接合資料剥片	4.54	2.88	1.44	15.10	Ch	接合資料 58 - 7
	384	IV	D5	1652	接合資料剥片	3.33	1.60	0.92	3.20	Ch	接合資料 58 - 8
	385	VI 5	B5	100	接合資料剥片	2.68	2.46	0.91	4.80	Ch	接合資料 58 - 9
	386	VI 5	C5	1016	接合資料剥片	5.78	5.04	2.58	65.30	Ch	接合資料 58 - 10
	387	V・VI	C5	1538	接合資料剥片	4.48	2.10	1.19	9.30	Ch	接合資料 58 - 11
	388	VI 5	C5	1545	接合資料剥片	3.68	2.85	0.10	9.20	Ch	接合資料 58 - 12
	389	V4	C5	654	接合資料剥片	3.57	3.79	1.23	13.00	Ch	接合資料 58 - 13
	59	364	V5	D5	1264	接合資料剥片	6.52	3.23	2.09	30.50	R1
365		V5	D5	1371	接合資料剥片	5.44	3.68	1.55	21.40	R1	接合資料 59 - 2
366		V4	D5	1243	接合資料剥片	6.98	5.56	1.64	31.10	R1	接合資料 59 - 3
367		VI 4	C5	1052	接合資料剥片	8.55	7.51	3.35	154.80	R1	接合資料 59 - 4
368		V・VI	C5	954	接合資料剥片	6.54	4.71	1.07	26.60	R1	接合資料 59 - 5
369		V・VI	C5	914	接合資料剥片	6.20	3.07	1.25	20.40	R1	接合資料 59 - 6
370		V・VI	C5	882	接合資料剥片	5.40	2.49	0.89	12.40	R1	接合資料 59 - 7
	371	V4	D5	1235	接合資料剥片	4.64	2.94	1.18	15.00	R1	接合資料 59 - 8
60	9	V5	C3	2163	ナイフ形石器	5.45	1.85	0.95	9.30	R1	
61	12	V・VI	C3	3346	ナイフ形石器	(5.90)	2.45	0.80	9.70	R1	
62	13	VI 4	B5	89	ナイフ形石器	(5.20)	2.10	1.15	8.50	R1	
63	14	VI 4	C3	2229	ナイフ形石器	6.05	2.25	0.90	10.10	R2	
64	18	VI 5	C4	3289	ナイフ形石器	(5.00)	1.90	1.10	8.20	R1	
65	75	V・VI	B3	1635	ナイフ形石器	(4.45)	1.90	0.75	6.00	R1	
66	82	VI 4	C2	2734	ナイフ形石器	4.90	2.55	0.90	7.80	R1	
67	92	VI 5	B3	1582	ナイフ形石器	4.35	1.30	0.70	3.40	R1	
68	81	VI 4	C4	1821	ナイフ形石器	3.55	1.95	0.50	3.20	R1	
69	40	VI 5	C4	1858	ナイフ形石器	3.00	1.60	0.80	2.70	R2	
70	555	V5	B3	505	ナイフ形石器	5.90	2.50	1.75	20.50	R1	
71	35	VI 4	D4	3713	ナイフ形石器	(3.30)	1.80	1.10	6.10	R4	
72	72	V5	B3	585	ナイフ形石器	3.40	(1.10)	0.60	1.80	R1	
73	70	V5	B5	57	ナイフ形石器	3.60	2.10	1.00	6.10	R1	
74	87	VI 4	E2	4894	ナイフ形石器	4.60	1.30	0.80	2.80	R1	
75	39	VI 5	B3	1579	ナイフ形石器	2.30	1.15	0.55	1.10	R1	
76	89	VI 5	C5	687	ナイフ形石器	3.45	1.50	0.75	2.80	R2	
77	88	VI 5	B5	633	ナイフ形石器	3.80	2.60	1.00	9.20	R1	
78	10	V・VI	C5	899	ナイフ形石器	(7.15)	3.20	1.15	20.30	R1	
79	15	VI 4	E2	4896	ナイフ形石器	4.92	3.50	1.30	18.60	R1	
80	16	VI 5	B5	87	ナイフ形石器	7.10	3.00	1.00	17.20	R1	
81	156	VI 5	B5	228	ナイフ形石器	4.95	2.75	1.20	12.50	R1	
82	90	VI 5	C5	1048	ナイフ形石器	4.20	2.65	0.95	8.50	R1	
83	86	VI 4	D2	4780	ナイフ形石器	4.00	2.05	0.80	6.10	R2	
84	8	V5	B3	473	ナイフ形石器	6.80	3.00	1.00	19.20	H1	
85	7	V5	B5	81	ナイフ形石器	(5.35)	2.85	1.00	14.30	R1	
86	73	V5	D5	1456	ナイフ形石器	(3.40)	2.00	0.45	2.90	R1	
87	6	V5	B5	17	ナイフ形石器	(6.60)	3.00	1.20	17.30	R2	
88	11	V・VI	C2	2691	ナイフ形石器	(5.60)	3.25	0.85	11.50	R1	
89	17	VI 5	C5	1537	ナイフ形石器	5.65	3.10	1.05	11.80	R2	
90	124	VI 4	C2	3204	ナイフ形石器	5.50	1.80	1.20	8.00	R1	
91	125	VI 4	B3	491	ナイフ形石器	(3.35)	1.45	1.35	6.20	R2	
92	129	VI 5	C4	1819	ナイフ形石器	4.85	1.35	1.05	6.60	R4	
93	131	VI 4	C2	3200	ナイフ形石器	(4.35)	1.45	0.95	5.30	R2	
94	140	V・VI	C5	2411	ナイフ形石器	4.70	1.55	1.10	6.20	R2	
95	142	VI 4	C5	2416	ナイフ形石器	4.90	1.40	1.00	5.80	R4	
96	143	VI 4	C2	2768	ナイフ形石器	4.40	1.60	1.15	5.70	R1	
97	94	VI 5	C2	3213	ナイフ形石器	4.45	1.40	1.10	5.60	H2	
98	76	V・VI	D4	3429	ナイフ形石器	4.10	1.90	0.75	4.30	R1	
99	80	VI 4	B5	305	ナイフ形石器	3.00	1.55	0.60	2.30	R1	
100	84	VI 4	D4	3461	ナイフ形石器	4.00	1.85	0.60	4.30	R1	
101	77	V・VI	D4	3702	ナイフ形石器	3.50	1.75	0.85	3.70	R1	
102	91	VI 5	D5	1459	ナイフ形石器	3.85	1.85	0.65	5.50	R1	
103	37	VI 5	D5	1312	ナイフ形石器	2.40	1.20	0.65	1.30	R1	

報告書番号	実測番号	層位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
104	38	VI 5	D5	1402	ナイフ形石器	(3.10)	1.40	0.75	2.50	R1	
105	85	VI 4	E4	3631	ナイフ形石器	3.70	1.65	0.60	3.60	R2	
106	83	VI 4	B2	2927	ナイフ形石器	4.80	1.45	0.60	2.90	R1	
107	93	VI 5	B3	1587	ナイフ形石器	4.60	1.35	0.65	3.10	R1	
108	71	V5	B3	561	ナイフ形石器	4.60	2.00	0.75	7.20	R1	
109	41	VI 5	E5	3120	ナイフ形石器	3.45	1.80	0.70	3.60	R1	
110	137	V・VI	C5	998	角錐状石器	(2.20)	1.30	1.15	2.40	R1	
111	36	VI 5	D5	1282	角錐状石器	2.85	1.15	0.85	3.60	R2	
112	141	V・VI	C5	2412	角錐状石器	3.30	1.40	1.00	3.50	R1	
113	138	V・VI	D5	1307	角錐状石器	3.70	1.60	1.55	7.10	R4	
114	128	VI 5	C5	1489	角錐状石器	4.40	2.05	1.20	9.40	R4	
115	126	V・VI	D5	1255	角錐状石器	3.55	1.85	1.35	7.40	R1	
116	133	VI 4	D2	4794	角錐状石器	(3.40)	1.85	1.60	7.90	R2	
117	117	V・VI	D5	2023	角錐状石器	7.40	2.40	1.95	32.00	R1	
118	593	VI 4	D5	1390	角錐状石器	6.30	2.10	1.50	20.30	R1	
119	118	VI 4	C4	3340	角錐状石器	7.15	2.00	1.60	21.70	R2	
120	114	VI 4	D5	1310	角錐状石器	7.25	2.20	1.90	28.20	R1	
121	589	VI 5	E5	1997	角錐状石器	7.20	2.40	1.95	28.40	R2	
122	127	VI 4	D5	1368	角錐状石器	(4.55)	1.95	1.50	13.40	R1	
123	115	VI 5	D5	1401	角錐状石器	8.60	2.00	1.85	28.10	R1	
124	122	VI 4	D5	1669	角錐状石器	8.50	2.15	1.50	20.50	R1	
125	121	VI 4	D5	1363	角錐状石器	8.00	2.25	2.00	27.70	R1	
126	120	V・VI	D2	4751	角錐状石器	(6.60)	2.60	1.90	30.30	R1	
127	165	VI 5	B4	1680	剥片尖頭器	4.80	2.35	1.10	9.10	Ch	
128	151	VI 4	C2	2723	剥片尖頭器	5.50	2.65	1.05	13.00	R1	
129	163	VI 4	B4	450	剥片尖頭器	(4.70)	3.10	0.95	12.80	R2	
130	158	VI 5	E5	3126	剥片尖頭器	8.20	2.90	1.45	25.60	R1	
131	152	VI 4	C2	2751	剥片尖頭器	8.70	2.75	1.40	23.50	R1	
132	150	V・VI	C5	1027	剥片尖頭器	6.25	2.60	1.05	12.50	R1	
133	154	VI 4	E5	3117	剥片尖頭器	8.70	3.75	1.50	34.60	R1	
134	155	VI 4	C2	3207	剥片尖頭器	7.00	3.30	1.00	20.00	R1	
135	580	VI 5	C2	3168	剥片尖頭器	(7.15)	2.95	0.90	11.50	R1	
136	578	VI 4	C3	2470	剥片尖頭器	11.00	4.30	1.85	68.40	R1	
137	153	VI 4	C2	3030	剥片尖頭器	7.25	3.80	1.35	21.00	R1	
138	157	VI 5	C5	1032	剥片尖頭器	5.90	3.70	1.45	30.30	R1	
139	195	VI 4	C2	3360	搔器	4.05	4.05	2.40	36.90	R1	
140	194	V5	B3	511	搔器	4.35	3.30	2.60	43.50	R4	
141	180	VI 4	B3	496	搔器	5.50	5.30	2.10	56.30	R3	
142	182	VI 5	B4	385	搔器	7.30	4.00	1.55	42.90	R1	
143	183	VI 5	B4	391	搔器	6.20	4.40	3.10	92.00	R1	
144	173	VI 4	B5	224	削器	7.20	2.05	1.40	14.40	R1	
145	176	VI 4	D5	1419	削器	8.65	3.90	2.15	65.30	R1	
146	170	VI 4	D2	4795	削器	(2.60)	(2.00)	0.50	2.00	R1	
147	172	V5	B5	65	削器	6.20	3.30	1.85	33.60	R1	
148	174	VI 4	B3	515	削器	9.80	5.40	2.60	94.90	R4	
149	175	VI 4	C3	3250	削器	5.80	3.20	1.15	15.40	R1	
150	559	VI 4	B3	476	削器	7.30	4.30	1.60	39.10	R1	
151	227	VI 4	C2	3202	敲石	(7.20)	3.35	2.15	79.00	Sh	
152	219	VI 4	B5	116	二次加工剥片	6.40	3.70	1.40	26.50	R1	
153	225	V1	C4	1109	二次加工剥片	5.45	5.20	1.80	34.00	R1	211 と接合
154	561	VI 5	B5	604	二次加工剥片	6.10	3.75	0.90	24.20	R1	
155	181	VI 5	C5	902	二次加工剥片	6.05	4.40	1.95	57.00	R1	
156	572	VI 4	C3	2271	二次加工剥片	7.50	4.40	1.90	38.40	R1	
157	583	VI 4	B3	565	二次加工剥片	7.20	3.65	1.40	29.10	R2	
158	573	VI 4	C5	958	二次加工剥片	8.60	4.50	1.30	38.60	R1	
159	586	VI 4	B4	430	二次加工剥片	10.35	4.60	1.70	57.50	R1	
160	217	VI 4	C5	1031	使用痕剥片	1.20	3.50	0.50	1.40	R1	
161	216	VI 4	B2	2952	使用痕剥片	5.20	2.10	0.90	9.30	R1	
162	582	VI 4	C2	2742	使用痕剥片	6.55	3.20	1.05	16.60	R1	
163	215	V・VI	B4	467	使用痕剥片	7.85	2.85	1.40	22.10	R1	
164	147	V5	B5	22	剥片	1.65	1.90	0.60	1.20	R1	
165	592	V・VI	B5	75	使用痕剥片	8.90	3.40	1.20	34.20	R1	
166	200	VI 5	D5	1653	剥片	2.40	2.75	0.80	3.90	R1	199・201 と接合
167	550	V・VI	C2	2690	剥片	3.05	5.30	1.10	14.90	R1	
168	74	V・VI	B3	1616	剥片	4.80	3.25	1.10	12.30	R1	
169	549	VI 4	C2	2752	剥片	4.65	4.40	1.10	18.60	R1	
170	551	V5	B5	6	剥片	6.70	4.00	1.40	38.20	R1	
171	581	V・VI	B3	1684	剥片	5.80	2.50	0.75	8.50	R1	
172	562	V5	B5	58	剥片	6.40	3.20	1.10	18.50	R1	
173	585	V・VI	D2	4171	剥片	7.70	4.15	1.55	36.40	R1	
174	584	VI 4	B2	2931	剥片	8.75	4.00	1.45	39.40	R1	
175	198	VI 4	B2	2963	剥片	9.00	3.20	2.95	49.10	R1	
176	539	V・VI	D2	4184	石核	5.90	3.40	2.20	46.10	R3	
177	558	VI 4	B2	2956	剥片	11.70	3.20	1.40	40.70	R1	
178	540	V4	C2	3327	石核	2.95	6.10	5.55	84.10	R1	

報告書番号	実測番号	層位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
179	496	VI 4	C2	2758	石核	7.16	4.61	3.76	131.50	R1	
180	497	V2	D3	3776	石核	5.90	7.43	4.41	201.30	R1	
181	498	VI 4	B2	2924	石核	6.13	6.22	4.74	126.90	R1	
182	221	V1	C4	1106	石核	11.50	8.70	3.90	464.00	R1	225と接合
183	231	VI 5	B5	275	接合資料剥片	9.13	7.59	5.35	377.80	R4	接合資料183-1
	232	VI 4	B5	261	接合資料剥片	9.59	3.26	1.29	35.70	R4	接合資料183-2
	233	VI 5	B5	294	接合資料剥片	6.34	2.81	1.26	18.30	R4	接合資料183-3
	234	V・VI	B5	80	接合資料剥片	4.38	2.93	1.80	12.40	R4	接合資料183-4
	235	VI 5	B5	288	接合資料剥片	6.63	2.74	0.75	16.10	R4	接合資料183-5
	236	VI 5	B5	289	接合資料剥片	6.21	2.94	1.53	19.10	R4	接合資料183-6
	237	VI 5	B5	270	接合資料剥片	8.53	7.28	3.77	210.10	R4	接合資料183-7
	238	VII 5	B5	290	接合資料剥片	3.88	1.25	0.93	3.70	R4	接合資料183-8
	239	VI 5	B5	293	接合資料剥片	7.23	4.08	2.43	51.00	R4	接合資料183-9
	240	VI 5	B5	268	接合資料剥片	6.94	3.72	1.16	26.60	R4	接合資料183-10
	241	V・VI	B4	470	接合資料剥片	5.14	1.77	1.12	9.90	R4	接合資料183-11
	242	VI 5	B5	273	接合資料剥片	5.39	3.41	3.28	66.20	R4	接合資料183-12
	243	VI 5	B5	334	接合資料剥片	5.42	2.98	2.48	32.40	R4	接合資料183-13
	244	VI 5	B5	334	接合資料剥片	4.89	3.70	2.76	40.90	R4	接合資料183-14
	245	VII 5	B5	138	接合資料剥片	7.25	5.09	2.05	61.40	R4	接合資料183-15
	246	VI 5	B5	272	接合資料剥片	7.28	3.88	2.54	75.20	R4	接合資料183-16
247	VI 5	B5	280	接合資料剥片	3.25	3.26	0.72	3.40	R4	接合資料183-17	
248	VI 4	B5	266	接合資料剥片	6.76	3.35	1.51	20.60	R4	接合資料183-18	
249	VI 5	B5	298	接合資料剥片	6.02	3.39	1.85	24.80	R4	接合資料183-19	
184	310	VI 4	D5	1453	接合資料剥片	6.75	4.71	2.71	87.00	R3	接合資料184-1
	311	V4	D5	1329	接合資料剥片	5.46	5.29	2.15	36.90	R3	接合資料184-2
	312	VI 4	D5	1346	接合資料剥片	5.90	2.66	1.58	26.20	R3	接合資料184-3
	313	V4	D5	1284	接合資料剥片	4.41	2.81	1.57	16.90	R3	接合資料184-4
	314	VI・VII	D5	1333	接合資料剥片	3.84	2.14	1.12	9.70	R3	接合資料184-5
	315	VI 5	D5	1396	接合資料剥片	6.27	5.27	1.75	40.10	R3	接合資料184-6
	316	V・VI	C5	955	接合資料剥片	6.22	4.28	2.37	49.30	R3	接合資料184-7
	317	V1	D5	1159	接合資料剥片	4.48	3.15	1.57	21.80	R3	接合資料184-8
	318	VI 4	C5	963	接合資料剥片	7.25	7.05	3.04	121.30	R3	接合資料184-9
	319	VI 5	D5	1352	接合資料剥片	5.30	3.11	1.54	27.00	R3	接合資料184-10
	320	VI 4	D5	1359	接合資料剥片	4.73	2.75	1.56	18.20	R3	接合資料184-11
	321	VI 4	D5	1375	接合資料剥片	7.54	6.01	2.76	104.50	R3	接合資料184-12
	322	VI 2	D5	1366	接合資料剥片	3.79	2.27	1.31	9.80	R3	接合資料184-13
	323	VI 5	C5	1015	接合資料剥片	7.44	6.56	5.48	290.30	R3	接合資料184-14
324	VI 4	D5	1314	接合資料剥片	4.67	3.42	1.53	22.80	R3	接合資料184-15	
185	325	VI 5	B5	259	接合資料剥片	10.50	5.07	5.58	198.50	R1	接合資料185-1
	326	VI 4	B5	234	接合資料剥片	4.91	3.16	0.67	11.60	R1	接合資料185-2
	327	VI 5	B5	195	接合資料剥片	6.49	4.66	2.08	46.30	R1	接合資料185-3
	328	VI 5	B5	619	接合資料剥片	6.39	3.17	1.42	32.90	R1	接合資料185-4
	329	VI 5	B5	174	接合資料剥片	8.96	2.38	1.45	34.00	R1	接合資料185-5
	330	VI 5	B5	186	接合資料剥片	7.31	4.46	3.28	91.90	R1	接合資料185-6
	331	VI 5	B5	189	接合資料剥片	7.93	5.09	2.60	110.50	R1	接合資料185-7
	332	VII 5	B5	190	接合資料剥片	6.97	2.26	0.97	14.80	R1	接合資料185-8
186	250	VI 4	B5	126	接合資料剥片	7.50	2.95	1.20	29.80	R1	接合資料186-1
	251	VI 4	B5	225	接合資料剥片	3.40	4.15	1.00	9.90	R1	接合資料186-2
	252	VI 4	B5	240	接合資料剥片	6.00	3.40	2.40	44.60	R1	接合資料186-3
	253	VI 4	B5	242	接合資料剥片	6.45	3.75	1.00	17.80	R1	接合資料186-4
	254	VI 5	B5	169	接合資料剥片	7.90	6.75	2.60	162.00	R1	接合資料186-5
	255	VI 5	B5	172	接合資料剥片	9.60	6.90	4.30	189.00	R1	接合資料186-6
	256	VI 5	B5	181	接合資料剥片	9.20	3.50	1.45	31.90	R1	接合資料186-7
	257	VI 5	B5	203	接合資料剥片	5.55	3.35	0.90	15.50	R1	接合資料186-8
	258	VI 5	B5	209	接合資料剥片	2.80	1.25	0.70	1.60	R1	接合資料186-9
	259	VI 5	B5	231	接合資料剥片	3.75	3.15	1.15	9.00	R1	接合資料186-10
	260	VI 5	B5	607	接合資料剥片	6.50	3.90	2.00	51.10	R1	接合資料186-11
	261	VI 5	B5	609	接合資料剥片	5.40	5.70	2.10	56.30	R1	接合資料186-12
	262	VI 5	B5	612	接合資料剥片	7.40	5.20	3.35	128.60	R1	接合資料186-13
	263	VI 5	B5	620	接合資料剥片	5.65	4.00	1.15	22.60	R1	接合資料186-14
	264	VII 5	B5	232	接合資料剥片	3.35	1.95	0.50	2.40	R1	接合資料186-15
	265	VI 4	B5	219	二次加工剥片	5.20	1.65	0.70	3.70	R1	接合資料186-16
	266	VI 4	B5	165	接合資料剥片	8.25	2.05	1.00	20.50	R1	接合資料186-17
	267	VI 4	B5	212	接合資料剥片	3.05	2.80	1.20	12.20	R1	接合資料186-18
	268	VI 4	B5	237	接合資料剥片	6.40	2.20	1.00	12.30	R1	接合資料186-19
	269	VI 5	B5	167	接合資料剥片	9.00	2.10	1.70	21.00	R1	接合資料186-20
270	VI 5	B5	176	接合資料剥片	7.05	2.85	0.75	13.60	R1	接合資料186-21	
271	VI 5	B5	179	接合資料剥片	6.25	3.20	2.60	42.30	R1	接合資料186-22	
272	VI 5	B5	180	接合資料剥片	6.00	3.55	4.80	98.80	R1	接合資料186-23	
273	VI 5	B5	184	接合資料剥片	7.45	4.75	2.15	77.30	R1	接合資料186-24	

報告書番号	実測番号	層位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
186	274	VI 5	B5	216	接合資料剥片	4.60	2.45	1.00	13.70	R1	接合資料 186 - 25
	275	VI 5	B5	256	接合資料剥片	3.10	6.90	3.45	84.70	R1	接合資料 186 - 26
	276	VI 5	B5	611	接合資料剥片	5.40	7.35	3.00	118.30	R1	接合資料 186 - 27
	277	VI 4	B5	194	接合資料剥片					R1	接合資料 186 - 28
187	278	VI 5	C5	691	接合資料剥片	8.10	7.60	2.50	168.70	R1	接合資料 187 - 1
	279	VI 5	C5	1021	接合資料剥片	6.40	1.50	2.30	21.80	R1	接合資料 187 - 2
	280	IV	C4	1703	接合資料剥片	4.80	1.30	2.90	18.90	R1	接合資料 187 - 3
	281	VI 4	C5	962	接合資料剥片	6.00	1.00	4.00	25.00	R1	接合資料 187 - 4
	282	VI 4	C5	947	接合資料剥片	6.30	4.00	2.30	96.00	R1	接合資料 187 - 5
	283	VI 5	C5	949	接合資料剥片	5.60	4.80	2.10	30.40	R1	接合資料 187 - 6
	284	VI 5	C5	684	接合資料剥片	8.95	5.90	2.80	117.30	R1	接合資料 187 - 7
	285	VI 5	C5	1035	接合資料剥片	7.10	3.40	5.60	102.30	R1	接合資料 187 - 8
	286	VI 5	C5	1036	接合資料剥片	8.20	3.90	5.20	147.00	R1	接合資料 187 - 9
	287	VI・VII	D5	2030	接合資料剥片	5.70	3.70	0.90	18.10	R1	接合資料 187 - 10
	288	VI 5	C5	1536	接合資料剥片	3.50	5.60	2.00	38.00	R1	接合資料 187 - 11
	289	V4	C5	924	接合資料剥片	5.10	1.80	1.25	12.30	R1	接合資料 187 - 12
	290	V・VI	C5	897	接合資料剥片	2.20	3.70	0.90	7.80	R1	接合資料 187 - 13
	291	VI 5	C5	1019	接合資料剥片	5.90	6.50	2.10	73.50	R1	接合資料 187 - 14
	292	VI 5	C5	987	接合資料剥片	8.70	7.10	2.90	159.80	R1	接合資料 187 - 15
	293	V・VI	C5	1508	接合資料剥片	3.40	5.90	1.60	18.60	R1	接合資料 187 - 16
	294	VI 4	C5	1018	接合資料剥片	5.70	6.30	4.60	135.00	R1	接合資料 187 - 17
	295	VI 5	C5	1020	接合資料剥片	5.30	7.20	5.00	137.00	R1	接合資料 187 - 18
	296	VI 4	C5	945	接合資料剥片	5.40	3.30	1.20	28.40	R1	接合資料 187 - 19
	297	V5	C5	669	接合資料剥片	6.30	3.80	0.80	9.50	R1	接合資料 187 - 20
	298	V4	C5	661	接合資料剥片	6.40	3.80	0.80	13.70	R1	接合資料 187 - 21
188	299	V5	B5	45	接合資料剥片	2.05	1.64	0.51	1.60	R1	接合資料 188 - 1
	300	IV	B3	1607	接合資料剥片	3.06	2.16	0.74	4.30	R1	接合資料 188 - 2
	301	VI 4	C5	692	接合資料剥片	3.99	2.66	0.56	6.90	R1	接合資料 188 - 3
	302	VI 4	C5	948	接合資料剥片	5.54	4.14	1.02	21.70	R1	接合資料 188 - 4
	303	V4	C5	664	接合資料剥片	4.93	2.71	0.74	8.80	R1	接合資料 188 - 5
	304	VI 5	C5	1679	接合資料剥片	4.43	2.15	0.59	6.40	R1	接合資料 188 - 6
	305	V4	C5	657	接合資料剥片	6.07	4.24	2.15	42.10	R1	接合資料 188 - 7
	306	V4	C5	658	接合資料剥片	5.78	3.97	2.02	39.80	R1	接合資料 188 - 8
	307	V1	C5	704	接合資料剥片	2.82	2.21	0.80	4.60	R1	接合資料 188 - 9
	308	VI 5	C5	1005	接合資料剥片	5.29	4.12	1.14	21.60	R1	接合資料 188 - 10
	309	VI 4	C5	666	接合資料剥片	4.50	2.13	0.59	4.20	R1	接合資料 188 - 11
189	350	VI 5	B5	306	接合資料剥片	4.59	3.11	1.28	19.50	R1	接合資料 189 - 1
	351	VI 5	B5	301	接合資料剥片	3.45	4.13	1.45	23.10	R1	接合資料 189 - 2
	352	VI 5	B5	271	接合資料剥片	5.53	6.37	3.19	105.00	R1	接合資料 189 - 3
	353	VI 4	B5	265	接合資料剥片	6.98	3.10	2.81	55.80	R1	接合資料 189 - 4
	354	VI 5	B5	281	接合資料剥片	3.45	1.82	1.21	6.30	R1	接合資料 189 - 5
190	359	VI 4	C3	3076	接合資料剥片	7.20	3.79	2.99	91.90	R4	接合資料 190 - 1
	360	VI 4	C3	2269	接合資料剥片	5.66	5.85	3.42	99.00	R4	接合資料 190 - 2
	361	VI・VII	C3	2331	接合資料剥片	4.63	3.14	1.19	12.50	R4	接合資料 190 - 3
	362	VI 2	C3	2213	接合資料剥片	5.74	2.99	1.08	17.70	R4	接合資料 190 - 4
	363	VII 4	C3	3085	接合資料剥片	8.93	5.22	3.03	191.40	R4	接合資料 190 - 5
191	372	VI 5	B5	150	接合資料剥片	4.82	6.19	1.95	59.60	R2	接合資料 191 - 1
	373	VI 5	B4	1552	接合資料剥片	6.25	3.38	1.54	27.00	R2	接合資料 191 - 2
	374	VI 4	B4	1555	接合資料剥片	4.37	4.35	1.35	22.10	R2	接合資料 191 - 3
	375	VI 5	B5	124	接合資料剥片	5.97	6.13	3.75	136.30	R2	接合資料 191 - 4
	376	VI 5	B5	149	接合資料剥片	4.85	3.10	1.58	17.90	R2	接合資料 191 - 5
192	448	VI 4	E5	3119	接合資料剥片	4.92	2.69	1.15	13.00	R2	接合資料 192 - 1
	449	V5	E5	SI67-1	接合資料剥片	9.48	4.57	2.54	134.80	R2	接合資料 192 - 2
	450	VI 4	E5	3113	接合資料剥片	4.09	3.06	1.02	10.20	R2	接合資料 192 - 3
	451	VI 4	E5	3112	接合資料剥片	5.88	4.48	1.20	46.10	R2	接合資料 192 - 4
	452	V5	B5	SI67-4	接合資料剥片	7.62	4.89	3.72	108.60	R2	接合資料 192 - 5
	453	VI 2	E5	3111	接合資料剥片	4.74	3.08	2.18	44.60	R2	接合資料 192 - 6
	454	VI 5	E5	2005	接合資料剥片	10.69	4.71	3.48	196.70	R2	接合資料 192 - 7
193	355	VI 5	B5	152	接合資料剥片	6.91	4.67	1.97	69.40	R1	接合資料 193 - 1
	356	VII 5	B5	110	接合資料剥片	7.73	6.62	4.55	268.50	R1	接合資料 193 - 2
	357	VI 5	B5	605	接合資料剥片	3.10	1.58	1.12	3.40	R1	接合資料 193 - 3
	358	VI 5	B5	156	接合資料剥片	3.97	2.35	1.10	10.90	R1	接合資料 193 - 4
194	455	VII 5	D2	5048	接合資料剥片	6.33	4.57	4.31	195.70	R4	接合資料 194 - 1
	456	V・VI	E3	1949	二次加工剥片	5.58	5.00	1.74	60.70	R4	接合資料 194 - 2
	457	VI 4	C2	3157	接合資料剥片	10.64	9.13	6.48	606.60	R4	接合資料 194 - 3
	458	VI・VII	D2	4817	接合資料剥片	2.58	1.90	1.12	5.60	R4	接合資料 194 - 4
	459	V2	C2	2628	接合資料剥片	4.89	2.65	1.38	20.10	R4	接合資料 194 - 5
	460	V5	B3	512	接合資料剥片	2.92	2.35	1.01	4.90	R3	接合資料 195 - 1
195	461	VI 4	B3	498	接合資料剥片	4.44	3.70	2.07	37.20	R3	接合資料 195 - 2
	462	V5	B3	492	接合資料剥片	3.94	2.95	1.61	15.40	R3	接合資料 195 - 3

報告書番号	実測番号	層位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
195	463	V・VI	B3	499	接合資料剥片	5.31	3.06	1.75	29.20	R3	接合資料195-4
	464	V4	C3	2259	接合資料剥片	9.13	5.73	4.03	142.00	R3	接合資料195-5
	465	VI 5	B3	483	接合資料剥片	8.76	6.69	3.99	217.30	R3	接合資料195-6
	466	V5	D4	C・3	接合資料剥片	4.72	3.66	1.34	24.90	R3	接合資料195-7
196	19	VI・VII	D2	4848	ナイフ形石器	5.20	1.80	0.90	7.20	R1	
197	20	VI・VII	E2	4898	ナイフ形石器	(5.10)	2.30	1.00	10.10	R2	
198	54	VI・VII	C2	2801	ナイフ形石器	(4.10)	2.45	0.55	5.20	R1	
199	44	VI・VII	E4	3650	ナイフ形石器	(3.40)	1.30	0.80	3.30	R1	
200	49	VIII 1	E3	2558	ナイフ形石器	(3.20)	1.35	0.60	2.20	R2	
201	95	VI・VII	E4	3640	ナイフ形石器	2.90	1.60	0.70	2.70	R1	
202	48	VII・VIII	D2	4879	ナイフ形石器	(2.55)	1.10	0.60	1.60	R1	
203	101	VII・VIII	C5	4459	ナイフ形石器	2.75	1.45	0.40	1.70	R1	
204	45	VI・VII	E4	3766	ナイフ形石器	(2.35)	0.95	0.80	1.60	R2	
205	97	VI・VII	E4	3764	ナイフ形石器	2.80	1.75	0.60	2.20	R1	
206	166	VI・VII	C2	2791	ナイフ形石器	3.90	2.45	1.00	8.50	R1	
207	98	VI・VII	D4	3982	ナイフ形石器	4.25	1.90	0.80	5.80	R1	
208	47	VII・VIII	C5	4461	ナイフ形石器	(4.20)	2.25	0.95	8.20	R1	
209	99	VII 5	D5	2014	ナイフ形石器	4.10	1.75	0.65	4.30	R1	
210	96	VI・VII	E4	3758	ナイフ形石器	3.60	1.85	0.70	3.30	R1	
211	534	VII 5	E4	3685	ナイフ形石器	3.60	1.70	0.70	2.60	R1	
212	100	VII 5	C5	2429	ナイフ形石器	2.65	1.00	0.40	0.90	R1	
213	22	VII 4	B5	102	ナイフ形石器	(5.35)	2.90	0.90	10.60	R1	
214	160	VI・VII	C3	3238	剥片尖頭器	6.95	3.00	1.45	24.20	R1	
215	134	VI・VII	E2	5058	角錐状石器	4.05	1.85	1.00	8.20	Ch	
216	144	VI・VII	C3	3345	角錐状石器	4.35	1.45	0.90	5.30	R1	
217	132	VI・VII	C4	3292	角錐状石器	(3.40)	1.30	1.20	4.80	R4	
218	116	VII 5	D5	2013	角錐状石器	(4.90)	2.00	1.90	17.00	R4	
219	119	VI・VII	D4	3473	角錐状石器	7.50	2.00	1.20	17.00	R2	
220	591	VII 4	C2	2866	尖頭器	9.35	4.10	2.60	76.30	H2	
221	21	VII 1	E5	5323	ナイフ形石器	(7.90)	2.35	1.60	25.00	R1	
222	161	VI・VII	E2	4899	剥片尖頭器	6.40	3.15	1.25	19.90	R1	
223	159	VI・VII	C2	2790	剥片尖頭器	9.80	3.50	1.60	45.60	R1	
224	162	VI・VII	E2	4904	剥片尖頭器	8.80	3.25	1.50	28.60	R1	
225	579	VII 5	C2	2883	剥片尖頭器	8.25	3.50	1.60	35.80	R1	
226	148	VII・VIII	E4	3688	台形石器	2.85	1.55	0.50	2.70	R1	
227	168	VI・VII	C3	3241	搔器	4.00	3.85	2.00	28.60	R1	
228	184	VI・VII	B2	2985	搔器	5.80	3.50	1.40	22.50	R1	
229	574	VI・VII	C2	3221	削器	7.35	5.65	1.15	36.30	R1	
230	178	VII 5	C2	2888	削器	6.55	3.15	2.45	34.20	R1	
231	177	VII 4	C2	2852	削器	7.50	5.70	1.30	48.70	R1	
232	588	VI・VII	D4	3468	削器	6.90	4.65	1.45	38.00	R2	
233	571	VI・VII	E4	3642	削器	8.40	4.45	1.75	46.50	Tu	
234	577	VI・VII	C2	2837	削器	9.80	5.50	2.30	111.50	R1	
235	532	VII 4	C2	2857	二次加工剥片	3.35	2.05	1.15	5.50	Qz	
236	226	VII 4	C2	2863	二次加工剥片	4.60	3.85	1.50	19.90	R1	
237	23	VII 5	B3	2393	二次加工剥片	5.70	3.40	1.55	28.60	R1	
238	221	VI・VII	D3	3819	二次加工剥片	6.00	3.70	1.95	26.20	R4	
239	222	VII・VIII	D4	3596	二次加工剥片	6.45	3.10	1.25	21.20	R2	
240	590	VI・VII	D2	4869	二次加工剥片	9.15	3.60	1.35	37.00	R1	
241	531	VIII 1	E3	2600	剥片	1.70	1.10	0.40	0.70	Qz	
242	42	VI・VII	C3	2330	剥片	3.90	1.35	0.95	3.20	R1	
243	46	VII 5	C3	2390	剥片	(4.00)	1.30	1.05	4.60	R3	
244	43	VI・VII	C5	2423	剥片	(4.10)	1.85	1.20	5.60	R1	
245	563	VI・VII	B2	2972	剥片	4.50	3.70	1.00	12.60	R1	
246	552	VI・VII	C2	2799	剥片	2.40	3.85	1.10	8.60	R1	
247	548	VI・VII	E5	3129	剥片	4.70	6.00	1.10	23.20	R1	
248	560	VI・VII	D3	3818	剥片	6.50	3.60	1.40	34.40	R1	
249	587	VII 4	B5	198	剥片	6.35	4.50	1.70	22.20	R2	
250	557	VI・VII	D2	4839	剥片	11.70	3.40	1.20	47.30	R1	
251	553	VI・VII	C2	2811	剥片	6.00	2.85	0.85	10.90	R1	
252	185	VI・VII	B2	3147	石核	8.25	4.95	2.40	107.60	R2	
253	543	VIII 1	E3	2580	石核	5.35	5.95	3.50	93.90	R2	
254	499	VII 4	B2	3005	石核	5.99	4.63	5.02	101.00	R1	
255	542	VIII 1	E3	2581	石核	3.65	5.90	3.80	83.50	R2	
256	408	V2	C3	2099	接合資料剥片	1.40	3.48	1.40	6.40	R1	接合資料256-1
	409	VI 4	C2	2733	接合資料剥片	4.96	3.89	1.70	31.90	R1	接合資料256-2
	410	VI 4	C3	3318	接合資料剥片	5.54	3.52	1.70	23.70	R1	接合資料256-3
	411	VII 4	C3	3084	接合資料剥片	4.59	6.46	4.90	177.30	R1	接合資料256-4
257	432	VI 4	B2	2928	接合資料剥片	7.18	5.11	2.10	70.40	R1	接合資料257-1
	433	VI・VII	C2	2812	接合資料剥片	5.08	2.66	0.83	14.80	R1	接合資料257-2
	434	VI 4	B2	2937	接合資料剥片	6.58	5.07	2.19	72.60	R1	接合資料257-3
	435	VI 4	D4	3463	エンドスクレーパー	6.11	4.31	2.11	62.60	R1	接合資料257-4
258	445	VI 4	C3	2267	接合資料剥片	5.91	3.26	1.01	18.40	R4	接合資料258-1
	446	VI 4	C2	2731	接合資料剥片	10.46	5.28	3.11	200.90	R4	接合資料258-2

報告書番号	実測番号	層位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考	
258	447	VI・VII	C2	3224	接合資料剥片	9.41	6.01	2.94	233.00	R4	接合資料 258 - 3	
	412	VI・VII	D2	4833	接合資料剥片	3.11	2.29	1.20	8.40	H2	接合資料 259 - 1	
	413	VI・VII	D2	4826	接合資料剥片	6.32	3.57	2.07	44.90	H2	接合資料 259 - 2	
	414	VI・VII	D2	4829	接合資料剥片	7.64	5.10	3.63	131.10	H2	接合資料 259 - 3	
	415	VI・VII	D2	4864	接合資料剥片	7.71	4.52	2.51	86.50	H2	接合資料 259 - 4	
259	416	VI・VII	D2	4851	接合資料剥片	4.28	3.55	1.17	20.90	H2	接合資料 259 - 5	
	489	VI 2	C3	2202	接合資料剥片	7.31	5.04	2.32	62.00	R1	接合資料 260 - 1	
	490	VI 4	C2	3330	接合資料剥片	4.84	1.95	1.54	13.00	R1	接合資料 260 - 2	
	491	VII 4	C3	2345	接合資料剥片	4.21	4.05	1.51	13.10	R1	接合資料 260 - 3	
	492	VI 4	C3	2226	接合資料剥片	6.19	5.06	1.46	37.90	R1	接合資料 260 - 4	
260	493	VI 4	C3	3253	接合資料剥片	4.73	2.27	1.19	10.10	R1	接合資料 260 - 5	
	494	VI・VII	C3	2308	接合資料剥片	3.96	1.75	0.75	5.30	R1	接合資料 260 - 6	
	467	V・VI	C5	964	接合資料剥片	3.77	2.94	1.03	9.50	H1	接合資料 261 - 1	
	468	VI 5	D5	1646	接合資料剥片	7.67	4.70	2.54	57.70	H1	接合資料 261 - 2	
	469	VI・VII	E4	3761	接合資料剥片	6.21	4.37	2.03	54.80	H1	接合資料 261 - 3	
	470	VI・VII	E4	3756	接合資料剥片	7.15	4.73	4.44	125.10	H1	接合資料 261 - 4	
	471	V・VI	E4	3617	接合資料剥片	4.53	4.07	1.99	24.90	H1	接合資料 261 - 5	
	472	V・VI	E4	3617	接合資料剥片	3.11	2.70	1.22	9.70	H1	接合資料 261 - 6	
261	473	V2	E4	3609	接合資料剥片	2.52	1.57	0.89	2.90	H1	接合資料 261 - 7	
	474	V2	D4	3389	接合資料剥片	4.06	1.72	2.20	9.70	H1	接合資料 261 - 8	
	475	VI・VII	E4	3643	接合資料剥片	3.69	2.91	1.38	11.90	H1	接合資料 261 - 9	
	476	V2	D4	3376	接合資料剥片	4.88	4.29	3.08	49.30	H1	接合資料 261 - 10	
	477	VI・VII	E4	3767	接合資料剥片	6.28	5.67	3.39	97.20	H1	接合資料 261 - 11	
	478	V・VI	D4	3417	接合資料剥片	2.59	3.18	2.13	11.10	H1	接合資料 261 - 12	
	479	VI 2	D4	3446	接合資料剥片	3.47	3.65	1.77	15.30	H1	接合資料 261 - 13	
	480	VI・VII	E4	3635	接合資料剥片	10.66	5.99	6.30	582.10	H1	接合資料 261 - 14	
	481	VI 4	C3	2217	接合資料剥片	9.37	7.07	2.55	156.00	Sh	接合資料 262 - 1	
	482	VI 4	C2	2709	接合資料剥片	8.28	7.01	2.05	137.10	Sh	接合資料 262 - 2	
	483	VI 4	C2	2710	接合資料剥片	3.97	2.92	1.35	15.00	Sh	接合資料 262 - 3	
262	484	VI・VII	C2	2781	接合資料剥片	10.50	4.44	1.90	78.40	Sh	接合資料 262 - 4	
	485	VI・VII	C2	2782	接合資料剥片	7.19	4.36	2.70	70.20	Sh	接合資料 262 - 5	
	486	VI・VII	C2	3217	接合資料剥片	2.82	2.78	2.74	17.20	Sh	接合資料 262 - 6	
	487	VI・VII	C2	3339	接合資料剥片	3.96	2.85	0.80	7.90	Sh	接合資料 262 - 7	
	488	VII 4	C2	2869	接合資料剥片	8.69	5.27	2.25	86.10	Sh	接合資料 262 - 8	
	263	105	VIII 5	C2	4202	ナイフ形石器	4.20	1.35	0.65	3.50	R2	
	264	106	VIII 5	C2	4208	ナイフ形石器	4.90	1.40	0.65	3.70	R1	
265	107	VIII 5	C2	4399	ナイフ形石器	4.00	1.30	0.40	1.90	R1		
266	112	IX a	C4,C2	3929	ナイフ形石器	4.15	1.40	0.75	3.60	R2		
267	536	VIII 5	E5	5565	ナイフ形石器	4.60	1.35	0.70	3.40	R1		
268	111	VIII 5	D5	5549	ナイフ形石器	3.65	1.20	0.50	2.20	R1		
269	537	VIII 5	C2	4445	ナイフ形石器	3.80	1.55	0.70	3.00	R1		
270	535	VIII 5	D2	5364	ナイフ形石器	2.80	1.05	0.50	1.30	R1		
271	113	VIII 5	C3	4974	ナイフ形石器	(4.10)	2.20	1.05	7.50	R2		
272	108	VIII 5	C5	4673	ナイフ形石器	2.35	1.00	0.45	1.00	R1		
273	104	VIII 5	C5	3886	ナイフ形石器	2.60	0.95	0.50	1.00	R1		
274	57	VIII 5	C3	4929	ナイフ形石器	(4.50)	1.40	0.50	2.50	R2		
275	55	VIII 5	C5	4628	ナイフ形石器	3.00	1.15	0.65	1.30	R2		
276	53	VIII 5	C5	4528	ナイフ形石器	(2.65)	1.20	0.50	1.50	R1		
277	56	VIII 5	C5	4658	ナイフ形石器	2.65	1.50	0.65	2.20	R1		
278	60	VIII 5	C3	5525	ナイフ形石器	4.70	2.40	0.80	7.70	R1		
279	58	VIII 5	D5	5254	ナイフ形石器	(3.10)	1.15	0.55	1.90	R1		
280	61	VIII 5	C4	5593	ナイフ形石器	(2.60)	1.25	0.60	1.70	R1		
281	62	VIII 5	D4	5692	ナイフ形石器	(2.30)	1.00	0.60	1.20	R1		
282	59	VIII 5	D4	5495	ナイフ形石器	(2.80)	1.25	0.60	1.60	R2		
283	63	IX a1	D5	5327	ナイフ形石器	(2.90)	1.80	0.50	2.00	R2		
284	51	VIII 5	C2	4323	ナイフ形石器	(4.50)	1.50	0.85	5.30	R1		
285	50	VIII 5	C2	4298	ナイフ形石器	(3.20)	1.65	0.60	2.90	R2		
286	1	IX b	C4、2	3934	ナイフ形石器	5.15	2.20	0.75	8.50	R1		
287	24	VIII 5	D2	5362	ナイフ形石器	5.10	1.45	0.70	3.60	R1		
288	25	VIII・IX	C2	4697	ナイフ形石器	6.35	1.95	0.90	8.20	R1		
289	64	IX b1	D4	5649	ナイフ形石器	3.20	1.90	0.80	3.40	R2		
290	110	VIII 5	E2	5521	ナイフ形石器	4.70	1.20	0.70	2.90	R1		
291	568	VIII 5	D2	5351	搔器	4.25	3.70	0.75	11.90	R1		
292	189	VIII 5	D2	5350	搔器	5.00	3.05	1.90	24.30	R1		
293	567	VIII 5	D4	5181	搔器	5.25	4.70	1.35	30.60	R1		
294	196	VIII 5	C2	4335	搔器	4.75	3.70	1.60	24.40	R1		
295	188	VIII 5	C3	4917	搔器	6.50	4.90	1.30	33.10	R2		
296	190	IX a1	D5	5328	搔器	6.50	5.40	2.10	70.70	R2		
297	569	VIII 5	D2	5346	搔器	5.80	6.40	2.15	83.50	R1		
298	191	IX a1	E4	5641	搔器	5.00	2.55	1.10	11.60	R2		
299	565	IX a5	C2	5524	搔器	6.25	6.90	2.05	68.40	R1		
300	109	VIII 5	E2	5409	搔器	3.80	2.20	0.85	7.60	R1		

報告書番号	実測番号	層位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
301	570	VIII 5	D5	5538・5543・5563	搔器	4.85	4.00	1.15	18.70	R2	
302	187	VIII 5	C2	4431	搔器	4.50	5.85	1.75	38.20	R4	
303	169	VIII 5	C3	5701	削器	3.40	2.80	0.90	8.20	R1	
304	186	VIII 5	C2	4310	削器	6.55	4.85	1.95	52.30	R1	
305	102	VIII 1	E3	2545	削器	3.35	2.25	0.60	4.00	R2	
306	197	VIII 5	C4	5627	削器	4.80	3.25	1.30	14.90	R2	
307	52	VIII 5	C2	4438	削器	(3.05)	3.50	0.80	8.80	R1	
308	564	VIII 5	D4	5086	削器	13.25	5.55	1.80	142.00	R1	
309	228	VIII 5	D4	5078	敲石	(8.80)	3.50	2.35	95.80	Sh	
310	530	VIII 5	C2	4115・4286	二次加工剥片	2.70	1.55	0.70	2.10	Qz	
311	533	VIII 5	C2	4235	二次加工剥片	2.50	1.00	0.80	1.50	Qz	
312	214	VIII 5	D5	5559	二次加工剥片	5.50	2.10	1.60	22.70	R2	
313	212	VIII 5	D5	5535	二次加工剥片	5.80	2.80	2.00	31.90	R2	
314	179	VIII 5	D4	5088	二次加工剥片	6.60	2.65	0.95	12.60	R1	
315	223	VIII 5	C3	4956	二次加工剥片	6.90	2.90	1.15	16.40	R1	
316	224	IX a	D4, 5	4018・4021・4023	二次加工剥片	9.85	3.50	1.30	27.60	R4	
317	213	VIII 5	D5	5552	石核	4.80	3.30	1.80	20.40	R2	
318	541	IX a1	E4	5639	石核	4.25	5.20	3.75	75.80	R2	
319	566	VIII 5	C5	4487	石核	7.00	7.00	2.55	98.10	R1	
320	495	VIII 5	C2	4225	石核	9.83	6.95	6.31	838.50	R4	
321	333	VIII 5	D4	5822	接合資料剥片	4.30	2.21	1.47	11.00	R2	接合資料 321 - 1
	334	VIII 5	D4	5431	接合資料剥片	3.71	1.83	1.36	6.00	R2	接合資料 321 - 2
	335	VIII 5	D4	5428	接合資料剥片	3.14	1.55	1.13	5.50	R2	接合資料 321 - 3
	336	VIII 5	D4	5437	接合資料剥片	2.08	1.88	0.97	3.50	R2	接合資料 321 - 4
	337	VIII 5	D4	5459	接合資料剥片	4.46	3.88	2.19	30.10	R2	接合資料 321 - 5
	338	VIII 5	D4	5442	接合資料剥片	4.21	3.51	1.12	13.90	R2	接合資料 321 - 6
	339	VIII 5	D4	6013	接合資料剥片	1.93	1.54	0.60	1.50	R2	接合資料 321 - 7
	340	VIII 5	D4	5433	接合資料剥片	7.03	4.54	1.06	40.00	R2	接合資料 321 - 8
322	341	VIII 5	D4	5071	接合資料剥片	4.39	3.90	1.50	20.40	R2	接合資料 321 - 9
	390	VIII 5	D4	5120	接合資料剥片	2.90	2.75	0.60	4.30	R2	接合資料 322 - 1
	391	VIII 5	D4	5188	接合資料剥片	4.40	2.35	1.10	5.60	R2	接合資料 322 - 2
	392	VIII 5	D4	5189	接合資料剥片	2.70	2.35	0.70	3.70	R2	接合資料 322 - 3
323	393	VIII 5	D4	5469	接合資料剥片	4.00	6.40	4.50	128.80	R2	接合資料 322 - 4
	394	VIII 5	D4	5485	接合資料剥片	4.40	3.15	1.03	14.70	R2	接合資料 323 - 1
	395	VIII 5	D4	5488	接合資料剥片	3.88	5.68	2.06	39.40	R2	接合資料 323 - 2
324	396	VIII 5	D4	5494	接合資料剥片	6.23	8.47	5.70	270.40	R2	接合資料 323 - 3
	400	VIII 1	D4	5065	接合資料剥片	3.70	4.20	3.30	4.50	R2	接合資料 324 - 1
	401	VIII 5	D4	5452	接合資料剥片	2.90	2.45	0.90	7.20	R2	接合資料 324 - 2
325	402	VIII 5	D4	5661	接合資料剥片	2.95	2.85	0.70	59.50	R2	接合資料 324 - 3
	403	VIII 5	D4	5107	接合資料剥片	3.90	4.85	2.00	36.00	R2	接合資料 325 - 1
	404	VIII 5	D4	5461	接合資料剥片	3.53	3.82	2.35	25.30	R2	接合資料 325 - 2
	405	VIII 5	D4	5475	接合資料剥片	2.34	1.78	0.99	3.40	R2	接合資料 325 - 3
	406	VIII 5	D4	5477	接合資料剥片	2.33	1.80	0.85	22.60	R2	接合資料 325 - 4
326	407	VIII 5	D4	5480	接合資料剥片	3.70	3.68	1.25	22.50	R2	接合資料 325 - 5
	423	VIII 1	C5	3874	接合資料剥片	6.22	4.27	1.75	44.00	R2	接合資料 326 - 1
	424	VIII 5	C5	4502	接合資料剥片	5.42	3.74	1.50	21.40	R2	接合資料 326 - 2
	425	VIII 5	C5	4540	接合資料剥片	4.56	4.09	1.15	13.80	R2	接合資料 326 - 3
	426	VIII 5	C5	4553	接合資料剥片	3.53	3.10	0.90	8.70	R2	接合資料 326 - 4
	427	VIII 5	C5	4568	接合資料剥片	2.15	0.87	0.80	1.50	R2	接合資料 326 - 5
	428	VIII 5	C5	4622	接合資料剥片	2.65	3.55	1.05	10.60	R2	接合資料 326 - 6
	429	VIII 5	C5	4624	接合資料剥片	2.56	1.40	0.75	2.00	R2	接合資料 326 - 7
	430	VIII 5	C5	4664	接合資料剥片	4.45	2.73	0.90	9.70	R2	接合資料 326 - 8
	431	VIII 5	C5	4993	接合資料剥片	1.56	1.73	0.65	1.60	R2	接合資料 326 - 9
327	441	VIII 5	C5	3901	接合資料剥片	4.84	3.46	0.57	11.50	R2	接合資料 327 - 1
	442	VIII 5	C5	4682	接合資料剥片	4.32	2.44	0.47	4.90	R2	接合資料 327 - 2
	443	VIII 5	C5	3882	接合資料剥片	2.95	2.23	0.74	4.00	R2	接合資料 327 - 3
	444	VIII 5	C5	4680	接合資料剥片	4.40	2.87	0.66	7.20	R2	接合資料 327 - 4
328	445	VI 4	C3	2241	用途不明石器	10.4	2.70	1.25	42.7	Ss	
329	446	VI 5	B5	303	敲石	15.1	4.80	3.30	346.0	Ss	
330	447	V4	C4	2442	敲石	13.0	6.60	3.90	413.3	Gr	
331	448	VI・VII	C4	2047	敲石	9.55	6.05	4.85	440.7	Ss	
332	449	VI・VII	C2	3185	敲石	6.50	5.70	3.65	191.2	Ss	
333	450	V4	C5	1028	敲石	21.0	5.95	5.45	1.010	Ss	
334	451	VI・VII	C2	3184	敲石	6.60	5.85	4.85	256.80	Ss	
335	452	VI・VII	C2	3183	敲石	6.80	6.00	4.60	248.0	Ss	
336	453	V1	C4	1694	敲石・磨石	6.50	6.45	4.30	256.1	Ss	
337	454	VI・VII	C2	3182	台石	14.3	23.60	5.35	2,622	Ss	
406	—	V1	—	1120	細石核	2.75	3.40	3.05	32.70	An	
407	—	V4.5	A3	402	磨石	7.90	9.10	3.70	352.8	Gr	
408	—	VI・VII	B2	3255	不明	12.05	7.00	3.05	410.4	Ss	
409	—	VI・VII	B1	2417	石皿	19.00	12.50	4.90	1,717	Gr	
410	—	V・VI	B4	913	石皿	13.60	16.85	5.50	1,667	Ss	

第2節 縄文時代

アカホヤ火山灰（Ⅲ層）の下位層となるⅣ層面において、縄文時代早期の集石遺構 58 基、炉穴 9 基の遺構、及びそれらの遺構と包含層から縄文土器片や石鏃、黒曜石、チャート製チップ等の遺物を確認した。チップは総重量で約 620g、数量にして約 620 個である。

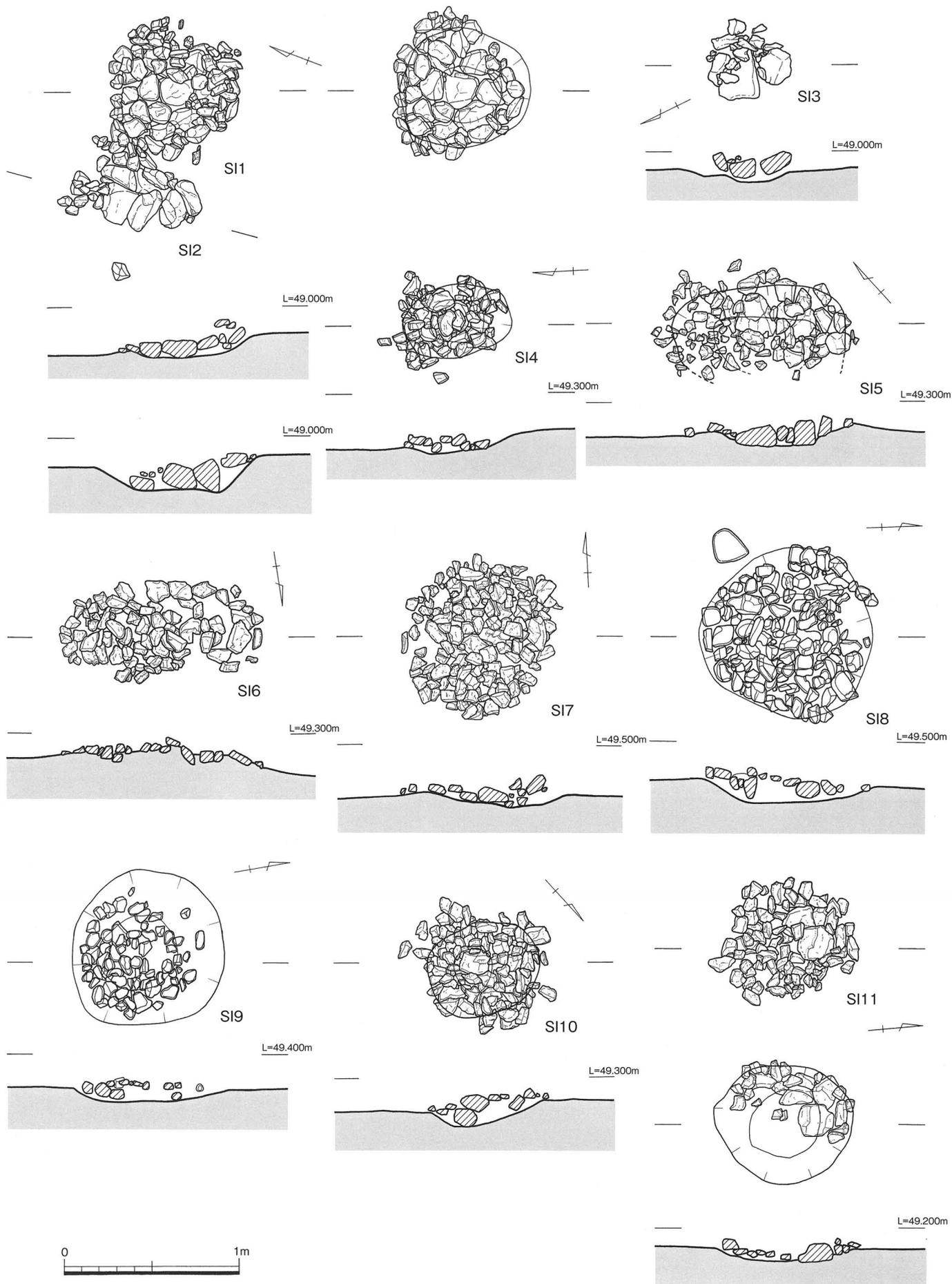
1 遺構

(1) 集石遺構（第 76 図～第 83 図）

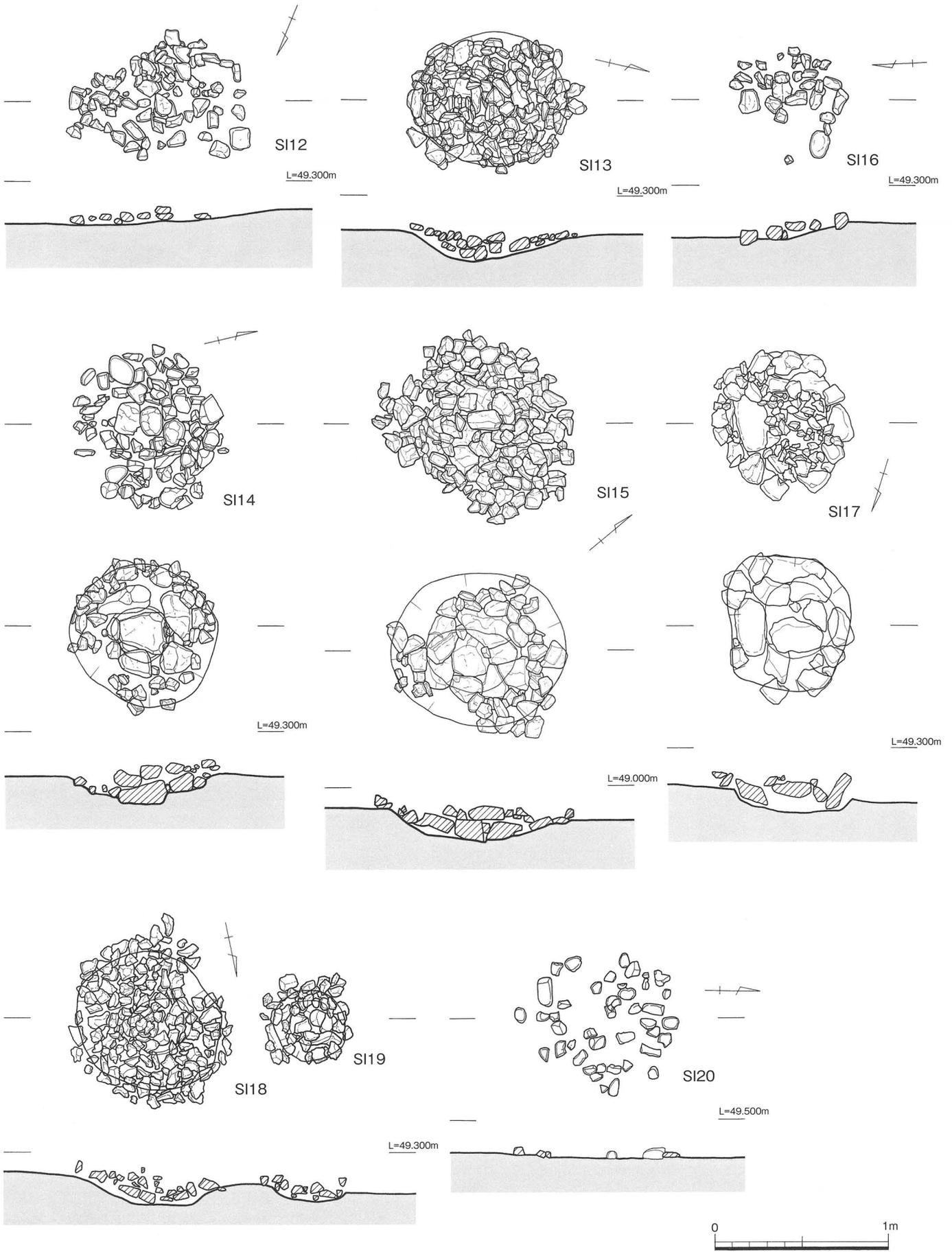
集石遺構は、調査区の平坦面に散在する拳大の礫群を除去する過程で西側の斜面を除く標高 48.4 m～48.6 m の範囲のほぼ全面 (C,D,E-2,3,4,5) にわたって検出した。とくに、調査対象区の C2,D2 区には密集度が高く、続いて C3,D3,E5 区、C4, D4 区と続く。緩斜面となっている東側の E2, 3, 4, 5 区にも若干検出されたものの急斜面となる AB1 から 5 区には見られなかった。以上によって北側の標高の高い平坦面に偏在する分布状況がみてとれる。散礫群の分布範囲は、重力の及ぼす長年の経年変化にともなうクリープ現象の影響は少なかったと見え、遺構の分布位置関係と相関関係にある。検出した集石遺構の遺構範囲などの法量、掘り込み・配石・炭化物の有無等については、第 6 表に示した。集石遺構の形態他について、先例に新知見を加える事例には乏しいが、本遺跡の集石遺構の有り様、実態から抽出できる事項を以下のように述べる。遺構の中には、遺構本来の用途（通常、ストーン・ボイリングと推定されている）のために礫を予め集積して準備されたかのような状態を示すと考えられるもの (SI 4, 12, 50) がみられた。いずれも、掘り込みをもたずに平面上に集積され、礫の集積範囲自体が小規模である。遺構底面または斜面（側面）に敷かれる中・大礫（通常「配石」と呼称される）がみられるものは 58 基中 35 基（60 パーセント）を示し、配石のあるものは浅い円形もしくは楕円形の掘り込みを有する。掘り込みの深さは、その 97 パーセントが 30cm 未満であり 10cm 未満の極めて浅い掘り込みも 33 パーセントみられる。一方、掘り込みがなく平坦面に集石する例が 58 基中 12 基（20 パーセント）みられる。遺構底面に配置される中礫、大礫のなかには、故意に抜き取られていると考えられるもの (SI 5, 27, 38) がある。配石がみられないものは拳大の礫が充填されているのであるが、掘り込みは平均 20cm 未満と相対的に浅いことがわかる。また、外見上、集石遺構全体が赤化著しい事例が 2 件 (SI32, 35) 見られるが、赤化よりもむしろ白化したものが多く一概に被熱の度合いを推し量る指標にはならないようである。石材は、砂岩、花崗斑岩を主体としながら、ホルンフェルス、頁岩、チャートがあり、いずれも上流域の岩帯を母体とする石材であり、現在でも容易に周辺の解析崖から採集できる素材である。なお、年代測定 (AMS 法) を実施した SI37 の炭化物からは 9,000 年 (B.P) という値が得られている。整理にあたって集石遺構を構成する岩石の礫間の接合作業を実施していないために、果たして何基が縄文早期のなかでも同時期の所産であるかどうか判断する材料に欠ける恨みがあるが、遺構の周辺から少量出土した土器や石鏃などの生活用具から、少なくとも谷を隔てて東へと続く尾根部に比べて集石遺構を営むのに適地であったことが窺われる。



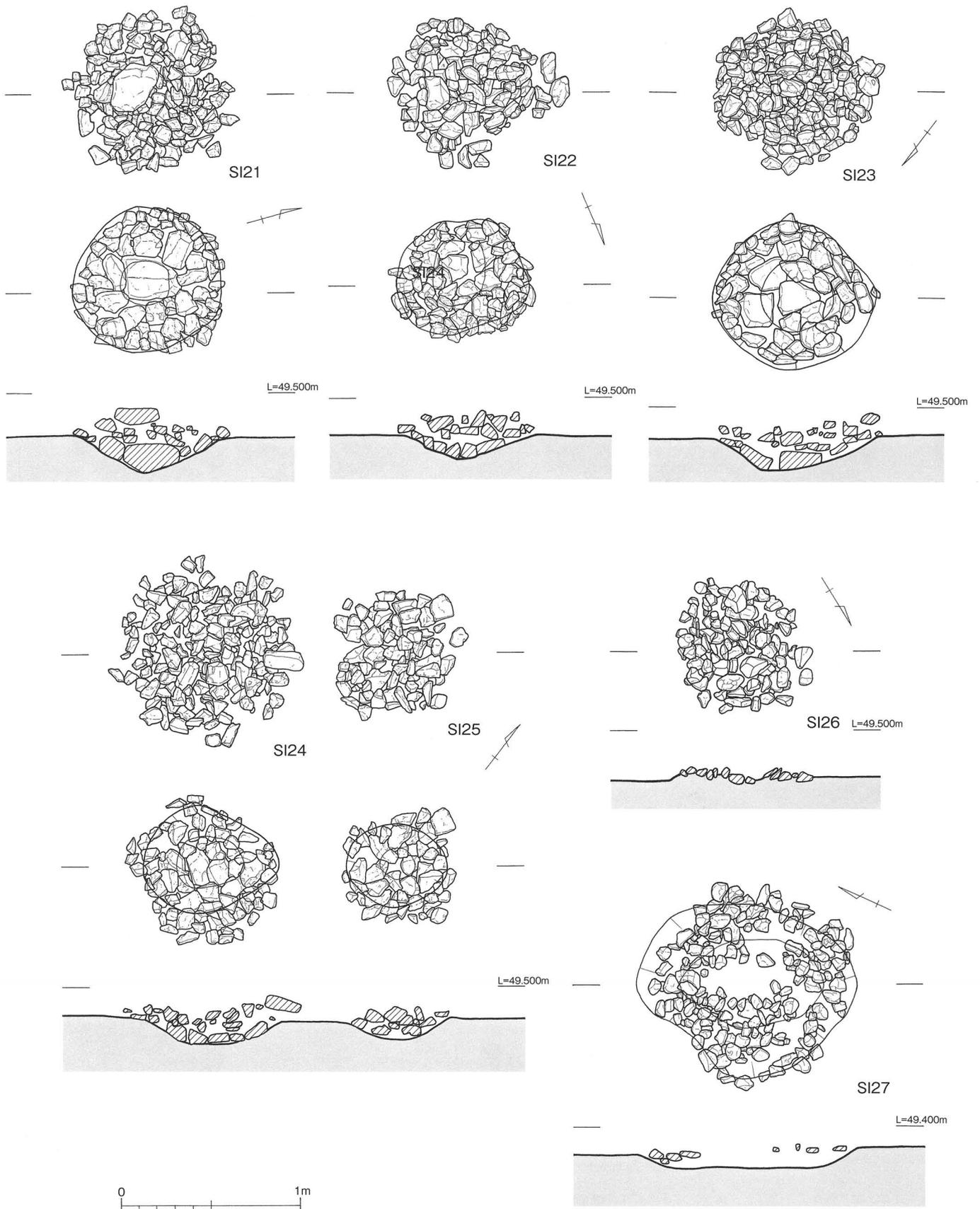
第75図 集石遺構・炉穴・礫群の検出状況図 (1/250) ※朱点は礫群



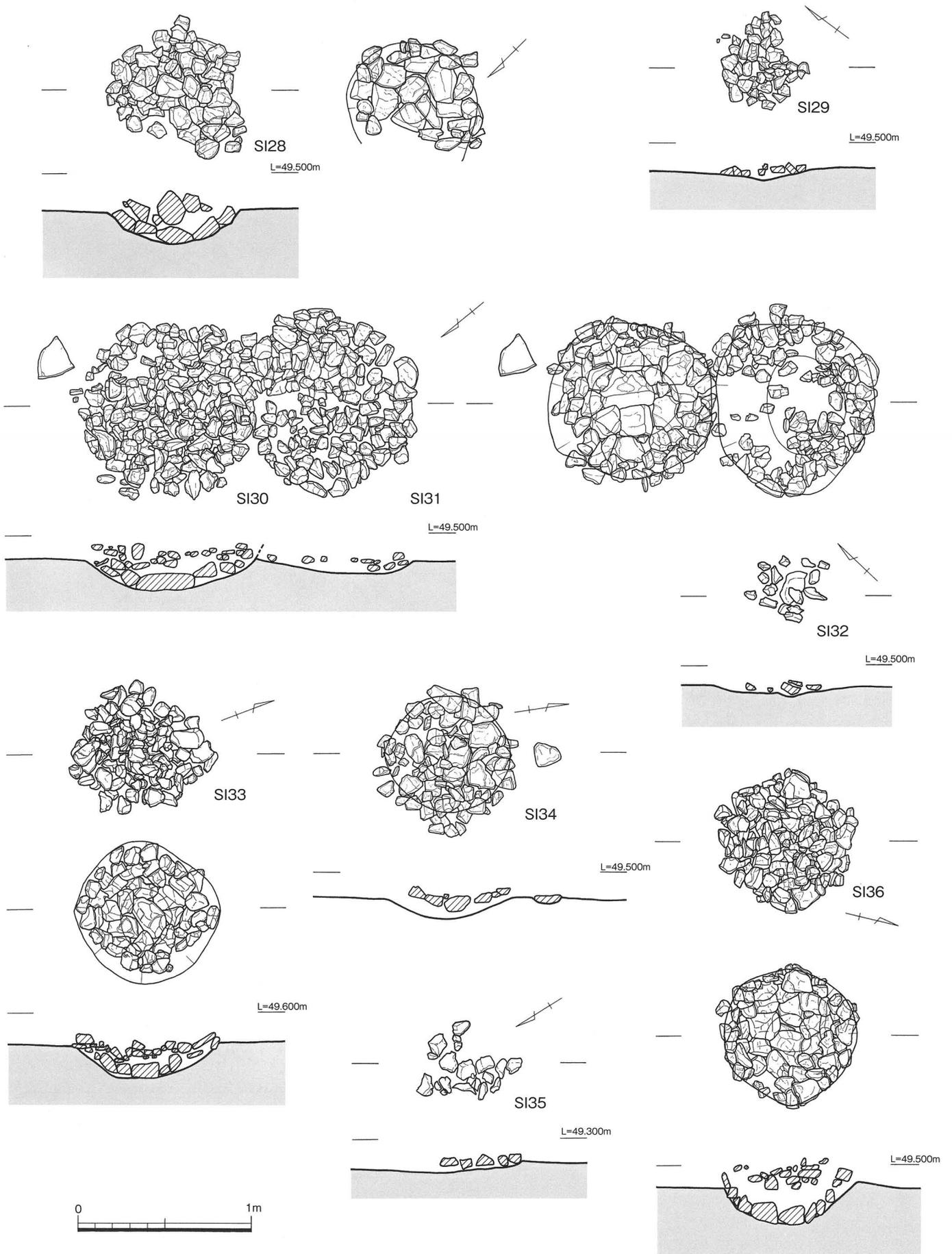
第 76 図 集石遺構実測図① 1/30



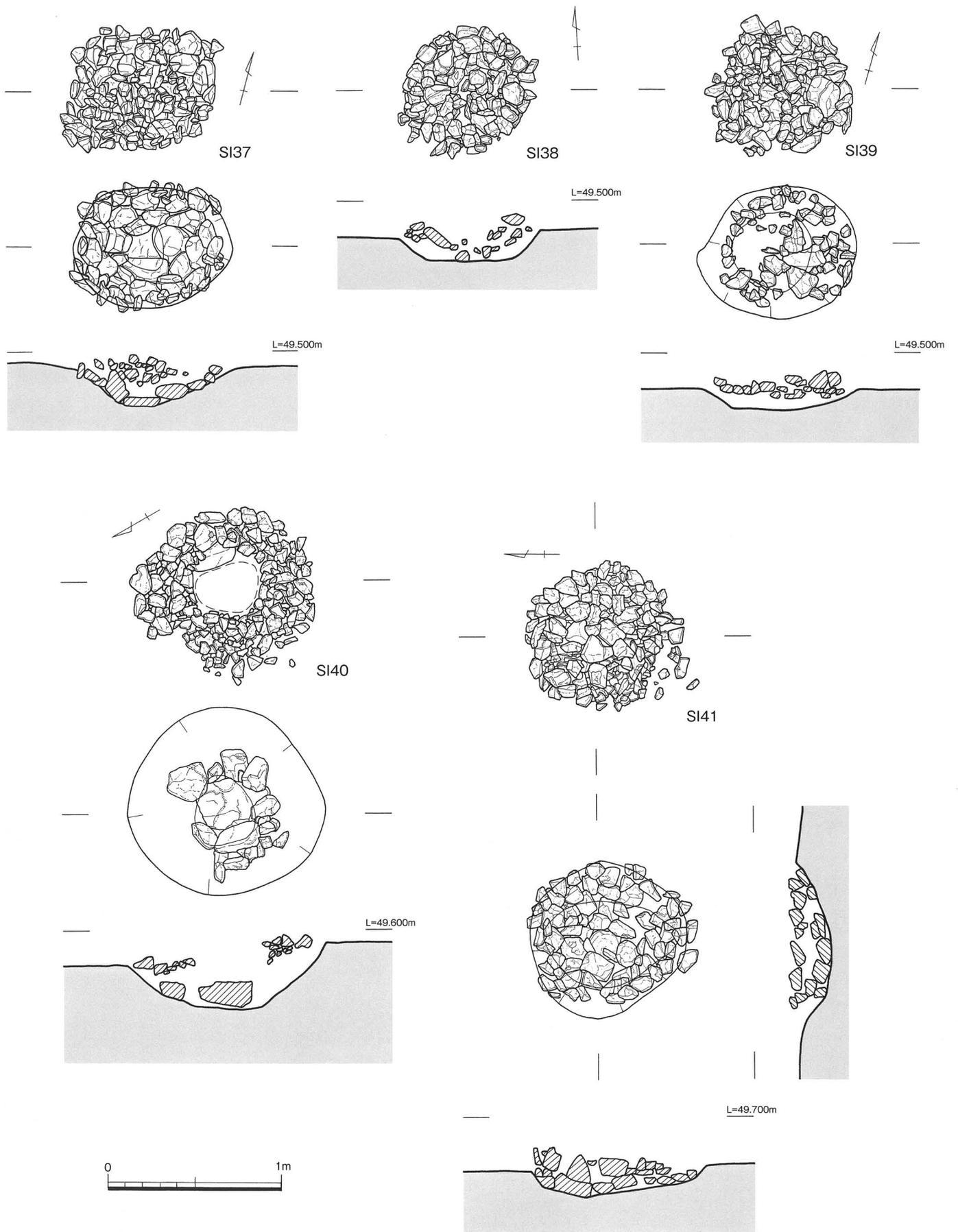
第 77 図 集石遺構実測図② 1/30



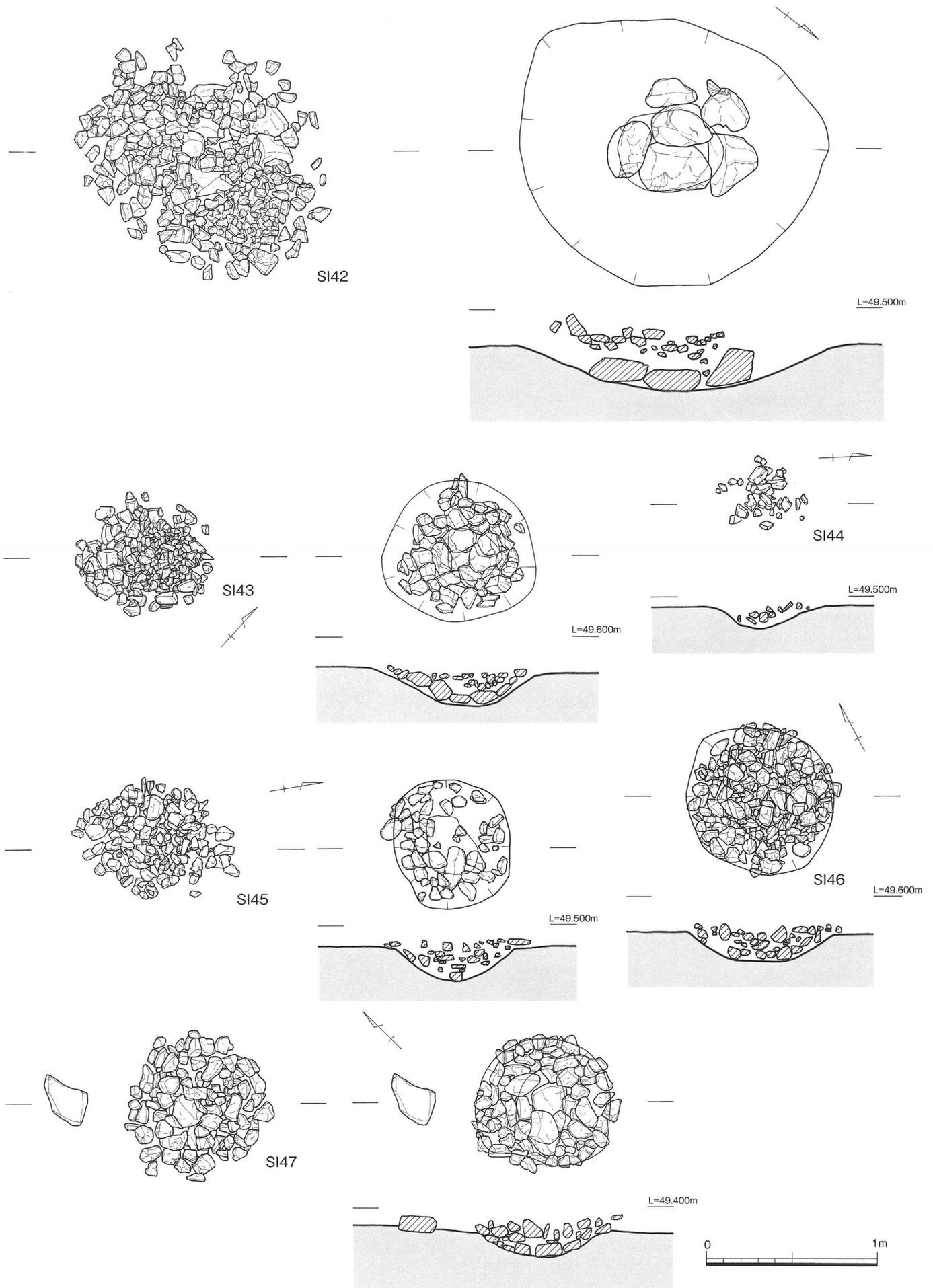
第 78 図 集石遺構実測図③ 1/30



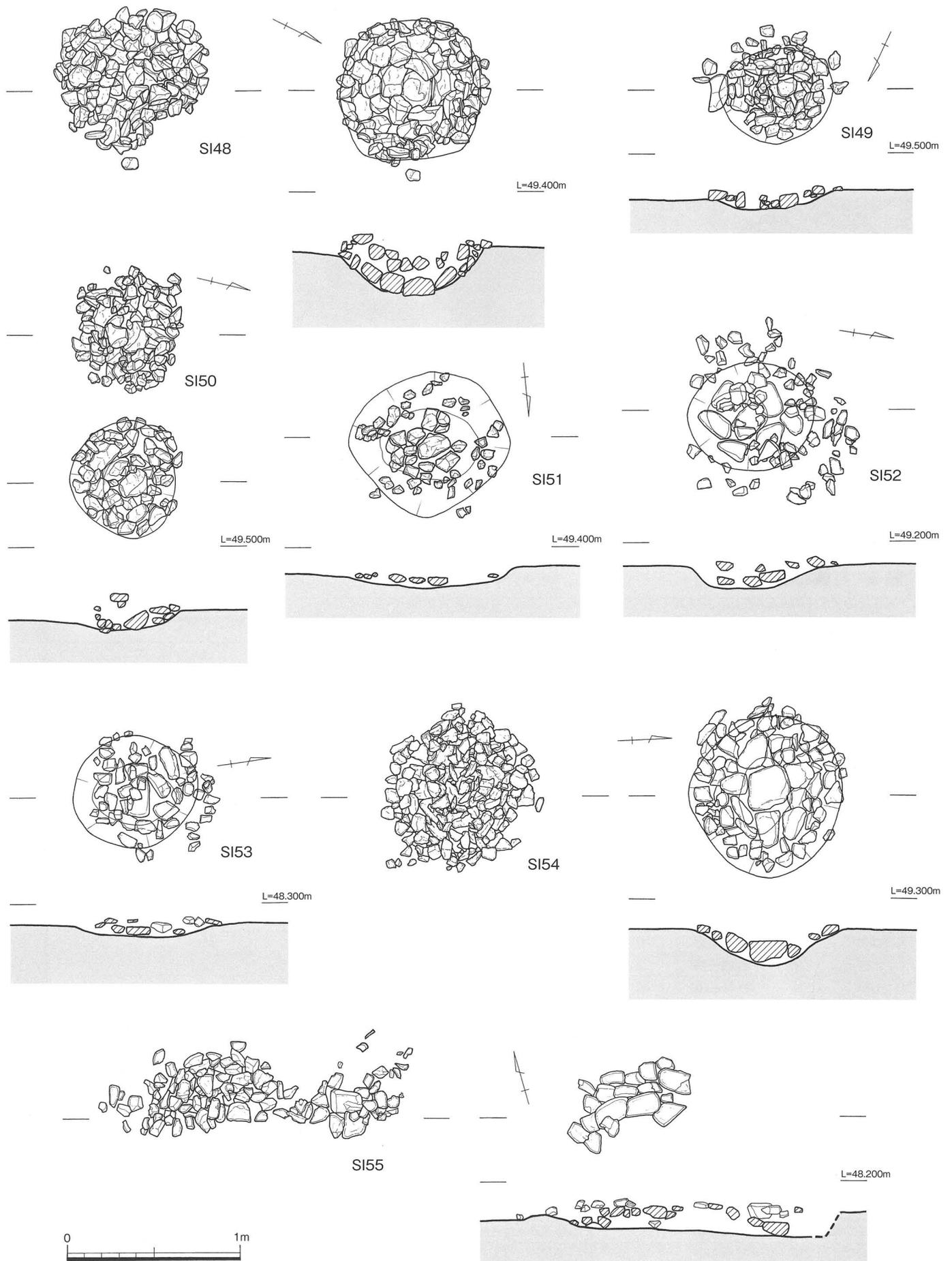
第 79 図 集石遺構実測図④ 1/30



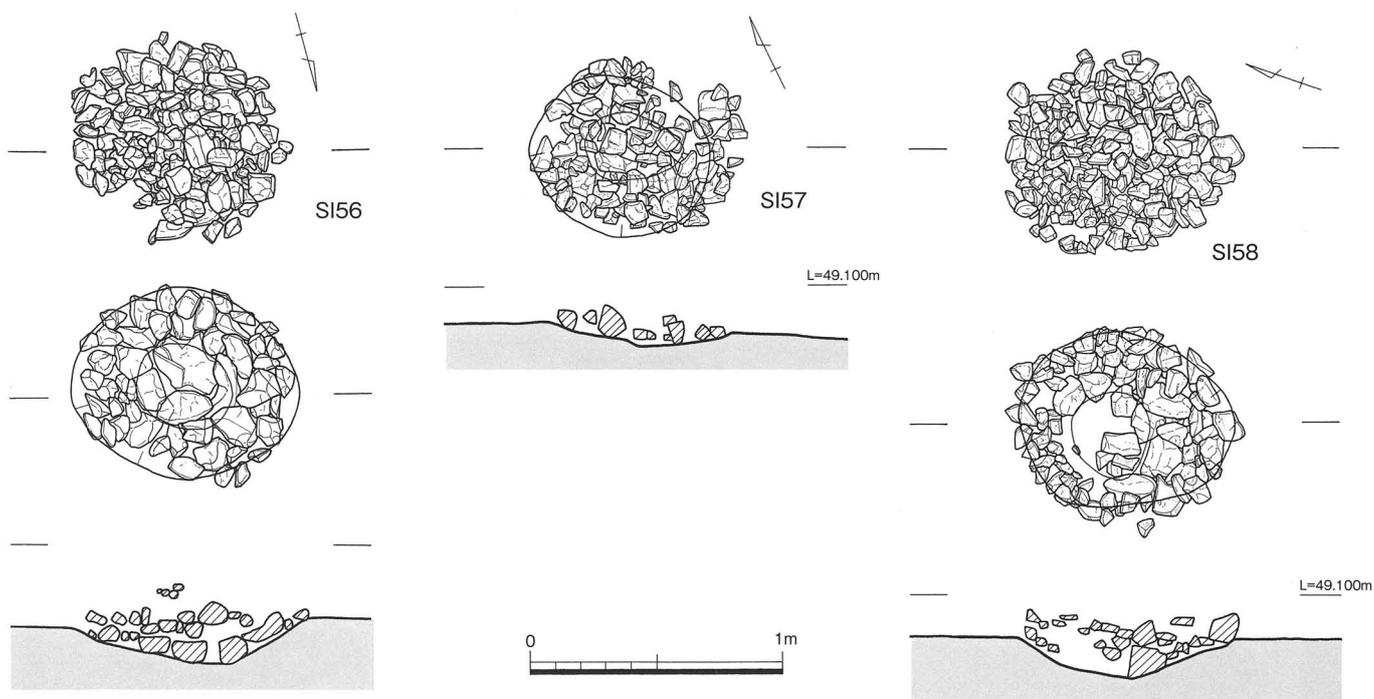
第 80 図 集石遺構実測図⑤ 1/30



第81図 集石遺構実測図⑥ 1/30



第 82 図 集石遺構実測図⑦ 1/30



第 83 図 集石遺構実測図⑧ 1/30

表 5 打製石鏃観察表

遺物番号	層位	器種	タイプ	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
352	IV	打製石鏃	I b	(1.20)	1.40	0.30	0.30	ch	
353	IV	打製石鏃	I b	1.55	(1.25)	0.30	0.40	ch	
354	IV	打製石鏃	I b	1.90	1.70	0.35	0.90	ch	
355	IV	打製石鏃	I b	1.50	1.25	0.25	0.30	ob	桑ノ木津留産
356	IV	打製石鏃	II b	1.95	1.65	0.30	0.70	ch	
357	IV	打製石鏃	II b	(1.65)	1.15	0.30	0.40	ch	
358	IV	打製石鏃	II b	1.90	1.30	0.30	0.50	ch	
359	IV	打製石鏃	II b	1.80	1.30	0.50	0.70	ch	
360	V 3	打製石鏃	II b	(1.85)	1.60	0.40	0.70	ch	
361	IV	打製石鏃	II b	2.40	1.45	0.30	0.70	ch	
362	IV	打製石鏃	I a	(1.90)	1.80	0.40	1.10	ch	
363	IV	打製石鏃	II b	(2.20)	1.85	0.35	1.00	ch	
364	IV	打製石鏃	II a	2.20	1.75	0.55	1.90	ch	
365	IV	打製石鏃	II a	2.30	1.85	0.65	2.10	ch	
366	IV	打製石鏃	II b	1.85	1.35	0.30	0.40	ch	
367	IV	打製石鏃	III b	1.80	1.40	0.40	0.70	ch	
368	IV	打製石鏃	III b	2.10	(1.45)	0.30	0.60	ch	
369	IV	打製石鏃	II b	2.25	1.50	0.30	0.50	ch	
370	IV	打製石鏃	II b	2.20	1.36	0.30	0.60	ch	
371	V 5	打製石鏃	II b	2.25	(1.50)	0.25	0.60	ch	
372	IV	打製石鏃	II b	1.45	1.30	0.30	0.40	ch	
373	IV	打製石鏃	III b	2.50	1.40	0.30	0.70	ch	
374	IV	打製石鏃	III a	(2.35)	1.80	0.40	1.40	ch	
375	IV	打製石鏃	III b	(2.80)	1.90	0.35	1.40	R1	
376	IV	打製石鏃	IV a	2.90	2.25	0.85	4.70	ch	
377	IV	打製石鏃	IV a	2.55	1.65	0.45	1.70	ch	
378	IV	打製石鏃	V	(2.30)	(1.35)	0.40	1.10	ch	
379	IV	打製石鏃	V	(3.80)	(1.80)	0.70	3.60	ch	
380	IV	打製石鏃	I a	2.75	(2.00)	0.50	2.00	ch	
381	IV	打製石鏃	I a	2.45	(1.85)	0.75	1.90	ch	
382	IV	打製石鏃	V	(2.65)	(1.75)	0.40	1.30	ch	

(2) 炉穴 (SP 1～9)

集石遺構と散礫を除去し、下層 (V層) の掘り下げを行う過程で、5群9基の炉穴を検出した。炉穴は、集石遺構を検出した調査区であるところの東西の斜面部を除く平坦面である C,D- 2～5区から検出されているが、純然たる平坦面ではなく5群とも東西両側の斜面地にかかる緩傾斜地に営まれているという特徴がある。なお、炉穴遺構の最深掘り込み (底床部) はIX層に達している。また、各炉穴は遺構上面に集石遺構をもたず、本遺跡においては集石遺構との関連は薄いと思われる。1号炉穴 (SP 1) の炭化物から得られた AMS 法による年代測定値は 9,150 年 ± 50 であり、集石遺構より古い値を得ている。

1群炉穴 (SP 1) (第85図)

西斜面に近い C 3 区の西端で検出した。長さ (東西) 177cm、最大幅 85cm、検出面からの深さ 40cm を計る東側の径が大きい長楕円形の炉穴である。1群はこの SP 1 基のみであり明瞭な単独遺構である。東端に炉部があるために径がやや大きく造られている。炉部の床底には半径 35cm、厚さ 10cm の規模で焼土が堆積している。この焼土から西側の底床にかけては焼土と多量の炭化物混じりの層が約 5 cm 内外の厚さで広がっている。焼成後の焼土と燃え残りを掻き出した状態を想定することができる。

2群炉穴 (SP 2, 3, 4) (第85図)

2群は D、E- 3 区が接する地点で検出した3基からなる一群である。

SP 2 は、長さ 210 × 幅 85cm の規模で東西にのびる深さ (検出時) 30cm の炉穴で、東端を SP 4 に削られ、SP 2 が SP 3 の中央付近を切る関係にある。炉部を西側に造り、底床には 90cm × 60cm、厚さ 3～5 cm の範囲で焼土が残っている。焼土の上面には9点の拳大の焼礫が乗る。底床の一方には 70cm × 60cm の範囲で焼土と炭化物混じりの厚さ 10cm の層が堆積しており、これも残滓を掻き出した状態を残すものであろう。なお、SP 2 の底床面は上位白斑ローム (VII層) に達している。SP 3 は中央部を SP 2 に切られる長さ 220cm × 幅 70、深さ 25cm (検出時) 規模の炉穴で、北東-南西に延びる。南西端を炉部としており、底床に 75cm (推定) × 55cm (推定) の範囲で焼土が厚さ 20cm で堆積する。焼土中に一辺 10cm の角礫を含む。東端は、これも掻き出した痕跡と思われる炭化物混じりの焼土が堆積している。SP 4 は、炉部の一部が残存するもので全体の約 3/4 が削平を受けている。底床に半径 35cm 規模で焼土が厚さ 10cm で堆積している。

3群炉穴 (SP 5, 6, 7) (第86図)

3群は D、E-4、5 区が接する地点で検出した3基からなる一群である。

SP 5 は底床が僅かに残存するもので、長さ 240cm (推定)、幅 60cm (現状)、深さ 4 cm ～ 14cm を計る。中央に 80cm × 50cm の楕円形状の浅い掘り込み (床面との比高 10cm) がみられる。この遺構については他の遺構に共通してみられる焼土、炭化物等が出土していない。SP 6 は、切り合い関係からこの3基の中では時期を最も古く設定できる遺構である。長さ 200cm、幅 80cm、深さ 25cm (検出時) を計る。中央付近がややくびれており繭状を呈する。焼土は火床となる炉部に 80cm × 60cm の楕円形状に 12cm の厚さで堆積している。3群中最大規模である SP 7 は、長さ 290cm、幅 85cm ～ 110cm、深さ 35cm を計る。火床である炉部は東端にあるが、中央から後部よりも浅い掘りこみがみられ、焼土

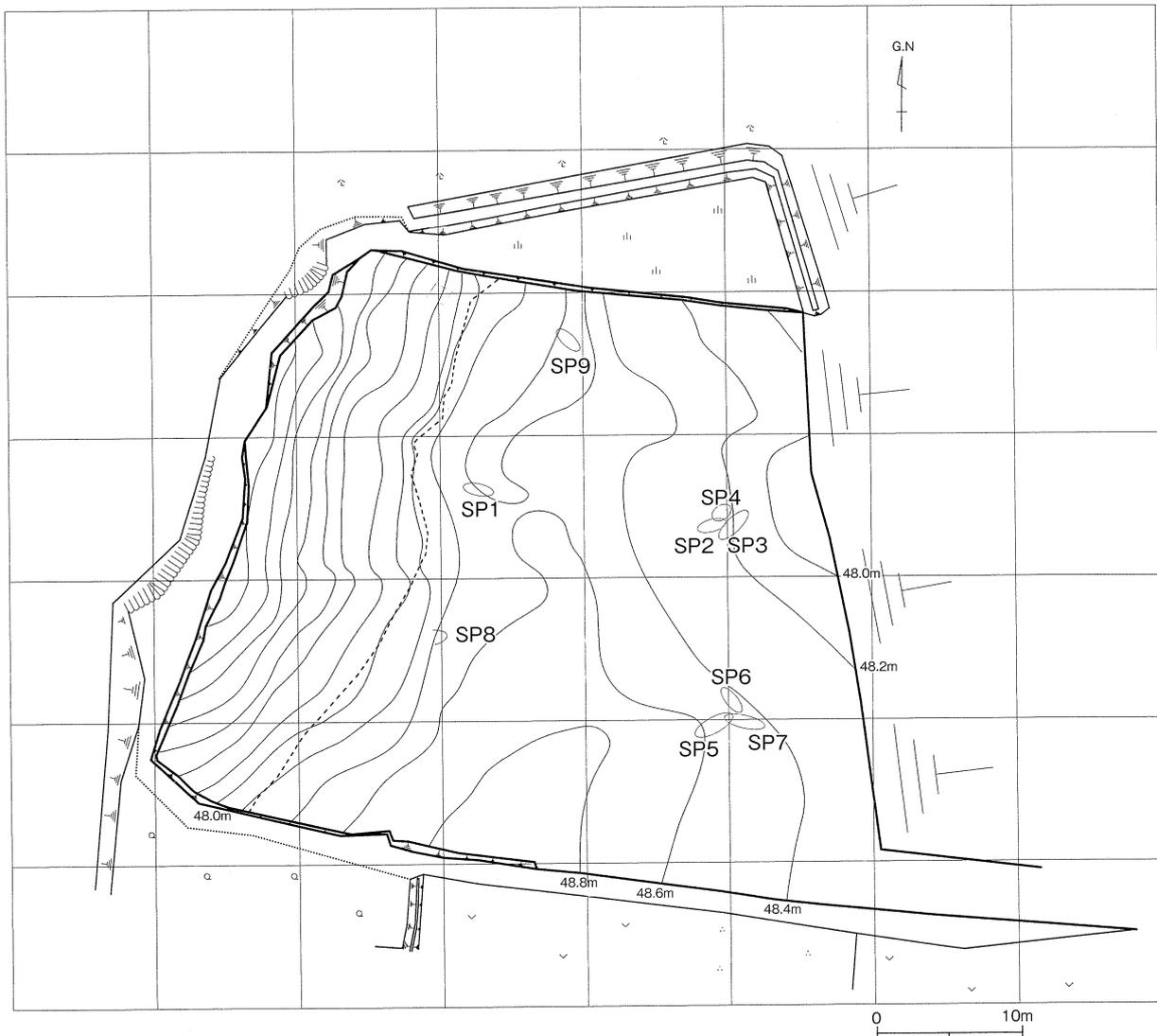
はこの二箇所を掘り込みを結ぶ全面に堆積している。東端炉部での焼土の堆積 15cm、西側掘り込み中の堆積 10cm である。焼土色（炭化物等の混入状況）の観察から東側炉部を使用した後、西側炉部を続けて使用したとみることができる。すなわち、一つの炉穴の中で時期を違えて 2 箇所の火床を使用したことがわかる事例である。

4 群炉穴（SP 8）（第 86 図）

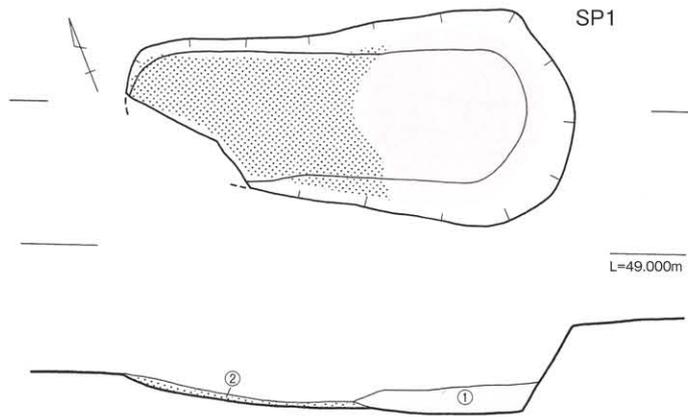
4 群は B、C 4 区の境界付近で検出した炉部の一部が残存する 1 基（SP 8）である。残存する炉部以下は現代の排水施設工事により削平を受けていた。炉部とみられる火床には縄文早期の集石遺構のように径 65cm、深さ 20cm にわたる礫の集積がみられ、焼土は集石直下に 5 cm ～ 10cm 厚で堆積していた。

5 群炉穴（SP 9）（第 86 図）

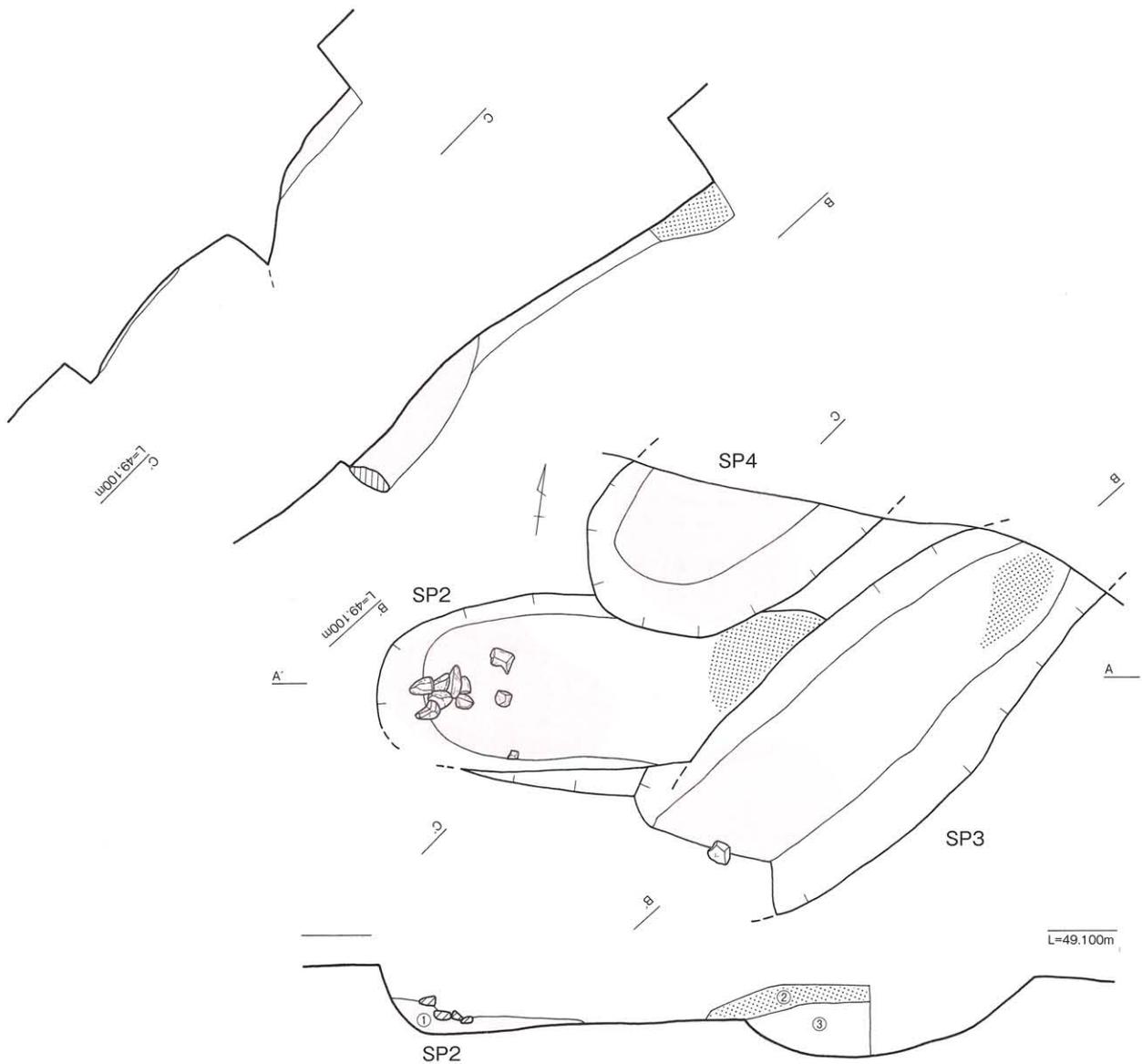
SP 9 は長さ 290cm、幅 60cm ～ 95cm、深さ 45cm（検出時）を計る。炉部は南端にあつて 70cm × 55cm の楕円形状に焼土が堆積する。



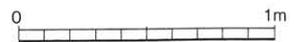
第 84 図 炉穴分布図 (1/500)



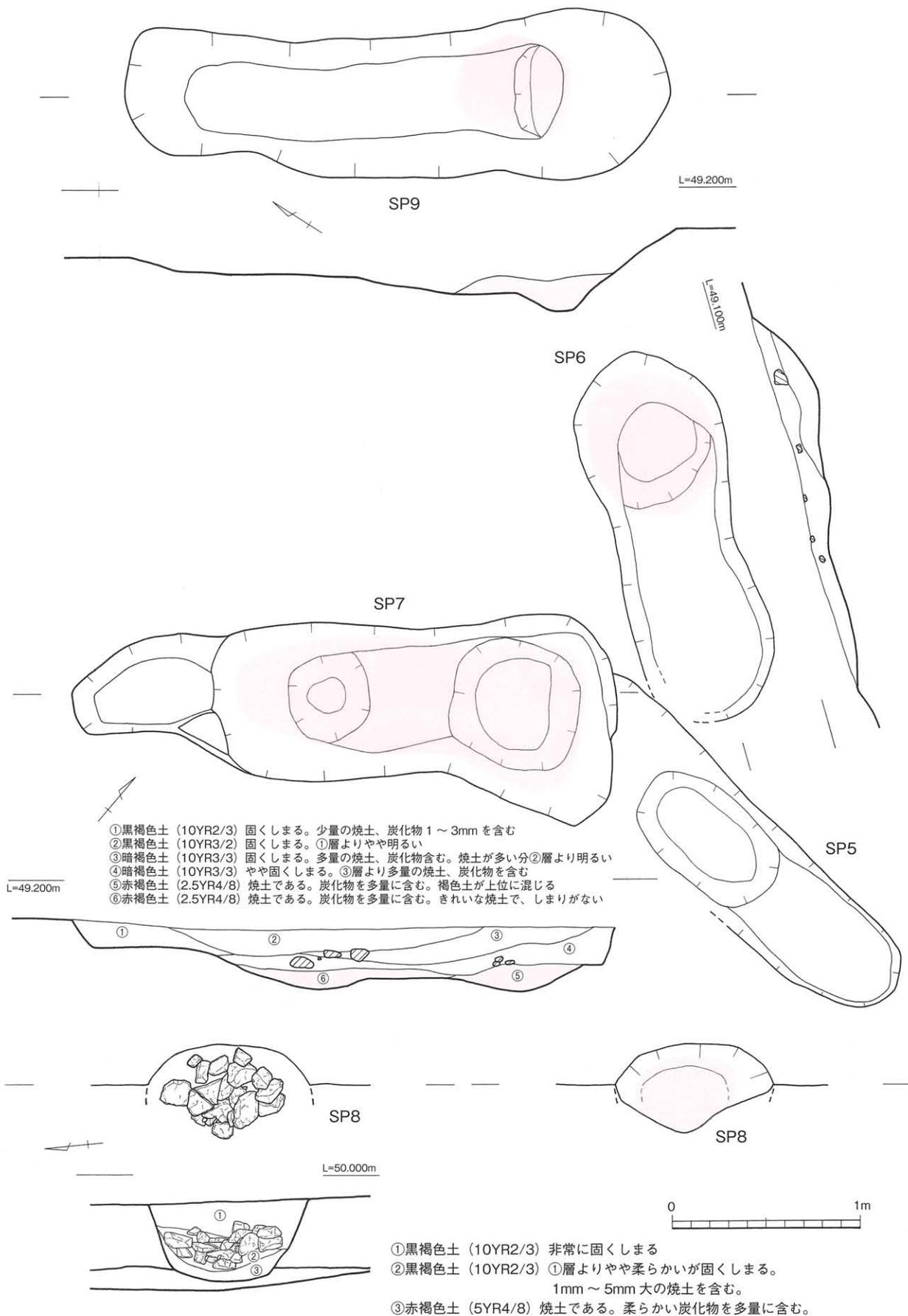
- ① 焼土に炭化物が少量混じる
- ② やや固くしまる。焼土、炭化物に多量の黒褐色土が混じる



- ① 焼土
- ② 掻き出した焼土（炭化物含む）
- ③ 非常に固くしまった黒褐色土。1mm～1cm大の焼土ブロックや炭化物を含む



第 85 図 炉穴 (SP1.2.3.4) 実測図



第 86 図 炉穴 (SP5.6.7.8.9) 実測図 (1/30)

2 遺物

(1) 縄文土器 (第 87 図)

338～347 は第Ⅳ層～第Ⅴ層上面から出土した縄文時代早期の土器片である。338～342 は口縁端部を丸く調整する深鉢形土器の口縁部である。やや風化はしているが、外面に横・斜め方向の貝殻条痕文を施し、内面には指頭痕や貝殻条痕文のあとナデ調整を施している。339 には粗く疎な貝殻条痕文、340、341 には斜方向の細く密な条痕文が見られる。343、344 は堅緻で薄手の円筒土器の口縁部で、口縁端を平坦に調整し、刻み目を施す。344 では、条痕のあとに縦方向の貝殻復縁文を施し、さらに短く細い貼付文を三段に付ける。345 は深鉢の口縁部で他に比べてやや薄手となる。調整は外内面ともにナデが施されている。346 は深鉢の胴部である。調整は外面に斜め方向の貝殻条痕文を施し、内面には指頭痕や貝殻条痕文のあとナデを施している。347 は深鉢の底部である。調整は外内面ともにナデ調整となっている。

(2) 石 器 (第 87・88 図)

348～351 は第Ⅳ層～第Ⅴ層上面から出土した縄文時代早期の石器である。348 は流紋岩製 (R1) の長 3.4cm、幅 0.8cm を測る錐である。表裏両面から細かな剥離を加えて下端を錐状に尖らせている。349 は無斑晶安山岩製の長 3.4cm、幅 0.8cm を測る小型細身の尖頭器である。薄手の剥片の表裏両面から調整を加えている。このような小型の尖頭器は「銛」的機能を連想させる。隣接する遺跡である延岡市小川町に所在する山田遺跡からこれに酷似する資料が数点出土している。350、351 は砂岩製の敲石である。350 は折損品で長楕円形の円礫の先端全面に潰痕が観察できる。351 は扁平円礫の側縁全面に叩きで生じたと思われる潰痕が廻っている。とくに、上下端に大きな潰痕がみられる。352～382 は打製石鏃で、総数 31 点が出土した。打製石鏃の出現初期形態となる I a 類に類似する三角形鏃は出土していない。石材は 29 点がチャート製、その他、流紋岩製が 1 点、黒曜石が 1 点である。黒曜石は桑ノ木津留産である。形状をタイプ別に分けると右図のように分けることができる。31 点のタイプ別と計測値は表 5 に示している。

○形状分類

I 類：外形がほぼ正三角形を呈するもの。

a：挟りが曲線的で浅い b：挟りが直線的で深い

II 類：外形が二等辺三角形を呈するもの。

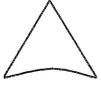
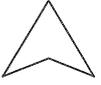
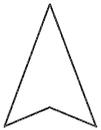
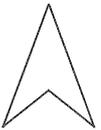
a：挟りが浅く曲線的 b：挟りが直線的で深い

III 類：両側縁が外に膨らむ曲線である。

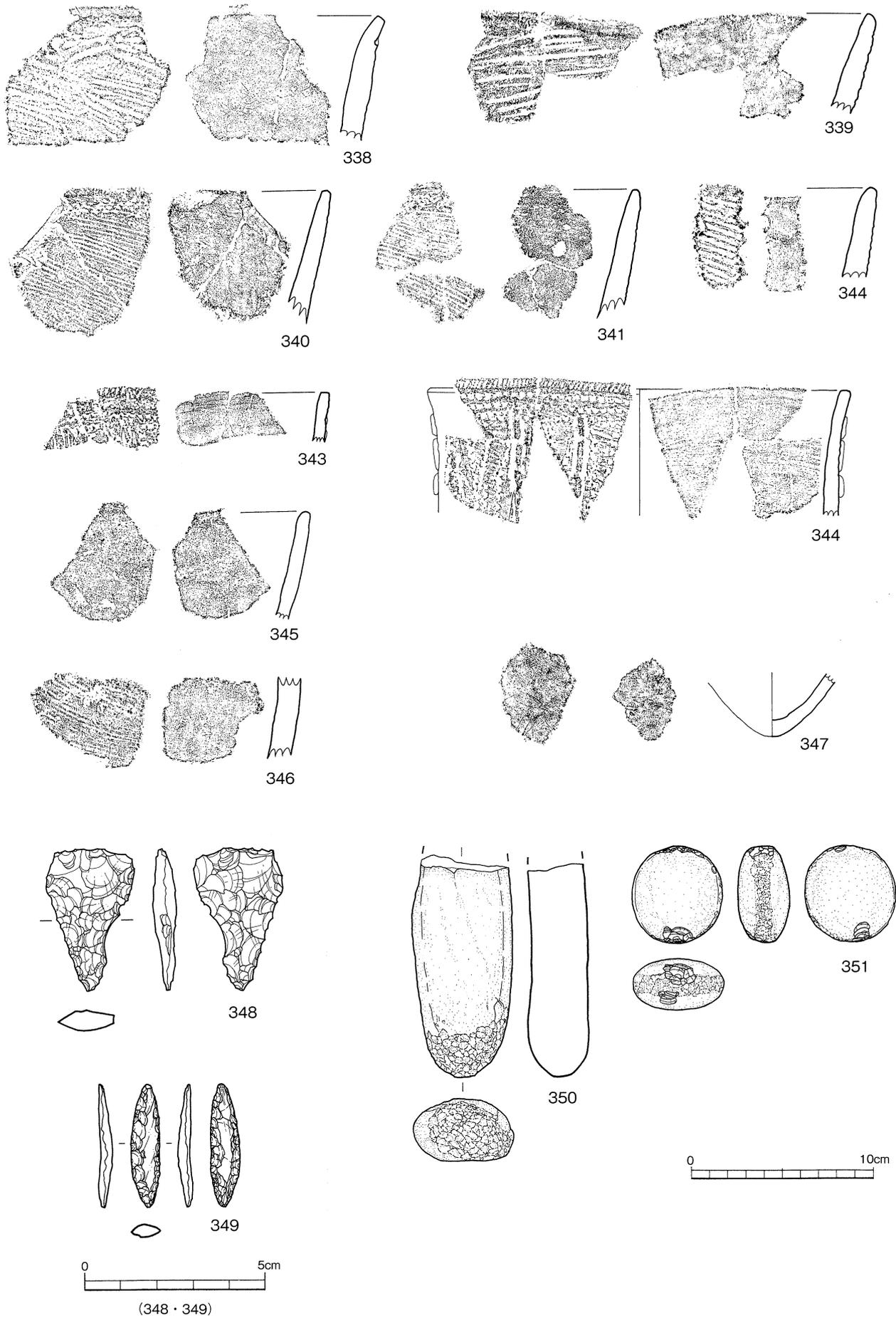
a：中央部が最大幅となる b：基部付近が最大幅となる

IV 類：基部が外に膨らみ丸みがある。(挟りがない)

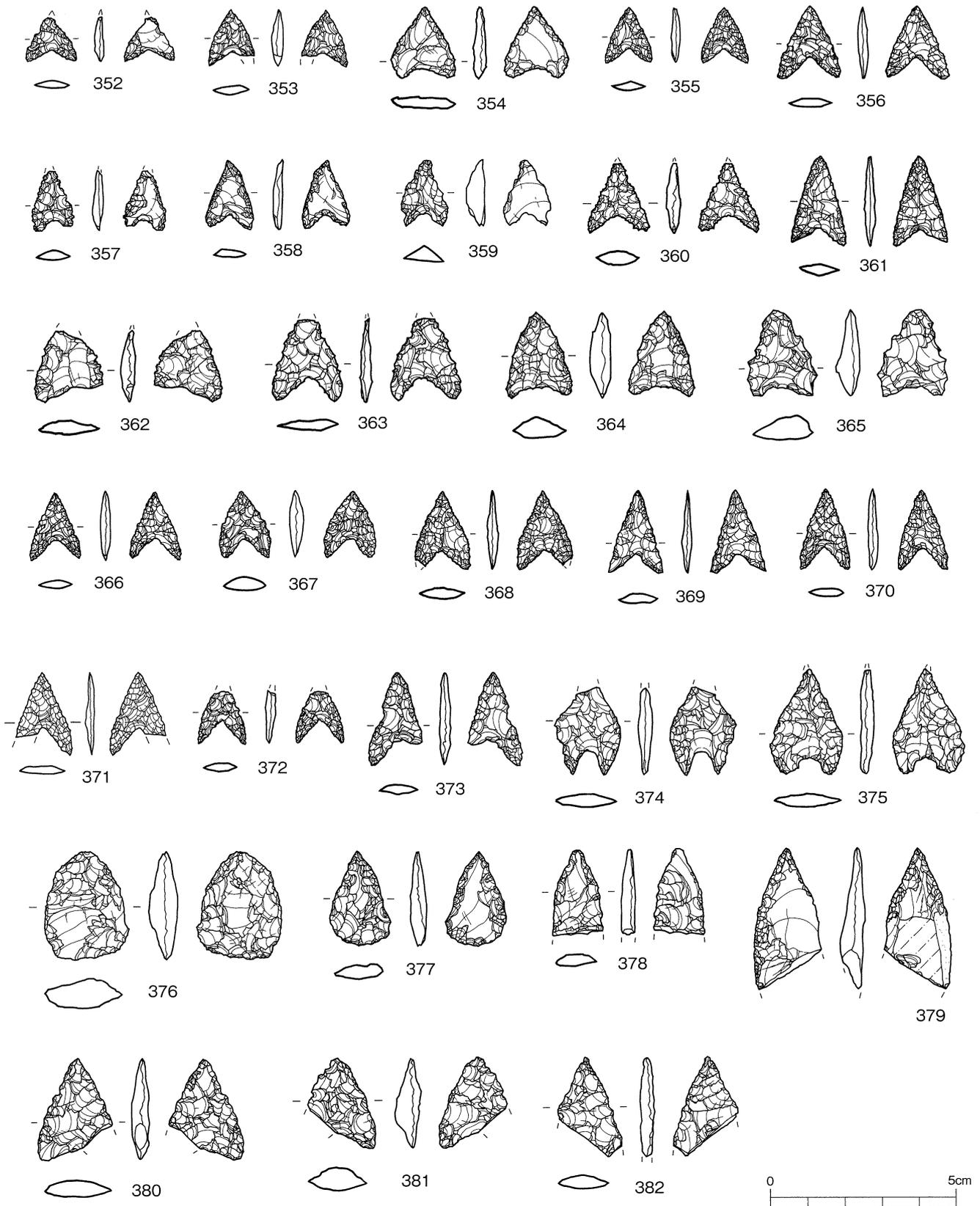
V 類：欠損または不明なもの。

	a	b
I 類		
II 類		
III 類		
IV 類		

打製石鏃形状模式図



第 87 図 縄文早期土器・石器実測図



第 88 図 打製石鏃実測図

表6 集石遺構（縄文早期）計測表

※掘り込みの深さのタイプ別 A : 0~0.09m B : 0.1~0.19m C : 0.2~0.29m D : 0.3m以上

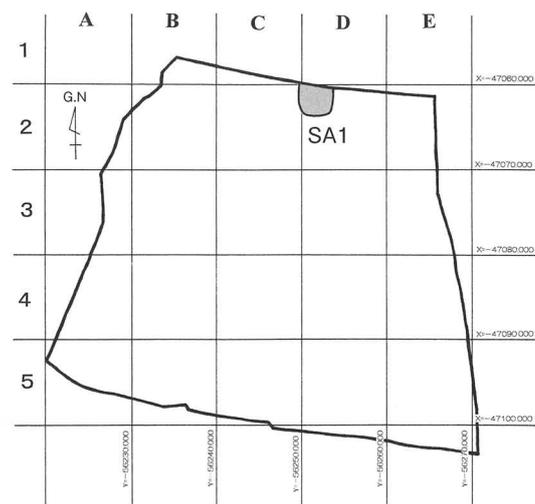
遺構 No	時期	検出層	規模 (磔の範囲) 最大長×最大幅 (m)	規模 (掘り込み) 最大長×最大幅×深さ (m)	掘り 込みの 有無	掘り 込みの 深さ	配石	炭化 物	特 徴
1	縄文時代早期	IV層下面	0.83 × 0.73	0.7 × 0.75 × 0.06	○	A	○	×	SI2 と接する 配石が丁寧に施される
2	縄文時代早期	IV層下面	0.78 × 0.63	—	×	—	○	×	配石の一部のみが残存
3	縄文時代早期	IV層下面	0.49 × 0.48	—	×	—	×	×	配石の一部のみが残存 チャートの原石を含む (No 1726)
4	縄文時代早期	IV層下面	0.67 × 0.58	0.6 × 0.42 × 0.06	○	A	×	×	集積範囲が小規模である 準備磔の可能性
5	縄文時代早期	IV層下面	1.16 × 0.59	1.0 × (0.5) × 0.07	○	A	○	×	配石も若干残存するが、抜き取られ破壊
6	縄文時代早期	IV層下面	1.15 × 0.57	—	×	—	×	×	弥生終末の堅穴住居に削平されている
7	縄文時代早期	IV層下面	0.92 × 0.95	—	×	—	×	○	同サイズの磔が密集する
8	縄文時代早期	IV層下面	1.04 × 0.79	1 × 1 × 0.16	○	B	×	○	浅い掘り込み中にはほぼ同サイズの磔が密集する
9	縄文時代早期	IV層下面	0.71 × 0.6	0.89 × 0.81 × 0.07	○	A	×	○	やや小さな同サイズの磔が集積する やや疎であり他に転用された可能性
10	縄文時代早期	IV層下面	0.84 × 0.75	0.64 × 0.54 × 0.08	○	A	×	×	配石は存在していた様子であるが樹根により破壊
11	縄文時代早期	IV層下面	0.79 × 0.7	0.78 × 0.68 × 0.08	○	A	○	○	配石が一方に偏っている 炭化物少量あり
12	縄文時代早期	IV層下面	1.02 × 0.7	—	×	—	×	×	疎に集積 準備磔の可能性
13	縄文時代早期	IV層下面	1.04 × 0.78	0.91 × 0.78 × 0.15	○	B	×	○	配石は存在していた様子であるが樹木により破壊
14	縄文時代早期	IV層下面	0.94 × 0.7	0.83 × 0.86 × 0.19	○	B	○	×	中央付近に大磔を配置する
15	縄文時代早期	IV層下面	1.14 × 0.93	1.02 × 0.88 × 0.12	○	B	○	○	後世の攪乱や樹根により崩れている部分あり 配石の裏面が割られている
16	縄文時代早期	IV層下面	0.68 × 0.42	—	×	—	×	×	疎に集積 準備磔の可能性
17	縄文時代早期	IV層下面	0.83 × 0.88	0.69 × 0.71 × 0.08	○	A	○	○	数個の大磔を配石する 配石を水平にするためか5~6cmの小磔を12個下に置く
18	縄文時代早期	IV層下面	1.05 × 0.88	0.87 × 0.79 × 0.15	○	B	○	○	SI19 に隣接
19	縄文時代早期	IV層下面	0.54 × 0.51	0.39 × 0.4 × 0.06	○	A	○	○	SI18 に隣接 比較的小さな磔が集積
20	縄文時代早期	IV層下面	0.83 × 0.82	—	×	—	×	×	極めて疎に集積 準備磔の可能性
21	縄文時代早期	IV層下面	0.95 × 0.9	0.83 × 0.82 × 0.2	○	C	○	○	大磔を中心部に配石する 炭化物は1mm弱が極々微量
22	縄文時代早期	IV層下面	1.0 × 0.83	0.73 × 0.63 × 0.14	○	B	○	○	中程度の磔を5、6点配石して、集積している
23	縄文時代早期	IV層下面	0.9 × 0.95	0.91 × 0.83 × 0.2	○	C	○	○	大磔3点を配石した後に集積している 1mm前後の炭化物を微量確認
24	縄文時代早期	IV層下面	1.03 × 1.07	0.76 × 0.61 × 0.16	○	B	○	○	やや規模の小さな SI25 と隣接している
25	縄文時代早期	IV層下面	0.65 × 0.68	0.57 × 0.46 × 0.1	○	B	×	○	SI24 と隣接している
26	縄文時代早期	IV層下面	0.75 × 0.71	—	×	—	×	○	平面状に集積するタイプである
27	縄文時代早期	IV層下面	1.1 × 1.15	1.23 × 0.97 × 0.1	○	A	×	×	配石はないが、抜き取られている可能性 大き目の配石を抜き取り他に再利用か
28	縄文時代早期	IV層下面	0.83 × 0.62	0.71 × 0.74 × 0.2	○	C	○	○	掘り込みは小規模であるが、配石する磔に大磔を使用する
29	縄文時代早期	IV層下面	1.0 × 1.0	0.98 × 0.91 × 0.17	○	B	○	○	No 1 としてすぐ横から台石が出土 配石がしっかり残る 1mm前後の炭化物を確認
30	縄文時代早期	IV層下面	0.86 × 1.10	0.9 × 1.0 × 0.07	○	A	○	×	相似形の SI31 に接する 掘り込みがあり、大磔による配石がみられる
31	縄文時代早期	IV層下面	0.49 × 0.57	—	×	—	×	×	相似形の SI30 に接する SI31 には掘り込みが無いが同規模に集積する
32	縄文時代早期	IV層下面	0.57 × 0.42	—	×	—	×	×	小規模に集積する 全部熱をうけ赤化している
33	縄文時代早期	IV層下面	0.85 × 0.71	0.83 × 0.82 × 0.19	○	B	○	○	掘り込み底に平石を密に貼り付けるタイプ
34	縄文時代早期	IV層下面	0.77 × 0.85	0.72 × 0.69 × 0.12	○	B	×	○	炭化物1mm前後が微量あり 配石はなし、抜き取られた可能性
35	縄文時代早期	IV層下面	0.63 × 0.33	—	×	—	×	×	小規模に集積 石すべて赤化・破損 砂岩
36	縄文時代早期	IV層下面	0.75 × 0.84	0.76 × 0.8 × 0.24	○	C	○	○	1mm程度の微量の炭化物あり 配石は大き目の磔を使用
37	縄文時代早期	IV層下面	0.83 × 0.7	0.92 × 0.7 × 0.22	○	C	○	○	掘り込み底に平石を密に貼り付けるタイプ 1~3mm大の炭化物を極微量検出
38	縄文時代早期	IV層下面	0.74 × 0.65	0.8 × 0.8 × 0.15	○	B	○	○	配石は抜き取ったのか、配列が雑である
39	縄文時代早期	IV層下面	0.84 × 0.82	0.92 × 0.78 × 0.13	○	B	○	×	配石の配置が疎である
40	縄文時代早期	IV層下面	1.05 × 1.02	1.14 × 1.1 × 0.37	○	D	○	○	中央底に大磔を配し、中磔を並べている 中央攪乱
41	縄文時代早期	IV層下面	0.83 × 0.9	0.89 × 0.9 × 0.2	○	C	○	○	粒の揃った磔が密に集積する
42	縄文時代早期	IV層下面	1.56 × 1.28	1.81 × 1.57 × 0.25	○	C	○	×	最大規模の遺構で中央付近に大磔を配置する典型的タイプ
43	縄文時代早期	IV層下面	0.82 × 0.68	0.9 × 0.85 × 0.19	○	B	○	○	配石と掘り込みの間に少し隙間がある 埋土あり
44	縄文時代早期	IV層下面	0.44 × 0.45	0.55 × 0.55 × 0.12	○	B	×	×	極めて小規模な集積であり、機能が異なる可能性あり
45	縄文時代早期	IV層下面	1.0 × 0.66	0.78 × 0.72 × 0.22	○	C	○	×	明瞭な配石状態を示さないで集積する 総体に磔が小さい
46	縄文時代早期	IV層下面	0.85 × 0.9	0.95 × 0.85 × 0.16	○	B	×	○	比較的小さな磔が配石なく密に集積する
47	縄文時代早期	IV層下面	0.84 × 0.9	0.77 × 0.75 × 0.15	○	B	○	○	粒の揃った拳大の角磔が密に集積する すぐ横から台石が出土
48	縄文時代早期	IV層下面	0.88 × 0.95	0.81 × 0.81 × 0.28	○	C	○	○	中央に大きな石を配する典型的タイプ 周辺の磔はやや小さくなる
49	縄文時代早期	IV層下面	0.77 × 0.66	0.67 × 0.56 × 0.05	○	A	×	×	小規模に集積するタイプ
50	縄文時代早期	IV層下面	0.61 × 0.75	0.6 × 0.7 × 0.07	○	A	○	×	準備磔の可能性
51	縄文時代早期	IV層下面	0.64 × 0.52	—	×	—	×	×	密集がやや疎である 他に転用された可能性
52	縄文時代早期	IV層下面	0.86 × 0.72	0.62 × 0.75 × 0.15	○	B	○	○	中央付近に 15 × 15cm の配石あり
53	縄文時代早期	IV層下面	0.77 × 0.72	0.65 × 0.72 × 0.09	○	A	○	×	タール? 付着 中央に長円形の配石あり
54	縄文時代早期	IV層下面	0.81 × 1.0	0.9 × 0.95 × 0.2	○	C	○	×	中央に大きな石を配する典型的タイプ 磔は密に集積する
55	縄文時代早期	IV層下面	0.72 × (0.39)	—	×	—	○	×	南半分を小溝によって切られている
56	縄文時代早期	IV層下面	0.79 × 0.86	0.76 × 0.9 × 0.08	○	A	○	×	中心付近に大磔を配し、密集する典型的タイプ
57	縄文時代早期	IV層下面	0.85 × 0.66	0.71 × 0.69 × 0.05	○	A	×	○	磔の大きさが揃っており、掘り込みなく集積する
58	縄文時代早期	IV層下面	0.94 × 0.79	0.85 × 0.7 × 0.15	○	B	○	×	配石が底部全面に及んでいない 半分近くが欠落している

第3節 弥生時代

1 遺構

(1) 1号竪穴住居跡〈SA 1〉(第90図)

アカホヤ火山灰層(Ⅲ層)からⅣ層にかかる中間層を検出面として、発掘区最北端のC2-D2区において竪穴住居跡1軒を検出した。住居跡の北辺が調査区外となるため完全検出には至っていないが、東西4.0m、南北4.0m(推定)規模の方形住居、乃至南北辺が若干長い長方形住居となろう。上位層は耕地開削と耕作によって削平を受けたものと推察され、検出面から床面までの深さ平均9cmと非常に浅い。主柱と考えられる柱穴は4箇所ほぼ対応して検出された。柱穴の深



第90図 1号竪穴住居跡位置図(1/1000)

さは、深いもので床面から50cmを計測する。住居跡のほぼ中央には60cm×40cmの楕円形状の浅い窪みがあり、24cm×30cm×18cmの礫石が据置されていた。焼土を含む土層範囲は住居中心部から150cm×130cmの範囲に円形に広がり、焼土本体は中央窪みの中心から北北東に70cm離れて26cm×34cmの楕円形に広がる。遺物は、小岩礫とともに土器の細片が住居内一面から検出されている。住居遺構は調査区内検出遺構の全時代を通じてこのSA1が唯一の検出例であり、南側発掘区からも検出がないことから、住居跡群は地形的にみて北へさらに延びる舌状丘陵の先端部に位置するものと推測している。

2 遺物

(1) 竪穴住居跡(SA)1出土の遺物(第91-92図)

竪穴住居跡(SA 1)から出土した遺物には土器と石器がある。土器の器種には、甕、壺、高坏、鉢形があり、石器では台石および石斧がある。削平によって上層が破壊されていたため細片が多かったが接合作業によって復元できたもの、および図面上で復元可能であったもの、口縁部、底部その他特徴的部位について91、92図に記載する。なお、法量その他のデータを表7に記載する。

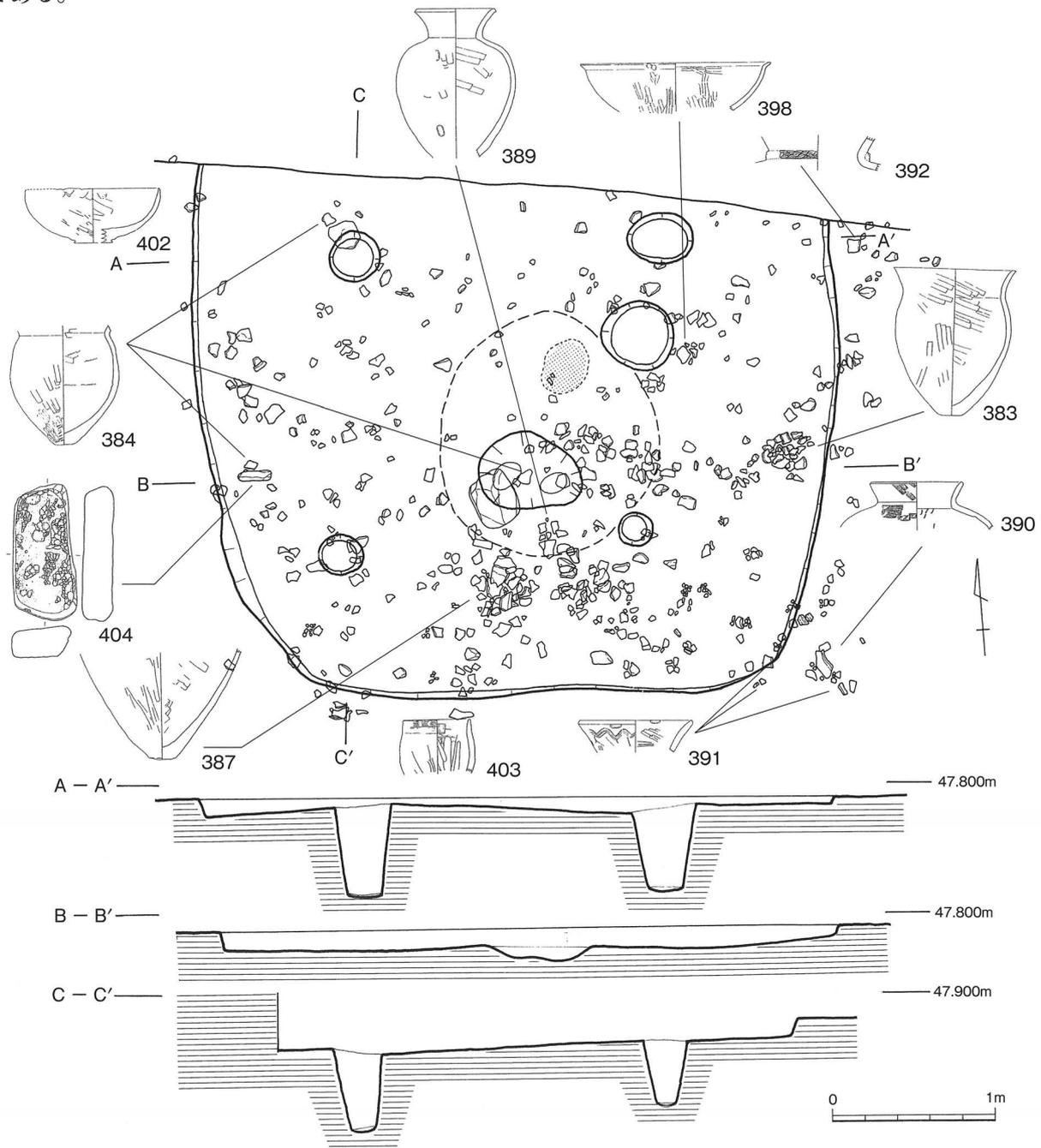
弥生土器

383から388は甕である。383はほぼ完形に近く復元できた唯一の甕である。口辺が緩やかにだるく外反する口縁部をもち、胴部の中央よりやや上部に最大径をもちながら底部へと延びる。口径と胴部最大径がほぼ同じ値をもつ。口縁部は波打ち、平面に作られていないところに粗雑な印象を受ける。底部は小振りな平底となる。384は口縁部を欠損するもので、胴部の張りが383より大きい。385から388は底部である。385は比較的明瞭な平底、386、387は小振りな平底、388は不安定に突出した平底となる。389から397は壺である。389は383の甕とほぼ同じ全高をもつ壺で、口縁は頸部が長くラップ状に大きく開く。口縁端部は平坦に整形される。胴部の最大径は胴部上位の肩部にある。壺形にもかかわらず胴部中央から下部にかけて煤痕が顕著にみられる。390は口縁が短く外反する壺である。肩部から下を欠いており全貌は不明である。391は口縁部のみ出土である。櫛描の波状文が1単位、波長が長く雑に付けられている。392は頸部に×××状の貼付縄目を有するもので比較的大きな壺となろう。393は、

肩部に丁寧なヘラミガキが施されている。394 から 397 は底部である。395 には丁寧なヘラミガキが見られる。398 から 401 は高坏である。398 は口縁端部が短く急反する碗状を呈する坏部である。内外面ともヘラミガキとなる。399 は裾部となろう。400 は脚部片、401 は裾部片である。402、403 は鉢である。402 は碗状を呈し、底部を小さく貼り付高台状に造る。口縁が歪んでおり雑な造りである。403 は、直口縁となるもので口縁内外をナデ調整、胴部をヘラナデで仕上げている。

石器

404 は最大長 20.2cm、幅 9.7cm、重量 1666.7g を計る台石で片一面に潰痕が見られる。405 は表裏両面からの剥離痕が明瞭にみてとれる長さ 6.5cm（現存長）、幅 4.8cm の流紋岩製打製石斧折損品の上部部である。



第 90 図 1号竪穴住居跡 (SA1) 実測図 (1/40)